

日本女子体育大学 | 2018年度 |

シラバス



Japan Women's College of Physical Education

科目名	日本国憲法			担当者	中村安菜	
英文名	Constitutional Law					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定とも出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 なぜ憲法を学ぶのか？ 【 到達目標 】 (1) 体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。 【授業時間外学習】 教科書第1話・第2話を熟読する。			第9回 社会権 【 到達目標 】 (1) 社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。 (2) 生存権等の社会権の具体的内容を理解する。 【授業時間外学習】 教科書第9話を熟読する。生活保護制度について調べる。			
第2回 憲法とはどのような法か？ 【 到達目標 】 (1) 憲法は権力濫用の防止を目的とする法であることを理解する。 (2) 憲法は国内の最高法規であることを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第3話を熟読する。			第10回 天皇と国民 【 到達目標 】 (1) 憲法上の天皇に関する規定について理解する。 (2) 天皇の存在と国民主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 天皇の職務について調べる。			
第3回 基本的人権総論 【 到達目標 】 (1) 基本的人権が保障されることの意味を理解する。 (2) 基本的人権は誰に、どの範囲で保障されるのかを理解する。 【授業時間外学習】 人権が保障される範囲について、自らで具体例を発見する。			第11回 平和主義 【 到達目標 】 (1) 日本国憲法が規定している平和主義について理解する。 (2) 平和主義の意義と問題点について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第11話を熟読する。			
第4回 法の下での平等 【 到達目標 】 (1) 法の下での平等とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第4話を熟読する。2014年9月4日最高裁大法廷判決に関する新聞記事をコピーする。			第12回 国会の役割 【 到達目標 】 (1) 国会の地位と構成・役割について理解する。 (2) 国会と国民主義の関係について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第12話を熟読する。国会・各議院の権限について調べる。			
第5回 精神的自由権① 【 到達目標 】 (1) 思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第5話を熟読する。君が代起立斉唱事件に関する新聞記事をコピーする。			第13回 内閣の役割 【 到達目標 】 (1) 内閣の地位と構成・役割について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第13話を熟読する。			
第6回 精神的自由権② 【 到達目標 】 (1) 学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 表現の自由とはどのようなことであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第5話・第6話を熟読する。表現の自由が抑圧された事例を考える。			第14回 裁判所の役割 【 到達目標 】 (1) 裁判所の地位と構成・役割について理解する。 【授業時間外学習】 教科書第14話を熟読する。			
第7回 経済的自由権 【 到達目標 】 (1) 職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。 (2) 財産権とはどのようなものであるかを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第7話を熟読する。			第15回 憲法の役割と現実 【 到達目標 】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 この授業を通して自分が関心をもった事柄について簡単にまとめる。			
第8回 人身の自由 【 到達目標 】 (1) 人身の自由が保障されている意味を理解する。 (2) 人身の自由の内容と刑事手続の流れを理解する。 【授業時間外学習】 教科書第8話を熟読する。						
【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。						
【教科書・参考書など】 「教職教養憲法15話 改訂三版」加藤一彦 著、北樹出版、2016						
【関連科目】						
【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	国語表現Ⅰ			担当者	稲井 達也・影山 陽子 松崎 史周	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅰ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 ・ 言語力やコミュニケーション能力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。 ・ 新聞や本の読み方を学ぶ中で、自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に生きて働く基本的なリテラシーを養う。 ・ 読書に親しむとともに、書評を取り扱い、書評を分析したり実際に書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション (授業概要理解・学習目標設定) 【 到達目標 】 この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 新聞記事を探す。			第9回 読書生活③ 【 到達目標 】 ・ 教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。 ・ 書評を分析する。 【授業時間外学習】 教科書として指定された文庫の書評を分析する。			
第2回 新聞に親しむ① 【 到達目標 】 ・ 新聞の読み方を知り、新聞に親しむ。 ・ 全国紙と地方紙、一般紙と専門紙の違いを知る。 ・ 紙面構成と記事構成を学ぶ。 【授業時間外学習】 興味・関心のある新聞記事を探し、要約する。			第10回 読書生活④ 【 到達目標 】 ・ 教科書として指定された文庫を読み、書評を要約したり意見を持ったりし、批評的な観点を身につける。 ・ 教科書として指定された文庫の書評を分析する。 【授業時間外学習】 教科書として指定された文庫の書評を分析する。			
第3回 新聞に親しむ② 【 到達目標 】 ・ 新聞をもとに、意見を交流する。 ・ 新聞をもとに、自分の意見を組み立てる。 ・ 批判的なものの見方・考え方について理解する。 【授業時間外学習】 新聞記事を参考にして意見文を書く。			第11回 ビブリオバトル① 【 到達目標 】 ・ 本の時内容を把握するとともに、内容の魅力の伝え方を構想し、ビブリオバトルの準備を行う。 【授業時間外学習】 ビブリオバトルを意識して、本を読む。			
第4回 手紙① 【 到達目標 】 手紙のマナーや書き方について理解を深める。 【授業時間外学習】 模擬の手紙を書く。			第12回 ビブリオバトル② 【 到達目標 】 ・ グループごとにビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。 【授業時間外学習】 ビブリオバトルを踏まえて、本の情報を加筆したり修正したりする。			
第5回 手紙② 【 到達目標 】 手紙の書き方について一層の理解を深める。 【授業時間外学習】 模擬の手紙を書く。			第13回 ビブリオバトル③ 【 到達目標 】 ・ 全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。 【授業時間外学習】 ビブリオバトルの記録を完成させる。			
第6回 メール 【 到達目標 】 PCのeメールとケータイメールの使い分けについて理解するとともに、eメールのマナーと書き方の知識を深める。 【授業時間外学習】 模擬のeメールを書く。			第14回 ビブリオバトル④ 【 到達目標 】 ・ 全体でビブリオバトルを行い、本について情報を共有する。 ・ チャンプ本を選ぶ。 ・ ビブリオバトルを参考にして、書評の構想を練る。 【授業時間外学習】 書評の構想を基にして、書評の執筆をする。			
第7回 読書生活① 【 到達目標 】 ・ 本の選び方と読み方を知る。 ・ 書評を読み、本の批評方法について学ぶ。 ・ 書誌情報について理解する。 【授業時間外学習】 教科書として指定された文庫を読む。			第15回 目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題 【 到達目標 】 自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。			
第8回 読書生活② 【 到達目標 】 ・ 書評の批評の特徴について考える。 ・ ネット書店の書評などの他の書評と教科書として読む文庫に取り上げられた書評を比較する。 ・ 批判的思考力を身につける。 【授業時間外学習】 教科書として指定された文庫を読む。						
【学習上の留意点】 ・ 毎授業の始めに、日本語検定試験の問題を使って解説の時間を設けるとともに、適宜、確認テストを行う。 ・ 本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。 ・ 新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組みが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。 ・ 不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。						
【教科書・参考書など】 教科書：『10代のうちに本当に読んでほしい「この一冊」』、河出書房新社編集部編、河出文庫(河出書房新社)						
【関連科目】 国語表現Ⅱ						
【成績評価方法】 毎回の提出物40％・レポート課題30％・発表(ビブリオバトル等)20％・日本語検定確認テスト10％						

科目名	英語 I (基礎)			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English I (Elementary)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 この授業では、英語の基礎を確認・再学習する。要点は、1) 基本語彙を覚える、2) 文法・発音の基礎を習得する、3) 平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の3点である。また受講生の必要に応じて、英語の学習法や英語になじむための活動も取り入れる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。			第9回 英語基礎総合演習⑨ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第2回 英語学習上のポイント等の説明・英語基礎総合演習① 【 到達目標 】 プレイズメントテストの結果を踏まえて、基礎クラスの受講生に必要な学習上の工夫・ポイントを理解し、実践する。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			第10回 英語基礎総合演習⑩ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第3回 英語基礎総合演習② 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第11回 英語基礎総合演習⑪ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第4回 英語基礎総合演習③ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			第12回 英語基礎総合演習⑫ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第5回 英語基礎総合演習④ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			第13回 英語基礎総合演習⑬ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第6回 英語基礎総合演習⑤ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			第14回 英語基礎総合演習⑭ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第7回 英語基礎総合演習⑥ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			第15回 英語基礎総合演習⑮ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第8回 英語基礎総合演習⑦ 【 到達目標 】 基本となる語彙・文法・発音等を確認しながら、英語の理解力（読解・聴解）とコミュニケーション力（表現・作文）を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語 I (初級)			担当者	大和久吏恵・中村 大輔 喜多 球美	
英文名	English I (Lower-Intermediate)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を行えるよう学習指導にも言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーションおよびプレイズメントテストの実施 【到達目標】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。			第9回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑧ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第2回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得① 【到達目標】 授業時間外学習の方法を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第10回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑨ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第3回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得② 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第11回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑩ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第4回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得③ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第12回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑪ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第5回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得④ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第13回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑫ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第6回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑤ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第14回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑬ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第7回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑥ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第15回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑭ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習する。			
第8回 基礎知識の復習・確認、英語運用能力の習得⑦ 【到達目標】 既習事項を復習・確認する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につけ、コミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語 I (中級)			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English I (Intermediate)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していきけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていきけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーションおよびプレテストの実施 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を理解する。 受験上の留意点を把握し、集中して試験に取り組む。 自分はどういった技能が弱いかを自己分析する。 【授業時間外学習】 試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。			第9回 英語総合演習⑨ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第2回 Introduction 英語総合演習① 【 到達目標 】 受講にあたっての留意点・学習の進め方を理解する。 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第10回 英語総合演習⑩ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第3回 英語総合演習② 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第11回 英語総合演習⑪ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第4回 英語総合演習③ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第12回 英語総合演習⑫ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第5回 英語総合演習④ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第13回 英語総合演習⑬ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第6回 英語総合演習⑤ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第14回 英語総合演習⑭ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第7回 英語総合演習⑥ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第15回 英語総合演習⑮ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。			
第8回 英語総合演習⑦ 【 到達目標 】 日英語の違いを意識しながら、英語の理解力・表現力を向上させ、異文化コミュニケーションに必要なスキルを身につける。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること(電子辞書可)。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、試験の結果を60%として評価する。						

科目名	英語Ⅱ（基礎）			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English Ⅱ (Elementary)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認・再学習し、コミュニケーション力の向上を図る。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業説明および英語総合演習① 【到達目標】 授業の目標・内容・計画を確認する。 受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていけるよう方向づけを行う。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。			第9回 英語総合演習⑨ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第2回 英語総合演習② 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第10回 英語総合演習⑩ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第3回 英語総合演習③ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第11回 英語総合演習⑪ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第4回 英語総合演習④ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第12回 英語総合演習⑫ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第5回 英語総合演習⑤ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第13回 英語総合演習⑬ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第6回 英語総合演習⑥ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第14回 英語総合演習⑭ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			
第7回 英語総合演習⑦ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。			第15回 英語総合演習⑮ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項の復習を行う。			
第8回 英語総合演習⑧ 【到達目標】 受講生の習得度を見ながら、英語の基礎力の定着を図る。 各種の演習を通して、英語の理解力とコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
【関連科目】 英語Ⅰ（基礎）						
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	大和久吏恵・中村 大輔 喜多 球美	
英文名	English II (Lower-Intermediate)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生が自立的学習を継続できるよう、引き続き学習指導にも言及する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション・英語運用能力の習得、読解力の向上① 【 到達目標 】 受講における留意点・授業の進み方を確認する。 授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第9回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑨ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第2回 英語運用能力の習得、読解力の向上② 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第10回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑩ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第3回 英語運用能力の習得、読解力の向上③ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第11回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑪ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第4回 英語運用能力の習得、読解力の向上④ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第12回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑫ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第5回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑤ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第13回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑬ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第6回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑥ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第14回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑭ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第7回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑦ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			第15回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑮ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自立的学習を継続させる。			
第8回 英語運用能力の習得、読解力の向上⑧ 【 到達目標 】 日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。 精読を通して読解力を向上させる。 各種の演習を通してコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
【関連科目】 英語Ⅰ（初級）						
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	英語Ⅱ（中級）			担当者	加賀 岳彦・大和久吏恵 中村 大輔	
英文名	English II (Intermediate)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introduction 英語演習① 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第9回 英語演習⑨ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第2回 英語演習② 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第10回 英語演習⑩ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第3回 英語演習③ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第11回 英語演習⑪ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第4回 英語演習④ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第12回 英語演習⑫ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第5回 英語演習⑤ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第13回 英語演習⑬ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第6回 英語演習⑥ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第14回 英語演習⑭ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			
第7回 英語演習⑦ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。			第15回 英語演習⑮ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習に取り組む。			
第8回 英語演習⑧ 【 到達目標 】 英文を正確に読む練習を通して、文法・語彙・表現方法を身につけ、ことばの背景にある文化への理解を深める。 各種の演習を通して、英語によるコミュニケーション力を向上させる。 【授業時間外学習】 授業内容の復習、次回に向けての課題・予習に取り組む。						
【学習上の留意点】 予習・復習を継続すること。 小テスト・レポート・課題にしっかりと取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 各担当教員の指示に従うこと。 必要に応じて、随時指示する。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めない。						
【関連科目】 英語Ⅰ（中級）						
【成績評価方法】 原則として、平常授業での課題を40%、到達度の結果を60%として評価する。						

科目名	教養演習				担当者		
英文名	Preparations for Academic Studies						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の4点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップ的内容も実施する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 アイスブレイク 【 到達目標 】 クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。 【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。			第9回 レポート・論文作成の技術(1) 【 到達目標 】 レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法等を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。 【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。				
第2回 私の学生生活 【 到達目標 】 これまでの学生生活を振り返り、他者の事例との比較考察を通して、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいかを自覚的に考える。 【授業時間外学習】 授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るのかについて各自の自覚を深める。			第10回 レポート・論文作成の技術(2) 【 到達目標 】 レポート・論文作成における不正行為を防ぎ、参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。 【授業時間外学習】 今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。				
第3回 日本女子体育大学を知る(1) 【 到達目標 】 日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。 【授業時間外学習】 創立者二階堂トクヨのことを必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。			第11回 プレゼンテーションの技術 【 到達目標 】 プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。 【授業時間外学習】 学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。				
第4回 日本女子体育大学を知る(2) 【 到達目標 】 日本女子体育大学の建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深め、本学で学ぶことの意義を考える。 【授業時間外学習】 本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。			第12回 専門への架け橋 【 到達目標 】 「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。 【授業時間外学習】 学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。				
第5回 話し合いの技術 【 到達目標 】 集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。 【授業時間外学習】 学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。			第13回 レポート・プレゼンテーション① 【 到達目標 】 担当教員の指示に従って、レポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。 【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。				
第6回 ノートテイクの技術 【 到達目標 】 大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、ノートテイクの意義・留意点を確認する。そして担当教員の指示に従って実践し、各自の改善点を探る。 【授業時間外学習】 ノートテイクの技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。			第14回 レポート・プレゼンテーション② 【 到達目標 】 前回に引き続きレポート・プレゼンテーションの作成・発表等を行う。 【授業時間外学習】 各自のレポート・プレゼンテーションの準備を行う。				
第7回 データを読む技術 【 到達目標 】 量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、その基本問題の実践を通じて習得する。 【授業時間外学習】 データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。			第15回 レポート・プレゼンテーション③ 【 到達目標 】 担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションのまとめの作業を行う。 【授業時間外学習】 受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。				
第8回 データをまとめる技術 【 到達目標 】 質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「KJ法」を習得する。 【授業時間外学習】 授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。							
【学習上の留意点】 この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。							
【教科書・参考書など】 『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。							

科目名	情報処理（情報機器の操作を含む）			担当者	鈴木 信夫・五月女仁子 牧 琢弥	
英文名	Information Literacy					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
【目的とねらい】 ICT（Information & Communication Technology）の基礎を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学ぶ。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメーラーの活用法を学ぶ。さらに、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 インターネットについての理解と利用1 【 到達目標 】 (1)LANについての基礎知識を理解する。 (2)メーラー設定・パスワード変更・ネット検索について習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第9回 インターネットについての理解と利用2 【 到達目標 】 (1)ネット上のマナーと著作権およびコンピュータウイルスの知識を得る。 (2)メールによるファイル添付、ネット上の図等の利用について習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第2回 文書作成法の理解 【 到達目標 】 (1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。 (2)テキストデータ作成と編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第10回 周辺機器とメディアについての理解と利用 【 到達目標 】 (1)PC周辺機器についての知識を得る。 (2)プリンタ等の実用的な利用方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第3回 文書作成の方法 【 到達目標 】 (1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。 (2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第11回 プレゼンテーション法の理解 【 到達目標 】 (1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。 (2)PowerPointによるスライド作成を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第4回 ビジュアル表現法の理解 【 到達目標 】 (1)文書上のオブジェクトについて理解する。 (2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第12回 プレゼンテーションの方法1 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第5回 ビジュアル表現の方法1 【 到達目標 】 (1)文書上の罫線・表の作成・編集について習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第13回 プレゼンテーションの方法2 【 到達目標 】 (1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第6回 ビジュアル表現の方法2 【 到達目標 】 (1)文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。 (2)文書の印刷方法について理解し、習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第14回 OSとアプリケーションとファイルについての理解 【 到達目標 】 (1)OSとアプリケーションについての知識を得る。 (2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第7回 数値分析・データ加工法の理解 【 到達目標 】 (1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。 (2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			第15回 ファイルについての知識および管理の方法 【 到達目標 】 (1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。 (2)様々な保存形式について理解する。 (3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第8回 数値分析・データ加工の方法 【 到達目標 】 (1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。 (2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。 【授業時間外学習】 予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。						
【学習上の留意点】 単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、その背景にあるコンピュータの仕組みやネットワーク、さらに文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的考え方等の基本的知識を学び、専門における応用が可能となるようにする。そのため、基礎知識を学び、毎回授業時にそれに関連した課題を提出してもらう。						
【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 毎回の提出課題を100%として評価する。						

科目名	女性と仕事				担当者	影山陽子	
英文名	Career Development Studies (Women and Work)						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とする。働く環境がめまぐるしく変化する社会において、「働くこと」の意味や「仕事」について明確な意識を持って4年間の学生生活に取り組む姿勢を確認する。2年次の「社会のしくみとキャリア形成」とともに、女性としての社会的立場を理解し、自らの道を切り開く力の養成を図ることを狙いとする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーションおよび講演 【到達目標】 本講義の目的と狙いを理解し、また本学卒業生による講演を通して、現在の自分についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。全15回の授業について概観する。				第9回 自分を知る(2) 自分を知る② 【到達目標】 社会人入門として「社会人基礎力」を学び、社会人に必要な力について考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。社会人基礎力について調べる。			
第2回 社会を知る(1) 社会状況とライフスタイル① 【到達目標】 女性の社会進出と現在の社会状況について学び、自分の考えを整理しまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。二階堂トクヨ・人見絹枝について学ぶ。				第10回 自分を知る(3) 知識基盤社会とスポーツちから① 【到達目標】 知識基盤社会と、その社会で求められる生活技術としてのスポーツちからについて理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。自身のスポーツちからについて考える。			
第3回 社会を知る(2) 社会状況とライフスタイル② 【到達目標】 女性を取り巻く就業環境とライフスタイルについて学び、自分の意見をまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。身近な女性(家族など)に就業状況について話を聴く。				第11回 自分を知る(4) 自分を知る③ 【到達目標】 日女生のキャリア形成の現状を知り、自分の可能性について考える。 【授業時間外学習】 自分が目指す職業領域について調べる。			
第4回 自分を知る(1) 自分を知る① 【到達目標】 パーソナルヒストリー作成や自己分析を通して、自分自身を客観的に見る方法を知る。 【授業時間外学習】 パーソナルヒストリーについて内省を深める。自己啓発について学ぶ。				第12回 自分を知る(5) 知識基盤社会とスポーツちから② 【到達目標】 知識基盤社会と、その社会で求められる生活技術としてのスポーツちからについて理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。社会の変化について調べる。			
第5回 社会を知る(3) 講演① 【到達目標】 社会人による講演を通して、いろいろな仕事や生き方を学び、自分の意見や考えをまとめる。 【授業時間外学習】 ワーキングマザーの現状について調べる。				第13回 自分らしく生きるために 【到達目標】 自分のキャリアデザインやアクションプランを作成し、プレゼンの準備を通して、大学生活と将来についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備をする。			
第6回 社会を知る(4) 雇用とキャリア形成① 【到達目標】 現代の若者や女性の就業環境と雇用形態の現実を学び、自分の働く姿勢や仕事の価値観についての考えをまとめる。 【授業時間外学習】 キャリアセンターを訪問する。センターの実施講座について知る。				第14回 プレゼンテーション(1) 【到達目標】 「大学での学びと私のキャリアプラン」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションの練習をする。また多様な考えに触れ他者への理解を深める。 【授業時間外学習】 プレゼンテーションの準備をする。			
第7回 社会を知る(5) 雇用とキャリア形成② 【到達目標】 女性の生き方とワークライフバランスについて学び、女性と仕事のあり方や自分の働き方について考えまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当部分を予習する。ワークライフバランスについて考える。				第15回 プレゼンテーション(2) 【到達目標】 「大学での学びと私のキャリアプラン」の発表を通して、多人数の人の前でプレゼンテーションの練習をする。また多様な考えに触れ他者への理解を深める。 【授業時間外学習】 期末レポートを完成させる。			
第8回 社会を知る(6) 講演② ブラック企業について 【到達目標】 現代の社会問題について専門家から話を聴き、ブラック企業の実情を理解し、当事者としての対処法を学ぶ。 【授業時間外学習】 ブラック企業やブラックバイトといった社会現象について調べる。							
【学習上の留意点】 社会人になるための準備として、講義を受けるときのマナーに留意する。							
【教科書・参考書など】 テキスト(第2回の授業時に販売)、参考資料							
【関連科目】 社会のしくみとキャリア形成							
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、プレゼンテーション(20%)、プレゼンテーションの要旨レポート(30%)で評価する。							

科目名	栄養学入門				担当者	古泉 佳代・山田 直子	
英文名	Primary Nutrition						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。 本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス・食生活と社会環境 【 到達目標 】 (1)自分の食生活を振り返り、栄養と食生活の関わりを理解する。 【授業時間外学習】 一日の食事を振り返る。				第9回 食生活と健康④食物と栄養（ミネラル） 【 到達目標 】 (1)ミネラルの種類、体内での働き及び代謝を理解する。 【授業時間外学習】 ミネラルを考えて献立を作成し、食生活を実践する。			
第2回 食を取り巻く環境の変化 【 到達目標 】 (1)フードシステムの複雑化にともなっている生じている課題を認識する。 【授業時間外学習】 食に関するニュースを新聞やインターネットを利用して検索する。				第10回 食生活と健康⑤食生活と健康 【 到達目標 】 (1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。 (2)エネルギーバランスからウエイトコントロールを考えることができる。 【授業時間外学習】 自分自身の身体活動量を調べる。			
第3回 食料の供給と課題 【 到達目標 】 (1)食料自給率の低下とその背景を理解する。 (2)農業再生に向けた取り組みの現状を把握する。 【授業時間外学習】 フードロスに関するニュースを新聞やインターネットを利用して検索する。				第11回 食生活と健康⑥食の情報を読み解くリテラシー 【 到達目標 】 (1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。 (2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。 【授業時間外学習】 「健康食品」の表示を見て、健康により根拠は何かを考える。			
第4回 食品の安全性①食中毒・リスク分析 【 到達目標 】 (1)食品由来の危害要因と健康へのリスクについて理解する。 (2)食中毒とその危害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。 (3)リスク分析の考え方と3つの構成要素について理解する。 【授業時間外学習】 食中毒について調べ、生活の中で実践できる予防について考える。				第12回 食生活と文化④食物のおいしさ 【 到達目標 】 (1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。 【授業時間外学習】 日常生活の食事を味わいながら食べることで、わかることをまとめる。			
第5回 食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度 【 到達目標 】 (1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。 (2)「食品表示法」と表示制度について理解し、実生活のなかで表示を活用する。 【授業時間外学習】 食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考える。				第13回 食生活と文化②共食の現代的課題 【 到達目標 】 (1)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。 【授業時間外学習】 社会的孤立を防ぐための、共食を活用した食企画を考える。			
第6回 食生活と健康①食物と栄養（3大栄養素・エネルギー） 【 到達目標 】 (1)3大栄養素の体内での働き及び代謝を理解する。 (2)エネルギー産生栄養素バランスについて理解する。 【授業時間外学習】 食事バランスガイドを用いて食事の栄養バランスをチェックする。				第14回 食生活と文化③日本の食文化 【 到達目標 】 (1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたきたかを理解する。 【授業時間外学習】 自分の出身地の郷土料理や特産品を使った料理について調べ、継承方法を考える。			
第7回 食生活と健康②飲み物の糖度 【 到達目標 】 (1)飲み物の糖度について理解できる。 (2)糖質の摂取方法について考えることができる。 【授業時間外学習】 糖質の種類・量に注意して生活する。				第15回 食育とフード・リテラシー 【 到達目標 】 (1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解する。 (2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。 【授業時間外学習】 食に関する話題を調べ、フード・リテラシーを評価する。			
第8回 食生活と健康③食物と栄養（ビタミン） 【 到達目標 】 (1)ビタミンの種類、体内での働き及び代謝を理解する。 【授業時間外学習】 ビタミンB群を考えて献立を作成し、食生活を実践する。							
【学習上の留意点】 授業時にプリントを配布するので、自分で書き入れながら丁寧に読み、教科書とあわせて理解を深めるようにする。 やむを得ず欠席をしたものは、次回の授業までに配付資料を取りにくること。 授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは納得いくまで質問すること。栄養に関する本、雑誌、気になる話題があれば日頃からチェックする習慣を身につけること。授業中の飲食・携帯・私語は厳禁とする。							
【教科書・参考書など】 「白熱教室 食生活を考える」編著者 金子佳代子・松島悦子（アイ・ケイコーポレーション出版） 参考書として授業内で指定した食品成分表を使用する場合がある。							
【関連科目】 スポーツ栄養学、スポーツコンディショニング演習B（スポーツ選手の栄養学）、生理・生化学入門							
【成績評価方法】 原則として期末テストの結果（100％）で評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。 出席を重視するため、良好な出席状況は当然である。							

科目名	生理・生化学入門				担当者	大澤拓也	
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 健康科学およびスポーツ科学を学ぶために最低限必要と思われる生体生化学的な基礎知識を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生体的な適応およびそのメカニズムを理解する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション・概論 【 到達目標 】 授業の進め方の説明・生体生化学の学問領域を理解する。 日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答について考え、その機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に日常生活やスポーツの場面でよく観察される生理応答を記述しておく。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第9回 呼吸機能 (1) 【 到達目標 】 呼吸器系の構造・機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「呼吸機能 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第2回 骨格筋の構造・筋収縮のメカニズム 【 到達目標 】 骨格筋の種類・微細構造の説明・筋収縮のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「骨格筋の構造・筋収縮のメカニズム」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第10回 呼吸機能 (2) 【 到達目標 】 ガス交換システムと酸素輸送を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「呼吸機能 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第9回 神経系による運動の制御 【 到達目標 】 中枢神経系・末梢神経系の理解・運動制御のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「神経系による運動の制御」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第11回 内分泌系 【 到達目標 】 内分泌系による調節作用・各種ストレスに対する体液反応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「内分泌系」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第4回 エネルギー代謝 (1) 【 到達目標 】 ATP産生システム・TCAサイクルを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「エネルギー代謝 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第12回 体温調節 【 到達目標 】 暑熱・寒冷ストレスに対する体温調節機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「体温調節」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第5回 エネルギー代謝 (2) 【 到達目標 】 糖・脂質・蛋白質によるエネルギー産生のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「エネルギー代謝 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第13回 環境生理 【 到達目標 】 低酸素・低圧・無重力環境に対する身体の適応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「環境生理」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第6回 栄養素と消化・吸収 【 到達目標 】 栄養素の吸収過程と物質の輸送・変換を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「栄養素と消化・吸収」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第14回 一過性の運動に対する生理応答 【 到達目標 】 一過性の運動に対する身体の適応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「一過性の運動に対する生理応答」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第7回 循環機能 (1) 【 到達目標 】 心臓・血管系の構造と機能を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「循環機能 (1)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。				第15回 慢性的な運動トレーニングに対する身体の適応 【 到達目標 】 慢性的な運動の実施に対する生体的な適応を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「慢性的な運動トレーニングに対する身体の適応」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。			
第8回 循環機能 (2) 【 到達目標 】 自律神経系による循環機能の調節・ストレスに対する応答を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された「循環機能 (2)」に関する講義資料を読んでくる。さらに、授業後には授業時に配布する小テストの問題を解いて復習する。							
【学習上の留意点】 授業資料は適宜配布する。授業はPC (パワーポイント) によるスライドをもとに進める。また、各単元の終了時には小テストを行い、知識の習得状況・理解度を把握する。レポート課題を課す。							
【教科書・参考書など】 特に購入の必要はないが、図書館などで「生理学」「生化学」「解剖学」などのテキストを借り参考にとすること。							
【関連科目】 スポーツ生理学、運動処方論							
【成績評価方法】 授業内小テストおよびレポートを20%、テストの結果 (試験は試験期間中に別途実施) を80%として総合的に評価する。							

科目名	国語表現Ⅱ				担当者	稲井 達也・影山 陽子 松崎 史周	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修	
【目的とねらい】 国語表現Ⅰで培った言語力やコミュニケーション能力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。 新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。さらには、新書を読む読書力を養い、質的研究法で用いられるインタビューなど、自身が体験したことの言語化に取り組む。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション (授業概要理解・学習目標設定) 【 到達目標 】 国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 興味や関心のある新聞記事を探す。				第9回 本から学ぶ② 【 到達目標 】 ・書誌情報を知る。 ・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。 【授業時間外学習】 教科書として指定された新書を読む。			
第2回 新聞を活用した意見の構築① 【 到達目標 】 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。 【授業時間外学習】 記事を要約する。				第10回 本から学ぶ③ 【 到達目標 】 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。 【授業時間外学習】 本を読み、要約などをまとめる。			
第3回 新聞を活用した意見の構築② 【 到達目標 】 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。 【授業時間外学習】 討議の内容を整理し、要約する。				第11回 本から学ぶ④ 【 到達目標 】 新書等に親しみ、目的に応じた読書の方法を理解する。また、要約力や批評力を培うことを通して、読書力を身につけるとともに、自ら主体的に読書をする能力・態度を養う。 【授業時間外学習】 本を読み、要約などをまとめる。			
第4回 新聞を活用した意見の構築③ 【 到達目標 】 新聞を活用した情報収集を行うとともに、討議などにより自己の意見を組み立てる。また、クリティカルに社会事象をとらえて文章等にまとめる。 【授業時間外学習】 記事をもとにして、意見文を書く。				第12回 インタビューを書く① 【 到達目標 】 インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。 【授業時間外学習】 インタビューのまとめ方の構想を練る。			
第5回 アカデミック・ライティングの基礎① 【 到達目標 】 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。 【授業時間外学習】 意見文を書く。				第13回 インタビューを書く② 【 到達目標 】 インタビューのまとめ方について理解するとともに、インタビュー方法の学習を踏まえ、自己を深く見つめて、インタビューをして文章に適切にまとめる。 【授業時間外学習】 インタビューを完成させる。			
第6回 アカデミック・ライティングの基礎② 【 到達目標 】 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。 【授業時間外学習】 意見文を書く。				第14回 インタビューを読み合う 【 到達目標 】 完成したインタビューを読み合い、入念に推敲した上で、より適切な文章に修正する。 【授業時間外学習】 推敲して修正したインタビューの文章を見直す。			
第7回 アカデミック・ライティングの基礎③ 【 到達目標 】 文章構成や批判的な読み方、ディスカッション等を通して意見文を書き、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。 【授業時間外学習】 本を読み、要約などをする。				第15回 目標達成度確認・今後の言語生活に向けて 【 到達目標 】 自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見直しを持つ。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返って、自己評価を行う。			
第8回 本から学ぶ① 【 到達目標 】 ・新書の読み方を知る。 ・本の選び方と読み方を知る。 ・インタビューを読み、インタビューの文章の特性を理解する。 【授業時間外学習】 教科書として指定された新書を読む。							
【学習上の留意点】 ・本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。 ・新聞や新書等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないため、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。 ・不明な言葉をすぐに調べられるようにするため、国語辞典を持参すること。電子辞書でも構わない。							
【教科書・参考書など】 教科書 : 『なぜあの時あきらめなかったのか』小松成美著(PHP新書) 参考書1 : 『日本語検定公式練習問題集改訂版 3級』日本語検定委員会編(東京書籍) 参考書2 : 『聞く力』阿川佐和子著(文春新書)							
【関連科目】 国語表現Ⅰ							
【成績評価方法】 毎回の提出物40%・発表20%・課題40%							

科目名	ドイツの言語と文化 I				担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language and Culture I						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 初めてドイツ語を学ぶ学生を対象に、発音および日常会話の基本表現の習得と、生活文化の背景について学習することをめざす。ドイツ語圏、ひいてはヨーロッパ圏に興味・関心をもって自らその情報を調べることにつながるようになる。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業概要の説明 【 到達目標 】 ドイツ語の文字と音声（発音とリズム）を習得する。 【授業時間外学習】 アルファベットの発音を復習する。				第9回 日常生活の表現 1 【 到達目標 】 名詞について学習し、名詞に性があることを知る。 単数形か複数形かを意識する癖をつける。 【授業時間外学習】 日常使う物の名前を覚える。			
第2回 アルファベットの歴史と発音 【 到達目標 】 ドイツ語の文化的背景を理解する。 アルファベットと単語の読み方との関係性に気づき、その法則性を意識する。 【授業時間外学習】 単語の発音を復習する。				第10回 日常生活の表現 2 【 到達目標 】 冠詞について学習し、冠詞が果たす役割を理解する。 格という文法用語を知り、これに慣れる。 【授業時間外学習】 定冠詞を暗記する。			
第3回 ドイツ語とドイツ文化 【 到達目標 】 英語とは決定的に異なるドイツ語の文構造を理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った文を暗記する。				第11回 日常生活の表現 3 【 到達目標 】 家族や友人関係の表現を学習する。 不定冠詞類を学ぶことで、「私の、彼の、君たちの」等を使った名詞の表現ができるようになる。 【授業時間外学習】 家族について紹介する。			
第4回 あいさつ表現 【 到達目標 】 日常生活に欠かせないあいさつ表現が使えるようになる。 【授業時間外学習】 あいさつ表現を暗記する。				第12回 日常生活の表現 4 【 到達目標 】 数字を覚えて、20までの規則性を捉える。 24時間制で時刻の表現ができるようになる。 【授業時間外学習】 数字を暗記する。			
第5回 自己紹介 1 【 到達目標 】 主語として使う代名詞「私は、彼は、私たちは…」等を使って簡単な自己紹介ができる。 【授業時間外学習】 自分の名前と出身地を表現する。				第13回 日常生活の表現 5 【 到達目標 】 買物をするための表現を学習する。 ユーロという通貨を使って、買い物のやり取りができるようになる。 【授業時間外学習】 買物の値段を表現する。			
第6回 自己紹介 2 【 到達目標 】 大学で何を専攻しているのかを表現したり、相手に専攻を尋ねたりできるようになる。 【授業時間外学習】 少しずつでも自己紹介をする内容を増やす。				第14回 日常生活の表現 6 【 到達目標 】 月名、曜日、自然現象の表現を学習する。 今、何時なのかを尋ねたり、答えたりできるようになる。 【授業時間外学習】 日付と天気をドイツ語で日記に表現する。			
第7回 人物の紹介 1 【 到達目標 】 動詞について学習して、主語に合わせて動詞が変化することに慣れる。 【授業時間外学習】 家族や友人を紹介する。				第15回 理解度の確認 【 到達目標 】 自分のこと、身の回りのことなどを、実際に文章や口頭で表現できる。 「気温が暑い」、「気分が悪い」等、天候や心理現象などを表現できる。 【授業時間外学習】 自分の分からない所を書き出す。			
第8回 人物の紹介 2 【 到達目標 】 様々な言語やスポーツの表現を学習して、使える言語を示し、得意なスポーツを説明できる。 【授業時間外学習】 自分の好きなスポーツを表現する。							
【学習上の留意点】 特に発音練習と復習を継続し、言語的、文化的特性を理解すること。付録のweb音声を聞く機会を自分で設けて、ドイツ語の音やリズムに慣れることは語学学習への近道です。							
【教科書・参考書など】 『お菓子で学ぶドイツ語』 平山茂樹・小野森都子・藤由順子著 朝日出版社							
【関連科目】 ドイツの言語と文化II							
【成績評価方法】 各回の授業中での発表や課題提出を20%、理解度確認のためのテスト結果を80%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。							

科目名	ドイツの言語と文化Ⅱ				担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language and Culture Ⅱ						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 「ドイツの言語と文化Ⅰ」と同様、発音および日常会話の基本表現の習得と文化的背景の学習をめざす。基礎力をさらに養い、基本表現のいっそうの習得と定着を図り、異文化理解の能力を高める。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業概要の説明、テキスト等の紹介 【 到達目標 】 音声的基礎を踏まえた発音を改めて習得し、自学自習に役立てる。 【授業時間外学習】 文字と単語の発音練習をする。				第9回 日常生活の表現:気持ちを伝える 【 到達目標 】 話法の助動詞について学習する。 「～したい、～しなければならない」等の、感情により即した表現ができる。 【授業時間外学習】 自分のできることや願望を具体的に表現する。			
第2回 基礎知識の確認:発音、あいさつ 【 到達目標 】 基礎的文法を理解し、ドイツ語の文の特徴を踏まえて、文章を読んでその内容を理解する。 【授業時間外学習】 挨拶の表現を復習する。				第10回 日常生活の表現:将来について 【 到達目標 】 近い未来を表現できるようになる。 その際、ドイツ語の時制について触れて、現在形が多用される特徴を理解する。 【授業時間外学習】 自分の将来を想像し、これを文章にしてみる。			
第3回 ドイツの都市(州と州都) 【 到達目標 】 日常生活の表現とその文化的背景を理解する。 【授業時間外学習】 ドイツの主な都市を地図で確認する。				第11回 日常生活の表現:夢 【 到達目標 】 zu不定詞について学習することで、「～するということ」を表現できるようになる。 【授業時間外学習】 自分の夢を表現する。			
第4回 日常生活の表現:場所を尋ねる表現について 【 到達目標 】 前置詞について学習する。 英語では意識することのなかった、名詞・代名詞との「相性」つまり格支配を理解する。 【授業時間外学習】 場所を尋ね、教える表現を覚える。				第12回 日常生活の表現:週末の予定 【 到達目標 】 分離動詞について学習する。 ドイツ語の辞書を正しく引けるようになる。 【授業時間外学習】 自分の週末の予定を書く。			
第5回 日常生活の表現:1日の行動を表現する 【 到達目標 】 日時を表す前置詞について学習して、「いつ」が表せるようになる。 「～時に・～時ごろに、～曜日に、～曜日まで」など。 【授業時間外学習】 1日の日記を書く。				第13回 日常生活の表現:結婚式 【 到達目標 】 接続詞について学習して、文と文をつなげた少し長い文章を理解できるようになる。 【授業時間外学習】 接続詞を覚える。			
第6回 日常生活の表現:色彩、形容詞について 【 到達目標 】 形容詞について学習する。 形容詞が使用方法によっては形を変えることを理解する。 【授業時間外学習】 色彩の表現を覚える。				第14回 日常生活の表現:古都 【 到達目標 】 従属の接続詞と副文について学習する。 主文と副文という分類を、動詞の位置で示すというドイツ語の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 接続詞を用いた文を作成する。			
第7回 日常生活の表現:年齢、身長 【 到達目標 】 形容詞、副詞について学習する。 辞書での表示方法を理解し、正しく和訳・独訳できるようになる。 【授業時間外学習】 自分の年齢と身長を書く。				第15回 理解度の確認 【 到達目標 】 近い将来の目標を表し、そのために何を行ってきたかを具体的な文章で表現できる。 【授業時間外学習】 表現しきれなかったこと、難しかったことを確認する。			
第8回 日常生活の表現:比較表現、序数 【 到達目標 】 原級、比較級、最高級について学習して、「同じくらい～だ/もっと～だ」等が表せる。 【授業時間外学習】 比較表現を練習する。							
【学習上の留意点】 発音練習と復習に重点を置くこと。課題にしっかり取り組むこと。							
【教科書・参考書など】 『お菓子で学ぶドイツ語』 平山茂樹・小野森都子・藤由順子著 朝日出版社							
【関連科目】 ドイツの言語と文化Ⅰ							
【成績評価方法】 授業時の発表や課題提出20%、理解度確認のためのテスト結果を80%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。							

科目名	世界の民族音楽				担当者	櫻田素子	
英文名	World Music						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 世界のさまざまな地域・民族に見られる音楽文化の多様性を、主として視聴覚資料をもちいて学ぶ。各音楽文化は、それぞれの歴史的背景、社会的背景、価値観によって、独自の音楽を形成してきた。こうした音楽文化のあり様を知り、また、グローバルな知の交流や人々の移動が進むなか、音楽文化がどのように変化してきたのか、現在はあるどのような姿であるのかなど、知ることを目的とする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 世界の様々な音楽、芸能を学ぶということ 【 到達目標 】 「民族音楽」と呼ばれてきた音楽とは何かを考察し、それらを学ぶ意味、意義について考えられるようにする。また、各地の音楽に利用される楽器の理解方法＝楽器分類方法も知る。 【授業時間外学習】 各種メディア等、身の周りにある音楽に注意を向け、どのような音楽であるかを考察する。				第9回 日本の音楽文化(1) 【 到達目標 】 日本の「伝統音楽・古典音楽」の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本の歴史について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第2回 アフリカの音楽文化 【 到達目標 】 サハラ砂漠以南のアフリカにおける音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 アフリカの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第10回 日本の音楽文化(2) 【 到達目標 】 日本各地の「民俗芸能」の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本各地の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第3回 西ヨーロッパの音楽文化 【 到達目標 】 西ヨーロッパを中心とした音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 西ヨーロッパの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第11回 日本の音楽文化(3) 【 到達目標 】 日本の音楽の歴史、特に、近代から現代へ至る、大衆音楽を含む音楽文化全般の特徴と変化について学び、理解する。 【授業時間外学習】 日本の近代（江戸時代末期から明治・大正・昭和・平成時代）の歴史について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第4回 東ヨーロッパ・ロシアの音楽文化 【 到達目標 】 東ヨーロッパ地域、およびロシアの音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 東ヨーロッパの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第12回 オセアニアの音楽文化 【 到達目標 】 オセアニア（環太平洋地域）に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 オセアニアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第5回 西アジア・中央アジアの音楽文化 【 到達目標 】 西アジア（アラブ文化圏）の音楽とそれに類似する音楽文化をもつ中央アジアの音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 西アジア・中央アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第13回 北米の音楽文化 【 到達目標 】 北米の音楽文化に見られる音楽文化の代表的なもの、特に、ポピュラー音楽を中心に学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 北米の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第6回 南アジアの音楽文化 【 到達目標 】 インド亜大陸を中心とする地域に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 南アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第14回 中南米の音楽文化(1) 【 到達目標 】 中南米（カリブ海地域）に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 カリブ海地域の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第7回 東南アジアの音楽文化 【 到達目標 】 東南アジア（大陸部、島嶼部）に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 東南アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。				第15回 中南米の音楽文化(2)、まとめ 【 到達目標 】 中南米（南米）に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。また、世界の民族音楽を学んできたことによって得たもの、培ったものは何かを考察する。 【授業時間外学習】 南米の地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。			
第8回 東アジアの音楽文化 【 到達目標 】 東アジア（中国とその周辺、中国文化の影響を受けた地域）に見られる音楽文化の代表的なものについて学び、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 東アジアの地理、気候風土について予習し、授業内に鑑賞した資料に関連する音楽を聴き復習する。							
【学習上の留意点】 視聴覚資料を多用する授業だが、積極的に参加すること。特に各地の文化を紹介する際、パワーポイントを利用してその特徴を説明するので、自分で適宜メモをとり、その音楽、芸能の特徴をとらえる努力をすること。							
【教科書・参考書など】 授業内にてプリントを配布、また、参考文献等を適宜指示する。							
【関連科目】 西洋音楽							
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、学期末レポート(50%)で評価する。							

科目名	日常生活の社会学				担当者	田北康成	
英文名	Introductory Sociology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみる。社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的なアイテムとして有効なことを実感していただければと思う。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。 (2)領域を超えて横断的に物事を捉える習慣、そこで何が語られないかと考える習慣を身につける。 【授業時間外学習】 予習課題：「日本」という国の好きなおところ、きらいなおところを考えておく。				第9回 新しい社会運動と「地域」の変革を探る 【 到達目標 】 (1)「地域」の人間関係を取り戻すいくつかの試みを学ぶ。 (2)新しい社会運動が従来型の労働運動とどう違うかを理解する。 【授業時間外学習】 予習課題：「絆」という言葉から連想することを考えておく。			
第2回 社会学はどのような考え方をするのか(1) 【 到達目標 】 (1)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。 (2)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像する。 【授業時間外学習】 予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。				第10回 これからのライフステージを考える 【 到達目標 】 (1)ライフステージに伴う生活の変化を捉える。 (2)働き方に縛られない生活を把握する。 【授業時間外学習】 予習課題：将来、どこに住みたいか、その理由とともに考えておく。			
第3回 社会学はどのような考え方をするのか(2) 【 到達目標 】 (1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。 (2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。 【授業時間外学習】 予習課題：次に食べに行きたい「おいしい店」を探しておく。				第11回 働くことの意味を考える 【 到達目標 】 (1)「疎外された労働」、搾取、格差社会について理解する。 (2)労働条件の持つ意味を把握するとともに、金銭に換算されない労働を考える。 【授業時間外学習】 予習課題：「おもてなし」という言葉から連想する実例を考えておく。			
第4回 人が持っているバイアスを考える (1) ジェンダー 【 到達目標 】 (1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。 (2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固定化していく心理を読み解く。 【授業時間外学習】 予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。				第12回 セーフティネットの持つ意味 【 到達目標 】 (1)「相対的剥奪の理論」について理解する。 (2)セーフティネットが機能しない問題について考える。 【授業時間外学習】 予習課題：「生活保護」について自分の考えをまとめておく。			
第5回 人が持っているバイアスを考える (2) エスニシティ 【 到達目標 】 (1)「日本」という国に住んでいることのバイアスを考える。 (2)前回の授業とともに「一般化された他者」になる道筋を考える。 【授業時間外学習】 予習課題：行ってみたい、住んでみたい国をその理由とともに考えておく。				第13回 ハンディキャップを考える 【 到達目標 】 (1)「しょうがい」とはどのようなものか、何が生きづらさをもたらすかを考える。 (2)「パラリンピック」に何が期待されるかを考える。 【授業時間外学習】 予習課題：身の回りにおける「ユニバーサル・デザイン」を探しておく。			
第6回 家族の役割について考える (1) 【 到達目標 】 (1)「家族」に対する理論的な分析枠組みを知ると共に、その機能を学ぶ。 (2)「家族」の制度がかかえる問題や課題を知る。 【授業時間外学習】 予習課題：「夫婦別姓」についてどう思うか、その理由を考えておく。				第14回 病と医療を考える 【 到達目標 】 (1)タルコット・パーソンズの「病人役割」について把握する。 (2)病とソーシャルキャピタルの関係について把握する。 【授業時間外学習】 予習課題：自分の住んでいる場所の休日・深夜の医療体制を調べておく。			
第7回 家族の役割について考える (2) 【 到達目標 】 (1)「家制度」の変化と現状、課題を知る。 (2)ライフステージの変化を捉えていく。 【授業時間外学習】 予習課題：自分の「お墓」について考えておく。				第15回 全体のまとめと補論 【 到達目標 】 (1)これまで14回かけて学んできたこと全体の復習をする。 【授業時間外学習】 予習課題：これまでにとったノートを整理し、分からないところを調べておく。			
第8回 人や地域コミュニティのネットワークをどう形成するか 【 到達目標 】 (1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。 (2)災害時のコミュニティ形成について学ぶ。 【授業時間外学習】 予習課題：自分が住んでいる地区の避難場所を調べておく。							
【学習上の留意点】 この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。それに加えて社会調査入門も兼ねている。ほぼ毎回何らかの予習課題が用意されている。世の中の動きについて積極的な好奇心を持つことで授業への主体的な参加が求められる。							
【教科書・参考書など】 教科書は不使用。参考書は随時指示するので、事後学習に役立ててほしい。							
【関連科目】 現代文化論							
【成績評価方法】 予習課題に連動した毎回のレスポンスシートと、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテストとの総合点で評価する。(試験は試験期間中に別途実施する)							

科目名	人間心理の理解				担当者	三好昭子	
英文名	Personality Psychology						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 本講義は、人間の心と行動について多面的にとらえ、理解することができるようになることを目的とする。まずは人間が物理的世界をどのように主観的にとらえているのかを理解する。そしてそれぞれ主観的な世界をもつ人間が、他者や自分自身といった人間の心をどのようにとらえることができるのだろうか。それについて考えることを可能にするため、パーソナリティや知能といった漠然とした目に見えないものを見方を幅広く修得する。さらに対人場面での実践的な問題を通して人間心理の多様性を理解し、他者理解とともに自己洞察を深めることを目的としている。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 感覚・知覚①私たちが知覚できるもの・できないもの 【 到達目標 】 (1)人間が外界をどのように知覚するかを理解する。 (2)同じものを見ても見え方が異なることを理解する。 【授業時間外学習】 人間の知覚についての理解に関する課題を行う。				第9回 発達の可塑性 【 到達目標 】 (1)初期経験の重要性について理解する。 (2)社会的に剥奪された環境からの社会復帰について考える。 【授業時間外学習】 発達の可塑性についての理解に関する課題を行う。			
第2回 感覚・知覚②心理的世界と物理的世界との関連 【 到達目標 】 (1)知覚の恒常性について理解する。 (2)奥行き知覚について理解する。 【授業時間外学習】 知覚の恒常性と奥行き知覚に関する課題を行う。				第10回 対人認知・印象形成 【 到達目標 】 (1)対人認知について理解する。 (2)印象形成について理解する。 【授業時間外学習】 対人認知と印象形成の理解に関する課題を行う。			
第3回 感情・情動 【 到達目標 】 (1)どのようにして感情を感じるのかを理解する。 (2)表情の読み取りについて理解する。 【授業時間外学習】 感情の起源と表情の読み取りに関する課題を行う。				第11回 態度変容 【 到達目標 】 (1)態度変容に影響を与える要因について理解する。 (2)態度変容をうながすテクニックが悪用される危険性について理解する。 【授業時間外学習】 態度変容に関する課題を行う。			
第4回 パーソナリティ①類型論 【 到達目標 】 (1)クレッチマーの類型論について理解する。 (2)ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析する。 【授業時間外学習】 類型論の理解に関する課題を行う。				第12回 恋愛 【 到達目標 】 (1)恋愛に関する社会心理学的研究について理解する。 (2)恋愛のタイプ分けテストに基づき自己分析する。 【授業時間外学習】 恋愛の理解に関する課題を行う。			
第5回 パーソナリティ②特性論 【 到達目標 】 (1)共通特性について理解する。 (2)ギルフォードの特性論について理解する。 (3)Big Fiveについて理解する。 【授業時間外学習】 特性論の理解に関する課題を行う。				第13回 グループダイナミクス①同調 【 到達目標 】 (1)他者への同調について理解する。 (2)他者への同調がまねく危険性について考える。 【授業時間外学習】 同調の理解に関する課題を行う。			
第6回 パーソナリティ③構造論 【 到達目標 】 (1)フロイトの構造論について理解する。 (2)レヴィンの構造論について理解する。 【授業時間外学習】 構造論の理解に関する課題を行う。				第14回 グループダイナミクス②服従 【 到達目標 】 (1)他者への服従について理解する。 (2)他者への服従がまねく危険性について考える。 【授業時間外学習】 服従の理解に関する課題を行う。			
第7回 知能とは何か 【 到達目標 】 (1)知能の定義について理解する。 (2)知能テストについて理解する。 【授業時間外学習】 知能と知能テストの理解に関する課題を行う。				第15回 ヒューマンエラー 【 到達目標 】 (1)リスクテイキングについて理解する。 (2)リスクマネジメントについて理解する。 【授業時間外学習】 ヒューマンエラーに関する課題を行う。			
第8回 知能の発達 【 到達目標 】 (1)行動遺伝学について理解する。 (2)知能やパーソナリティに対する遺伝と環境の影響について理解する。 【授業時間外学習】 知能の発達に関する課題を行う。							
【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用し、資料を毎回配布する。受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成する。授業の中で、心理テストを行うことがある。自己理解に役立てるためにも積極的に取り組むことが望まれる。毎回、講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするための課題を出す。課題を通して、分かったこと、分からなかったことを明確にし、知識を整理することが必要である。課題の内容は期末テストと対応しているので、しっかり復習すること。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。 参考書：『心理学 こころと行動のメカニズムを探る』越智啓太・著（樹村房 2012）							
【関連科目】							
【成績評価方法】 毎回出す課題の提出30%、期末テスト（試験は試験期間中に別途実施）を70%として評価する。							

科目名	ボランティア活動論			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Citizenship Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 ボランティア活動を行っている先輩や活動家から現場の生の声を聞き、実際にボランティア活動を体験しながら、現代社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。 授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの専門性や力量を市民参加や社会貢献に結び付けていくことが、本講義の最終的なねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（趣旨、学習の進め方） 【到達目標】 (1)「ボランティア活動論」の全体の流れを把握する。 (2)自分の学習目標を決める。 【授業時間外学習】 自分の学習目標を決める。			第9回 日本におけるボランティア活動 【到達目標】 (1)日本におけるボランティア活動の現状と課題を知る。 (2)自分の学校生活におけるボランティア学習を振り返り検証する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			
第2回 ボランティア活動事例の紹介（1） 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)ボランティア活動事例を、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第10回 ボランティアセンター 【到達目標】 (1)ボランティアセンターの役割を理解する。 (2)ボランティアセンターを、自分の活動に有効に利用できる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			
第3回 ボランティア活動の留意点 【到達目標】 (1)ボランティア活動を始める際に必要なプロセスを理解する。 (2)ボランティア活動実践に必要な態度やルールを理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第11回 大学の地域貢献 【到達目標】 (1)大学で学ぶ専門性を地域のために活かす方策を考える。 (2)自らの市民参加や社会貢献に結び付けて考察する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			
第4回 サービスラーニング 【到達目標】 (1)サービスラーニングの考え方を理解する。 (2)サービスラーニングを意識したボランティア活動計画を立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第12回 ボランティア活動体験と報告（1） 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。			
第5回 ボランティア活動事例の紹介（2）（講話） 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)現場で活躍している方の講話からボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第13回 ボランティア活動体験と報告（2） 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。			
第6回 ボランティア活動の役割と背景 【到達目標】 (1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。 (2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第14回 ボランティア活動体験と報告（3） 【到達目標】 (1)ボランティア活動を実際に体験する。 (2)自分のボランティア活動を振り返り検証し、報告を行う。 【授業時間外学習】 ボランティア活動を実際に体験する。			
第7回 ボランティア活動の歴史 【到達目標】 (1)世界におけるボランティア活動の歴史を理解する。 (2)ボランティア思想の発展史を理解する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。			第15回 ボランティア活動レポートの作成・提出 【到達目標】 (1)授業内容とボランティア活動体験をふまえ、ボランティア活動レポートを作成する。 【授業時間外学習】 ボランティア活動レポートを作成する。			
第8回 ボランティア活動事例の紹介（3）（講話） 【到達目標】 (1)ボランティア活動のいくつかの活動分野を知る。 (2)現場で活躍している方の講話からボランティア活動事例を知り、自分の活動に役立てる。 【授業時間外学習】 ボランティア活動計画書の作成に向け準備を進め、実際にボランティア活動を行う。						
【学習上の留意点】 ボランティアセンターの協力を得て学習を進め、ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験、プレゼンテーション、活動レポートの作成（2400字以上）を行う。						
【教科書・参考書など】 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題50%、ボランティア活動レポート50%として評価する。						

科目名	英語EAP I				担当者	中村大輔	
英文名	English for Academic Purposes I						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 学術論文を理解するためには語彙・文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業ではcause-effect関係の把握等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。予習を前提としている授業なので、受講生は十分に準備した上で授業に臨むことになる。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 Introduction 【 到達目標 】 この授業での学習の進め方・評価方法の説明・受講上の注意点を把握する。			第9回 Words from the Academic Word List (AWL) ② 【 到達目標 】 学術論文の理解に必要なvocabularyを身につける。				
【授業時間外学習】 Education & Biology essayを読む			【授業時間外学習】 AWLにある語彙の理解、産出練習を行う。				
第2回 Education & Biology 【 到達目標 】 英文のmain ideaを把握できるようになる。			第10回 Science & Engineering 【 到達目標 】 scanningで情報を把握できるようになる。				
【授業時間外学習】 main ideaを把握するreading skills演習を行う。			【授業時間外学習】 scanningを育成するreading skills演習を行う。				
第3回 Education & Psychology 【 到達目標 】 Cause-Effect関係を把握できるようになる。			第11回 Science & Medicine 【 到達目標 】 main ideaとsupporting detailsの関係を理解する。				
【授業時間外学習】 Cause-Effect関係を把握するreading skills演習を行う。			【授業時間外学習】 main ideaとsupporting detailsの関係を理解するreading skills演習を行う。				
第4回 Education & Government 【 到達目標 】 comparison-contrast関係を把握出来るようになる。			第12回 Science & Education 【 到達目標 】 情報の時系列を把握出来るようになる。				
【授業時間外学習】 comparison-contrast関係を把握するreading skills演習を行う。			【授業時間外学習】 情報の時系列を把握するreading skills演習を行う。				
第5回 Words from the Academic Word List (AWL) ① 【 到達目標 】 学術論文の理解に必要なvocabularyを身につける。			第13回 Words from the Academic Word List (AWL) ③ 【 到達目標 】 学術論文の理解に必要なvocabularyを身につける。				
【授業時間外学習】 AWLにある語彙の理解、産出練習を行う。			【授業時間外学習】 AWLにある語彙の理解、産出練習を行う。				
第6回 Sociology & Architecture 【 到達目標 】 comparison-contrast関係を把握出来るようになる。			第14回 総復習 ① 【 到達目標 】 これまで学習した内容を総復習する。課題をしっかりと行った上で授業に臨むこと。				
【授業時間外学習】 表を用いて視覚的に情報を整理するreading skills演習を行う。			【授業時間外学習】 課題の総チェックと総点検を行う。				
第7回 Sociology & Anthropology 【 到達目標 】 情報の時系列を把握出来るようになる。			第15回 総復習 ② 【 到達目標 】 これまで学習した内容を総復習する。課題をしっかりと行った上で授業に臨むこと。期末試験に向けた課題も出す。				
【授業時間外学習】 情報の時系列を把握するreading skills演習を行う。			【授業時間外学習】 課題の総チェックと総点検を行う。				
第8回 Sociology & Literature 【 到達目標 】 scanningで情報を把握できるようになる。							
【授業時間外学習】 scanningを育成するreading skills演習を行う。							
【学習上の留意点】 ・指定された箇所の予習を確実にを行った上で授業に出席すること。受講生一人一人の「自立的学習力」も観察・評価する。 ・授業には辞書（あるいはsmartphone等辞書機能として使用できるもの）を携帯すること。 ・文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は行わない。							
【教科書・参考書など】 Mackey, D. (2012). Read this! Intro. New York: Cambridge University Press. その他、参考書等は授業内で指示する。 ※上記テキストは現時点での予定であり、変更の可能性がある。詳しくは初回の授業で担当者の指示に従うこと。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 平常点（小テスト、課題、授業内での応答、自立的学習力）を50%、学期末試験を50%として成績を評価する。							

科目名	英語EGCI			担当者	Mensto Flaming	
英文名	English for General Communication I					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introductions 【到達目標】 Previewing contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus			第9回 Regular and Current Activities 【到達目標】 Practising present tenses 【授業時間外学習】 Review present tense usage			
第2回 Asking / Answering Questions 【到達目標】 Practising question / answer format 【授業時間外学習】 Review question sentence grammar			第10回 Presentations: Invitations 【到達目標】 Discussing schedules 【授業時間外学習】 Prepare presentation			
第3回 Likes and Dislikes 【到達目標】 Practising preference vocabulary/grammar 【授業時間外学習】 Preview preference vocabulary / grammar			第11回 Part-time Work 【到達目標】 Previewing work-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview work-related vocabulary			
第4回 Presentations: Likes and Dislikes 【到達目標】 Discussing preferences 【授業時間外学習】 Prepare presentation			第12回 Duties and Working Conditions 【到達目標】 Previewing additional work-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview additional vocabulary			
第5回 Family 【到達目標】 Practising family vocabulary 【授業時間外学習】 Preview family vocabulary			第13回 Presentations: Part-time Work 【到達目標】 Discussing part-time work 【授業時間外学習】 Prepare presentation			
第6回 People 【到達目標】 Practising descriptive vocabulary 【授業時間外学習】 Preview descriptive vocabulary			第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
第7回 Preparations for Presentations: Family 【到達目標】 Gathering and organising information 【授業時間外学習】 Prepare presentation			第15回 Mid-term Presentations 【到達目標】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
第8回 Presentations: Family 【到達目標】 Discussing family 【授業時間外学習】 Prepare presentation						
【学習上の留意点】 Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English.						
【教科書・参考書など】 Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press						
【関連科目】						
【成績評価方法】 Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%						

科目名	英語EAPⅡ				担当者	大和久吏恵	
英文名	English for Academic Purposes Ⅱ						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 この授業では、英語による様々な分野の論理的な文章を正確に読み、多様性を受容する素地を作ります。またプレゼンテーションに関する作業（原稿作成・発表・相互評価）を通して、英語で意見を述べる技術の習得を目指します。受講生は担当箇所のみならず課題全体を予習・復習する必要があります。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 英文読解演習（1） 【到達目標】 受講における留意点・授業の進め方を理解する。 時間外学習の方法を把握する。 論理的な文章を正確に読むために必要なポイントを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				第9回 英文読解演習（9） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第2回 英文読解演習（2） 【到達目標】 パラグラフの構造を確認する。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				第10回 英文読解演習（10） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 課題文の内容に関して意見を構築する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第3回 英文読解演習（3） 【到達目標】 パラグラフ間の関係を理解する。 演習を通して課題文の内容を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				第11回 英文読解演習（11） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの構造を理解する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第4回 英文読解演習（4） 【到達目標】 演習を通して課題文の内容を把握する。 課題文の内容に関して意見を構築する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				第12回 英文読解演習（12） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第5回 英文読解演習（5） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの構造を理解する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				第13回 英文読解演習（13） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第6回 英文読解演習（6） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容を把握する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				第14回 英文読解演習（14） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションを通して意見を発表する。② 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。			
第7回 英文読解演習（7） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションの内容に関して意見を構築する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。				第15回 英文読解演習（15） 【到達目標】 論説文・プレゼンテーションを含む授業全体のふり返りを行う。 今後の学習目標を設定する。 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、今後も自律的学習を継続させる。			
第8回 英文読解演習（8） 【到達目標】 論理的な文章を正確に読む訓練をする。 プレゼンテーションを通して意見を発表する。① 【授業時間外学習】 授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。							
【学習上の留意点】 担当箇所のみならず、課題全体の予習・復習を行うこと。 復習効果を確認できるよう、小テストにしっかりと取り組むこと。 論説文・プレゼンテーションに関して意見を持ち、発言・レポートを通して表現すること。							
【教科書・参考書など】 プリントを配布します。 辞書を持参すること（電子辞書可）。原則として、携帯電話を辞書として使用することは認めません。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 原則として、平常点(課題・レポート等)40%、発表20%、試験40%で評価します。							

科目名	英語EGCⅡ			担当者	Mensto Flaming	
英文名	English for General Communication Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 This course (English for General Communication Ⅱ) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 Introductions 【到達目標】 Previewing the contents and goals of the course 【授業時間外学習】 Preview syllabus			第9回 The City 【到達目標】 Practising giving / receiving directions 【授業時間外学習】 Preview directions vocabulary			
第2回 Questions about Past Experiences 【到達目標】 Practising past tense questions / answers 【授業時間外学習】 Review past tense			第10回 Presentations: My Home 【到達目標】 Discussing living space 【授業時間外学習】 Prepare presentation			
第3回 A Holiday in Florida 【到達目標】 Listening in Context 【授業時間外学習】 Preview holiday vocabulary			第11回 School 【到達目標】 Previewing school-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview school-related vocabulary			
第4回 Presentations: Holidays 【到達目標】 Discussing a past experience 【授業時間外学習】 Prepare presentation			第12回 Presentations: School 【到達目標】 Discussing School 【授業時間外学習】 Prepare presentation			
第5回 Countries and Their Kitchens 【到達目標】 Practising food-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview food-related vocabulary			第13回 Reading a Story 【到達目標】 Reading comprehension 【授業時間外学習】 Reading Preparation			
第6回 Locations 【到達目標】 Practising location vocabulary 【授業時間外学習】 Preview location vocabulary			第14回 Preparations for Mid-term Presentations 【到達目標】 Previewing the mid-term presentation 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
第7回 Presentations: A Country and its Kitchen 【到達目標】 Discussing Foreign Countries 【授業時間外学習】 Prepare presentation			第15回 Mid-term Presentations 【到達目標】 Course Review 【授業時間外学習】 Prepare Mid-term Presentation			
第8回 The Home 【到達目標】 Practising home-related vocabulary 【授業時間外学習】 Preview home-related vocabulary						
【学習上の留意点】 Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer! I.e. This class will be conducted in English.						
【教科書・参考書など】 Talk a Lot 1 - D. Martin - EFL Press						
【関連科目】						
【成績評価方法】 Participation 40%, Assignments 30%, and Mid-term Presentations 30%						

科目名	教養としてのドイツ言語論			担当者	藤 由 順 子	
英文名	German Language as General Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 初級レベルの基礎知識を確かなものにし、これを高め、応用力を養うことに備える。ドイツ語の言語的特徴と全体像をつかむことをめざす。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業内容の説明、テキスト等の紹介 【 到達目標 】 音声的基礎を踏まえ、さらなるコミュニケーション能力を高める。 【授業時間外学習】 文字と単語の発音練習をする。			第9回 前置詞の格支配 【 到達目標 】 状況を説明するフレーズを表現できる。 「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等と言える。 【授業時間外学習】 例文を覚える。			
第2回 発音、基本表現、基礎的文法事項の確認 【 到達目標 】 日常生活レベルから教養的レベルの語彙を理解する。 あいさつやとっさの一言を身につける。 【授業時間外学習】 語彙の発音と意味を確認する。			第10回 助動詞 【 到達目標 】 語法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。 【授業時間外学習】 自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。			
第3回 ドイツ語の文構造 【 到達目標 】 「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。 規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、ドイツ語で表現する。 【授業時間外学習】 基本的な文を覚える。			第11回 従属接続詞 【 到達目標 】 接続詞と複雑な文章を学習する。 【授業時間外学習】 動詞の位置を確認する癖をつけて、文構造を理解する。			
第4回 ドイツ語の名詞を知る 【 到達目標 】 名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。 【授業時間外学習】 格変化の表の見方に慣れる。			第12回 分離動詞 【 到達目標 】 文中に登場する分離動詞を見つけ出し、見出し語の形に戻せるようになる。 分離動詞を使って日常生活を表現できる。 【授業時間外学習】 例文を覚える。辞書を引いて、分離動詞の表記を確認する。			
第5回 冠詞の役割 【 到達目標 】 英語と異なり、「ひとつの」とか「その」という意味を持つだけでないことを再確認する。 【授業時間外学習】 辞書を引いて、格変化表を作成してみる。			第13回 再帰代名詞と再帰動詞 【 到達目標 】 主語と同じものを示す目的語の代名詞と、それを用いた熟語的表現（再帰動詞）を学習する。 【授業時間外学習】 辞書で再帰動詞を引いて、項目や表記を確認する。			
第6回 複数形 【 到達目標 】 sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを学ぶ。 【授業時間外学習】 辞書の見出し語である単数形に戻す練習を重ねる。			第14回 形容詞 【 到達目標 】 形容詞の名詞化を知り、これに慣れる。 【授業時間外学習】 形容詞の格変化表を作成する。			
第7回 所有冠詞 【 到達目標 】 「私の～が」・「彼女の～を」・「君の～に」等の表現を身につける。 【授業時間外学習】 所有冠詞を覚えて自分の持ち物を表現する。			第15回 理解度の確認と補足説明 【 到達目標 】 習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。 【授業時間外学習】 自分の分からない所を書き出す。			
第8回 人称代名詞 【 到達目標 】 主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して、活用する。 「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得する。 【授業時間外学習】 自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。						
【学習上の留意点】 発音練習を繰り返すこと。復習をしっかり行うこと。ドイツ文化と言語への関心を大事にすること。半期でドイツ語の基礎をしっかりおさえましょう。						
【教科書・参考書など】 『一歩ずつ楽しいドイツ語』 小川さくえ・片岡律子著 同学社 独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。						
【関連科目】 ドイツの言語と文化Ⅰ、ドイツの言語と文化Ⅱ						
【成績評価方法】 授業時の発表・課題提出25%、理解度確認のためのテスト結果を75%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。						

科目名	現代の倫理				担当者	宇多村俊介	
英文名	Ethics in Modern Life						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいしえの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：倫理的な問い 【 到達目標 】 倫理的な問いのもつ特質を理解するとともに、自分の現状での思想傾向を把握する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第9回 環境倫理：未来に対する責任 【 到達目標 】 現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第2回 「幸福」「善」とは何か 【 到達目標 】 倫理的な脈絡での「善・よい」を把握し、善の定義を試み、開かれた(未決の)間であることを理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第10回 情報化社会の倫理：情報時代と監視社会 【 到達目標 】 メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第3回 普遍化可能性1：社会契約 【 到達目標 】 道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第11回 生命倫理1：人間の尊厳 【 到達目標 】 生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第4回 普遍化可能性2：自由意志 【 到達目標 】 自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第12回 生命倫理2：生殖医療 【 到達目標 】 テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第5回 普遍化可能性3：功利の原理(1) 【 到達目標 】 現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第13回 科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任 【 到達目標 】 科学者の社会的責任論の類型の批判的吟味を通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第6回 功利の原理(2)：自由主義的な行為原則 【 到達目標 】 功利の原理が下敷きにする自由主義のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第14回 倫理的相対主義 【 到達目標 】 倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第7回 正義：自由と平等 【 到達目標 】 自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、その両立可能性について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第15回 規範なき時代とニヒリズム 【 到達目標 】 残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第8回 自然と文明：道具的理性 【 到達目標 】 自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>							
【学習上の留意点】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に7～8回、ミニレポートを書き、提出してもらいます。原理的に考えることを要しますが、具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには、知見を要する場合もあります。できるだけ歴史的・社会的背景の吸収・収集にも努めてください。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							

科目名	レクリエーションミュージック・合奏			担当者	今 角 夏 織	
英文名	Recreation music (Ensemble)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入 【 到達目標 】 基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。 【授業時間外学習】 楽譜の読み方を復習する。			第9回 ボディーパーカッション② 【 到達目標 】 グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。 【授業時間外学習】 第8回で扱った楽曲の復習をする。			
第2回 音楽の形式①/声のアンサンブル 【 到達目標 】 校歌の音楽の特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。 【授業時間外学習】 校歌のメロディーを確認する。			第10回 ボディーパーカッション③(発表)/楽譜の基礎知識② 【 到達目標 】 第9回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。 【授業時間外学習】 第9回で取り組んだ内容の復習をする。			
第3回 楽譜の基礎知識②/身近なものを使ったアンサンブル① 【 到達目標 】 プラスチックカップを用いていくつかの音色を出し、リズムを理解してアンサンブルを楽しむ。 【授業時間外学習】 楽曲の正しいリズムを習得する。			第11回 リコーダー運指②/トーンチャイム導入 【 到達目標 】 リコーダーのサミングを習得する。トーンチャイムの取り扱いを習得する。 【授業時間外学習】 これまでに学習したリコーダーの運指の復習をする。			
第4回 身近なものを使ったアンサンブル②/リコーダー導入 【 到達目標 】 前回学習したリズムを応用して、音楽に合わせて正しく演奏する。リコーダーの基本的な奏法を理解する。 【授業時間外学習】 リコーダーの取り扱いを習得する。			第12回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム① 【 到達目標 】 自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。 【授業時間外学習】 トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。			
第5回 身近なものを使ったアンサンブル③(発表)/リコーダー運指① 【 到達目標 】 グループに分かれ、アレンジを完成させる。初歩的なリコーダーの運指を理解する。 【授業時間外学習】 学習したリコーダーの運指を復習する。			第13回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー① 【 到達目標 】 トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。 【授業時間外学習】 リコーダーの奏法：タンギングの復習をする。			
第6回 音楽の形式②/楽器のアンサンブル：スペインのカスタ① 【 到達目標 】 各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。カスタネットの奏法を理解する。 【授業時間外学習】 打楽器の基本的な取り扱いを習得する。			第14回 楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー② 【 到達目標 】 トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。 【授業時間外学習】 担当するパートの復習をする。			
第7回 楽器のアンサンブル：スペインのカスタ②(発表) 【 到達目標 】 カスタネット、トライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。 【授業時間外学習】 第6回で扱った楽曲の復習をする。			第15回 リコーダー&トーンチャイム(発表) 【 到達目標 】 今までに学習したことを生かし、より音楽的に仕上げる。 【授業時間外学習】 第14回の授業内容を復習する。			
第8回 ボディーパーカッション①/リコーダー運指② 【 到達目標 】 身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。リコーダーで1オクターブの音域を使って演奏する。 【授業時間外学習】 リコーダーの運指を復習する。						
【学習上の留意点】 ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。 アンサンブルはひとりでも欠けると成立しないので、欠席しないことを条件に課す。						
【教科書・参考書など】 適宜楽譜を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。						

科目名	日常生活の法律			担当者	中村安菜	
英文名	Law in Everyday Life					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに關係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法をも身につけたい。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 私たちの日常生活に関わる様々なルールについて 【 到達目標 】 (1) 私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。 (2) 様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。 【授業時間外学習】 日本に存在している法律の数を調べる。			第9回 表現物と法律① 【 到達目標 】 (1) 知的財産の種類について理解する。 (2) 特許制度について理解する。 【授業時間外学習】 特許をとっている製品を調べる。			
第2回 アルバイトと法律① 【 到達目標 】 (1) 契約について理解する。 (2) 労働基準法の内容について理解する。 【授業時間外学習】 自分のアルバイトの契約内容について調べる。			第10回 表現物と法律② 【 到達目標 】 (1) 著作権法について理解する。 (2) 著作権法において規定されている諸権利について理解する。 【授業時間外学習】 著作権が問題となった事例を調べる。			
第3回 アルバイトと法律② 【 到達目標 】 (1) 労働に関連する法的問題について理解する。 (2) ブラックアルバイトについて理解する。 【授業時間外学習】 ブラックバイトの具体的な事例を調べる。			第11回 ペットの飼育と法律① 【 到達目標 】 (1) 法律におけるペットの定義について理解する。 (2) ペットに関する諸法律の存在について理解する。 【授業時間外学習】 遺棄される動物の数を調べる。			
第4回 恋愛関係と法律① 【 到達目標 】 (1) 恋愛関係による法的問題の存在を理解する。 (2) ストーカー規制法について理解する。 【授業時間外学習】 恋愛関係において発生する問題を調べる。			第12回 ペットの飼育と法律② 【 到達目標 】 (1) 動物愛護管理法の内容について理解する。 (2) 動物愛護管理法の改正と飼い主の責任について理解する。 【授業時間外学習】 動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。			
第5回 恋愛関係と法律② 【 到達目標 】 (1) DV防止法について理解する。 (2) リベンジポルノ防止法について理解する。 【授業時間外学習】 2つの法律に関連する具体的な事件を調べる。			第13回 犯罪の取り調べと裁判の進め方 【 到達目標 】 (1) 警察による取り調べに関する規定について理解する。 (2) 起訴から判決までの流れについて理解する。 【授業時間外学習】 日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。			
第6回 家族と法律① 【 到達目標 】 (1) 婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。 (2) 家庭生活及び婚姻の解消に関する法制度について理解する。 【授業時間外学習】 結婚するために必要な手続について調べる。			第14回 試験と法律 【 到達目標 】 (1) 偽計業務妨害罪について理解する。 (2) 私文書偽造罪について理解する。 【授業時間外学習】 不正行為を禁止される理由について考える。			
第7回 家族と法律② 【 到達目標 】 (1) 親子関係の発生及び親子間の権利義務に関する法制度について理解する。 (2) 養子に関する法制度について理解する。 【授業時間外学習】 親子関係不存確認訴訟（2014年7月17日）に関する新聞記事をコピーする。			第15回 日々の暮らしと法律 【 到達目標 】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。			
第8回 無戸籍問題 【 到達目標 】 (1) 無戸籍問題を理解する。 (2) 無戸籍であることによって生じる不利益について理解する。 【授業時間外学習】 無戸籍問題に関する新聞記事を調べる。						
【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。						
【教科書・参考書など】 開講時に指示する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	教養としての経済学			担当者	高橋 信勝	
英文名	Introductory Economics					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 目的：経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を習得し、併せて経済学的思考の涵養を図る。 ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 経済学への誘い（1） 【 到達目標 】 経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。 経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。 経済学の学問的特質を理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケネー）。			第9回 有効需要論（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳入）。			
第2回 経済学への誘い（2） 【 到達目標 】 希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。 経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（スミス）。			第10回 IS-LM分析（1） 【 到達目標 】 財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。 IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。 市場経済への公的介入についての理解を深める。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（歳出）。			
第3回 企業と経済 【 到達目標 】 企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。 企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。			第11回 IS-LM分析（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。			
第4回 GDPと三面等価の原則 【 到達目標 】 GNPとGDP、三面等価の原則、ストックとフロー、経済成長、景気循環について学ぶ。 国民経済の数量的把握について理解する。 【授業時間外学習】 経済学の偉人について調べる（ケインズ）。			第12回 国際収支と為替レート（1） 【 到達目標 】 国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。 変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。 世界経済と日本経済とのかかわりを理解する。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リカードウの比較生産費説）。			
第5回 中央銀行の機能と金融政策（1） 【 到達目標 】 貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。 中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。 金融政策の枠組みについて理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。			第13回 国際収支と為替レート（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。			
第6回 中央銀行の機能と金融政策（2） 【 到達目標 】 前回のつづき。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。			第14回 戦後の日本経済 【 到達目標 】 高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。 戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。 【授業時間外学習】 貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。			
第7回 インフレとデフレ 【 到達目標 】 インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。			第15回 授業の総復習と問題演習 【 到達目標 】 授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。 問題演習に取り組み、知識の定着を図る。 【授業時間外学習】 経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。			
第8回 有効需要論（1） 【 到達目標 】 有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。 経済のマクロ分析について理解する。 【授業時間外学習】 経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。						
【学習上の留意点】 経済学は体系的な学問なので、継続的な出席が望まれる。						
【教科書・参考書など】 教科書は指定しない。参考文献等は、適宜、紹介する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 小テスト（30%）と試験（70%）により、評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	数と論理				担当者	五月女 仁子	
英文名	Arithmetic and Logic						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎、いろいろな進法を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている流水算、旅人算、年齢算などの手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 計算の基礎1、整数の基礎 【 到達目標 】 (1) 四則算、計算の順序について復習する。 (2) 約数と倍数について学ぶ。 【授業時間外学習】 腕試し問題の復習。			第9回 比と割合 【 到達目標 】 (1) 比について復習する。 (2) 利益算について学ぶ。 (3) 濃度算について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				
第2回 計算の基礎2、平方根 【 到達目標 】 (1) 正負、小数点、分数の計算について復習する。 (2) 平方根の計算について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			第10回 速さ 【 到達目標 】 (1) 速さ、時間について復習する。 (2) 通貨算、流水座について学習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				
第3回 方程式 【 到達目標 】 (1) 1次方程式、連立方程式について復習する。 (2) 2次方程式について復習する。 (3) 不等式について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			第11回 特殊算 【 到達目標 】 (1) 鶴亀算について復習する。 (2) 集合算について理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				
第4回 関数1 【 到達目標 】 (1) 比例と反比例について学ぶ。 (2) 1次関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			第12回 場合の数と確率 【 到達目標 】 (1) 順列と組み合わせについて学ぶ。 (2) 確率について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				
第5回 関数2 【 到達目標 】 (1) 2次関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			第13回 図形の基本 【 到達目標 】 (1) 図形の性質について学ぶ。 (2) 図形の体積と表面積について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				
第6回 関数3 【 到達目標 】 (1) 平方完成について学ぶ。 (2) 関数の応用について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			第14回 合同と相似 【 到達目標 】 (1) 合同と相似について復習する。 (2) 平行線と三角形を使った合同と相似の問題について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				
第7回 数列 【 到達目標 】 (1) 等差数列、等比数列について理解する。 (2) 数列の応用問題について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			第15回 命題と推論 【 到達目標 】 (1) 命題とは何かを理解する。 (2) 命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				
第8回 規則性 【 到達目標 】 (1) n進法について理解する。 (2) 剰余算、植木算について理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。							
【学習上の留意点】 知識を固めるためには、実際に解いてみるのが一番です。講義時間に15分位問題を解く時間をとります。すぐに答え合わせをするので、間違えた人は必ず復習をしてください。							
【教科書・参考書など】 講義中に指示します。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 毎回行うミニ課題36%、期末試験64%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。ミニ課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。授業時間外の提出(翌週に出すことや、研究室に持ってくることは、いかなる理由であっても認めません。							

科目名	社会のしくみとキャリア形成				担当者	影山 陽子・杉村 鉄	
英文名	Social System and Basic Career Development						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 現代社会の特徴を理解し、各人が幸福に生きるためには社会とどのように関わっていくのか、自分のキャリアデザインにおける様々な可能性について考える。また、それらの可能性を実現可能なものとするために、社会人としての基本、社会の仕組みや会社の仕組み・形態を学び、実践体験を通してキャリアデザインについて考え、キャリア形成に関わる実践的スキルを学ぶ。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス・現代社会の特徴について 【 到達目標 】 授業受講のためのガイダンス（必要があれば選抜試験を行う）。現代社会の特徴について知る。 【授業時間外学習】 自分自身の受講目的を明確にする。				第9回 社会の動きとキャリア（2） 【 到達目標 】 社会背景を踏まえ、働く際に求められている資質・能力・考え方について学ぶ。 【授業時間外学習】 学生と社会人との価値観の違いや社会において大切な考え方について復習する。			
第2回 大学と社会、生涯学習について 【 到達目標 】 大学と社会とのつながり、生涯学習について考える。 【授業時間外学習】 「女性と仕事」で学んだ現代社会の特徴について復習とまとめをする。				第10回 社会の動きとキャリア（3） 【 到達目標 】 夢と現実を踏まえ、自分のキャリアを考える。 【授業時間外学習】 自らの希望とそれに向けての準備・努力の確認をする。			
第3回 幸福とキャリア（1） 【 到達目標 】 キャリアデザインにおける幸福について考え、幸福に生きるためのスキルについて知る。 【授業時間外学習】 「キャリアをデザインするとは？」主体的な自己について内省する。				第11回 雇用形態と働き方（1） 【 到達目標 】 仕事の種類と具体的な内容を学ぶ。 【授業時間外学習】 具体的な仕事や働き方について復習する。			
第4回 幸福とキャリア（2） 【 到達目標 】 選択に迷った時、挫折を経験した時の対処について考える。 【授業時間外学習】 「危機的状況に陥った時にどうするのか？」リスクについて考える。				第12回 雇用形態と働き方（2） 【 到達目標 】 大学で学んだ事をどう活かすか、またどう活かせるかについて、実際の仕事に照らし合わせ幅広い視野に立って考える。 【授業時間外学習】 体育大学で学んだことを活かす視点で自らの強みを考える。			
第5回 社会のしくみ・会社の仕組み（1） 【 到達目標 】 法律の変遷と雇用をめぐる変化を通して、働き方について考える。 【授業時間外学習】 自分の卒業後の進路・生き方・働き方について考える。				第13回 実践研究（1） 【 到達目標 】 学生と社会人の違いについて実践研究する。 【授業時間外学習】 新聞を活用し、授業で取り上げたテーマに照らし合わせて再読する。			
第6回 社会のしくみ・会社の仕組み（2） 【 到達目標 】 学歴と雇用（形態）について考える。 【授業時間外学習】 大学と専門学校の違いについて再考し、大学で学ぶ目的を確認する。				第14回 実践研究（2） 【 到達目標 】 企業・社会の価値観について実践研究する。 【授業時間外学習】 新聞を活用し、取り上げられている出来事の背景を考える。			
第7回 社会のしくみ・会社の仕組み（3） 【 到達目標 】 大学卒業後の生き方・働き方について、ケーススタディを通して考える。 【授業時間外学習】 これまでの自分の歩みをふり振り返り、現在の学生生活を考える。				第15回 体育大学で学んだことを社会で活かす 【 到達目標 】 体育大学で学んだことと企業が求める人材像、自分の描くキャリアデザインの接点や予測について考える。 【授業時間外学習】 授業全体を通して学んだことを復習し、自身を内省する。			
第8回 社会の動きとキャリア（1） 【 到達目標 】 社会の変化と雇用のあり方について学ぶ。 【授業時間外学習】 現代社会の実態について復習する。							
【学習上の留意点】 通常の授業の他に、学内外における 授業時間外の課外での実践体験活動（職場・会社などの観察・見学等、評価対象外課題）を実施する場合もある。（その場合、時期については社会や企業の動向を考慮し、最適なタイミングを選定する）							
【教科書・参考書など】 『就活準備』杉村鉄（文芸社） 現代社会の動き（主として経済活動）を知るために、新聞を補助教材として使用する。							
【関連科目】 女性と仕事							
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、提出レポート(50%)で評価する。							

科目名	現代文化論			担当者	田北康成	
英文名	Modern Culture					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 人々や情報の交流が世界的に進むなかで、多様な文化についての理解は進んでいるようでそうではない。また、「あたりまえ」と思っている自らの文化も、歴史が長いようでそうではない。どのように形成されてきたのかということも改めて知る必要がある。また、社会的な規範がそれらにたいする攻撃を行うこともありながら、一定の時間を経ると文化的な財産やレジェンドとして受け入れられていくこともある。本講義ではいろいろな事例から現代の「文化」について知り、多様な文化理解、交流を図り、形成に資することを目的に受講者の知識欲を喚起することをねらいにしている。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【到達目標】 「文化」の定義を知る。特にゆとりや遊びの精神がないと「文化」は成立しないことを知る。その上で、ある社会の「現代文化」を学ぶ上での政治・経済的背景を押さえることの重要性を理解する。 【授業時間外学習】 予習課題：「文化」という言葉の意味を調べておく。			第9回 中毒や依存症について考える 【到達目標】 中毒や依存症の現状を把握し、解決の困難さについて理解する。 【授業時間外学習】 予習課題：自ら熱中したこと、現在していることを答えられるようにしておく。			
第2回 文化の多様性を知る 【到達目標】 自分たちが暮らしている社会の文化と異なる文化を理解する。日本の文化の特殊性を考えていく。 【授業時間外学習】 予習課題：好きな肉料理を考えておく。ベジタリアンや宗教上の理由で食べない人はたんぱく源を答えられるようにしておく。			第10回 「自由」がもたらすものは何かを知る 【到達目標】 自由とは何か、その自由は本当の自由なのかということを知る。自由になったときにどのような判断や行動が生まれるかを知る。 【授業時間外学習】 予習課題：「自由」から考えることを答えられるようにしておく。			
第3回 健康増進文化を考える（1） 【到達目標】 「健康」や「美容」を過度なまでに強制する社会の抑圧性について歴史的視点から理解する。 【授業時間外学習】 予習課題：「ダイエット」について考えておく。			第11回 ペナルティーを考える（1） 【到達目標】 他人の行為で、何が許せないのかを考える。愚かな行為をする自由や権利はあるか。 【授業時間外学習】 予習課題：「バカッター」について調べておく。			
第4回 健康増進文化を考える（2） 【到達目標】 健康不安が煽られ、「病」がつけられている現状について医療社会学などの知見を得て理解する。 【授業時間外学習】 予習課題：サプリメントやトクホをどのくらい利用しているか、調べておく。			第12回 ペナルティーを考える（2） 【到達目標】 中世と近代以後の刑罰の違いを考える。「死刑」は誰のためで、何のために行われるのか、またそれは何をもたらすのかを考える。 【授業時間外学習】 予習課題：「死刑」について自分の考えを答えられるようにしておく。			
第5回 人間関係を考える 【到達目標】 「タテ社会の人間関係」を読み解く。人間関係による生きづらさは何かということを考える。 【授業時間外学習】 予習課題：先輩／後輩の関係について日頃感じていることなどを考えておく。			第13回 ポピュラーカルチャー／サブカルチャーを知る（1） 【到達目標】 マスメディアの発達の歴史とポピュラーカルチャー形成の流れを知る。マスメディア全盛期におけるサブカルチャーの流れを理解する。 【授業時間外学習】 予習課題：誰もが知っていると思われる「歌」を探しておく。			
第6回 差別と向き合う対抗的文化の可能性を考える 【到達目標】 被差別者の解放運動を再考し、アイデンティティ管理の新しい方向性と文化構築について理解する。 【授業時間外学習】 予習課題：さまざまな競技において、「ハンデ」はなぜ付けられるかを考えておく。			第14回 ポピュラーカルチャー／サブカルチャーを知る（2） 【到達目標】 ロングテール時代の文化の伝達を考える。サブカルチャーと「聖地」、産業化を考える。 【授業時間外学習】 予習課題：サブカルチャーの「聖地」を調べる。できれば行ってみる。			
第7回 暴力・憎悪・差別からの脱出を考える 【到達目標】 人には「他人が苦しむのを見て快感を感じる」部分があることを知り、それを前提に対処策を考える。 【授業時間外学習】 予習課題：「他人の不幸は蜜の味」という言葉の意味を調べておく。			第15回 全体のまとめと補論 【到達目標】 これまで14回かけて学んできたこと全体を復習をする。活動能力を高める人生の選択を考える。文化の価値にはユーモアと風刺と諧謔の精神も含まれていることを理解する。 【授業時間外学習】 予習課題：これまでにとったノートを整理し、分からないところを調べておく。			
第8回 「恥」の分析を糸口に「日本文化論」とされているものを読み解く 【到達目標】 「甘え」、「恥」の文化、世間体などの視点から日本人の行動原理とその問題点を理解する。ルース・ベネディクトの「菊と刀」を手がかりに日本の文化を知る。 【授業時間外学習】 予習課題：「義理チョコ」について考えることを答えられるようにしておく。						
【学習上の留意点】 社会学関連の用語については、1年次の「日常生活の社会学」で学んだことを前提とする。多少順番が入り替わることもある。						
【教科書・参考書など】 教科書は不使用。参考書は随時指示するので、事後学習に役立ててほしい。						
【関連科目】 日常生活の社会学						
【成績評価方法】 予習課題に連動した毎回のレスポンスシートと、授業を受けて発展的に学習したかどうか学期末のテストとの総合点で評価する。（試験は試験期間中に別途実施する）						

科目名	西洋音楽				担当者	森 立 子	
英文名	Western Music						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 「クラシック音楽」という言葉に包括される、グレゴリオ聖歌から現代音楽に至るヨーロッパを源とする音楽を、さまざまな楽器の仕組みと奏法、編成と演奏形態、楽曲の形式、作曲家の生涯、社会背景等、一般的な知識を得ることによって、より深い楽しみ方が出来るようになることを目指す。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 インTRODクシヨン 【 到達目標 】 西洋音楽史における時代区分について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第9回 20世紀（1） 【 到達目標 】 19世紀末から第一次世界大戦にかけて現れた音楽の諸潮流、およびこれを代表する作曲家について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第2回 中世・ルネサンス時代 【 到達目標 】 中世からルネサンスにかけての音楽を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第10回 20世紀（2） 【 到達目標 】 両大戦間に現れた音楽の諸潮流、およびこれを代表する作曲家について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第3回 バロック時代（1） 【 到達目標 】 バロック時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。対象はイタリア、およびフランス。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第11回 オペラ（1） 【 到達目標 】 オペラの歴史と作品を知る。対象はイタリア。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第4回 バロック時代（2） 【 到達目標 】 バロック時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。対象はドイツ。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第12回 オペラ（2） 【 到達目標 】 オペラの歴史と作品を知る。対象はドイツ、およびフランス。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第5回 古典派の時代 【 到達目標 】 古典派の時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第13回 鍵盤音楽 【 到達目標 】 鍵盤音楽の歴史と作品を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第6回 ロマン派の時代（1） 【 到達目標 】 ロマン派（特に前期ロマン派）の時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第14回 歌曲 【 到達目標 】 歌曲の歴史と作品を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第7回 ロマン派の時代（2） 【 到達目標 】 ロマン派（特に後期ロマン派）の時代の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。				第15回 管弦楽曲 【 到達目標 】 管弦楽曲の歴史と作品を知る。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。			
第8回 ロマン派の時代（3） 【 到達目標 】 ロマン派の時代に生まれた「国民楽派」の音楽、作曲家、および当時の社会的背景について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に指定した曲を聴いてくる。							
【学習上の留意点】 音楽という科目の性格上、CD・DVDなど視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席しないことが大前提となる。毎回、授業の終わりにコメントカードを書いてもらう予定。このコメントカードに書かれた内容も成績評価の対象とする。							
【教科書・参考書など】 授業の際に随時紹介する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 コメントカード30%、学期末レポート70%の割合で評価する。							

科目名	フランス語の世界				担当者	山下利枝	
英文名	World French						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の持つ豊かで魅力的な世界を味わってもらふ。そのため、フランス語の生まれてきた文化的背景を講義するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れ、フランス語を使う人々の日常的な表現世界を理解し共有することを目指す。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：挨拶（アルファベ、綴りと発音）、フランスとフランス文化 【 到達目標 】 (1)挨拶（アルファベ、綴りと発音）に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「サッカーは世界の共通語」を読む。				第9回 日常の表現：好き、嫌い、意思、願望 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。好悪や意志や願望についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「エコ・ライフには自転車」を読む。			
第2回 フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力 【 到達目標 】 (1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力に気づく。 【授業時間外学習】 プリント「ロワール河の北と南」を読む。				第10回 日常の表現：非人称構文、天候、時間、義務 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。天候や時間や義務についての表現を学び、日本語と違う非人称の表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「文化を生み出すカフェ」を読む。			
第3回 日常の表現：挨拶（アルファベ、綴りと発音の関係の復習） 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。コミュニケーションの基礎としての挨拶を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「個性競うセーヌの橋」を読む。				第11回 まとめと復習② 【 到達目標 】 (1)7～10回のまとめと復習を実施する。 【授業時間外学習】 プリント「海洋環境復元にむけて（モン・サン・ミシェル）」を読む。			
第4回 日常の表現：自分のことを言う 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。自分を説明できる。 【授業時間外学習】 プリント「魅力あふれる小国モナコ」を読む。				第12回 日常の表現：過去形、未来形の基本 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。過去・未来について表現の規則を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「ツール・ド・フランスの勝者」を読む。			
第5回 日常の表現：相手・第三者のことを言う 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。相手・他人について説明できる。 【授業時間外学習】 プリント「カンヌ映画祭開幕」を読む。				第13回 フランスの映画鑑賞 【 到達目標 】 (1)映画鑑賞を通して、フランス語の世界を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 プリント「7月14日は革命記念日」を読む。			
第6回 まとめと復習① 【 到達目標 】 (1)4・5回のまとめと復習を実施する。 【授業時間外学習】 プリント「日仏マンガ交流」を読む。				第14回 フランス語の世界を理解するための注目点 【 到達目標 】 (1)フランス語の世界を理解するために、特に注目すべき点を把握する。 【授業時間外学習】 プリント「ミシュランの三ツ星」を読む。			
第7回 日常の表現：数、時間、お金 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての数、時間、お金についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「ストライキ大国フランス」を読む。				第15回 総復習 【 到達目標 】 (1)総復習をして、フランス語の世界への理解を深める。 【授業時間外学習】 プリント「空飛ぶ作家サン＝テグジュペリ」を読む。			
第8回 日常の表現：位置、方向（道を教える・聞く） 【 到達目標 】 (1)日常の表現世界の理解。フランス語の世界の基礎としての位置方向についての表現を理解する。 【授業時間外学習】 プリント「フランスワインの内憂外患」を読む。							
【学習上の留意点】 予習は必要ありません。しっかり復習し、日常的にフランス語に触れること（映画・歌等）。							
【教科書・参考書など】 「だいじょうぶ！フランス語」（太田浩一・明石伸子著）（白水社）							
【関連科目】							
【成績評価方法】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。（試験は試験期間中に別途実施する。）							

科目名	中国語の世界			担当者	道上峰史	
英文名	World Chinese					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語独特の発音や簡体字に慣れてもらうため、受講生には発音、発声の練習や、基礎的な作文を課します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション：中国語について 【 到達目標 】 (1) 言語としての中国語の特性を理解する。 【授業時間外学習】 身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。			第9回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			
第2回 発音の基礎：発音記号と四声 【 到達目標 】 (1) 言語としての中国語の音声（発音・リズム）を習得する。 【授業時間外学習】 授業で習った発音を、繰り返し発声する。			第10回 基礎構文(Ⅳ)：過去形 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 過去形がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			
第3回 文字について：中国の簡体字と日本の漢字 【 到達目標 】 (1) 中国の簡体字と日本の漢字の違いについて理解する。 【授業時間外学習】 実際に簡体字を自分で書いてみる。			第11回 基礎構文(Ⅳ)：過去形の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 過去形がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			
第4回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			第12回 作文：自己紹介 【 到達目標 】 (1) 自分について紹介する文章を作る。 【授業時間外学習】 自分で作成した中国語の文章を、更に推敲して完成させる。			
第5回 基礎構文(Ⅰ)：是の構文の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			第13回 作文：日常の表現 【 到達目標 】 (1) 日常表現をするための語彙を増やす。 【授業時間外学習】 普段、目に付いたものを中国語で表現する練習をする。			
第6回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			第14回 中国の文化(Ⅰ)：中国文化と中国語Ⅰ 【 到達目標 】 (1) 中国語の成り立ちと中国文化を理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。 【授業時間外学習】 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。			
第7回 基礎構文(Ⅱ)：目的語がある構文の応用 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。			第15回 中国の文化(Ⅱ)：中国文化と中国語Ⅱ 【 到達目標 】 (1) 中国文化の中で成長した中国語について理解する。 (2) 中国語の語彙を増やす。 【授業時間外学習】 授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。			
第8回 基礎構文(Ⅲ)：形容詞がある構文 【 到達目標 】 (1) 中国語の基礎的文章構造を理解する。 (2) 形容詞がある構文を習得する。 【授業時間外学習】 授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。						
【学習上の留意点】 復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。						
【教科書・参考書など】 『《最新2訂版》中国語はじめの一步』竹島金吾監修/尹景春、竹島毅著(白水社)を元にして、講義用のプリントを配布します。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業時の課題が30%、学期末の筆記試験（試験は試験期間中に別途実施）が70%となります。						

科目名	ハングルの世界				担当者	李 貞 叵	
英文名	World Hangeul						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 韓国についての情報や文化が、ようやく詳細に日本にも紹介されてきている。韓国の文字であるハングルに触れ、その理解を通じて、身近な国の韓国について関心度や理解度をさらに高めていきたい。正確な生活や文化の理解には、その国の言葉の理解が不可欠である。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、表現を理解することによって、韓国の人々の日常生活や文化を正確に理解し、コミュニケーション能力を高めていくことを目標とする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：ハングルとはどういう言語か 【 到達目標 】 (1) 言語としての韓国語の特性を理解する。 (2) 文字としてのハングルの成立の文化的背景を理解する。 (3) ハングル文字の仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングル文字の特性や仕組みについて学習する。				第9回 日常生活の表現：疑問表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。 【授業時間外学習】 質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。			
第2回 ハングルの発音：基本母音字 【 到達目標 】 (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 基本母音を習得する。 【授業時間外学習】 ハングル文字の仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。				第10回 日常生活の表現：否定表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。			
第3回 ハングルの発音：子音字（1） 【 到達目標 】 (1) 文字としてのハングルの発音・リズムを理解する。 (2) 子音（平音・激音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。				第11回 日常生活の表現：用言の表現（1） 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その1：ハムニダ体）を学習する。			
第4回 ハングルの発音：子音字（2） 【 到達目標 】 (1) ハングルの子音（濃音）を習得する。 【授業時間外学習】 基本母音と子音の組み合わせ及びその発音を学習する。				第12回 日常生活の表現：用言の表現（2） 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の基礎的用言の表現を理解する。 【授業時間外学習】 動詞・形容詞などの丁寧形（その2：ヘヨ体）を学習する。			
第5回 ハングルの発音：合成母音字 【 到達目標 】 (1) 合成母音を習得する。 【授業時間外学習】 子音と合成母音の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。				第13回 日常生活の表現と韓国文化：過去形 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。 【授業時間外学習】 用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。			
第6回 ハングルの発音：パッチム、換抄 【 到達目標 】 (1) 文字としてのパッチムを習得する。 【授業時間外学習】 パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な換抄を学習する。				第14回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（1） 【 到達目標 】 (1) 韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。			
第7回 日本語のハングルの表記 【 到達目標 】 (1) 日本語のハングル表記を習得する。 (2) 辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。 【授業時間外学習】 日本語のハングル表記を学習し、自分の氏名をハングルで書く、辞書を引く、等を学習する。				第15回 日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（2） 【 到達目標 】 (1) 韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。 【授業時間外学習】 固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。			
第8回 日常生活の表現：肯定表現 【 到達目標 】 (1) 日常の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。 【授業時間外学習】 「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や換抄の表現を学習する。							
【学習上の留意点】 予習・復習を継続し、日常的にハングルに触れること（ドラマ・映画・歌等）。							
【教科書・参考書など】 「教科書名」：「楽しく学べる韓国語」（李美賢・李貞叵）著（白水社）							
【関連科目】							
【成績評価方法】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	知の哲学				担当者	宇多村俊介	
英文名	Philosophy of Knowledge						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を理論的に解説する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解釈するための基礎作業をなして、大学生として最低限、身につけておくべき論理的な思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ 【 到達目標 】 哲学的な問いのもつ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の<検討課題>に取り組む。				第9回 感情：感情と認識 【 到達目標 】 感情の三つの様態を弁別し、それぞれの認識能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を反省的に顧みることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第2回 知の成立条件と定義：必要条件と充分条件 【 到達目標 】 知の古典的な定義を通して、定義の構成と充たすべき要件を理解し、みずからの問題と定義のかたちで明晰に述べることを試みる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第10回 思考と行為：プラグマティックな意味基準 【 到達目標 】 プラグマティックな意味基準を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第3回 意味と明晰さ1：曖昧と漠然 【 到達目標 】 定義の種類と、目的に応じたタイプを理解し、適切な分析的定義の満たすべき要件に照らして任意の定義の適切さを批判的に吟味することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第11回 コミュニケーションの哲学：社会的自我 【 到達目標 】 コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第4回 意味と明晰さ2：分類 【 到達目標 】 用語の意味を明晰にするもう一つの方法として分類を把握し、適切な分類の満たすべき論理的要件と経験的要件とに照らして、事態の分析に適用することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第12回 現代の知の諸相1：情報化時代の知 【 到達目標 】 現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と限界について考えることができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第5回 立論の批判的評価の諸段階1：推論の2類型 【 到達目標 】 立論(論証)の構造と、そこに含まれる推論の2つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第13回 現代の知の諸相2：科学的接近法 【 到達目標 】 問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第6回 立論の批判的評価の諸段階2：問と論駁 【 到達目標 】 対話的な枠組みのなかで立論の目的を理解し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別することができる。立論の目的に照らして、論理的思考の裏面をなす欺瞞的な思考の一形式を分析することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第14回 現代の知の諸相3：俗悪なもの形而上学 【 到達目標 】 形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第7回 立論の批判的評価の諸段階3：歪んだ思考 【 到達目標 】 欺瞞的な立論(虚偽)の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>				第15回 知の主体的責任と知的誠実性 【 到達目標 】 授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>			
第8回 知覚経験と認識：現象と実在 【 到達目標 】 知の四つの源泉を把握し、認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を理解して、その限界と問題点を考察することができる。 【授業時間外学習】 授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>							
【学習上の留意点】 暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に5～6回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。予備知識は要りませんが、集中して理解し、実地に適用する心構えでいて下さい。							
【教科書・参考書など】 教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 授業内の課題ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。							

科目名	美の理論					担当者	井 奥 陽 子
英 文 名	Aesthetics						
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 この授業では、美学 (Aesthetics) の基本理論をテーマ別に学びます。それによって、美や芸術という曖昧なものを理論的に (他人に説明できるかたちで) 考えてみるのが、授業の目的です。授業をとおして、たとえばオリジナリティといった考え方が、実はそれほど普遍的なものではないことを知るでしょう。そうした学びによって、自分のこれまでの美や芸術に対する感じ方を相対化できるようになることが、授業の狙いです。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション：美学と「芸術」の誕生 【 到達目標 】 ・美学と近隣分野との相違を理解し、授業の見通しを把握する。 ・美学と芸術の成立史について知る。 【授業時間外学習】 美学の概説書を読む。				第9回 美を創る (1)：模倣と独創 【 到達目標 】 ・芸術作品の独創性を重視する考えについて、その歴史的展開を理解する。 ・模倣理論と独創理論の特徴を考察する。 【授業時間外学習】 模倣に関する参考図書を読み、模倣もまた創造的であることを理解する。			
第2回 美しい対象 (1)：比例と均整の美 【 到達目標 】 ・美の基準とされる様々な形式について理解する。 【授業時間外学習】 古代～ルネサンス期の作品を調べ、そこにある比例を確認する。				第10回 美を創る (2)：作品と作者 【 到達目標 】 ・作品と作者の関係について、その考え方の歴史的展開を理解する。 ・作者の役割について、上演芸術や参加型作品などの在り方に関連付けて考察する。 【授業時間外学習】 任意の上演芸術を例に、作品と作者の関係を考えてみる。			
第3回 美しい対象 (2)：不安定性の美 【 到達目標 】 ・第2回とは逆の視点による、美の捉え方について理解する。 【授業時間外学習】 マニエリスムやバロックの作品を調べ、不安定性を生み出す要素を考える。				第11回 美を創る (3)：芸術ジャンルの比較 【 到達目標 】 ・芸術ジャンルを比較する様々な観点とその問題を理解する。 【授業時間外学習】 ジャンルの固有性を強調ないし否定する作品を調べ、その特徴について考える。			
第4回 美しい対象 (3)：自然の美 【 到達目標 】 ・風景や人間などがもつ美の特徴を、第1～2回の内容も応用しつつ考察する。 【授業時間外学習】 美しい身体や顔とされる事例を調べ、その多様性を確認し、平均と個性の問題を考える。				第12回 美を創る (4)：日用品と芸術作品 【 到達目標 】 ・工芸運動や機能美の考え方について理解する。 【授業時間外学習】 民芸運動やバウハウスについて調べ、美と機能の調和について理解を深める。			
第5回 美を感じる (1)：美の主観性と客観性 【 到達目標 】 ・美を感じる人の心にあるのか、対象にあるのか。美を純粋に感じるとはどういうことか。こうした問いについて、美学者の理論を援用して考察する。 【授業時間外学習】 上記の問いについて、美に触れたときに思索を实践する。				第13回 批判的問い (1)：芸術と非芸術の境界 【 到達目標 】 ・ある物を芸術作品とする基準は何か。第12回までの議論も踏まえつつ、美術館制度に関する問題や、芸術の定義論などを切り口に考察する。 【授業時間外学習】 子どもや動物による作品を調べ、それを芸術と呼ぶ根拠について考える。			
第6回 美を感じる (2)：様々な美的性質 【 到達目標 】 ・崇高や優美といった美的性質について、各々の特徴と、非美的性質との相違を理解する。 【授業時間外学習】 ロマン主義の作品を調べ、美と崇高の相違について理解を深める。				第14回 批判的問い (2)：芸術と政治・宗教 【 到達目標 】 ・芸術が政治・宗教において利用・排除された事例から、美や芸術のもつ特徴を考察する。 【授業時間外学習】 寺社仏閣や教会を訪れ、美と宗教の対立ないし融和関係について理解を深める。			
第7回 美を感じる (3)：虚構の世界 【 到達目標 】 ・芸術作品をひとつの別世界として捉える理論を知る。 ・その観点から、芸術体験がもつ特徴を理解する。 【授業時間外学習】 悲劇的な作品を受容し、自身の感情を観察することで、虚構の特徴を確認する。				第15回 総括：美と芸術をめぐる言説 【 到達目標 】 ・授業の内容を俯瞰的に整理することで、自分なりの問題意識を発見する。 【授業時間外学習】 関連する書籍や作品を自分で探し、レポートを作成する。			
第8回 美を感じる (4)：美と自由 【 到達目標 】 ・美における自由についての理論を理解し、美の特徴と問題を考察する。 【授業時間外学習】 美と倫理が対立する言説を調べ、自分なりの見解を考える。							
【学習上の留意点】 美や芸術の理論に、絶対的な正解はありません。各自が主体的に考えることを期待します。授業内容は抽象的な議論が中心になりますが、具体例として種々の作品 (おもに造形芸術) を提示します。参加者の反応に応じて、授業の進め方を調整する可能性があります。							
【教科書・参考書など】 教科書なし。資料は授業中に提示・配布します。 参考書：『美学辞典』佐々木健一・著 (東京大学出版会) その他の参考図書は随時紹介します。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 毎回のリアクションペーパー30%、学期末の課題レポート70%							

科目名	ジェンダー論			担当者	藤山新	
英文名	Gender Issues					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、自分自身に関係のあることとして認識し、理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせ、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション 【 到達目標 】 (1)セックスおよびジェンダーの概念とその変遷を理解する。 (2)ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。 (3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。 【授業時間外学習】 あらかじめ、自らがどのような事柄を「男らしい」「女らしい」と感じるのか、また、なぜそう感じるのかを考察し、授業に臨む。			第9回 近代スポーツとジェンダー 【 到達目標 】 (1)「近代スポーツ」の概念を理解する。 (2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。 (3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの概要を把握する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、「ブライTON宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。			
第2回 フェミニズムの歴史 【 到達目標 】 (1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。 (2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、特に現代のフェミニズムのありかたとその特徴について復習し、理解を定着させる。			第10回 学校体育とジェンダー 【 到達目標 】 (1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。 (2)教員の男女比の偏りや、運動部の加入状況など、学校体育におけるジェンダー問題を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、これまでの自身の体験から、体育の授業においてどのような「隠れたカリキュラム」があり、それがあなたにどのような影響を与えたか検討する。			
第3回 男女共同参画社会ってなんですか 【 到達目標 】 (1)男女共同参画社会推進法の理念を理解する。 (2)男女共同参画社会を推進するための具体的な取り組みを知る。 (3)男女共同参画センターの今日的な意義について知る。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、男女共同参画センターに実際に足を運び、どのような事業が行われているか、どのような人が利用しているのかを観察する。			第11回 セクシュアル・マイノリティと学校・スポーツ 【 到達目標 】 (1)多様性を保障する学校体育のあり方について検討する。 (2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識や心構えを理解する。 【授業時間外学習】 第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、ジェンダー論の視点から、体育の教員やスポーツの指導者として注意しなければならないことを理解する。			
第4回 セクシュアル・マイノリティの基礎知識 【 到達目標 】 (1)人間の「性」の多様性について理解する。 (2)「性別二元論」および「異性愛主義」の概念を理解する。 (3)「マジョリティ=正常」「マイノリティ=異常」ではないことを理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、テレビや雑誌などのマス・メディアでセクシュアル・マイノリティがどのように扱われているかを調べる。			第12回 スポーツと身体 【 到達目標 】 (1)身体的性差とスポーツとの関係を理解する。 (2)性別確認検査の経緯と性別二元論の限界について知る。 (3)セクシュアル・マイノリティ当事者のスポーツ参加に伴う課題を知る。 【授業時間外学習】 授業内容を参考に、近代スポーツにおいて、記録や競技成績に男女差をもたらしている要因を考察する。			
第5回 「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方 【 到達目標 】 (1)「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」の概念を理解する。 (2)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。 (3)性感染症の実態について知る。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、厚生労働省のWebサイトに掲載されている性感染症に関する情報を閲覧し、正確な知識と情報を定着させる。			第13回 メディアとスポーツとジェンダーと 【 到達目標 】 (1)メディアにおけるジェンダー格差について理解する。 (2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、メディアにおいて女性アスリートがどのように描かれることが望ましいのか、検討する。			
第6回 実は身近なデートDV 【 到達目標 】 (1)デートDVの構造と実態を理解する。 (2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。 (3)「ピア・サポート」の意味と重要性を理解する。 【授業時間外学習】 授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。			第14回 スポーツと人権 【 到達目標 】 (1)スポーツ界におけるセクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。 (2)スポーツ界でのハラスメントを防ぐために必要な取組について検討する。 【授業時間外学習】 授業内容のうち、スポーツ場面におけるセクシュアル・ハラスメントの特徴について復習し、理解を定着させる。			
第7回 スポーツ・ジェンダー学という世界 【 到達目標 】 (1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。 (2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえた時に見えてくる課題について知る。 (3)スポーツ界における女性のリーダーシップの現状について知る。 【授業時間外学習】 あらかじめ、『スポーツ・ジェンダー学への招待』の中から任意の1章を選び、自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。			第15回 日常生活世界に見るジェンダー 【 到達目標 】 (1)家族、就業、政治などの場面で現れるジェンダー・バイアスについて理解する。 (2)育児休業の取得率の男女差や育児後の女性の復職率などの実態を知る。 【授業時間外学習】 授業内で指示する男女共同参画白書平成29年版 (Web版) の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。			
第8回 女子ボクシングの昨日・今日・明日 【 到達目標 】 (1)女子ボクシングの現状を知る。 (2)ボクサーとして必要なスキルに男女で差がないことを理解する。 (3)メディアにおける女子ボクサーの描かれ方の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。						
【学習上の留意点】 毎時間配布するハンドアウトは、講義を聞いたうえで必要な事項を書き込むことで、資料として完成するように作成しています。ただし、授業内容を理解するためには、単なる穴埋めにとどまらず、そのほかの部分についても積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問しにくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。						
【教科書・参考書など】 教科書 特 に指定しない。 参考書は、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著 (2016) 八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子著・伊田久美子著・熊安貴美江著 (2013) ミネルヴァ書房、『スポーツ・ジェンダー学への招待』飯田貴子著・井谷恵子著 (2004) 明石書店						
【関連科目】 女性と仕事、女性のライフステージと運動、スポーツ社会学、スポーツ心理学						
【成績評価方法】 随時実施する小テスト・小レポート30%、期末試験70%で評価する。 ※試験は試験期間中に別途実施						

科目名	データ分析と統計学				担当者	五月女 仁子	
英文名	Data Analysis and Statistics						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学の基本的な考え方や統計手法を、実際のデータを通して学び分析する能力を身につけます。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 度数分布表とヒストグラム 【 到達目標 】 (1) データの特徴にはばらつきも考えられる。ばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第9回 その他の分布 【 到達目標 】 (1) 正規分布以外の分布を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第2回 代表値とは 【 到達目標 】 (1) データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第10回 平均の推定と区間推定 【 到達目標 】 (1) データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2) サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第3回 データのばらつきを数値に表すには 【 到達目標 】 (1) ばらつきの度合いを数値として表すものには何があるかを学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第11回 分散の推定と区間推定 【 到達目標 】 (1) データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。 (2) サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第4回 散布図と相関、相関係数 【 到達目標 】 (1) 散布図を作成し、パターンを理解する。 (2) 相関係数の求め方を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第12回 t検定 【 到達目標 】 (1) 実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第5回 回帰直線 【 到達目標 】 (1) 回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第13回 カイ二乗検定 【 到達目標 】 (1) 仮説検定の考え方を理解する。 (2) カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第6回 アンケート作成 【 到達目標 】 (1) アンケート作成の基本を学ぶ。 【授業時間外学習】 アンケート項目を考えアンケートを作成する。				第14回 分散分析 【 到達目標 】 (1) 実際の例をとらえながら、分散分析を理解する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。			
第7回 確率について 【 到達目標 】 (1) 確率の意味を復習する。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。				第15回 実践課題 【 到達目標 】 (1) 実際のデータを使って分析を行います。 【授業時間外学習】 分析方法と表やグラフについて復習する。			
第8回 正規分布とその他の分布 【 到達目標 】 (1) どのような分布があるかを学ぶ。 (2) 一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。 (3) 標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 返却された課題の復習をする。							
【学習上の留意点】 講義は、できるだけ実際の例を示しながら解説し、教学の苦手な学生も理解ができるように工夫します。 また、講義で行った知識を固めるために、講義の後半10分から15分はOUTPUTする時間をとります。間違えた学生は復習を心掛けてください。							
【教科書・参考書など】 講義中に指示します。							
【関連科目】 数と論理、コンピュータ実践演習、情報処理（情報機器の操作を含む）							
【成績評価方法】 ミニ課題（講義中に出すもの）36%、期末試験（試験は試験期間中に別途実施）64%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。							

科目名	教養総合科目				担当者	鈴木 信夫・牧 琢弥	
英文名	General Educational Studies						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 体育・スポーツの主要分野の中には、生理学や栄養学、バイオメカニクス等の自然科学系の科目が含まれ、それらの科目を充分理解するためにも、自然科学に関する基礎知識をもつことは重要である。本講義を履修し、自然科学に位置づけられる、各学問分野の代表的なトピックスの概要を学ぶことにより、自然科学という学問を総合的に把握し、理解することを目的とする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 自然科学が文明の発展にもなつて発達してきた概要を理解する。また、近代の化学者が、目に見えない原子の構造を解明していった手法を知り、実験や仮説から真実を導き出す、自然科学という学問に必要な「科学的手法」について理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。				第9回 天文学(1) 【 到達目標 】 古代の人々の地球観・宇宙観を理解し、それらがどのように私たちが知る地球観・宇宙観に発展していったかを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで古代ローマ時代の地球観・宇宙観について調べること。			
第2回 地球科学(1) 【 到達目標 】 地球がどのようにして誕生したか、さらにプレートテクトニクスについて理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第10回 天文学(2) 【 到達目標 】 宇宙の誕生について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第3回 地球科学(2) 【 到達目標 】 火山噴火や地震発生メカニズムについて理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第11回 天文学(3) 【 到達目標 】 恒星の一生について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第4回 地球科学(3) 【 到達目標 】 大気・海流の特徴や、地球に刻まれた変動の歴史について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第12回 物理学(1) 【 到達目標 】 古典力学における運動の法則、光の性質、運動の相対性について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第5回 生物学(1) 【 到達目標 】 生命誕生のシナリオと生命の基本単位である細胞の完成について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第13回 物理学(2) 【 到達目標 】 原子核とエネルギーについて理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第6回 生物学(2) 【 到達目標 】 進化論について、ラマルク以前の考え方、ラマルク、ダーウィンやウォーレスの進化論、中立説等について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第14回 物理学(3) 【 到達目標 】 物質を構成する最小の単位、素粒子について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第7回 生物学(3) 【 到達目標 】 生物の形態や生態を比較することで、それらの生物の系統を推定したり、DNAの塩基配列から進化を推定する方法を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。				第15回 物理学(4) および理解度の確認 【 到達目標 】 アインシュタインの特殊相対性理論を理解する。 第9回～第15回までの理解度の確認をおこなう。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。			
第8回 生物学(4) および理解度の確認 【 到達目標 】 現在の地球において、生物多様性を維持することがなぜ、必要なかを理解する。 第1回～第8回までの理解度の確認をおこなう。 【授業時間外学習】 配付資料の該当部分を事前に読んでおくこと。							
【学習上の留意点】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。第1回目は鈴木・牧が、第2回～8回目は鈴木が、第9回～15回目は牧が担当する。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に使用せず、毎回プリントを配布する。							
【関連科目】 人間生活と地球環境							
【成績評価方法】 第8回および第15回で実施する理解度確認テストの成績を総合して評価する。							

科目名	英語E P P				担当者	加賀岳彦	
英文名	English for Professional Purposes						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 この授業では、これまで学んできた「学習英語」をベースに、さらに実社会(政治・経済等)、職場、ビジネス等を想定した「社会人になるための英語」を学ぶ。ねらいは次の3点である。1)学習英語とは異なる意味で使われる社会人向けの重要語彙を学ぶ、2)実社会(及び国際社会)で「常識」となっている表現等を学び、関連する実用英文を正確に理解できるようになる、3)大人の学習者すなわち「自立的学習者」になるべく、辞書や参考書、その他必要な手段を利用して「自力で」学んでいけるようになる。受講生には毎回入念に準備した上で授業に臨んでもらう。なお、この授業は資格試験対策の講座ではないので、対策のための指導は行わない。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業説明・学習のポイント 【 到達目標 】 ・この授業の目的とねらいを理解し、どのように学習していくかを把握する。 ・「学習英語」と「社会人になるための英語」はどう違うか、またそれはとはどのようなものかを理解し、その予行演習を行う。 【授業時間外学習】 授業内容を振り返り、今後自分に必要な学習の内容と方向性を意識すること。予習すること。				第9回 Dealing with Problems and Complaints 【 到達目標 】 実社会では様々な「問題・苦情・クレーム」が発生する。この回はそれら関連する必須基本語彙・表現をまず習得し、それに関する英文解説記事を理解する。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
第2回 From College to Career 【 到達目標 】 学生から社会人にステップ・アップする過程では様々な「自己検証」を経験する。それらに關係する様々な英語表現に触れ、身に付ける。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第10回 Effectiveness, Efficiency & Productivity 【 到達目標 】 実社会ではどの場でも「効率性・生産性」が追求される。それに関する必須基本語彙・表現をまず習得し、それに関する実用英文を理解する。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
第3回 Application 【 到達目標 】 「応募・出願」に関する必須語彙・表現を習得し、それに関する実用英文を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第11回 Economy Matters 【 到達目標 】 「経済」に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、経済問題に関する英文解説記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
第4回 Interview ① 【 到達目標 】 実社会では様々な形のInterview(面接)が行われ、そのために様々な準備が必要となる。それらに密接に關係する英語表現を学び、身に付ける。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第12回 Social Welfare 【 到達目標 】 「社会福祉・福利厚生」を巡る必須基本語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。			
第5回 Interview ② 【 到達目標 】 Interviewの最中における質問・対応、またその結果を受けてからの対応などに関連した英語表現を学び、身に付ける。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第13回 Rating & Research 【 到達目標 】 「評価・調査」を巡る必須基本語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。			
第6回 The Work Must Go On 【 到達目標 】 職は継続しなければならず、そのためには「コミュニケーションのあり方」が重要になる。この回はそれに関連する英語表現・英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第14回 Review 1 【 到達目標 】 これまでの学習内容を復習し、小テストでその習得度・定着度を測り、重要語彙等をもう一度確認する。この回は、口頭でのチェックを行う。 【授業時間外学習】 これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。			
第7回 Policy, Rules, and Strategies 【 到達目標 】 団体や職場における「やり方」(ポリシー、規則、戦略)を巡る必須語彙・表現を習得し、それに関する英文記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。				第15回 Review 2 【 到達目標 】 今学期の習得内容を総チェックし、各自の今後の課題と努力点を明らかにする。この回は、筆記による復習・確認作業を行う。 【授業時間外学習】 これまでの学習内容・重要事項をよく復習して授業に臨むこと。			
第8回 Changes, Transfer & Innovation 【 到達目標 】 さまざまな「変更・移転・異動」等に関する必須基本語彙・表現をまず習得し、それらに関する実用英文および英文解説記事を正確に理解できるようになる。 【授業時間外学習】 学習内容・重要事項をよく復習し、課題に取り組むこと。							
【学習上の留意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・丹念な予習を確実にすること。「自立的学習力」の養成も大事な目標とする。 ・毎回の小テストにしっかりと取り組み、常に語彙力・表現力の向上に努めること。 ・授業には「(電子)辞書」の持参を義務づける。携帯電話・スマートフォンの使用は固く禁じる。 							
【教科書・参考書など】 テキスト・参考書・辞書等は随時授業内で指示する。もしくはハンドアウトを配布する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 授業での課題(宿題、小テスト、授業での応答等)50%、テスト50%で評価する。							

科目名	コンピュータ実践演習				担当者	五月女仁子	
英文名	Lecture and Practice in Information and Communication Technology						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、データ分析やデータベース操作を身に付けます。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 情報技術について 【 到達目標 】 (1) 情報技術とは何かを理解する。 (2) 電子商取引の例を見ながら理解を深める。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第9回 データベースについて 【 到達目標 】 (1) データベースとは何かについて学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第2回 レポート作成と論文作成の基礎 【 到達目標 】 (1) レポート作成に必要なWordの技術を学ぶ。 (2) 長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第10回 データベースの基本操作 【 到達目標 】 (1) フィルタについて学ぶ。 (2) ピボットの操作について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第3回 プレゼンテーション資料の作成 【 到達目標 】 (1) プレゼンテーションについての技法を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第11回 Excelの画面操作と印刷について 【 到達目標 】 (1) 画面操作について学ぶ。 (2) 印刷の方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第4回 クラウドについて 【 到達目標 】 (1) GoogleDriveやOneDriveについて学ぶ。 【授業時間外学習】 アンケート項目を考える。				第12回 グラフの作成 【 到達目標 】 (1) 基本的なグラフについて学ぶ。 (2) 複合グラフについて学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第5回 グループにおけるコミュニケーション実践1 【 到達目標 】 (1) GoogleDriveを利用したアンケートの作成方法、集計技術を理解する。 【授業時間外学習】 アンケートフォームからアンケートを体験する。				第13回 Excelの総復習 【 到達目標 】 (1) 第7回から第12回まで学習した内容を総合的に学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第6回 インターネットの仕組みと現状、情報倫理について 【 到達目標 】 (1) インターネットの仕組みを理解する。 (2) インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。 (3) 情報についてのマナー、セキュリティ、プライバシー、知的財産権について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第14回 Excelを利用したデータ分析の基礎 【 到達目標 】 (1) Excelの分析ツールを利用して、基本的統計量やヒストグラムの作成を学ぶ。 (2) Excelの分析ツールを利用して、回帰分析を学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第7回 Excelの初級 【 到達目標 】 (1) Excelの基本操作と基礎的関数について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。				第15回 Excelを利用したデータ分析の応用 【 到達目標 】 (1) 実際のデータを使いながら、第9回と第10回で学んだデータ分析方法を使い、どのようなことがいえるのかを理解する。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。			
第8回 Excelの上級 【 到達目標 】 (1) Excelの応用関数(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。 (2) シートの操作について学ぶ。 【授業時間外学習】 本日の授業内容について復習をする。							
【学習上の留意点】 1年生前期に行った情報処理の知識を基礎として、応用的な内容を学習します。講義時間の後半10分から15分は実際に皆さんが課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。							
【教科書・参考書など】 資料を配付します。							
【関連科目】 情報処理（情報機器の操作を含む）							
【成績評価方法】 毎回行われるミニ課題（講義中に出すもの）30%、グループ課題（第5回、第7回、第14回）35%、総復習問題（第15回）35%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。							

科目名	カウンセリング論				担当者	角田和也	
英文名	Basic Counseling						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 本来カウンセリングは、「心の専門家」と呼ばれる人が行うが、その基本や技法には日常生活において人とかかわる際にも活かせる有用な知見が少なからず含まれている。本講義では、こうした知識や技術を学習する。 本講義は教職科目にもなっているため、学校現場で教員が生徒への指導や相談を行う際に生じる問題についても学習し、さらにスクール・カウンセリングの実際にも触れていきたい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション／カウンセリングとは何？ 【到達目標】 (1)自分の理解している「カウンセリング」とは何かを説明できる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第9回 「みる」ことについて① 【到達目標】 (1)カウンセリングの「みる」ということを理解する。 (2)「みる」ということを体験的に理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第2回 カウンセリングの実際 【到達目標】 (1) カウンセリングの正しい認識をもつことができる。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第10回 「みる」ことについて② 【到達目標】 (1)引き続き「みる」ということを体験し、さらに理解を深める。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第3回 教員がカウンセリングを学ぶ意義 【到達目標】 (1)教員を目指す学生がなぜカウンセリングを学ぶのか、その意義を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第11回 「みる」ことについて③ 【到達目標】 (1)みられている側の気持ちを理解する。 (2)みる際に注意するポイントを理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第4回 「きく」ことについて① 【到達目標】 (1)カウンセリングの「きく」ということを理解する。 (2)きく際に注意するポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第12回 スクール・カウンセリングの実際① スクール・カウンセリングと教育相談 【到達目標】 (1)スクール・カウンセリングの現状のうち、主に学校内での教育相談の実際について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第5回 「きく」ことについて② 【到達目標】 (1)「きく」ということを体験的に理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第13回 スクール・カウンセリングの実際② 連携を中心に 【到達目標】 (1)スクール・カウンセリングの現状のうち、主に学校内・外における連携の実際について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第6回 「きく」ことについて③ 【到達目標】 (1)前回の授業をうけて、さらにきく際に注意するポイントについての理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第14回 スクール・カウンセリングの実際③ 教育相談の難しさについて 【到達目標】 (1)教員の立場で実際に教育相談（カウンセリング）を行う際の課題について理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。				
第7回 「話す」ことについて① 【到達目標】 (1)カウンセリングの「話す」ということを理解する。 (2)話す際に注意するポイントを理解する。 【授業時間外学習】 次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。			第15回 スクール・カウンセリングの課題と今後について 【到達目標】 (1)（前回までの授業を受けて）スクール・カウンセリングが抱えている課題と今後の方向性について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。				
第8回 「話す」ことについて② 【到達目標】 (1)不快に思われない話し方について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。							
【学習上の留意点】 ①基本的には、毎回、板書の代わりにPCおよびプロジェクターを使用して授業を行います。板書に費やす時間を省略するのが主なねらいです。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。 ③期末試験は、授業で伝えた内容の理解度を確認するためだけではなく、その知識をもとにした実践力を問うためにも実施しています。受講の際にメモをとるだけでなく、普段からの自主的な学習・復習が単位取得には必要です。							
【教科書・参考書など】 ・1回目の授業時に、本授業用に作成したテキストを販売します。受講する学生は、必ず購入してください。 ・テキストには、各回ごと、授業内容に基づいた参考文献を示してありますので、そちらも参考にしてください。							
【関連科目】 生徒指導法							
【成績評価方法】 ・提出物の評価……50% 期末試験の結果……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。							

科目名	スポーツとドイツ語			担当者	都 筑 真	
英文名	Sports Culture and German					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 スポーツの文化的側面を概観し、スポーツ文化に関する教養を高めるために、スポーツ先進国といわれるドイツ語圏のスポーツ文化およびスポーツに関する専門的ドイツ語を理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。 【授業時間外学習】 ドイツのスポーツ文化に関する資料を図書館などで調べる。			第9回 ドイツのスポーツ事情 2 【 到達目標 】 ドイツのスポーツ政策とシステムについて理解する。 【授業時間外学習】 ドイツのスポーツ政策とシステムについて復習する。			
第2回 文字と発音、あいさつ表現 【 到達目標 】 ドイツ語の文字と発音を習得する。 【授業時間外学習】 文字の発音とあいさつ表現を復習する。			第10回 スポーツ観戦ミニ会話 1 (施設について) 【 到達目標 】 スポーツ観戦のための表現を理解する。 【授業時間外学習】 授業で学習したドイツ語表現を復習する。			
第3回 スポーツの基本語彙 【 到達目標 】 スポーツに関するドイツ語の基本語彙を学習する。 【授業時間外学習】 基本語彙を復習する。			第11回 スポーツ観戦ミニ会話 2 (試合について) 【 到達目標 】 スポーツ観戦のための表現を理解する。 【授業時間外学習】 授業で学習したドイツ語表現を復習する。			
第4回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 1 【 到達目標 】 ドイツ語の名詞、代名詞、動詞についての基本的文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 名詞、代名詞、動詞の文法を復習する。			第12回 スポーツ観戦ミニ会話 3 (試合後の感想) 【 到達目標 】 スポーツ観戦のための表現を理解する。 【授業時間外学習】 授業で学習したドイツ語表現を復習する。			
第5回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 2 【 到達目標 】 ドイツ語の人称変化についての基本的文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 人称変化の文法を復習する。			第13回 スポーツ映画 【 到達目標 】 ドイツ語のスポーツ映画の中で用いられたスポーツ用語を理解する。 【授業時間外学習】 映画の中で使われるスポーツ用語を復習する。			
第6回 スポーツの基本語彙とドイツ語の基礎 3 【 到達目標 】 ドイツ語の接続詞についての基本的文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 接続詞の文法を復習する。			第14回 「スポーツ」の語源と意味 【 到達目標 】 「スポーツ」という言葉の語源と意味を理解する。 【授業時間外学習】 「スポーツ」という言葉の語源と意味について復習する。			
第7回 ドイツ語の基礎の復習 【 到達目標 】 前回までのドイツ語文法と文構造を理解する。 【授業時間外学習】 前回までに学習した語彙や文法の復習をする。			第15回 理解度の確認と補足説明 【 到達目標 】 「スポーツ」の言語的・文化的意味の理解度を確認する。 【授業時間外学習】 前回までに配布した資料を復習する。			
第8回 ドイツのスポーツ事情 1 【 到達目標 】 ドイツのスポーツクラブの状況について理解する。 【授業時間外学習】 ドイツのスポーツクラブの状況について復習する。						
【学習上の留意点】 語学の習得には継続と反復が求められる。授業時の学習だけでなく、授業の前後においても語彙、文法、会話の復習をしっかりと行うこと。						
【教科書・参考書など】 特定の教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。						
【関連科目】 ドイツの言語と文化Ⅰ、ドイツの言語と文化Ⅱ、教養としてのドイツ言語論						
【成績評価方法】 授業時の課題 (50%) と学期末レポート (50%) で評価する。						

科目名	教養としての日本文学				担当者	稲井達也	
英文名	Introduction to Japanese Literature						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 2020年にオリンピック・パラリンピック東京大会を控え、我が国の文化と伝統を理解する必要性が指摘されている。主要な古典文学作品を読むことを通して、我が国の歴史や文化への理解を深めることを目的とする。受講に当たっては、高校卒業程度の古典の基礎知識を必要とするため、初回の授業で古典の基礎知識に関する確認テストを行う。受講者には自ら主体的に古典文学と向き合い、我が国の伝統と文化を外国人をはじめとした第三者に伝えるための担い手になることを期待する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 この授業の目的とねらい、古典知識の基本確認テスト、上代の古典文学 日本書紀と古事記 【 到達目標 】 教養として日本の古典文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。また『日本書紀』と『古事記』について理解し、『古事記』の主要な伝説を読み味わう。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				第9回 奥の細道 【 到達目標 】 『奥の細道』を読み味わうとともに、芭蕉の思想と俳諧について理解する。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
第2回 上代の古典文学 万葉集 【 到達目標 】 上代の古典文学の概要を理解する。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				第10回 能と狂言 【 到達目標 】 能と狂言の歴史の変遷を知るとともに、『羽衣』などの能の代表作を読み味わう。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
第3回 古今和歌集と新古今和歌集 【 到達目標 】 『古今和歌集』と『新古今和歌集』を読み味わうとともに、両者の作風の違いについて理解する。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				第11回 源氏物語1 【 到達目標 】 『源氏物語』の概要を理解するとともに、本文を読み味わう。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
第4回 随筆 枕草子 【 到達目標 】 『枕草子』の主要な章段を読み味わい、清少納言のもの見方・考え方や感じ方を理解するとともに、随筆の面白さを知る。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				第12回 源氏物語2 【 到達目標 】 様々な現代語訳を知るとともに、『源氏物語』を読み味わう。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
第5回 随筆 徒然草 【 到達目標 】 『徒然草』を読み味わうとともに、吉田兼好のもの見方や考え方、感じ方などを理解する。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				第13回 源氏物語3 【 到達目標 】 『源氏物語』を読み味わう。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
第6回 土佐日記 【 到達目標 】 日記文学について把握するとともに、『土佐日記』の主要な場面を読み味わい、紀貫之の悲しみについて理解する。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				第14回 源氏物語4 【 到達目標 】 『源氏物語』を読み味わう。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。			
第7回 伊勢物語 【 到達目標 】 『伊勢物語』を読み解くとともに、歌物語の特徴と概要を理解する。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。				第15回 源氏物語5 【 到達目標 】 『源氏物語』を読み味わう。 【授業時間外学習】 授業全体を振り返り、自己評価を行う。			
第8回 歴史文学 平家物語と大鏡 【 到達目標 】 『平家物語』と『大鏡』を読み解くとともに、歴史物語における虚構と史実との違いについて理解する。 【授業時間外学習】 本時で取り上げた作品について復習し、理解度確認テストに備える。							
【学習上の留意点】 <ul style="list-style-type: none"> 履修者には毎時間、授業で取り上げた作品について、次の時間に理解度確認テストを実施する。計14回実施する。 定期試験を実施する。試験は試験期間中に別途実施。定期試験ではノートやプリントの持ち込みは一切認めない。 自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので、中途半端な気持ちで選択しないようにすること。 							
【教科書・参考書など】 教科書 なし ただし、作品のテキストはその都度プリントとして用意したり、用意するように指示したりする。 参考書 必要に応じて提示する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> 授業時の理解度確認テスト(40%)：初回のテストと合わせて計14回分の得点を評価する。 定期試験(60%)：作品、及び授業内容への理解度を評価する。 							

科目名	ヨーロッパの文学と文化				担当者	加賀岳彦	
英文名	European Literature and Culture						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 ヨーロッパの文学は、日本を含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観 【到達目標】 授業内容を理解する。 ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第9回 ヨーロッパ中世の文学 【到達目標】 ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第2回 ヨーロッパ文学の源流 ギリシャ神話 【到達目標】 ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第10回 ルネサンスの文学① 【到達目標】 中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何かを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第3回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学① 【到達目標】 ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第11回 ルネサンスの文学② 【到達目標】 前回到続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第4回 ヨーロッパ文学の源流 古典ギリシャ文学② 【到達目標】 『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第12回 宗教改革 【到達目標】 宗教改革（Reformation）は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第5回 ヨーロッパの古典思想 古典ギリシャ哲学 【到達目標】 その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第13回 ヨーロッパ近代の文学① 【到達目標】 宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。デフォー、スウィフト、ディケンズの作品を扱う。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第6回 ユダヤ＝キリスト教① 『旧約聖書』 【到達目標】 ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第14回 ヨーロッパ近代の文学② 【到達目標】 18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱い表現していったのか、その特徴を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第7回 ユダヤ＝キリスト教② 『新約聖書』 【到達目標】 前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。				第15回 ヨーロッパの現代文学 【到達目標】 「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。			
第8回 ヨーロッパ中世の文化 【到達目標】 ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。 【授業時間外学習】 配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。							
【学習上の留意点】 授業時に配布するテキストをしっかり読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。							
【教科書・参考書など】 授業時にテキストを配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 授業時での課題50%、理解度確認のためのテスト50%で評価する。							

科目名	国際関係と政治				担当者	中村安菜	
英文名	International Relations and Politics						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 日々の新聞やテレビニュースに登場するさまざまな政治問題を理解するためには、関連する歴史的背景や国際関係についての理解が必要である。この講義を受講することによって、一つでも多くの問題に関心を持ち、理解を深めることが出来るようにしたい。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 「国際関係」とはどのようなものか 【 到達目標 】 (1) 国際関係を理解するには、今日存在する国家や国家機関について知るだけでなく、それらの歴史的背景を知る必要があることを理解する。 【授業時間外学習】 現在の国際社会の中で問題になっている事例を新聞で調べる。				第9回 日本の領土問題① 【 到達目標 】 (1) 北方領土問題とはどのようなものであるのか。その歴史の経緯について理解する。 【授業時間外学習】 北方領土が載っている日本地図をコピーする。			
第2回 国際社会の成立と展開① 【 到達目標 】 (1) 「国際社会」が成立した過程とその展開について、ヨーロッパを中心に理解する。 【授業時間外学習】 ウェストファリア体制について調べる。				第10回 日本の領土問題② 【 到達目標 】 (1) 竹島問題、尖閣諸島問題とはどのようなものであるのか。その歴史の経緯について理解する。 【授業時間外学習】 竹島と尖閣諸島が載っている日本地図をコピーする。			
第3回 国際社会の成立と展開② 【 到達目標 】 (1) 第二次世界大戦以降の冷戦時代について、その始まりと当時の世界について理解する。 【授業時間外学習】 ヤルタ会談で話し合われた内容を簡易書きでまとめる。				第11回 日本の戦争・戦後責任 【 到達目標 】 (1) 昭和の大戦に関連する責任について、日本がどのような姿勢をとっているのかについて理解する。 【授業時間外学習】 中国残留日本人とはどのような人たちかを調べる。			
第4回 国際社会の成立と展開③ 【 到達目標 】 (1) 冷戦の終焉と、その後の世界がどのような時代を迎えたのかについて理解する。 【授業時間外学習】 ベルリンの壁崩壊を伝える新聞記事・ニュースなどに目を通しておく。				第12回 防衛と日米安全保障条約 【 到達目標 】 (1) 今日の日本がどのような仕組みで自分の国を守ろうとしているのか、憲法と自衛隊、日米安全保障条約について理解する。 【授業時間外学習】 日本国憲法第9条は、どのように解釈するべきかを考える。			
第5回 植民地の歴史① 【 到達目標 】 (1) かつての欧米諸国がどのような植民地分割競争を繰り広げたのかについて理解する。 【授業時間外学習】 かつての植民地で、現在独立国となっている国を調べる。				第13回 今日の日本① 【 到達目標 】 (1) 国際的に、ずば抜けた経済繁栄を誇る日本。そのアキレス腱、エネルギー供給問題について理解する。 【授業時間外学習】 日本における具体的なエネルギー供給方法について調べる。			
第6回 植民地の歴史② 【 到達目標 】 (1) かつての植民地が現在どのような状況になっているのかを理解する。 【授業時間外学習】 南アフリカではどのような植民地政策が採られていたかを調べる。				第14回 今日の日本② 【 到達目標 】 (1) 良好な国際関係を抜きにしては日々の食事にさえ事欠く日本の食糧供給状況について理解する。 【授業時間外学習】 自分の好きな食べ物について、どれくらいの分量が毎年輸入されているかを調べる。			
第7回 日本の国際関係① 【 到達目標 】 (1) 日本と国際社会とのかかわりについて、明治から昭和初期までの経緯について理解する。 【授業時間外学習】 明治時代以降、日本が参加した戦争にはどのようなものがあるかを調べる。				第15回 国際関係と歴史 【 到達目標 】 (1) この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。 【授業時間外学習】 自分が関心をもつ国際問題について、ミニ・レポートにまとめる。			
第8回 日本の国際関係② 【 到達目標 】 (1) 日本と国際社会とのかかわりについて、昭和の大戦から今日までの経緯について理解する。 【授業時間外学習】 大戦以降、日本はどのようにして国際社会へ復帰したかを調べる。							
【学習上の留意点】 講義をよく聴き、メモ・ノートをしっかりとること。講義において興味を持った事柄について、自らすすんで調べてみる。なお、授業内容の詳細は随時指示する。							
【教科書・参考書など】 開講時に指示する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提です）。試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	人間生活と地球環境				担当者	鈴木信夫	
英文名	Human life and Earth Environment						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 環境問題が大きく取り上げられる現代であるが、この授業では、まず最初に原始地球の環境はどのようなものであったのか、その後、生物の出現にともなって地球環境はどう変化したのかを知る。 次に、人類誕生後、我々の日々の営みが、地球上の生物にどのような影響を与えてきたか、また、限りある資源をどう利用すればいいかを考える。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。				第9回 温室効果ガス 【 到達目標 】 中国の驚異的な工業化、米国における排出権取引ビジネスの成功、海面上昇により国家存亡の危機にあるツバルの現状等を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで京都議定書成立後の二酸化炭素排出規制に関する問題点を調べること。			
第2回 原始地球の環境(1) 【 到達目標 】 原始地球の環境が現在と大きく異なること、特に全海洋蒸発が起きたことを理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。				第10回 崩れる生態系 【 到達目標 】 外来種の侵入が及ぼす影響、巨大ダム建設による生態系の破壊、大型肉食動物の駆除が生態系に与える影響などを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで外来生物法について調べ、外来生物の問題点を理解すること。			
第3回 原始地球の環境(2) 【 到達目標 】 今から6億年ほど前に起きた全球凍結のメカニズムを知り、その後、生物が爆発的に進化したことを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでカンブリア紀の生物の特徴を調べ、さらに授業の理解を深めること。				第11回 リサイクル法(1) 【 到達目標 】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃棄物規制令)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでドイツのリサイクルに関する現状(問題点)を調べること。			
第4回 恐竜の絶滅 【 到達目標 】 生物が絶滅するメカニズムを恐竜の絶滅を例に理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで恐竜絶滅の原因を調べ、さらに授業の理解を深めること。				第12回 リサイクル法(2) 【 到達目標 】 環境先進国であるドイツのリサイクル法(廃車政令)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで自動車メーカーのリサイクルに対する対策を調べること。			
第5回 人為圧による野生生物の絶滅 【 到達目標 】 野生生物の絶滅の中で、人為圧による絶滅のメカニズムをドードーやタスマニアタイガーの絶滅を例に理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでドードー・タスマニアタイガー以外の絶滅動物について調べること。				第13回 リサイクル法(3) 【 到達目標 】 日本におけるリサイクル法(容器包装リサイクル法や家電リサイクル法など)の仕組みを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで日本におけるゴミリサイクルの現状(問題点)を調べること。			
第6回 酸性雨 【 到達目標 】 酸性雨の発生する仕組みを知り、その影響を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでヨーロッパにおける最近の酸性雨の影響を調べること。				第14回 環境監査(1) 【 到達目標 】 環境監査の概念を理解し、EUで導入されているEMAS(Eco-Management and Audit Scheme)の意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでEMASについて調べ、現状と問題点を理解すること。			
第7回 水問題 【 到達目標 】 人口増加による水不足の問題や、森林の荒廃による河川の生態系の崩壊など、水にまつわる問題を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで水問題について調べ、さらに授業の理解を深めること。				第15回 環境監査(2) 【 到達目標 】 EMASを手本にできたISO14001について、取得に取り組む、ある中小企業の例を参考に、その意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでISO14001認証取得の方法について調べ、理解すること。			
第8回 温室効果ガス 【 到達目標 】 温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量を規制する条約、京都議定書が成立するまでの各国の思惑を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで京都議定書について調べ、さらに授業の理解を深めること。							
【学習上の留意点】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に使用せず、プリントを配布する。							
【関連科目】 教養総合科目							
【成績評価方法】 レポート課題を100%として評価する。							

科目名	人間の観察			担当者	水戸和幸	
英文名	Observation of Man					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
【目的とねらい】 人間の観察は今、生きている人間をよく観察し、よりよい人間、生活、生き方、また人類の健やかな未来を見出せる目や行動につながる糸口になることを目的としている。まず、ヒトの顔、身体の形、形質やしぐさ、表情、動作、行動の観察を行う。次に、観察法やまとめ方、発表の仕方を学ぶ。さらに、その視点を身体内部や、普段身近に見られないさまざまな極限状態の人間へ広げ、人間の多様な変異と可能性を観察する。また、自分で調査したものを客観的データとしてまとめ、考察し、発表する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 イントロダクション ～なぜ人間の観察が必要か～ 【 到達目標 】 人間の観察は医療・福祉、スポーツ、教育、労働、広告デザインなど人間の生活を営む上で重要なことである。様々な分野における人間観察の例を挙げ人間観察の必要性を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第9回 人間観察の実施1 ～写真観察法～ 【 到達目標 】 人間の行動や生活の中にはいろいろな問題が隠れている。写真観察法を通じて、社会を凝視、観察し、「見る」ことのできるデータを分析し、結果を「見える」ようにする方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第2回 人間観察の対象、目的 【 到達目標 】 具体的な例を挙げて、人間観察の目的、その意義を認識してゆく。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第10回 人間観察の実施2 ～企画書の作成～ 【 到達目標 】 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。実際に観察を試みるための企画書の作成法について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第3回 人間の観察の実際 ～顔、身体、性格などの観察～ 【 到達目標 】 最も身近に観察できる自分の顔、手、からだの感覚、性格などを観察してゆく。毎日見ている顔や手など観察し、描画することで、その存在を正確に把握することを学ぶ。 【授業時間外学習】 授業中に観察した内容をレポートにまとめる。			第11回 人間観察の実施3 ～観察～ 【 到達目標 】 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。実際に調査を試みる。 【授業時間外学習】 社会や自分の身の回りで問題となっている人間サイドのテーマを自ら見つけ出し、観察、考察する。			
第4回 からだの中を覗く1 ～感覚～ 【 到達目標 】 ヒトはすべての情報を五官（目、耳、皮膚、舌、鼻）で受け取り、脳でその意味を理解し、行動している。五官のしくみや特性について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第12回 人間観察の実施4 ～結果の集計～ 【 到達目標 】 人間観察研究の例を提供し、研究の成果が我々の生活にどのように影響してゆかかを考えてみる。観察結果の集計方法、まとめ方について学ぶ。 【授業時間外学習】 社会や自分の身の回りで問題となっている人間サイドのテーマを自ら見つけ出し、観察、考察する。そして、その成果を発表できるようにまとめる。			
第5回 からだの中を覗く2 ～認知～ 【 到達目標 】 ヒトはすべての情報を五官（目、耳、皮膚、舌、鼻）で受け取り、脳でその意味を理解し、行動している。情報の理解である認知特性について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第13回 人間観察調査の発表1 【 到達目標 】 観察した結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。 【授業時間外学習】 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。			
第6回 からだの中を覗く3 ～行動～ 【 到達目標 】 ヒトはすべての情報を五官（目、耳、皮膚、舌、鼻）で受け取り、脳でその意味を理解し、行動している。ヒトの行動特性について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第14回 人間観察調査の発表2 【 到達目標 】 観察した結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。 【授業時間外学習】 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。			
第7回 人間観察の方法1 【 到達目標 】 人間の様々な特性を観察するための方法について学ぶ。参与観察および非参与観察法について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第15回 人間観察調査の発表3 【 到達目標 】 観察した結果を発表、問題点を挙げ、質疑応答する。 【授業時間外学習】 発表内容および質疑応答の内容をレポートにまとめる。			
第8回 人間観察の方法2 【 到達目標 】 人間の様々な特性を観察するための方法について学ぶ。背景や問題意識と仮説、観察対象、および観察項目の設定方法について学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。						
【学習上の留意点】 顔、手などの観察では鏡で自分の顔を描画して観察を確かなものとする。人間観察の野外調査法を学び、簡単な調査を自分で行う。データのまとめ方、発表の仕方なども学んでゆく。授業は主として視覚メディアを利用して説明する。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜、関連資料を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業中の小テスト30%、調査のプレゼン20%、レポート50%						

科目名	メディアテクノロジー				担当者	牧 琢 弥	
英文名	Media Technology						
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択	
【目的とねらい】 ICT (Information & Communication Technology) の発展およびマルチメディア技術の発達には、これまでのメディアの形態やコンテンツ製作の現場を大きく変えつつある。スポーツ、舞踊や教育の分野においても、このコンピュータ・メディアという側面からアプローチしようとするとき、そのテクノロジーについての知識が必要となってくる。この授業においては、画像・音声・映像といったデジタル素材をそれぞれの分野に活かすための基礎を、実践を通して学ぶ。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 マルチメディアの基礎知識 【 到達目標 】 (1)マルチメディアとその利用について理解する。 (2)メディアとしてのコンピュータ・ネットワークの知識を得る。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第9回 マルチメディアを使った分析の基礎知識 【 到達目標 】 (1)映像分析についての基礎知識を得る。 (2)映像分析への利用方法の初歩を習得する。(フレーム書き出し等) 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第2回 映像編集の基礎1 【 到達目標 】 (1)映像編集ソフトの利用方法について理解する。 (2)映像ファイルの読み込みについて習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第10回 マルチメディア・コンテンツの利用 【 到達目標 】 (1)マルチメディア・コンテンツの利用形態の知識を理解する。 (2)コンテンツのネットワークにおける利用方法を理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第3回 映像編集の基礎2 【 到達目標 】 (1)映像編集の基本操作を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第11回 周辺機器とメディアについての理解と利用 【 到達目標 】 (1)より高度な映像・音声の編集方法を習得する。 (2)総合課題の準備について理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第4回 周辺機器と機材についての知識と利用方法 【 到達目標 】 (1)マルチメディアに利用する機材についての知識を得る。 (2)機材の使い方の基本を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第12回 総合課題1 【 到達目標 】 (1)総合課題の撮影を行い、キャプチャについて理解する。 (2)各自映像・音声編集方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第5回 映像と音声の取り込み 【 到達目標 】 (1)周辺機器からのマルチメディア・コンテンツの取り込みについて習得する。(とくにビデオ撮影とキャプチャ) 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第13回 総合課題2 【 到達目標 】 (1)総合課題を完成させ、ファイルとして書き出すまでを習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第6回 マルチメディア編集の実際1 【 到達目標 】 (1)実際にビデオで撮った映像の編集方法を実践的に習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第14回 PCによるDVD編集・作成方法1 【 到達目標 】 (1)DVD作成について理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第7回 マルチメディア編集の実際2 【 到達目標 】 (1)映像編集の仕上げとレンダリングについて理解する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。				第15回 PCによるDVD編集・作成方法2 【 到達目標 】 (1)総合課題のDVD編集を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。			
第8回 データの知識とファイルへの書き出し 【 到達目標 】 (1)映像・音声ファイルについての基礎知識を理解する。 (2)編集した映像の書き出し方法を習得する。 【授業時間外学習】 予め参考書等で該当する箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。							
【学習上の留意点】 マルチメディア・コンテンツの作成とその利用方法を、背景となる知識とともに、実践的に学ぶ。そのため、毎回の小さな課題による練習と総合的な課題を行う。							
【教科書・参考書など】 別途、授業時に指示する。							
【関連科目】							
【成績評価方法】 毎回の提出課題を100%として評価する。							

科目名	保育・教育心理学			担当者	中道直子	
英文名	Developmental and Educational Psychology					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・必修
【目的とねらい】 本講義では、ヒトが生まれてから死ぬまでの生涯に渡る心理的発達について概観し、各時期に生じる様々な問題についての理解を深めることを目的とする。特に乳幼児期の様々な側面における発達やその要因について理解し、のぞましい保育や幼児教育のあり方について考察することをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 発達とは 【 到達目標 】 (1)発達の定義、子ども観・発達観やその歴史、発達の原理について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第9回 児童期の認知と学校教育への適応 【 到達目標 】 (1)児童期の認知の特徴について理解する。 (2)学校教育への適応における問題について説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第2回 胎児期、乳幼児期の身体と知覚 【 到達目標 】 (1)胎児期、乳幼児期の身体と脳と知覚の発達について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第10回 青年期の心理的特徴と発達課題 【 到達目標 】 (1)青年期の心理的特徴と発達課題を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第3回 乳幼児期の養育者とのつながり 【 到達目標 】 (1)他者と関係を築くための基盤的能力について理解する。 (2)養育者への愛着とその要因について説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第11回 成人期～老年期の心理的特徴と発達課題 【 到達目標 】 (1)成人期～老年期の心理的特徴と発達課題を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第4回 乳幼児期の言葉 【 到達目標 】 (1)言語獲得の基礎やそのメカニズムについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第12回 学びの仕組み 【 到達目標 】 (1)学習に対する成熟論的アプローチ、行動主義的アプローチについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第5回 乳幼児期の認知 【 到達目標 】 (1)乳幼児期の認知の特徴を説明できる。 (2)認知発達段階について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第13回 学びの意欲 【 到達目標 】 (1)学習を生じさせる動機づけやその要因について説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第6回 乳幼児期の自己 【 到達目標 】 (1)乳幼児期の自己認識や自己抑制の発達について説明できる。 (2)乳幼児期の感情の発達について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第14回 記憶と知識 【 到達目標 】 (1)記憶のメカニズムについて理解する。 (2)知識の種類やその性質について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第7回 乳幼児期の仲間関係 【 到達目標 】 (1)乳幼児期の仲間関係の特徴について説明できる。 (2)仲間関係に影響する要因について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第15回 学びの支援と評価 【 到達目標 】 (1)主体的な学びを可能にする教授方法について理解する。 (2)保育・教育実践や子どもの学びを評価する際の視点やバイアスについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第8回 発達障害 【 到達目標 】 (1)発達障害の特徴を説明できる。 (2)発達障害児への指導法の概要を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。						
【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用し、教科書を軸として展開する。パワーポイントそのものの資料は配布しないため、受講者は講義を聞きながらメモを取り、自分なりのノートを作成すること。なお、教科書に掲載されていない講義内容については適宜資料（図表のみ）を配布する。講義内容についての質問は用紙にて受け付け、次の冒頭で回答する。また、事後学習として、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。						
【教科書・参考書など】 「発達心理学の最先端」 中澤 潤（編） あいり出版						
【関連科目】 保育・教育心理学演習						
【成績評価方法】 期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を100%として評価する。						

科目名	社会福祉			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Social Welfare					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門基礎・必修
【目的とねらい】 生活問題に対応する方策としての社会福祉の考え方、社会福祉法制度、社会福祉実践について学ぶことを目的とする。 21世紀に入り、日本では少子高齢社会が加速度的に進み、多様な生活問題のリスクが増えつつある。保育士等の社会福祉専門職としてはもちろん、市民として生活していく上でも必要な社会福祉にかかわる基本的知識を習得することをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 社会福祉の意義、理念、歴史 【 到達目標 】 (1) 現代社会における社会福祉の意義、理念を理解する。 (2) 社会福祉の歴史の変遷を理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			第9回 母子保健・医療福祉 【 到達目標 】 (1) 母子保健施策の概要を理解する。 (2) 保育・教育・療育・保健・医療等の連携について理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			
第2回 社会福祉の動向（1）少子高齢社会 【 到達目標 】 (1) 少子高齢化の進行をめぐる社会の変容について理解する。 (2) 少子高齢化社会への対応と今後の課題を理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			第10回 地域福祉・ボランティア活動 【 到達目標 】 (1) 在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。 (2) ボランティア活動、NPO活動の役割を理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			
第3回 社会福祉の動向（2）現代の生活問題 【 到達目標 】 (1) 現代の生活問題とその対応について、多角的に理解する。 (2) 日常的に社会福祉の動向と課題を捉え、主体的に考察できる。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			第11回 利用者保護制度 【 到達目標 】 (1) 情報提供と第三者評価について理解する。 (2) 利用者の権利擁護と苦情解決について理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			
第4回 社会福祉の制度と実施体系 【 到達目標 】 (1) 社会福祉の制度と法体系を理解し、概要を説明できる。 (2) 社会福祉行政、実施機関、社会福祉施設等を理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			第12回 社会福祉における相談援助 【 到達目標 】 (1) 相談援助の意義と原則について理解する。 (2) 相談援助の方法と技術について理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			
第5回 社会福祉と児童家庭福祉 【 到達目標 】 (1) 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉について理解する。 (2) 社会福祉と児童の人権擁護、家庭支援との関連性を理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			第13回 社会福祉の専門職 【 到達目標 】 (1) 社会福祉の専門職・実践者について理解する。 (2) 社会福祉専門職としての保育士について理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			
第6回 社会保障・公的扶助 【 到達目標 】 (1) 社会保障の概要を理解する。 (2) 生活保護制度について理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			第14回 これからの社会福祉の課題 【 到達目標 】 (1) 在宅福祉・地域福祉の推進について理解する。 (2) 社会福祉の今後の課題を理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			
第7回 障害者福祉 【 到達目標 】 (1) ノーマライゼーション、自立等の障害者福祉の理念を理解する。 (2) 障害者福祉の制度や実施体系の概要を理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			第15回 諸外国の動向 【 到達目標 】 (1) 諸外国の社会福祉の動向を理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。			
第8回 高齢者福祉 【 到達目標 】 (1) 高齢者福祉の制度や実施体系の概要を理解する。 (2) 介護保険制度について理解する。 【授業時間外学習】 資料プリント等を復習し、理解を深める。授業に関連したニュース報道に目を向ける。						
【学習上の留意点】 新聞やTVのニュース報道を適宜取り上げ、現代社会に実際に起こっている生活問題をテーマにディスカッションを進めていく。日頃から、社会の動きを敏感にキャッチする感性を養っておくことが大切である。						
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【関連科目】 児童家庭福祉、相談援助						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のための試験結果を60%として評価する。 試験は、授業内での中間試験と、試験期間中に期末試験を行う。						

科目名	子どもの運動発達				担当者	森田陽子	
英文名	Development of Children's Movement						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1					専門基礎・必修	
【目的とねらい】 子どもの誕生から就学前までの発育に伴う運動発達を、運動学的な観点から捉えて学習する。子どもの体力低下が問題視されている現在、幼稚園教諭や保育士にとって必要な子どもの運動に関する知識や、子どもたちが自ら運動発生させられる環境について理解し、実践できるよう学習する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 体育大学にある幼児発達学の学生として「運動」に関して学ぶことの重要性を理解する。 【授業時間外学習】 子どもと「運動」に関して特に学びたいことは何かをレポートする。			第9回 運動指導のポイント3（環境を工夫する、安全を考える） 【 到達目標 】 運動指導のポイントの観点から、運動にふさわしい環境、安全についての基本的な考え方を理解する。 【授業時間外学習】 環境の工夫、安全について、本時の学びをレポートする。				
第2回 運動とは何か1（運動能力の低下からみえてくるもの） 【 到達目標 】 運動能力の低下から見えてくる幼児期の運動の在り方や、運動能力検査から見た課題を知り、運動がなぜ幼児に必要なかということを理解する。 【授業時間外学習】 運動能力の低下からみえてくるものについて、本時の学びをレポートする。			第10回 運動指導のポイント4（援助の仕方を考える） 【 到達目標 】 運動指導のポイントの観点から、子どもの特性に合った援助の仕方を理解する。 【授業時間外学習】 援助の仕方について、本時の学びをレポートする。				
第3回 運動とは何か2（運動することで期待できる効果） 【 到達目標 】 運動がなぜ幼児に必要なかという観点から、運動することで期待できる効果について理解する。 【授業時間外学習】 運動することで期待できる効果について、本時の学びをレポートする。			第11回 運動指導のポイント5（遊びの変化や発展を考える） 【 到達目標 】 運動指導のポイントの観点から、子どもの遊びの変化や発展を理解する。 【授業時間外学習】 遊びの変化や発展について、本時の学びをレポートする。				
第4回 遊びと運動1（生活としての運動） 【 到達目標 】 遊びと運動の観点から、生活としての運動とはどういうことを意味するのかを知る。また、子どもの生活と運動との関連について理解する。 【授業時間外学習】 生活としての運動について、本時の学びをレポートする。			第12回 運動にかかわる現代的課題1（幼小の連携、家庭との連携） 【 到達目標 】 運動にかかわる現代的課題の観点から、幼小の連携、家庭との連携における課題を理解する。 【授業時間外学習】 幼小の連携、家庭との連携について、本時の学びをレポートする。				
第5回 遊びと運動2（遊びの中の運動） 【 到達目標 】 遊びと運動の観点から、遊びの中の運動、運動と遊びについて理解する。 【授業時間外学習】 遊びの中の運動について、本時の学びをレポートする。			第13回 運動にかかわる現代的課題2（個人差のある場合の指導） 【 到達目標 】 運動にかかわる現代的課題の観点から、個人差のある場合の指導について理解する。 【授業時間外学習】 個人差のある場合の指導について、本時の学びをレポートする。				
第6回 遊びと運動3（動機づけと運動） 【 到達目標 】 遊びと運動の観点から、動機づけと運動、特に子どもの運動遊びに関連した動機づけについて理解する。 【授業時間外学習】 動機づけと運動について、本時の学びをレポートする。			第14回 運動にかかわる現代的課題3（現代の子どもと運動） 【 到達目標 】 運動にかかわる現代的課題の観点から、現代の子どもについて理解し、いかに運動的なアプローチをかけるかを理解する。 【授業時間外学習】 現代の子どもと運動について、本時の学びをレポートする。				
第7回 運動指導のポイント1（運動量を考える） 【 到達目標 】 運動指導のポイントの観点から、子どもの運動量について理解するとともに、生活の見直しという点にも目を向ける。 【授業時間外学習】 運動量について、本時の学びをレポートする。			第15回 保育士、幼稚園教諭、子どもの運動指導者に必要な今後の方向性の理解 【 到達目標 】 現場における運動指導を事例としてあげる。それについてこれまでの講義で理解したことを基に、今後現場で必要とされる子どもの運動発達について考える。そこから保育士、幼稚園教諭、子どもの運動指導者に必要な方向性を理解する。 【授業時間外学習】 第1回～第15回の学びをレポートする。				
第8回 運動指導のポイント2（運動の質を考える） 【 到達目標 】 運動指導のポイントの観点から、運動の質を考える。運動パターンのバリエーションを考え、運動指導の質を高める。 【授業時間外学習】 運動の質について、本時の学びをレポートする。							
【学習上の留意点】 保育現場において、子どもの体力不足に対応できる指導力を身につけた幼稚園教諭や保育士が求められている。体育学部の中に幼児発達学専攻があるという本学の特色を活かし、運動学的な知識と技術を持った保育者になるという意識を持って授業に臨むこと。							
【教科書・参考書など】 「保育と幼児期の運動あそび」 岩崎洋子（萌文書林）、「0から5歳児の運動あそび指導百科」 前橋 明（ひかりのくに） 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省							
【関連科目】 幼児体育、運動あそび							
【成績評価方法】 授業の習熟度・理解度50%、最終試験50%。試験は試験期間中に別途実施する。							

科目名	保育原理 I			担当者	百瀬 ユカリ	
英文名	Principle of Child Care I					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・必修
【目的とねらい】 保育という営みはどのようなことをいうのか。子ども観の変遷や保育の思想の歴史の経緯について学び、保育園・幼稚園・認定こども園の成立の経緯や保育制度について理解する。また、子どもの最善の利益や子どもの権利保障、発達保障など保育の理念や保育の意義について、現代の子どもや子育てにかかわる課題を踏まえ、理解を深めていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 はじめに：「保育原理 I」のオリエンテーション 【 到達目標 】 「保育」の意味を考え、「保育原理 I」で学ぶ全体像を把握する。 【授業時間外学習】 テキストの「はじめに」と「目次」を読み、保育原理の全体像を掴む。			第9回 西洋における保育の歴史 3 【 到達目標 】 西洋現代の保育思想（モンテッソーリ他の保育思想）を学ぶ。 【授業時間外学習】 モンテッソーリの保育思想を調べて確認する。			
第2回 「保育」の意味を考える 1 【 到達目標 】 児童福祉法、児童憲章を視点として保育の意味を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの児童福祉法、児童憲章を読み、保育の意味を考える。			第10回 日本における保育の歴史 1 【 到達目標 】 日本における保育施設の誕生と発展について理解する。 【授業時間外学習】 日本の保育施設が誕生する頃の時代背景を調べる。			
第3回 「保育」の意味を考える 2 【 到達目標 】 保育士の専門性について理解し、専門性の修得に必要なことを知る。 【授業時間外学習】 保育士に必要な専門性について確認する。			第11回 日本における保育の歴史 2 【 到達目標 】 大正・昭和期を中心とした保育思想（倉橋惣三の保育観）を学ぶ。 【授業時間外学習】 倉橋惣三の「誘導保育」について調べる。			
第4回 保育の場について知る 1 【 到達目標 】 家庭における保育について、子育てをめぐる社会の変化を通して理解する。 【授業時間外学習】 子育てをめぐる社会の変化について資料を読み、家庭における保育の社会背景を考える。			第12回 日本における保育の歴史 3 【 到達目標 】 現代の保育思想と保育（保育制度の確立・児童の権利の保障）について理解する。 【授業時間外学習】 保育制度の確立について、時代背景と流れを確かめる。			
第5回 保育の場について知る 2 【 到達目標 】 保育所保育についての意義及び目的を理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針の保育所の役割を読み、改めて保育士の役割を考える。			第13回 保育をどのように考え、進めるべきか 【 到達目標 】 保育所保育指針に学ぶ保育原理の考え方について理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針（主に第1章）を読み、保育への考えを深める。			
第6回 保育の場について知る 3 【 到達目標 】 幼稚園、認定こども園について、保育の意義及び目的を理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園の現状、認定こども園の現状を調べ、最近の傾向を知る。			第14回 日本の保育の現状と課題 【 到達目標 】 最近の保育問題について、社会的背景をもとに課題を知る。 【授業時間外学習】 自分の関心のある保育の時事問題について調べ、考えをもつ。			
第7回 西洋における保育の歴史 1 【 到達目標 】 近代保育思想・歴史（コメニウス・ルソーの保育思想）を学ぶ。 【授業時間外学習】 コメニウス・ルソーの保育思想を調べて確認する。			第15回 これまでの授業のまとめ 【 到達目標 】 これまでの総括として、学んできた授業内容について理解を深める。 【授業時間外学習】 これまでに学んだ内容を整理し、再確認する。			
第8回 西洋における保育の歴史 2 【 到達目標 】 近代保育思想・歴史（ベスタロッチ・フレーベルの保育思想）を学ぶ。 【授業時間外学習】 ベスタロッチ・フレーベルの保育思想を調べて確認する。						
【学習上の留意点】 教科書を用いて授業を進めるが、授業内容を毎時間配布する小レポートに記入し、提出すること。保育原理は保育に関する他の科目の基盤となる科目であり、自ら他の科目との関連や共通性を見出し、保育の全体像を描く努力をしてほしい。						
【教科書・参考書など】 教科書：『新・保育原理[第3版]—すばらしき保育の世界へ—』三宅茂夫編（株式会社みらい） 参考書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領／幼稚園教育要領／保育所保育指針』（内閣府・文部科学省・厚生労働省） その他適宜参考資料を提示、配布する。						
【関連科目】 保育者論、乳児保育、教育原論						
【成績評価方法】 平常点（授業への参加度、授業内の小レポートを含む）及び課題提出により50%、理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	スポーツ実習 I			担当者	森田陽子	
英文名	Sports Exercise I (Swimming and New Sports)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・必修
【目的とねらい】 幼児教育や生涯体育の基礎となる種目に取り組む。前期に水泳、後期にニュースポーツを行う。 <水泳>水泳に関する基礎知識を理解し、正しい泳法を習得する。 <ニュースポーツ>ニュースポーツとして行われている様々な種目の特性や競技方法について理解し、実践することにより運動技能の向上と指導法を習得する。 併せて、コミュニケーション力を高めていく。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 オリエンテーション・アンケート調査 【 到達目標 】 (1) 授業の進め方を理解する。アンケートに答える。			第9回 苦手な泳ぎを撮影し自分の泳ぎを見る 【 到達目標 】 (1) 撮影したビデオを見て各自の泳ぎを修正する。			
第2回 幼稚園・保育園における水あそびの現状 【 到達目標 】 (1) 現場の水あそび事情を知る。			第10回 ベビースイミングや障害児と水泳についてビデオで学習する 【 到達目標 】 (1) 特殊な水泳指導の様子をビデオで知る。			
第3回 水と事故・入水に当たっての諸注意 【 到達目標 】 (1) 子どもと水の事故について知る。			第11回 よりスムーズな基本泳法の習得① 【 到達目標 】 (1) 正しいフォームをマスターする。			
第4回 浮きやすい姿勢を意識して泳ぐ 【 到達目標 】 (1) 浮きやすい姿勢を体得する。			第12回 よりスムーズな基本泳法の習得② 【 到達目標 】 (1) リズミカルな泳ぎをおこなう。			
第5回 進みやすい姿勢を意識して泳ぐ 【 到達目標 】 (1) 進みやすい姿勢を体得する。			第13回 よりスムーズな基本泳法の習得③ 【 到達目標 】 (1) 苦手な泳法に取り組む。			
第6回 水を押す方向を意識して泳ぐ 【 到達目標 】 (1) 水を押す方向を意識して泳ぐ。			第14回 よりスムーズな基本泳法の習得④ 【 到達目標 】 (1) 得意な泳法のタイムを計測する。			
第7回 ハイエルボーを意識して泳ぐ 【 到達目標 】 (1) ハイエルボーを意識して泳ぐ。			第16回 リズム水泳 【 到達目標 】 (1) 音楽にあわせて泳ぐことを楽しむ。			
第8回 補助用具を使用して泳ぐ 【 到達目標 】 (1) 手や足に補助用具をつけて泳いでみる。						

次ページに続く

科目名	スポーツ実習 I			担当者	森田陽子	
英文名	Sports Exercise I (Swimming and New Sports)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・必修
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 オリエンテーション・アンケート調査 【 到達目標 】 (1)授業の目的や目標などを理解する。			第24回 ドッチビー 【 到達目標 】 (1)ドッチビーのルールを理解し、実践する。			
第17回 コミュニケーションスキルを高めるあそび 【 到達目標 】 (1)アイスブレイキングで、コミュニケーションの取り方を身につける。			第25回 レクリエーション・ダンス①レク・ダンスとは 【 到達目標 】 (1)レク・ダンスとは何かを理解し、実践する。			
第18回 レクリエーションバレーボール①ルールの理解 【 到達目標 】 (1)レクリエーション・バレーボールのルールを理解し、実践する。			第26回 レクリエーション・ダンス②レク・ダンス創作 【 到達目標 】 (1)各グループでレク・ダンスを創作する。			
第19回 レクリエーションバレーボール②ゲームの実践 【 到達目標 】 (1)身につけた技能をチーム戦略のもとにゲームで実践できる。 (2)ゲームを実践し、次回の課題を見つけていく。			第27回 レクリエーション・ダンス③レク・ダンス発表 【 到達目標 】 (1)各グループでレク・ダンスを発表する。			
第20回 フライングディスク①ルールの理解 【 到達目標 】 (1)フライングディスクのルールを理解し、操作の仕方を身につける。			第28回 運動会種目① 【 到達目標 】 (1)年齢別触れ合い種目を実践し、ルール及び指導方法を理解する。			
第21回 フライングディスク②ゲームの実践 【 到達目標 】 (1)身につけた技能をチーム戦略のもとにゲームで実践できる。 (2)ゲームを実践し、次回の課題を見つけていく。			第29回 運動会種目② 【 到達目標 】 (1)年齢別競技種目を実践し、ルール及び指導方法を理解する。			
第22回 タグラグビー①ルールの理解 【 到達目標 】 (1)タグラグビーのルールを理解し、実践する。			第30回 ゲームの応用と実践及び活用法 【 到達目標 】 (1)実践してきた種目についての活用法を理解する。			
第23回 タグラグビー②ゲームの実践 【 到達目標 】 (1)身につけた技能をチーム戦略のもとにゲームで実践できる。 (2)ゲームを実践し、次回の課題を見つけていく。						
【授業時間外学習】 幼児教育や生涯体育の基礎となる種目に取り組み（前期：水泳、後期：ニュースポーツ）、その技術を習得する。さらに、生涯スポーツへと結びつける。						
【学習上の留意点】 <水泳>それぞれの泳法の特性に合わせた準備をすること。怪我や事故のないように、自己の体調管理には十分気をつけて授業に臨むこと。 <ニュースポーツ>実技が中心なので、服装や身だしなみは授業にふさわしいものとする。授業は、グループでの活動が中心となるので、積極的にグループの中で活動し、それぞれの役割を果たすようにつとめること。また、ゲームを実践するだけにとどまらず、種目の特性やルールなど、ゲームの知識や理解を深めるように努力すること。そして、仲間と協力する力を養うこと。						
【教科書・参考書など】 <水泳>「水あそびのニューコンセプト」佐野裕・土方幹夫編著（大修館書店） <ニュースポーツ>授業開講時に随時紹介する。						
【関連科目】 子どもの運動発達、幼児体育、運動あそび、身体表現						
【成績評価方法】 各種目の習熟度40%、実技テスト60%。						

科目名	身体表現			担当者	笹本重子	
英文名	Body Expression					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門基礎・必修
【目的とねらい】 子どもの身体表現の意義と発達の様子を理解し、発達段階に即した身体表現の指導と援助の方法を習得する。また、動きの特性を理解し、動きを読み取る力と自分自身の表現力を高め、動きによるコミュニケーションの技能を高めることを目的に、手遊びやリズムダンス、創造的な身体表現などを構成して発表を行い、自己・相互評価を展開する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)授業の進め方、評価の方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業への取り組みの心構えをつくる。			第9回 いろいろな身体表現② 【 到達目標 】 (1)イメージになりきって踊り、楽しむ。 【授業時間外学習】 他者からの視点で、自分の姿について想像してみる。			
第2回 からだを使った遊び① 【 到達目標 】 (1)からだを使った遊びで（道具を使わない）、楽しく実技をする。 【授業時間外学習】 他のからだ遊びを考える。			第10回 動きづくり① 【 到達目標 】 (1)子ども向けの体操・ダンスを創作する。 【授業時間外学習】 参考図書から調べてくる。			
第3回 からだを使った遊び② 【 到達目標 】 (1)からだを使った遊びで（道具を使う）、楽しく実技をする。 【授業時間外学習】 他のからだ遊びを考える。			第11回 動きづくり② 【 到達目標 】 (1)子ども向けの体操・ダンスを創作する。 【授業時間外学習】 参考図書から自作の作品を考察する。			
第4回 運動遊び① 【 到達目標 】 (1)二人組の運動遊びで、楽しく身体を動かす。 【授業時間外学習】 他者への対応の仕方が適切であるように心構えをする。			第12回 創作作品の発表 【 到達目標 】 (1)子ども向けの体操・ダンスの指導と発表を行う。 【授業時間外学習】 発表時のシミュレーションをする。			
第5回 運動遊び② 【 到達目標 】 (1)グループ、大人数での運動遊びで、楽しく身体を動かす。 【授業時間外学習】 他の運動遊びを考える。			第13回 身体表現の世界を知る（ビデオ鑑賞） 【 到達目標 】 (1)様々な身体表現をビデオ教材で知る。 【授業時間外学習】 自分の修正点から、今後の活用法を検討する。			
第6回 いろいろな身体表現遊び① 【 到達目標 】 (1)昔話で身体表現を楽しむ。 【授業時間外学習】 昔話を図書などで調べておく。			第14回 童謡に合わせ身体表現をする 【 到達目標 】 (1)童謡に合わせ即興で身体表現をする。 【授業時間外学習】 授業で身に付いた力を発揮できるようにイメージを膨らませる。			
第7回 いろいろな身体表現遊び② 【 到達目標 】 (1)童謡で身体表現を楽しむ。 【授業時間外学習】 子どもの好きな童謡を調べておく。			第15回 身体表現とは一本授業の振り返りー 【 到達目標 】 (1)いろいろな身体表現の学び方の確認をする。 【授業時間外学習】 授業で学んだことを自分の言葉で発表できるように準備する。			
第8回 いろいろな身体表現① 【 到達目標 】 (1)イメージになりきって踊り、楽しむ。 【授業時間外学習】 子どもの自由に表現をしている姿を自分の姿に重ねる。						
【学習上の留意点】 それぞれの運動遊びを実際に行いながら、遊びのねらい、保育者の援助、環境設定、安全への配慮についても学ぶ。身体を動かすことに喜びを持って、身体を動かすことを楽しみながら積極的に授業に参加すること。						
【教科書・参考書など】 授業時に随時紹介する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 実技テスト50%、授業の習熟度・レポート50%。						

科目名	健康科学論			担当者	沢井史穂	
英文名	Introduction to Health Science					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踏学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	専門基礎・選択
【目的とねらい】 現代人の抱える健康問題を、主に生活環境の変化との関わりから理解する。特に、日本における疾病構造の変化と主な死因の推移、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームのリスクファクターとその予防について、運動を中心とするライフスタイルとの関連で理解すること、また、年齢、性機能、休養、ストレスと健康との関わりについて理解することを目的とする。これらの理解を通して、現代の健康の問題に対する科学的見方を身につけることがねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 健康とは何か。健康観の変遷。現代における健康観。 【 到達目標 】 (1)「健康」の定義を理解する。 (2)健康観の歴史的推移を知り、現代における望ましい健康観を考える。 【授業時間外学習】 各種メディアの発信する「健康」関連情報に関心を持ち、視聴したり読んだりする。			第9回 子どもの生活環境の変化と健康 【 到達目標 】 (1)現代の生活環境が子どもの健康に及ぼす影響について理解する。 (2)成長に伴う身体の構造と機能の変化を知り、成長期における健康問題について理解する。 【授業時間外学習】 子どもの健康に関する文献や資料を探して読む。			
第2回 日本人の健康問題 人口構成の推移、疾病構造の変化 【 到達目標 】 (1)死因順位の大きな変化とその要因について理解する。 (2)現代日本人の抱える健康問題を、人口構成の推移、疾病構造の変化とともに理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。			第10回 女性の性機能の変化と健康 【 到達目標 】 (1)女性の一生を通じての性機能の変化と女性特有の健康問題について理解する。 【授業時間外学習】 女性の健康に関する文献や資料を探して読む。			
第3回 生活習慣病とは 【 到達目標 】 (1)健康な生活を送る上での良い生活習慣について理解する。 (2)生活習慣病の定義、危険因子、予防策について理解する。 【授業時間外学習】 良い生活習慣について復習し、自分の生活習慣を見直して行動変容につなげる。			第11回 妊娠と健康 【 到達目標 】 (1)妊娠期の身体の変化と生活の注意点について理解する。 (2)避妊・不妊・出生前診断など、生命倫理に関する問題について考える。 【授業時間外学習】 妊娠のまつわる文献や資料を探して読む。			
第4回 循環系疾患とライフスタイル 【 到達目標 】 (1)心臓病と脳血管病、その基礎疾患としての動脈硬化、高血圧、糖尿病とライフスタイルとの関連を理解する。 【授業時間外学習】 循環系疾患に関連するライフスタイルについて復習し、予防行動につなげる。			第12回 高齢者の運動と健康 【 到達目標 】 (1)加齢に伴う身体の構造と機能の変化を知り、中高齢者、高齢者の健康に運動が果たす役割や意義について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の健康に関する文献や資料を探して読む。			
第5回 代謝異常・肥満とライフスタイル 【 到達目標 】 (1)脂質代謝異常、肥満症をもたらすライフスタイルを理解する。 (2)肥満の判定基準と日本の現状を知り、予防・改善策を考える。 【授業時間外学習】 肥満の予防につながるライフスタイルについて復習し、自らの日常生活に還元する。			第13回 休養と健康 【 到達目標 】 (1)睡眠や休息と健康との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、毎日の生活の中で適切な休養を心がける。			
第6回 メタボリックシンドロームの判定と予防 【 到達目標 】 (1)メタボリックシンドロームの定義と判定基準を理解する。 (2)メタボリックシンドロームの現状、危険因子を理解し、予防・改善策を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、メタボリックシンドロームの予防行動につなげる。			第14回 メンタルヘルス 【 到達目標 】 (1)現代社会におけるストレスと健康との関わり、心の健康に運動が果たす役割について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習し、自分のストレスマネジメントに積極的に取り組む。			
第7回 骨の健康 骨粗鬆症の予防 【 到達目標 】 (1)人の一生を通じた骨量、骨代謝の変化を知り、丈夫な骨を形成し、骨粗鬆症を予防するための生活習慣を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、丈夫な骨を作るための生活習慣を心がける。			第15回 健康づくり施策 概念と歴史 日本における施策 【 到達目標 】 (1)健康づくり施策の概念と歴史を理解し、日本における健康施策とその課題について考える。 【授業時間外学習】 授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習しておくこと。			
第8回 ロコモティブシンドロームの概念と予防 【 到達目標 】 (1)ロコモティブシンドロームの概念、定義、危険因子を理解し、予防策を考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、将来のロコモティブシンドロームの予防につながる生活行動を身につける。						
【学習上の留意点】 授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら資料に書き込んでいくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。						
【教科書・参考書など】 とくに指定はない。必要な資料をその都度配布する。						
【関連科目】 衛生学・公衆衛生学、女性のライフステージと運動、保健体育教育法 I						
【成績評価方法】 授業内での課題達成度30%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)70%で評価する。						

科目名	機能解剖学				担当者	永野康治	
英文名	Functional Anatomy						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・必修	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 本講義の目的は骨格と各関節の構造、特徴、運動を学び、身体の動きを関節運動や筋肉の働きから理解することである。本講義のねらいは、体育・スポーツに関わる者として、筋骨格系の知識を得る事で自らのスポーツ活動におけるパフォーマンス向上や怪我の予防に生かし、さらには運動を指導する立場において効果的な評価、処方、指導ができるようになることである。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 機能解剖学概論 (機能解剖学の基礎) 【 到達目標 】 (1)機能解剖を学ぶうえで必要な基礎事項を理解する。 (2)骨の構造を理解し、全身の骨の名称とその位置を把握する。 【授業時間外学習】 全身の骨の名称とその位置を覚える。				第9回 関節の構造と関節運動 上肢1 【 到達目標 】 (1)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節の構造を理解する。 (2)肩甲胸郭関節の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第2回 骨格の理解 上肢1 【 到達目標 】 (1)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 上肢の骨の特徴を覚える。				第10回 関節の構造と関節運動 上肢2 【 到達目標 】 (1)肘関節、前腕、手関節、手指の構造を理解する。 (2)肘関節、前腕、手関節、手指の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第3回 骨格の理解 上肢2 【 到達目標 】 (1)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 上肢の骨の特徴を覚える。				第11回 関節の構造と関節運動 下肢1 【 到達目標 】 (1)股関節、膝蓋大腿関節の構造を理解する。 (2)股関節の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第4回 骨格の理解 下肢1 【 到達目標 】 (1)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 下肢の骨の特徴を覚える。				第12回 関節の構造と関節運動 下肢2 【 到達目標 】 (1)脛骨大腿関節の構造を理解する。 (2)脛骨大腿関節の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第5回 骨格の理解 下肢2 【 到達目標 】 (1)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 下肢の骨の特徴を覚える。				第13回 関節の構造と関節運動 下肢3 【 到達目標 】 (1)足関節、足部の構造を理解する。 (2)足関節、足部の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第6回 骨格の理解 体幹1 【 到達目標 】 (1)体幹(脊柱、椎骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 体幹の骨の特徴を覚える。				第14回 関節の構造と関節運動 体幹1 【 到達目標 】 (1)体幹、脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)の構造を理解する。 (2)脊柱の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第7回 骨格の理解 体幹2 【 到達目標 】 (1)体幹(椎骨、肋骨)の骨および骨の特徴を把握する。 【授業時間外学習】 体幹の骨の特徴を覚える。				第15回 関節の構造と関節運動 体幹2 【 到達目標 】 (1)体幹、胸郭の関節の構造を理解する。 (2)胸郭の運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。			
第8回 関節の構造と関節運動 概論 【 到達目標 】 (1)関節の大まかな構造と種類を理解する。 (2)関節運動の定義を理解する。 (3)肩甲上腕関節を例に関節運動と筋肉の作用を理解する。 【授業時間外学習】 各筋肉と運動方向の対応関係を覚える。							
【学習上の留意点】 配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。覚えるべきことが多いため、各授業ごとに内容をノートに整理しておくことが望まれる。毎回の授業の際にその日の授業内容を問う小テストを実施する。また、復習用の課題を適時提示する。							
【教科書・参考書など】 教科書：特に指定しない 参考書：筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版) 骨・関節・筋肉の構造と動作のしくみ(ナツメ社)							
【関連科目】							
【成績評価方法】 課題 20% 期末試験(試験は試験期間中に別途実施) 80%							

科目名	発育発達論				担当者	井筒紫乃	
英文名	Growth and Development						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	1		専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢における発育発達特性を考慮したスポーツへの取り組みや運動指導の重要性を理解する。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 発育発達概念 【 到達目標 】 (1)授業の進め方、諸注意、参考図書等について理解する。 【授業時間外学習】 発育発達に関する予備知識について書籍等で予習する。			第9回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性5 【 到達目標 】 (1)青年期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)インディペンデント・エイジ期の運動との関わりを理解する。 【授業時間外学習】 第8回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第2回 人類学からみた発育発達 【 到達目標 】 (1)生物の誕生からヒトはどのように進化してきたのか理解する。 (2)人類の進化に興味を持つ。 【授業時間外学習】 第1回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第10回 女性の身体的特性1 【 到達目標 】 (1)女性の身体的特性、性周期を理解する。 (2)貧血のメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 第9回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第3回 形態・体格指数と生物学的年齢 【 到達目標 】 (1)発育を評価するための形態指数・体格指数、生物学的年齢について理解する。 【授業時間外学習】 第2回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第11回 女性の身体的特性2 【 到達目標 】 (1)女性アスリートの3主徴の問題について理解する。 (2)女性アスリートの加齢変化について理解する。 【授業時間外学習】 第10回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第4回 受精から誕生そして歩行獲得までの発育発達特性 【 到達目標 】 (1)胎児の発育について理解する。 (2)乳児期の身体的・心理的・社会的特性について理解する。 【授業時間外学習】 第3回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第12回 妊娠・出産 【 到達目標 】 (1)妊娠と出産について理解する。 【授業時間外学習】 第11回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第5回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性1 【 到達目標 】 (1)幼児期前期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)運動神経の発達特性について理解する。 【授業時間外学習】 第4回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第13回 中高年期のからだどころ 【 到達目標 】 (1)中高年期の身体的特性とエイジングについて理解する。 【授業時間外学習】 第12回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第6回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性2 【 到達目標 】 (1)幼児期後期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)プレゴールデンエイジ期の運動との関わり方を理解する。 【授業時間外学習】 第5回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第14回 加齢に伴う体力・運動能力の変化 【 到達目標 】 (1)加齢に伴う身体的・心理的・社会的特性、体力・運動能力の変化について理解する。 【授業時間外学習】 第13回の授業内で提示した専門用語について予習する。				
第7回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性3 【 到達目標 】 (1)学童期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)ゴールデンエイジ期の運動との関わり方を理解する。 【授業時間外学習】 第6回の授業内で提示した専門用語について予習する。			第15回 ライフステージと生涯スポーツ 【 到達目標 】 (1)運動継続のためのスポーツへの関わりについて理解する。 (2)それぞれのステージでの運動プログラムを作成する。 【授業時間外学習】 作成したノートを整理する。				
第8回 発育発達期のからだどころ、社会的発達特性4 【 到達目標 】 (1)思春期の身体的・心理的・社会的発達特性について理解する。 (2)ポストゴールデンエイジ期の運動との関わりを理解する。 【授業時間外学習】 第7回の授業内で提示した専門用語について予習する。							
【学習上の留意点】 授業ノートを作成し、要点を自分なりにわかりやすくまとめ、後で読み返しても十分理解できるように工夫すること。また、どんな小さなこと、細かいことにも興味を持って受講し、疑問があれば積極的に質問すること。							
【教科書・参考書など】 教科書：指定しない							
【関連科目】							
【成績評価方法】 定期試験の成績70%、ノート作成の内容20%、毎授業後のレポート10%で評価する。 なお、試験は試験期間中に別途実施。							

科目名	女性のライフステージと運動				担当者	沢井史穂	
英文名	Life Stage and Physical Activity of Women						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 ライフステージによって変わる女性の身体の構造と機能の特徴を知り、幼児期から老年期に至るまでの各ステージに応じた運動への取り組み方について考える。 また、女性の性機能と運動の関わり、女性特有の健康問題と運動との関わり、体力・運動能力の男女差、女性アスリートの健康問題等について理解を深める。そして、一生を通じて女性が運動・スポーツと関わることの意義や価値を考える。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 女性と運動 【 到達目標 】 (1)女性としての自分と運動・スポーツとの関わり方、年齢と運動との関係、女性スポーツ選手のイメージなど、いくつかのキーワードに沿って女性と運動について考える。 【授業時間外学習】 メディアや周囲の人が女性と運動との関わりをどうとらえているかを調べる。			第9回 女性の性機能と運動の関わり (女性ホルモンの働きと性周期) 【 到達目標 】 (1)女性ホルモンの働きと性周期に伴う各種ホルモン、子宮、卵巣の変化を理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を整理し、復習する。				
第2回 女性のスポーツ参加の変遷 【 到達目標 】 (1)社会環境の変化にともなう女性のスポーツ参加の変遷を理解する。 【授業時間外学習】 女性の参加する各種競技会やスポーツイベントに関心をもち、参加したり観戦したりする。			第10回 女性の性機能と運動の関わり (月経と運動) 【 到達目標 】 (1)月経周期、月経前症候群 (PMS)、月経随伴症状について理解し、運動との関わり方について考える。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。				
第3回 女性のスポーツ参加の現状 【 到達目標 】 (1)成長期及び成人期女子の身体活動量、スポーツ参加率の現状を知り、改善策を考える。 【授業時間外学習】 スポーツ活動に参加したり、定期的な運動習慣を身につける。			第11回 女性の性機能と運動の関わり (妊娠・出産と運動) 【 到達目標 】 (1)妊娠・出産に伴う身体の変化について理解する。 (2)妊娠期および産褥期における運動への取り組み方について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。				
第4回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (幼児期) 【 到達目標 】 (1)幼児期の身体特性と運動との関わりについて理解する。 (2)現代の生活環境が幼児の健康に及ぼす影響について考える。 【授業時間外学習】 幼児の運動に関する情報や資料を集めて読む。			第12回 女性の性機能と運動の関わり (更年期障害と運動) 【 到達目標 】 (1)閉経がもたらす影響と更年期障害について理解する。 (2)更年期女性にとっての運動の効果について理解する。 【授業時間外学習】 授業で扱った内容を復習するとともに、自分の将来に照らし合わせてイメージしておく。				
第5回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (発育発達期) 【 到達目標 】 (1)発育発達期における女子の身体特性と運動との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 発育発達期の運動に関する情報や資料を集めて読む。			第13回 女性アスリートの健康問題 【 到達目標 】 (1)現代の女性アスリートが抱える様々な健康問題 (月経異常、摂食障害、骨粗鬆症等)について理解を深める。 【授業時間外学習】 女性アスリートの健康問題に関する情報や資料を集めて読む。				
第6回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (成人期) 【 到達目標 】 (1)現代の若い女性が抱える様々な健康問題と運動との関わりについて理解する。 【授業時間外学習】 若い女性の運動に関する情報や資料を集めて読む。			第14回 体格・身体組成・体力・運動能力における性差 【 到達目標 】 (1)体格や身体能力の性差について、それが生じる要因とともに理解する。 【授業時間外学習】 運動場面で見られる性差について整理し、復習する。				
第7回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (中高年期) 【 到達目標 】 (1)中高年女性の身体特性を理解し、適切な運動習慣の取り入れ方について考える。 (2)肥満、メタボリックシンドローム、生活習慣病、うつ予防としての運動の効果について理解する。 【授業時間外学習】 中高年の健康と運動に関連する資料を探して読む。			第15回 女性スポーツの展望 【 到達目標 】 (1)これからの女性とスポーツとの関わりについて、競技力向上、健康体力づくり、生きがいづくり等、様々な視点から、その意義と価値について考える。 【授業時間外学習】 授業の内容を復習し、自分自身の運動とのかかわり方について考え、行動する。				
第8回 一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動 (老年期) 【 到達目標 】 (1)加齢にともなう身体機能の低下に応じた運動について理解する。 (2)高齢者の運動実施における留意点について理解する。 【授業時間外学習】 高齢者の健康と運動に関連する資料を探して読む。							
【学習上の留意点】 授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。図表を多く引用するので、その意味するところを読み取り、そこから何がわかるかを考えることに重点をおく。毎回の講義で重要なポイントを確認しながら進めていくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。							
【教科書・参考書など】 特に指定はない。授業内で適宜資料を配布する。							
【関連科目】 健康科学論、生涯スポーツ論							
【成績評価方法】 授業内での課題達成度40%、定期試験(試験は試験期間中に別途実施する)60%で評価する。							

科目名	野外教育論				担当者	北原 澄高	
英文名	Outdoor Education						
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	専門基礎・選択	
【目的とねらい】 21世紀を展望した我が国の教育のあり方において、子どもたちに豊かな人間性やたくましさといった「生きる力」を育むことが重要であるとされ、体験学習に基づく野外活動/自然体験活動を手段として行われる野外教育や環境教育が強調されている。これらのことから、「野外教育」に求められる今日的意義及び教育的可能性を学ぶことを目的とし、野外教育が自然・他者(他存在)・自己との調和を育む上で有効な教育実践であることを、学習者の日常体験に照らしながら考え理解を深めることをねらいとする。また、指導者(教職を含む)のあり方について理解を深めることもねらいとする。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 「野外教育」とは：基礎概念・意義・効果・歴史、等 【 到達目標 】 (1) 野外教育の基本的考え方及びその意義や効果等を理解する。 (2) 野外教育の歴史的背景(起源・変遷・現状、等)を理解する。 【授業時間外学習】 自身の野外教育体験を小学校から振り返り、表にまとめてみる。			第9回 グループワーク(2)：身近な自然から考える 【 到達目標 】 (1) 身近な自然とは何であるかをグループで共有し理解する。 (2) 自然を身近に感じることの意義を日常に照らして考え理解する。 【授業時間外学習】 自身の生活圏を取り巻く自然環境はどの程度残されているかを調べる。				
第2回 体験学習とその意義：野外活動/教育との関連から 【 到達目標 】 (1) 「体験」の今日的意味や重要性を理解する。 (2) 「体験学習」の理論とあり方について理解する。 【授業時間外学習】 大学での授業やクラブ等で経験した体験学習をまとめる。			第10回 野外生活技術の知識(2)：衣食住の観点から 【 到達目標 】 (1) 野外生活における基礎知識を衣食住の観点から理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 野外生活での献立を考えてまとめる。				
第3回 日本の野外教育：学校教育との関連を含めて 【 到達目標 】 (1) 日本の野外教育の取り組み・現状を理解する。 (2) 野外教育が学校現場でどのように実施されているか理解する。 【授業時間外学習】 高校までの校外学習を列挙し、分類する。			第11回 プログラムデザインの考え方：理論と構成方法 【 到達目標 】 (1) 教育的効果を促し安全で楽しい活動構成のあり方を理解する。 (2) 応用として日数、対象、事前・事後等の点を交えて理解する。 【授業時間外学習】 自身が体験してみたい活動で起きた事故例をまとめる。				
第4回 グループワーク(1)：チームビルディング(仲間づくり)について 【 到達目標 】 (1) 野外教育での「仲間づくり活動」の位置づけを理解する。 (2) 「仲間づくり活動」の重要性と日常での応用を理解する。 【授業時間外学習】 自身が考えるグループワークの必要性についてまとめる。			第12回 プログラム(活動)各論：よく実施される活動について 【 到達目標 】 (1) 主に「ASE」「登山」「キャンプファイア」等について理解する。 (2) 上(1)について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 キャンプファイヤーの必要性について考えをまとめる。				
第5回 野外活動/教育と安全管理 【 到達目標 】 (1) 野外活動/教育における安全についての考え方や内容を理解する。 (2) 安全を保持するための方策を日常に照らしながら考え理解する。 【授業時間外学習】 野外活動時に自身が体験したヒヤリ・ハットをまとめる。			第13回 グループワーク(3)：作成プログラムの共有 【 到達目標 】 (1) 自ら作ったプログラム(課題)をグループで共有し理解する。 (2) 活動場所や日数等の要素を変えて立案し応用を理解する。 【授業時間外学習】 自身が体験してみたいプログラムの行程表の作成をする。				
第6回 野外生活技術の知識(1)：天候、配慮すべき生物、等について 【 到達目標 】 (1) 野外生活における主に天候、配慮すべき生物について理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 自身が体験した天候による活動の変更等を列挙する。			第14回 野外教育の今後の展望：総括とその教育的可能性 【 到達目標 】 (1) 昨今重視される心の教育・ホリスティック教育等との接点を理解する。 (2) 上(1)を認識した上で、野外教育の今後の可能性を理解する。 【授業時間外学習】 現在実施されているホリスティック教育の活動例を調べてまとめる。				
第7回 冒険教育との接点：プロジェクト・アドベンチャー(PA)の取り組みもふまえて 【 到達目標 】 (1) 野外教育の片翼「冒険教育」の基礎理論及び内容を理解する。 (2) 「冒険教育」の活用を、日常に照らしながら考え理解する。 【授業時間外学習】 自身にとつての冒険的活動とは何かを列挙する。			第15回 グループワーク(4)：ふりかえり(全体学習内容) 【 到達目標 】 (1) 野外教育の社会的・個人的意味について共有し理解する。 (2) 自己や周囲の人達(家族・友達)への活用を考え理解する。 【授業時間外学習】 野外教育の必要性について自分の体験を踏まえまとめる。				
第8回 環境教育との接点：「ミニマムインパクト」をふまえて 【 到達目標 】 (1) 野外教育の一方の片翼「環境教育」の考え方を理解する。 (2) 上(1)の知識について、日常生活での応用を考え理解する。 【授業時間外学習】 自身が知っている自然の破壊の原因をまとめる。							
【学習上の留意点】 講義ではプロジェクターを多用します。各自でポイントとなるところはノートに書き留めるなどして、時間外学習に役立ててほしい。適宜プリントも配布します。また授業においては、下記の参考書を中心に講義を進めるため、必要に応じて購入すること。授業の進行を妨げるような行動(私語や携帯電話の使用など)は慎むこと。							
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。適宜プリントを配布する。以下の参考書を中心に講義を進める。 参考書：『野外教育の理論と実践』自然体験活動研究会編(小森伸一 責任編集)/杏林書院(2011)、『キャンプテキスト』日本キャンプ協会							
【関連科目】							
【成績評価方法】 提出課題20%、学期末レポート50%、小テスト30%。なお、小テストは授業時間内に数回実施します。							

科目名	生涯スポーツ概論			担当者	溝口紀子	
英文名	Lifelong Sports					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別	専門基礎・選択			専門基礎・選択
【目的とねらい】 本人の生涯学習活動として、現代社会におけるスポーツの必要性、社会的価値を理解し、新しい公共としての「スポーツ権」が、どのように社会に寄与するかを考える。とりわけ生涯スポーツ社会を形成する指導者としての生涯スポーツの基礎的知識を獲得する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス (授業の進め方 スポーツ権) 【 到達目標 】 (1) 授業ガイダンス、生涯スポーツ関連用語を理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習とは何かをインターネットで調べる。			第9回 スポーツとメンタルヘルス 【 到達目標 】 (1) メンタルヘルスとしての生涯スポーツ活動を理解する。 【授業時間外学習】 メンタルヘルスにおけるスポーツ活動についてインターネットで調べる。			
第2回 生涯スポーツと健康長寿を考える 【 到達目標 】 (1) 健康長寿の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 健康長寿とは何かをインターネットで調べる。			第10回 格差社会とスポーツ 【 到達目標 】 (1) 地域におけるスポーツ活動を理解する。 (2) 新しい公共、社会関係資本としてのスポーツを理解する。 【授業時間外学習】 地域総合型スポーツクラブについてインターネットで調べる。			
第3回 ヘルスプロモーションと健康日本21 【 到達目標 】 (1) 現在の「生涯学習」の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 ヘルスプロモーションとは何かをインターネットで調べる。			第11回 子どもの身体特性とスポーツ環境 【 到達目標 】 (1) 生涯学習社会におけるコミュニティスポーツを理解する。 【授業時間外学習】 地域総合型スポーツクラブについてインターネットで調べる。			
第4回 生涯スポーツとスポーツイベント・スポーツツーリズム 【 到達目標 】 (1) スポーツツーリズムについて理解する。 【授業時間外学習】 スポーツツーリズムとは何かをインターネットで調べる。			第12回 中高年の身体特性とスポーツ環境 【 到達目標 】 (1) 生涯学習社会における総合型地域スポーツクラブを理解する。 【授業時間外学習】 総合型地域スポーツクラブについてインターネットで調べる。			
第5回 生涯スポーツ政策の歴史 【 到達目標 】 (1) 生涯スポーツの歴史の変遷について理解する。 【授業時間外学習】 生涯学習社会とは何かをインターネットで調べる。			第13回 学生によるプレゼンテーション 【 到達目標 】 (1) 発表について評価する。課題を見つける。 【授業時間外学習】 発表の準備をする			
第6回 女性のスポーツの参加率と環境 【 到達目標 】 (1) 女性のスポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 女性スポーツの参加率をインターネットで調べる。			第14回 学生によるプレゼンテーション 【 到達目標 】 (1) 発表について評価する。課題を見つける。 【授業時間外学習】 発表の準備をする。			
第7回 障害者スポーツ、アダプテッド・スポーツ 【 到達目標 】 (1) 障害者スポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 アダプテッド・スポーツとは何かをインターネットで調べる。			第15回 生涯スポーツの展望と課題 【 到達目標 】 (1) 生涯学習思想を述べることができる。 (2) 豊かなスポーツライフを述べることができる。 (3) 生涯学習社会でのスポーツのあり方を述べることができる。 【授業時間外学習】 第1回目から第14回目までの授業内容を復習する。			
第8回 スポーツと予防医学 【 到達目標 】 (1) 予防医学とスポーツについて理解する。 【授業時間外学習】 予防医学についてインターネットで調べる。						
【学習上の留意点】 授業中の私語、携帯電話使用、飲食を禁じる。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。 適宜、印刷物を配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業における課題達成度(50%)、プレゼンテーション、レポート(50%)で評価する。						

科目名	救急処置法			担当者	夏井裕明	
英文名	First Aid					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門基礎・選択
【目的とねらい】 本講義では幼稚園教諭、保育士に必要な外科系および内科系の臨床医学を学ぶ。日本体育協会公認スポーツ指導者資格共通科目Ⅰに関する内容も併せて扱う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。 【授業時間外学習】 シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。			第9回 学校生活における感染症対策 【 到達目標 】 学校感染症の種類と特徴を学び、出席停止期間の根拠を理解する。 【授業時間外学習】 国民衛生の動向（最新版）の学校保健の項を読む。			
第2回 女性とスポーツ 【 到達目標 】 女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 256 - 262 を読む。			第10回 循環器・腎疾患・代謝性疾患と学校生活管理 【 到達目標 】 循環器疾患、腎疾患を理解し、学校生活管理指導票を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 147 - 153, 198 - 202 を読む。			
第3回 成長・発達的一般原則 【 到達目標 】 Scamonの発育曲線を学び、成長・発達的一般原則を理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 243 - 249 を読む。			第11回 呼吸器疾患に対する応急処置 【 到達目標 】 気管支喘息、運動誘発性喘息を理解し、喘息発作に対する応急処置を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 163 - 167 を読む。			
第4回 外傷総論 【 到達目標 】 外傷とは何か、その受傷機転・症状・診断・治療過程について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 29 - 36 を読む。			第12回 アナフィラキシーに対する応急処置 【 到達目標 】 食物アレルギーを理解し、アナフィラキシー・ショックに対する応急処置を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 167 - 169 を読む。			
第5回 応急処置総論 【 到達目標 】 RICE処置の内容・方法・効果および止血法について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 42 - 47 を読む。			第13回 熱中症の応急処置 【 到達目標 】 熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 153 - 157 を読む。			
第6回 頭部外傷に対する応急処置 【 到達目標 】 意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 36 - 39, 55 - 58, 157 - 160 を読む。			第14回 心肺蘇生法の理論 【 到達目標 】 心肺蘇生法の理論について理解する。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 213 - 220 を読む。			
第7回 上肢の外傷に対する応急処置 【 到達目標 】 発育発達期に起こりやすい上肢の外傷を理解し、それに対する応急処置を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 62 - 89 を読む。			第15回 心肺蘇生法実習 【 到達目標 】 心肺蘇生法実習を通じて、BLS（Basic Life Support）ができるようになる。 【授業時間外学習】 BLSヘルスケアプロバイダー マニュアル を読む。			
第8回 下肢の外傷に対する応急処置 【 到達目標 】 発育発達期に起こりやすい下肢の外傷を理解し、それに対する応急処置を学ぶ。 【授業時間外学習】 スポーツ指導者のためのスポーツ医学 第2版 p 100 - 139 を読む。						
【学習上の留意点】 本科目は選択科目である。1年次開講の「機能解剖学」を履修済みであることを前提とする。 第15回の実習は夏休みの補講・集中講義期間中に実施する。						
【教科書・参考書など】 参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第2版）」、小出清一他編、南江堂 「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ」、公益財団法人 日本体育協会 「学校医の手引き」、日本医師会編、日本医師会						
【関連科目】 栄養学入門、生理・生化学入門、機能解剖学、スポーツ医学						
【成績評価方法】 試験成績（100%）で成績を評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	発達・教育相談			担当者	角田和也	
英文名	Developmental Consultation and Educational Counseling in Preschool					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・選択
【目的とねらい】 本来、発達・教育相談の対象年齢は幅広いが、ここでは主に乳幼児に焦点を絞り、保育現場で日常的に行われている発達相談および教育相談についての知識や技術を学習する。また、実際の保育現場で保育者が乳幼児とかかわる際に生じる問題や、特別な配慮が必要となる子どもたちへのかかわり方についても、発達相談および教育相談の視点からはどのように対処していく必要があるのかを学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション／発達・教育相談 【到達目標】 (1)発達相談、教育相談とは何かを理解する。 (2)保育現場での「相談」の概要を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第9回 特別な配慮を要する子どもたちのかかわり③ 【到達目標】 (1)「子どもの心身症」および「問題行動」への対応方法を理解する。 (2)「習癖異常」について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第2回 発達・教育相談の実際 【到達目標】 (1)（前回の授業を受けて）保育者のかかわりが実際にどのような「相談」の流れの中で展開されるのか、その全体像を把握する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第10回 特別な配慮を要する子どもたちのかかわり④ 【到達目標】 (1)「習癖異常」への対応方法を理解する。 (2)「慢性疾患」について理解する。 (3)「児童虐待」の概要について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第3回 保育中の子どものかかわり① 【到達目標】 (1)保育の中で臨床心理学的視点が活用できることを理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第11回 特別な配慮を要する子どもたちのかかわり⑤ 【到達目標】 (1)「慢性疾患」への対応方法を理解する。 (2)「児童虐待」の概要について理解する。（前回の続き） 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第4回 保育中の子どものかかわり② 【到達目標】 (1)（前回の授業を受けて）臨床心理学的視点を実際の保育場面の中で具体的にどのように活用していくかを理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第12回 特別な配慮を要する子どもたちのかかわり⑥ 【到達目標】 (1)「児童虐待」への対応方法を理解する。 (2)「発達障がい」の実際について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第5回 保育中の子どものかかわり③ 【到達目標】 (1)（これまでの授業を受けて）臨床心理学的視pointsの活用方法を実際に体験することによって、さらに理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第13回 特別な配慮を要する子どもたちのかかわり⑦ 【到達目標】 (1)「発達障がい」の実際について理解する。（前回の続き） 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第6回 保育中の子どものかかわり④ 【到達目標】 (1)パーソナル・スペースの視点から、相談的かかわりを行う際に配慮すべき点を体験的に理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第14回 特別な配慮を要する子どもたちのかかわり⑧ 【到達目標】 (1)「発達障がい」の実際について理解する。（前々回からの続き） 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第7回 保育中の子どものかかわり⑤／特別な配慮を要する子どもたちのかかわり① 【到達目標】 (1)臨床心理学的視pointsを保育に活用する本質、意義を理解する。 (2)「特別な配慮を要する子どもたち」の概要を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第15回 子どもを正しく理解するために 【到達目標】 (1)「発達障がい」への対応方法を理解する。 (2)「子どものことを正しく理解する」必要性を再確認する。 (3)「子どものことを正しく理解する」ための方法を再確認する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第8回 特別な配慮を要する子どもたちのかかわり② 【到達目標】 (1)「子どもの心身症」および「問題行動」について理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。						
【学習上の留意点】 ①原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。						
【教科書・参考書など】 ・市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布するプリント教材を使用します。 《参考書》 ①「保育臨床相談」小田豊他編著（北大路書房） ②「保育実践事例集」現代保育実践研究会編（第一法規） ③「精神保健」松橋有子他編著（北大路書房）						
【関連科目】 保育相談支援、相談援助、カウンセリング論						
【成績評価方法】 ・提出物の評価……50% 期末試験の評価……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。						

科目名	児童文化演習 I			担当者	桐川 敦子	
英文名	Seminar in Children's Culture I					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3		スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
【目的とねらい】 裏文化と呼ばれる児童文化を日本の歴史から振り返り、今を生きる子どもがこれからも共有・伝承し得る、子どもを主役とする文化に触れ、総合的に理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業内容の概要、オリエンテーション 【 到達目標 】 児童文化という名称のなりたちと、授業の内容について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第9回 保育の中での児童文化財④・・・遊具、玩具、おもちゃ 【 到達目標 】 遊具、玩具、おもちゃの由来と現状を理解する。 【授業時間外学習】 児童文化財について研究をする。			
第2回 児童文化の概念とその領域 【 到達目標 】 児童文化についての諸々の捉え方、および領域区分について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第10回 保育の中での児童文化財⑤・・・人形劇、児童劇、紙芝居 【 到達目標 】 人形劇の種類や紙芝居の歴史、現状を理解する。 【授業時間外学習】 児童文化財について研究をする。			
第3回 日本の児童文化の歴史 【 到達目標 】 児童文化の流れを昔話、わらべ唄を中心に学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第11回 保育に活かす教材研究① 【 到達目標 】 パネルシアター、ペープサート、エプロンシアターについて学び、作成する。 ションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 児童文化財研究について研究をする。			
第4回 児童文化活動と伝承 【 到達目標 】 わらべ唄あそび、鬼ごっこ、お正月あそび等、文化の伝承について考察する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第12回 保育に活かす教材研究② 【 到達目標 】 パネルシアター、ペープサート、エプロンシアターの演じ方について学ぶ。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			
第5回 環境と現代の子どもの生活と文化 【 到達目標 】 子どもを取り巻く環境の変化を捉え、現在の子どもの文化について考える。 【授業時間外学習】 レポートを作成する。			第13回 保育に活かす教材研究③ 【 到達目標 】 人形劇や児童劇について理解を深める。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			
第6回 保育の中での児童文化財① 【 到達目標 】 保育の中での児童文化財とはどういうものなのか、理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第14回 保育に活かす教材研究④ 【 到達目標 】 人形劇、児童劇について研究し、台本を作成する。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			
第7回 保育の中での児童文化財②・・・絵本を中心に 【 到達目標 】 児童文化財の中の絵本を取り上げ、明治、大正、昭和、平成に至る絵本の歴史を理解する。 【授業時間外学習】 児童文化財について研究をする。			第15回 児童文化の課題 【 到達目標 】 児童文化における課題について考察する。 【授業時間外学習】 レポートを作成する。			
第8回 保育の中での児童文化財③・・・視聴覚教材 【 到達目標 】 視聴覚教材のアニメーション、ビデオ、テレビ等について理解する。 【授業時間外学習】 児童文化財について研究をする。						
【学習上の留意点】 幼少期から、どのような文化に触れてきたのか、自らの体験・経験を基に、これからよりよい文化を生み出す子どもたちへの支援について考える。						
【教科書・参考書など】 「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省						
【関連科目】 児童文化演習 II						
【成績評価方法】 児童文化財についてのレポート50%、および授業終了後の課題レポート50%とする。						

科目名	児童文化演習Ⅱ			担当者	望月 久也・諸富満希子	
英文名	Seminar in Children's Culture Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門基礎・選択
【目的とねらい】 児童文化演習Ⅰにおける学習を発展させ、総合的表現として、子どもを対象とした劇を共同制作し、発表する。規模の大きな児童文化財の創造を通じ、企画力、創作力、表現力を養うとともに、計画性、協調性を高め、保育の力とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業についての説明 【 到達目標 】 「児童文化演習Ⅱ」について、内容の概略と展開を理解する。 【授業時間外学習】 「児童文化演習Ⅰ」で学習した内容を復習する。			第9回 中間まとめ・調整 【 到達目標 】 三班の具体的な作業の中間まとめをし、合同で調整を行う。 【授業時間外学習】 各担当班の指示により、作業を行う。			
第2回 児童劇とは何か 【 到達目標 】 子どもを対象とする演劇の概要と特質を理解し、先行作品を映像鑑賞することで、創作の手掛かりを得る。 【授業時間外学習】 どのような作品を創作していきたいかを考える。			第10回 役割分担（配役等）・練習 【 到達目標 】 全体で上演の役割を決定し、各々練習を開始する。 【授業時間外学習】 各担当班の指示により、作業を行う。			
第3回 題材の検討 【 到達目標 】 劇にする物語の素材を全員が持ち寄り、検討し選択する。 【授業時間外学習】 題材となり得る物語をさがす。			第11回 パート毎練習 【 到達目標 】 役割や台本の部分的な練習、修正を行う。 【授業時間外学習】 他の班の抱えている問題点を把握し、修正の方法を考える。			
第4回 題材の選定 【 到達目標 】 劇にする物語を選び、構成・アレンジの概略を決定する。 【授業時間外学習】 題材となり得る物語をさがす。			第12回 全体練習 【 到達目標 】 役割全体や台本を通して練習、修正を行う。 【授業時間外学習】 他の班の抱えている問題点を把握し、修正の方法を考える。			
第5回 作業班分け、基本計画作成 【 到達目標 】 言葉、造形、音楽の班分けの後、基本計画を定め、調整を行う。 【授業時間外学習】 言葉、造形、音楽のどの班が自分に最も適しているかを考える。			第13回 試演（リハーサル）・調整 【 到達目標 】 発表本番を念頭に置いた練習の後、映像等で確認し調整する。 【授業時間外学習】 それぞれの役割・仕事を確認し、手順に従って動けるよう準備する。			
第6回 三班毎の創作Ⅰ 【 到達目標 】 台本作り、造形作品、作詞・作曲等の構想を練る。 【授業時間外学習】 各担当班の指示により、作業を行う。			第14回 総稽古（グネプロ） 【 到達目標 】 発表本番同様の上演をし、再度調整をする。 【授業時間外学習】 それぞれの役割・仕事を確認し、手順に従って動けるよう準備する。			
第7回 三班毎の創作Ⅱ 【 到達目標 】 台本作り、造形制作、作詞・作曲等の具体的な作業を行う。 【授業時間外学習】 各担当班の指示により、作業を行う。			第15回 作品発表（上演）・講評 【 到達目標 】 鑑賞者の前で上演し、講評を行う。 【授業時間外学習】 それぞれの役割・仕事を、責任を持って遂行できるよう準備する。			
第8回 三班毎の創作Ⅲ 【 到達目標 】 台本作り、造形制作、作詞・作曲等の具体的な作業を行う。 【授業時間外学習】 各担当班の指示により、作業を行う。						
【学習上の留意点】 実習が中心になるので自立的に活動し、動きやすい服装を心掛けること。基本的な用具（文房具や消耗品等）は各自で用意する。作品制作上必要な、素材、用具（含楽器）の調達も学習の一環とするが、教員が適宜援助する。						
【教科書・参考書など】 「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省 参考文献、作品等は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
【関連科目】 児童文化演習Ⅰ、歌唱法、造形表現Ⅰ、造形表現Ⅱ、器楽Ⅰ、器楽Ⅱ						
【成績評価方法】 分担活動での成果を50%、作品全体での協調・貢献度を50%で総合的に評価する。						

科目名	家族支援論			担当者	石川 円	
英文名	Theory of Family Support					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・選択
【目的とねらい】 この授業の目的とねらいは次のとおりである。(1) 家族の意義と役割について理解する。(2) 家族の諸相と社会状況の変化について理解する。(3) 子育て支援体制の変遷と多様化について理解する。(4) 保育士による家族支援の意義と内容について理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 家族を支援するということ 【 到達目標 】 (1) 「家族」の定義を理解する。 (2) 保育士養成課程における本科目の位置づけを理解する。 【授業時間外学習】 受講前にシラバスの内容を確認しておく。			第9回 海外における家庭支援 【 到達目標 】 (1) 海外の子育て支援について知る。 【授業時間外学習】 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。			
第2回 日本の家庭の変化 【 到達目標 】 (1) 社会の変化と家族に与えた影響について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。			第10回 発達に応じた親子関係と支援 【 到達目標 】 (1) 子どもの発達に対応した家庭支援を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。			
第3回 保育士による家庭支援の基本 【 到達目標 】 (1) 家庭支援における保育士の役割を理解する。 【授業時間外学習】 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。			第11回 特別なニーズのある子どもと家族 【 到達目標 】 (1) 障害や慢性疾患など、特別なニーズがある子どもとその家族への支援を知る。 【授業時間外学習】 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。			
第4回 子どもから見た生活 【 到達目標 】 (1) 子どもの視点から家族や人間関係、地域社会を捉える。 【授業時間外学習】 テーマに関連する新聞記事を集める。			第12回 家族のかかえる問題 【 到達目標 】 (1) 家族がかかえる問題に注目し、その対処について理解する。 【授業時間外学習】 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。			
第5回 親になるということ 【 到達目標 】 (1) 親に「なる」とはどういうことか、理解する。 【授業時間外学習】 テーマに関連する新聞記事を集める。			第13回 虐待と家庭支援 【 到達目標 】 (1) 虐待を受けている子どもとその家族への対策について知る。 【授業時間外学習】 テーマに関連する新聞記事を集める。			
第6回 子育てへの社会的支援 【 到達目標 】 (1) 子育て支援の変遷や内容について理解する。 【授業時間外学習】 自分の暮らす地域の子育て支援について調べる。			第14回 家族への個別的な支援 【 到達目標 】 (1) 保育者によるソーシャルワークの展開の具体例を参考に、理解する。 【授業時間外学習】 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。			
第7回 保育所における家族支援 【 到達目標 】 (1) 保育所におけるソーシャルワークについて理解する。 【授業時間外学習】 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。			第15回 家族支援の課題と今後の展望 【 到達目標 】 (1) 家族支援の課題と今後の展望について考える。 【授業時間外学習】 受講前に教科書（テーマに該当する章）を読んでおく。			
第8回 地域の子育て家庭への支援 【 到達目標 】 (1) 地域における保育所の役割と地域の子育て家庭への支援を知る。 【授業時間外学習】 テーマに関連する新聞記事を集める。						
【学習上の留意点】 普段から家族や子育てなどに関する事例に興味を持ち、授業に参加してほしい。						
【教科書・参考書など】 加藤邦子他編著『子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論』福村出版、2015年						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業中の課題を30%、期末レポートを70%として評価する。						

科目名	ことばの研究			担当者	松崎史周	
英文名	Language Studies					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4					専門基礎・選択
【目的とねらい】 保育書籍のレビューや実習経験の振り返りをもとに、子どもの言葉を育て、保護者との信頼関係を築く保育のあり方について理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 授業の概要と進め方を知り、学習の心構えを形成する。発表の準備の方法を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。授業のポイントをまとめる。			第9回 保育者の言葉遣い 【 到達目標 】 保育現場における言葉遣いや話し方を学び、保育者に必要な言語表現力を高める。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。授業のポイントをまとめる。			
第2回 子どもを育てる言葉かけ 【 到達目標 】 場面に応じた言葉かけや言葉の選び方について学び、子どもを育む言葉かけのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。自らの実習経験を振り返る。			第10回 連絡帳の書き方① 【 到達目標 】 連絡帳の意義や書き方を学び、目的に応じた文面を考える。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。連絡帳の文面を考える。			
第3回 子どもに語るおはなし 【 到達目標 】 保育現場におけるおはなしについて学び、子どもに伝わるおはなしのポイントを理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。年中行事のおはなしを作成する。			第11回 連絡帳の書き方② 【 到達目標 】 実際の場面を想定して実践的に学び、連絡帳の書き方のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。連絡帳の文面を考える。			
第4回 子どもの話し合いとその支援 【 到達目標 】 子どもの話し合いと保育者の関わりを学び、一緒に活動する力を養う保育について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。子どもの話し合いの支援について考える。			第12回 保育文書の基本 【 到達目標 】 保育文書の書式や書き方を学び、保育者に必要な言語表現力を高める。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。保護者向け連絡文書の文面を考える。			
第5回 絵本を活用した保育 【 到達目標 】 絵本を活用した保育について学び、絵本から始まる保育活動を計画・実践できる。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本から始まる保育活動を考える。			第13回 クラスだよりの書き方① 【 到達目標 】 クラスだよりの種類や書き方を学び、目的に応じた文面を考える。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。クラスだよりの文面を考える。			
第6回 文字に親しむ保育 【 到達目標 】 子どもの書字の実態を知り、子どもの文字習得とその支援について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。文字に親しむ保育を考える。			第14回 クラスだよりの書き方② 【 到達目標 】 実際の場面を想定して実践的に学び、クラスだよりの書き方のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。クラスだよりの文面を考える。			
第7回 小学校との連続性 【 到達目標 】 小学1年生の国語学習について学び、小学校生活・学習につながることばの力を考える。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。1時間分の国語の授業を構想してみる。			第15回 保育実務における保育者のことば 【 到達目標 】 保護者との信頼関係を築く保育とは何かを考え、今後の保育への心構えを形成する。 【授業時間外学習】 配付資料とノートを読み返して、授業での学びを振り返る。			
第8回 子どものことばを育む保育 【 到達目標 】 子どもの言葉を育む保育とは何かを考え、今後の保育への心構えを形成する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。授業のポイントをまとめる。						
【学習上の留意点】 指定されたテーマについて、保育書籍の要点をまとめ、発表を行ってもらう。そのうえで、担当者が解説を行ったり、創作・討論活動を行ったりする形で授業を進める。毎時間の最後には授業での学びをまとめる振り返りシートを書いてもらう。各時間の学習テーマを意識しながら授業内容を理解し、振り返りをまとめるようにすること。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定せず、授業資料を配付する。						
【関連科目】 保育内容の研究（言葉）						
【成績評価方法】 個人発表10%、授業の振り返り40%、試験50%として総合的に評価する。						

科目名	生活科			担当者	鈴木信夫	
英文名	Life Environment Studies					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4					専門基礎・選択
【目的とねらい】 小学校低学年に設置されている生活科は、体験や野外の活動・遊び等を重視しており、幼稚園教育と小学校教育との一貫性を図る意味をもっている。この生活科の具体的な内容を学習していく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 「生活科」の授業の概要とねらいを理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。			第9回 リサイクルおもちゃ(1) 【 到達目標 】 おもちゃを作り、それで遊ぶことによって、遊びを工夫したり、周囲と協力する能力を向上させることを理解する。 【授業時間外学習】 リサイクルおもちゃの作り方についてインターネットで調べること。			
第2回 生活科とは 【 到達目標 】 「生活科」が小学校低学年に設置されるようになった背景を知り、「生活科」の意義と目的を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。			第10回 リサイクルおもちゃ(2) 【 到達目標 】 普段はゴミとして捨ててしまうような素材を利用して、実際にリサイクルおもちゃを作成し、遊び方の例を示す(課題)。 【授業時間外学習】 リサイクルおもちゃを作って、発表できるよう準備をすること。			
第3回 昆虫の特徴 【 到達目標 】 小さい子ども達が興味を示す生き物として、昆虫を取り上げ、その特徴や生態の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで昆虫の特徴について調べ、授業の理解をさらに深めること。			第11回 いきものがし(1) 【 到達目標 】 冬になると多くの生き物は姿を消してしまうが、それぞれの方法で春を待っていることを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでミノムシについて調べ、授業の理解を深めること。			
第4回 動物の飼育と観察 【 到達目標 】 小動物を飼育することの意義を理解する。また、その一例としてモンシロチョウの飼育と観察の要点を理解する。 【授業時間外学習】 大学周辺の畑でモンシロチョウの産卵を観察すること。			第12回 いきものがし(2) 【 到達目標 】 生き物を積極的に呼び戻す方法として、エコアップの技術を理解する。また、ピオトープの例としてトンボ池の意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでピオトープの作り方を調べ、授業の理解を深めること。			
第5回 野鳥観察 【 到達目標 】 校庭や公園で見られる都市鳥を覚えることで、野鳥観察の基本を理解する。 【授業時間外学習】 大学周辺や自宅周辺で、授業で習った都市鳥を探すこと。			第13回 成長の記録(1) 【 到達目標 】 「成長の記録」を作成する意義と目的を理解する。 【授業時間外学習】 生活科の単元、「成長の記録」について意義と問題点について考察すること。			
第6回 植物の特徴 【 到達目標 】 植物、特に顕花植物の分類体系の基本を理解する。 【授業時間外学習】 大学周辺や自宅周辺のタンポポが、セイヨウタンポポかカントウタンポポか調べること。			第14回 成長の記録(2) 【 到達目標 】 実際に、「成長の記録」を作成し、発表する(課題)。 【授業時間外学習】 自分の「成長の記録」を作成し、授業で発表できるよう準備すること。			
第7回 植物の栽培と観察(1) 【 到達目標 】 小学校低学年でよくおこなわれている、アサガオの栽培の基本を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでアサガオの栽培について調べ、授業の理解をさらに深めること。			第15回 記録する道具 【 到達目標 】 子ども達の様々な活動を記録する道具として、カメラの仕組みと撮影方法の基本を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでデジタルカメラの仕組みについて調べること。			
第8回 植物の栽培と観察(2) 【 到達目標 】 冬季における植物の栽培例として、チューリップやヒアシンスの栽培の基本を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで球根植物について調べ、授業の理解を深めること。						
【学習上の留意点】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。課題として、「リサイクルおもちゃ」と「成長の記録」を作成するので、指定された期日までに必ず準備すること。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に使用せず、プリントを配布する。						
【関連科目】 保育内容の研究(環境)						
【成績評価方法】 課題を30%、テストを70%として評価する。 試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	子どもの健康と運動			担当者	森田陽子	
英文名	Health and Physical Education for Children					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別				専門基礎・選択
【目的とねらい】 乳幼児が自ら積極的に体を動かして活動に取り組み、心身ともに健康な生活を営むためには、どのような援助が必要なのかを理解する。様々な観点からの知識を得ることは、適時に適切な援助ができることに繋がることを学習する。保育者を目指す者として、乳幼児期の発育・発達の基礎を理解し、さまざまな事例を知ること、実践で役立つ力を身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)授業内容や評価方法について知る。 (2)実習期間の授業について計画を立てる。 【授業時間外学習】 この授業での目的とねらいを確認し、各自の学習目標をレポートする。			第9回 幼児の運動能力についてーその1ー 【 到達目標 】 (1)日本の体力測定 of 歴史と現状について知る。 (2)日本の子どもの運動能力測定について知る。 【授業時間外学習】 幼児の運動能力についての学びをレポートする。			
第2回 妊婦と運動 【 到達目標 】 (1)妊娠中の母体の変化を知る。 (2)妊婦と運動について学ぶ。 【授業時間外学習】 妊婦と運動についての学びをレポートする。			第10回 幼児の運動能力についてーその2ー 【 到達目標 】 (1)全国で行われている幼児の運動能力の調査結果を知る。 (2)附属みどり幼稚園の測定計画をたてる。 【授業時間外学習】 幼児の運動能力についての学びをレポートする。			
第3回 赤ちゃん体操 【 到達目標 】 (1)赤ちゃん体操の歴史・実際を知る。 (2)ベビーマッサージについて知る。 【授業時間外学習】 赤ちゃん体操についての学びをレポートする。			第11回 子どもとスポーツーその1ー 【 到達目標 】 (1)運動能力と運動指導との関係を知る。 (2)現場における運動指導の問題点を知る。 【授業時間外学習】 子どもとスポーツについての学びをレポートする。			
第4回 発育発達 【 到達目標 】 (1)出生前の発育・発達について知る。 (2)出生後の発育・発達について知る。 【授業時間外学習】 発育発達についての学びをレポートする。			第12回 子どもとスポーツーその2ー 【 到達目標 】 (1)運動指導の問題点を改善するためにはどのような対策が必要か考えてみる。 【授業時間外学習】 子どもとスポーツについての学びをレポートする。			
第5回 脳と運動 【 到達目標 】 (1)脳の発達と運動との関係について学ぶ。 【授業時間外学習】 脳と運動についての学びをレポートする。			第13回 親と子の運動あそびーその1ー 【 到達目標 】 (1)スキンシップを楽しむあそびの必要性を知る。 【授業時間外学習】 親と子の運動あそびについての学びをレポートする。			
第6回 運動発達 【 到達目標 】 (1)運動動作の発達について学ぶ。 【授業時間外学習】 運動発達についての学びをレポートする。			第14回 親と子の運動あそびーその2ー 【 到達目標 】 (1)身近にあるものや誰でも知っている曲に合わせて親子で楽しめるあそびを考えてみる。 【授業時間外学習】 親と子の運動あそびについての学びをレポートする。			
第7回 発達段階と事故 【 到達目標 】 (1)子どもの発達段階と事故発生との関係を知る。 【授業時間外学習】 発達段階と事故発生についての学びをレポートする。			第15回 保育現場で実践されている様々な取り組みについて 【 到達目標 】 (1)実習先で、近隣の施設で取り組んでいる特徴ある活動について報告し、感想や意見を述べ合う。 【授業時間外学習】 保育現場で実践されている様々な取り組みについての学びをレポートする。			
第8回 年齢と性差 【 到達目標 】 (1)年齢と性による発育・発達の違いを知る。 【授業時間外学習】 年齢と性差についての学びをレポートする。			*実習などの関係で変更することがある。			
【学習上の留意点】 単元に応じた資料を基に講義を行う。さらに内容に即したビデオを使ってより理解が深められるように授業を展開していく。						
【教科書・参考書など】 必要に応じて資料を配布する。						
【関連科目】 子どもの運動発達、幼児体育、運動あそび、保育内容の研究（健康）						
【成績評価方法】 毎回のレポート30%、提出された課題70%。						

科目名	造形表現 I			担当者	望月久也	
英文名	Formative Expression I					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・選択
【目的とねらい】 子どもと造形という観点に立ち、基本的な造形素材の特質および表現技法と、構成や色彩に関する理論等を、主に平面的創作を通じて学び、指導者としての基礎技能を身につけるとともに、自らの表現力と教材への応用力を養う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 「造形表現」とは何か 【 到達目標 】 子どもの遊びから芸術作品まで幅広く捉える。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第9回 色彩の表現（調和と対比） 【 到達目標 】 バランスのとり方（4色）を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第2回 観察と描写（3次元から2次元へ） 【 到達目標 】 空間を平面として表現する方法を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第10回 平面構成（分割） 【 到達目標 】 美的な分割の方法を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第3回 観察と描写（形の捉え方） 【 到達目標 】 形をしっかりと見て、描くことができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第11回 平面構成（統合） 【 到達目標 】 まとめ方と変化のつけ方を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第4回 観察と描写（構図と空間） 【 到達目標 】 適切な配置とバランスを理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第12回 平面構成（配色） 【 到達目標 】 美的な配色の方法を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第5回 観察と描写（明暗とタッチ） 【 到達目標 】 面の変化と光との関係を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第13回 染色（パターン） 【 到達目標 】 効果的な染め方ができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第6回 色彩について 【 到達目標 】 色とは何かを理解し、正しい色とその名称を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第14回 染色（コラーージュ） 【 到達目標 】 染めたものを作品に仕上げる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第7回 色彩の表現（色の三要素） 【 到達目標 】 色の特徴を知り、表現に生かす。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第15回 講評 【 到達目標 】 これまでの作品を全員で鑑賞し、相互に適切な講評を行う。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第8回 色彩の表現（補色対比） 【 到達目標 】 適切な配色（2色）ができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。						
【学習上の留意点】 実習が中心になるので自立的に活動し、造形作業のしやすい服装を心掛けること。基本的な用具（水彩絵具や文房具等）は各自で用意する。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
【関連科目】 造形表現II、保育内容の研究（表現B）						
【成績評価方法】 課題作品（結果）を50%、制作過程を50%で総合的に評価する。						

科目名	造形表現Ⅱ			担当者	望月久也	
英文名	Formative Expression Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門基礎・選択
【目的とねらい】 1年次の造形表現Ⅰで培った基本的な技能や理論を展開させ、主に立体的、空間的創作を通じて、各種造形素材の特質や複合的な表現技法等を学び、指導者としての基礎技能を発展させるとともに、自らの表現力と教材への応用力を高める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 造形表現と時間 【 到達目標 】 視覚芸術と時間との関係を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第9回 立体表現 (デザイン) 【 到達目標 】 粘土の特性と立体の構造を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第2回 平面表現から立体表現へ 【 到達目標 】 2次元から3次元へ展開する方法を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第10回 立体表現 (粘土1) 【 到達目標 】 構造を考え正しい手順で作業できる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第3回 半立体表現 (デザイン) 【 到達目標 】 浮き彫り、機能と装飾の関係を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第11回 立体表現 (粘土2) 【 到達目標 】 可塑性を生かした効果的な表現ができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第4回 半立体表現 (木彫1) 【 到達目標 】 木材の特性と道具の使い方を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第12回 立体表現 (粘土3) 【 到達目標 】 全体と細部を調整しながら仕上げる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第5回 半立体表現 (木彫2) 【 到達目標 】 正しく安全な道具の使い方ができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第13回 立体表現 (プラスチック) 【 到達目標 】 プラスチックの特性を知り、表現に生かす。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第6回 半立体表現 (木彫3) 【 到達目標 】 美的で効果的な彫りができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第14回 光と立体 (ミクスト・メディア) 【 到達目標 】 発光と立体を調和させた表現を理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第7回 半立体表現 (着色と仕上げ1) 【 到達目標 】 美的で効果的な着色ができる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第15回 講評 【 到達目標 】 これまでの作品を全員で鑑賞し、相互に適切な講評を行う。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第8回 半立体表現 (着色と仕上げ2) 【 到達目標 】 塗装の意義を理解し、適切に仕上げる。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。						
【学習上の留意点】 実習が中心になるので自立的に活動し、造形作業のしやすい服装を心掛けること。基本的な用具（水彩絵具や文房具等）は各自で用意する。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
【関連科目】 造形表現Ⅰ、保育内容の研究（表現B）						
【成績評価方法】 課題作品（結果）を50%、制作過程を50%で総合的に評価する。						

科目名	言語表現			担当者	松崎史周	
英文名	Language Expression					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・選択
【目的とねらい】 児童文化財に関する知識を身に付け、実践演習を通して技術を習得し、保育者に必要とされる言語表現技術を向上させる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス／絵本を読む観点 【 到達目標 】 授業の概要や進め方を理解し、学習の心構えを形成する。絵本を読む観点を学び、自主的に読み進める。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートを作成する。			第9回 紙芝居実演の方法 【 到達目標 】 紙芝居実演の方法を学び、ペアで相互に練習し合っ、紙芝居実演のコツを掴む。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			
第2回 保育者の言語表現 【 到達目標 】 保育現場における保育者の言語表現について知り、言語表現を学ぶ意義を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第10回 紙芝居の実演 【 到達目標 】 グループ内で相互に紙芝居の実演を行って、子どもが楽しめる演出の方法を追求する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			
第3回 物語の読みと表現 【 到達目標 】 グループで物語を読み、作品理解に基づく読み方を考え、読み聞かせの基本を理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第11回 言葉遊びを楽しむ 【 到達目標 】 言葉遊びを通して、言葉の面白さ、表現することの楽しさに触れる。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			
第4回 絵本を知る 【 到達目標 】 様々な絵本に触れながら、絵本の種類や特質について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第12回 児童文化財の実演発表の準備 【 到達目標 】 おはなし会の形態や手法について知り、グループごとに実演の計画を立て、役割分担をする。 【授業時間外学習】 おはなし会に向けて、練習を繰り返す。絵本ノートの記入を行う。			
第5回 読み聞かせの方法 【 到達目標 】 読み聞かせのポイントを学び、ペアで相互に練習し合っ、読み聞かせのコツを掴む。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第13回 児童文化財の実演発表① 【 到達目標 】 グループごとに絵本・紙芝居の実演発表を行い、他者の実演を観て自己の実演に活かす点を見出す。 【授業時間外学習】 おはなし会に向けて、練習を繰り返す。			
第6回 読み聞かせの実演 【 到達目標 】 グループ内で相互に絵本の紹介と読み聞かせを行って、子どもが楽しめる読み聞かせ法を追求する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第14回 児童文化財の実演発表② 【 到達目標 】 グループごとに絵本・紙芝居の実演発表を行い、他者の実演を観て自己の実演に活かす点を見出す。 【授業時間外学習】 おはなし会に向けて、練習を繰り返す。絵本ノートの記入を行う。			
第7回 読み聞かせの実際 【 到達目標 】 読み聞かせ場面の映像を観て、年齢別の読み聞かせの方法について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第15回 保育者と児童文化財 【 到達目標 】 児童文化財の言語表現における保育者の心構えを確認する。 【授業時間外学習】 配布プリントを読み返して、授業での学びを振り返る。			
第8回 紙芝居を知る 【 到達目標 】 様々な紙芝居に触れながら、紙芝居の歴史や特質、種類について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。						
【学習上の留意点】 ・授業は講義と演習を組み合わせで行う。演習には積極的に取り組み、言語表現技術の向上に努めること。なお、第13・14回には児童文化財の実演発表を行ってもらう。 ・自主的に絵本を読み進めて、「絵本ノート」の記入を行い、児童文化財を観る目を養ってもらう。 ・時間の最後には授業での学びをまとめる振り返りシートを書いてもらう。各時間の学習テーマを意識しながら授業内容を理解し、振り返りをまとめられるようにすること。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定せず、授業資料を配付する。						
【関連科目】 保育内容の研究（言葉）、児童文化演習Ⅰ						
【成績評価方法】 児童文化財の実演発表20%、絵本ノート20%、授業の振り返り20%、試験40%として総合的に評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	子どもと運動（総合演習）			担当者	井筒 紫乃・笹倉 清則 佐藤麻衣子・森田 陽子	
英文名	Child's Activity					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・選択
【目的とねらい】 子どものあそびの発生や身体の発達段階を理解した上で、子どもの成長の過程でどのような運動が子どもの発達を刺激し、どのような方法で体得していくのが望ましいのかについて学習する。具体的には、幼児期に獲得させたい「走・跳・投・回転」運動を取り上げ学習する。また、伝承あそびについても学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション・課題確認 【 到達目標 】 (1)授業の進め方を理解する。 (2)担当教員を知り、それぞれの内容についての説明を理解する。 【授業時間外学習】 「走・跳・投・回転」運動、伝承あそびの学習準備をする。			第9回 ヨーロッパの遊具を使って 【 到達目標 】 (1)ヨーロッパで子供に向けて開発されている遊具を知る。 【授業時間外学習】 ヨーロッパの遊具を知り、その指導・実践につなげる。第6回～第9回の学びをレポートする。			
第2回 走動作を中心に 【 到達目標 】 (1)幼児と関わるために必要な第一次信号系・第二次信号系を知る。 (2)動きを観察する能力を高める。 【授業時間外学習】 走動作を理解し、指導・実践につなげる。			第10回 回転運動を中心にーその1ー 【 到達目標 】 (1)マットに親しむあそびを体験する。 (2)回転動作を含む動作を体験する。 【授業時間外学習】 マットを使った回転運動を理解し、指導・実践につなげる。			
第3回 跳動作を中心に 【 到達目標 】 (1)観察した動きを模倣する。 (2)動きを模倣すると同時に気持ちも共感する。 【授業時間外学習】 跳動作を理解し、指導・実践につなげる。			第11回 回転運動を中心にーその2ー 【 到達目標 】 (1)跳び箱を使って回転動作を体験する。 (2)平均台を使って回転動作を体験する。 【授業時間外学習】 跳び箱を使った回転運動を理解し、指導・実践につなげる。			
第4回 走運動のパリエーションを創り出す動きを中心に 【 到達目標 】 (1)走ることを楽しむためのさまざまな動きを体験する。 (2)跳ぶことを楽しむためのさまざまな動きを体験する。 【授業時間外学習】 走運動を理解し、指導・実践につなげる。			第12回 回転運動を中心にーその3ー 【 到達目標 】 (1)トランポリンを使って楽しく跳ぶことを体験する。 (2)トランポリンを使って回転動作を体験する。 【授業時間外学習】 トランポリンを使った回転運動を理解し、指導・実践につなげる。第10回～第12回の学びをレポートする。			
第5回 跳運動のパリエーションを創り出す動きを中心に 【 到達目標 】 (1)跳ぶことを楽しむためのさまざまな動きを体験する。 【授業時間外学習】 跳運動を理解し、指導・実践につなげる。第2回～第5回の学びをレポートする。			第13回 伝承あそびについてーその1ー 【 到達目標 】 (1)伝承遊びの実態について知る。 (2)お手玉・けん玉の体験をする。 【授業時間外学習】 伝承あそび（お手玉・けん玉）を理解し、指導・実践につなげる。			
第6回 投動作を中心にーその1ー 【 到達目標 】 (1)紙飛行機や紙風船などを使って投げるあそびを体験する。 (2)投げる受けるあそびを通して体の使い方を理解する。 【授業時間外学習】 投動作（紙飛行機や紙風船などを使って）を理解し、指導・実践につなげる。			第14回 伝承あそびについてーその2ー 【 到達目標 】 (1)鬼ごっこ・集団ゲームなどを体験する。 (2)日本のあそび・外国のあそびについて知る。 【授業時間外学習】 伝承あそび（鬼ごっこ他）を理解し、指導・実践につなげる。			
第7回 投動作を中心にーその2ー 【 到達目標 】 (1)ビーンズバックを使って投げる受けるあそびを体験する。 (2)投げる受けるあそびを通して体の使い方を理解する。 【授業時間外学習】 投動作（ビーンズバックを使って）を理解し、指導・実践につなげる。			第15回 親子で運動を楽しむことについて 【 到達目標 】 (1)親子で体を動かすことの大切さを知る。 (2)いくつかの親子体操を体験する。 (3)保育現場で行われている取り組みなどを体験する。 【授業時間外学習】 親子の運動遊びを理解し、指導・実践につなげる。第13回～第15回の学びをレポートする。			
第8回 投動作を中心にーその3ー 【 到達目標 】 (1)フリスビーを作って、あそぶことを体験する。 (2)スポンジボール・ハンドボールなどを投げることを体験する。 【授業時間外学習】 投動作（フリスビーを作って、あそぶこと）を理解し、指導・実践につなげる。						
【学習上の留意点】 それぞれの実技特性に合わせた運動着・運動靴などを準備すること。怪我や事故のないように自己の体調管理には十分気をつけて授業に臨むこと。						
【教科書・参考書など】 必要に応じて資料を配布する。						
【関連科目】 子どもの運動発達、幼児体育、運動あそび						
【成績評価方法】 単元ごとの課題及びレポート提出60%、単元ごとの実技テスト40%。						

科目名	子ども観察演習			担当者	中道直子	
英文名	Seminar in People-watching in Preschool					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門基礎・選択
【目的とねらい】 よりよい保育を実践するためには、子どもの心身の発達やその時の様子（心情など）を具体的な観察を通して客観的かつ正確に把握することが求められる。本授業では、保育現場や観察室での子どもの姿の観察体験を通して、観察のためのポイントを体験的に理解していくとともに受講者の「観察する力」を養成することを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション（観察者としての態度） 【到達目標】 (1)本授業での約束事や、観察者として相応しい態度を学習する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第9回 面接法2 実践① 【到達目標】 (1)面接法を用いて子どもの発達を調べる手法を習得する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第2回 自然観察法1 時間見本法① 理論と技法 【到達目標】 (1)行動観察法の種類とその手法について理解する。 (2)時間見本法の定義と特徴、その手法や留意点を説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第10回 面接法3 実践② 【到達目標】 (1)面接法を用いて子どもの発達を調べる手法を習得する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第3回 自然観察法2 時間見本法② 実践とまとめ方（大人） 【到達目標】 (1)時間見本法を用いて大人の行動を観察できる。 (2)時間見本法によって得たデータを正しくまとめることができる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第11回 面接法4 まとめ方 【到達目標】 (1)面接法によって得たデータを正しくまとめることができる。 【授業時間外学習】 観察結果に基づき、レポートを作成する。			
第4回 自然観察法3 時間見本法③ 実践とまとめ方（子ども） 【到達目標】 (1)時間見本法を用いて子どもの行動を観察できる。 (2)大人の行動と子どもの行動を観察するときの違いを理解する。 【授業時間外学習】 観察結果に基づき、レポートを作成する。			第12回 実験的観察法1 理論と技法 【到達目標】 (1)実験的観察法の定義と特徴、その手法や留意点を説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第5回 自然観察法4 事象見本法① 理論と技法 【到達目標】 (1)事象見本法の定義と特徴、その手法や留意点を説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第13回 実験的観察法2 実践① 【到達目標】 (1)実験的観察法を用いて子どもの発達を調べる手法を習得する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第6回 自然観察法5 事象見本法② 実践とまとめ方（大人） 【到達目標】 (1)事象見本法を用いて大人の行動を観察できる。 (2)事象見本法によって得たデータを正しくまとめることができる。 【授業時間外学習】 観察結果に基づき、レポートを作成する。			第14回 実験的観察法3 実践② 【到達目標】 (1)実験的観察法を用いて子どもの発達を調べる手法を習得する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第7回 自然観察法6 事象見本法③ 実践とまとめ方（子ども） 【到達目標】 (1)事象見本法を用いて子どもの行動を観察できる。 (2)大人の行動と子どもの行動を観察するときの違いを理解する。 【授業時間外学習】 観察結果に基づき、レポートを作成する。			第15回 実験的観察法4 まとめ方 【到達目標】 (1)実験的観察法によって得たデータを正しくまとめることができる。 【授業時間外学習】 観察結果に基づき、レポートを作成する。			
第8回 面接法1 理論と技法 【到達目標】 (1)面接法の定義と特徴、またその手法や留意点を説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。						
【学習上の留意点】 ① 松原校舎での授業である。附属みどり幼稚園の子どもたちを交えての演習も予定しているため、保育者を目指す学生としての節度ある言動・態度をわきまえること。 ② 観察結果に基づき複数回レポートを作成し、提出する。						
【教科書・参考書など】 市販の教科書は使用せず、適宜授業時に配布するプリント教材を使用する。 《参考書》 ①「心理学マニュアル 観察法」中澤潤他編著（北大路書房）②「心理学マニュアル 面接法」保坂亨他編著（北大路書房）						
【関連科目】 保育・教育心理学、保育・教育心理学演習、子どもとあそび						
【成績評価方法】 授業時のレポートの提出状況及びその内容を100%として評価する。						

科目名	子どものスポーツプログラミング			担当者	井筒紫乃	
英文名	Sports Programing for Children					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門基礎・選択
【目的とねらい】 子どもの発育・発達に応じて、運動や将来のスポーツ活動や健康な日常生活の基本となる「動き」の習得を促すために、将来保育士や子どものスポーツ指導を目指す者がどのように関与すべきかを理解する。そして具体的にいろいろな年代の子ども達に、どのような遊びや動きを通してスポーツの基礎となるものを習得させるか、そして積極的に運動に取り組む習慣を身につけさせるかについての方法を考え、実践する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 ガイダンスでこの授業の必要性やこの授業によって獲得してほしい能力について理解する。また、実際に身体を動かしながら、体得し実践できる力を養う。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第9回 子どもの体力向上を目指す遊び③ 【 到達目標 】 「投動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第2回 子どもの運動遊びの実際① 【 到達目標 】 「歩く」「走る」「跳ぶ」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第10回 子どもの体力向上を目指す遊びの指導 【 到達目標 】 7・8・9回の学びから、現代社会の問題点である「子どもの体力向上」を目指し、幼稚園や保育園でできる遊びや運動について、その指導案を考案する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第3回 子どもの運動遊びの実際② 【 到達目標 】 「道具を使わない運動遊び」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第11回 発表・グループワーク 【 到達目標 】 「体力向上のための」遊びや運動の指導を実際に行い、それぞれの考え方やその問題点を検討し、よりよいものを完成させる。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第4回 子どもの運動遊びの実際③ 【 到達目標 】 「道具を使った運動遊び」を実際に行いながら、遊びのねらい、援助、環境設定、安全への配慮を学ぶ。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第12回 総合的実践指導① 【 到達目標 】 幼稚園や保育園で親子のコミュニケーションをとりながら、どちらも運動を楽しめるような「親子で運動」という観点で、どのような運動ができるか、その遊びを紹介する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第5回 子どもの運動遊びの指導 【 到達目標 】 2・3・4回の授業で行った、「子どもの運動遊び」の学びから、その指導案を考案する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第13回 総合的実践指導の創作 【 到達目標 】 これまでの授業の学びの中から、子どもたちに「運動遊び」「スポーツ指導」をする際の指導案を考案する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第6回 発表・グループワーク 【 到達目標 】 実際に指導を行い、それぞれの良い点、修正点を検討し、よりよいものを完成させる。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第14回 発表・グループワーク 【 到達目標 】 各自が考案した指導案を実際に発表する。他者の指導案と比較検討し、自分の目指すもの、今後の自分の考え方の参考とする。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			
第7回 子どもの体力向上を目指す遊び① 【 到達目標 】 「走動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。			第15回 総合的実践指導② 【 到達目標 】 これまでのそれぞれの課題に対して学んできた「動き」「遊び」に対して、子どもの発育発達段階を考慮しながら、どのように子ども自身が積極的に運動に取り組む習慣を身につけるかをまとめる。 【授業時間外学習】 授業で学んだ内容についてレポートにまとめる。			
第8回 子どもの体力向上を目指す遊び② 【 到達目標 】 「跳動作」を獲得させる動き作りのために、発育発達段階を考慮しながら、その発育にあった遊びの導入・展開を創作する。 【授業時間外学習】 子どもの運動遊びに関連する書籍を読む。						
【学習上の留意点】 基本的に実技を伴う授業なので、必ず運動できる服装に着替えること。自分たちが考案した指導案を実行するなかで、運動が発生する感覚を、子どもが実際に身につけられるかを検証しながら考えることが大切である。また他の班の考案した指導案を実施し、お互いに意見を出しながら各自の指導案を完成させる。完成した指導案を全員が共有し、各々が現場で実践できるように学習する必要がある。尚、本授業は実際に園児が参加する場合もあることから、服装、シューズには留意すること。						
【教科書・参考書など】 開講時に随時紹介する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 授業の習熟度、積極性・理解度50%、指導案・実技指導50%で評価する。						

科目名	運動あそび			担当者	桐川 敦子・森田 陽子	
英文名	Plays and Games for Children					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・選択
【目的とねらい】 設定された運動あそびのテーマについて、対象となる幼児の発達に適した指導案を作成し事前指導を受ける。作成した指導案に基づき附属みどり幼稚園の園児とともに運動あそびを実践する。実践の後にディスカッションを行うことで、次週への課題を得るという演習形式で授業を展開する。事前、実践、事後の指導を通して、子どもを主体にした運動あそびはどのように行われるべきか、子どもがあそびを発見し創造し発展させていく活動の中で保育者がどのように準備し、どのように見守り、どのように関わればよいのかについて学ぶことを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1)オリエンテーションを受け、授業の進行について理解する。 (2)指導案の作成の仕方を理解する。 (3)ディスカッションの観点、評価の仕方について理解する。 【授業時間外学習】 指導立案の準備をする。			第9回 功技台を使ってあそぶ…年長児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			
第2回 リーダーの決定、遊具の確認 【 到達目標 】 (1)計画表に基づき指導担当を決め、原案を検討する。 (2)施設や遊具について確認し、環境構成について考える。 【授業時間外学習】 指導立案の準備をする。			第10回 マットを使ってあそぶ…年中児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			
第3回 ボールを使ってあそぶ…年長児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			第11回 功技台を使ってあそぶ…年中児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			
第4回 手具を使ってあそぶ…年長児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			第12回 遊具を使わないあそび…年少児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			
第5回 運動能力測定を実施する…全園児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。 (2)担当した種目の測定を実施する。 (3)子どもの様子を観察し、ノートに記録する。 (4)測定結果のデータを整理する。 【授業時間外学習】 事後学習として授業内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			第13回 遊具を使わないあそび…年長児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			
第6回 ボールを使ってあそぶ…年中児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			第14回 人気の遊具を使ってあそぶ…年中児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			
第7回 手具を使ってあそぶ…年中児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			第15回 人気の遊具を使ってあそぶ…年長児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。			
第8回 マットを使ってあそぶ…年長児 【 到達目標 】 (1)担当のリーダーは指導案を作成し、事前指導を受ける。(2)作成した指導案を基に運動あそびを実践する(関わりの中で学んだことをノートに記録する)。(3)実践を振り返りディスカッションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習としてディスカッションの内容や実践の振り返りをノートにまとめる。						
【学習上の留意点】 子どもと直接関わる授業なので、学生としてというよりも、教員としてふさわしい服装、髪型で出席すること。毎週2・3人のリーダーがあそびを展開していくことになるので十分に検討して指導案を作成し、事前指導を受けること。実践では内容や言葉かけが年齢に合っていたか、安全面の配慮はなされていたか、子どもが主体で楽しんでいたかなどについて記録する。記録に基づきディスカッションをする。ディスカッションによって得られた課題を次週に活かしていく。						
【教科書・参考書など】 「保育の中の運動あそび」石井美晴・菊地秀範編著(萌文書林)						
【関連科目】 子どもとあそび、子どもの運動発達、幼児体育						
【成績評価方法】 実践指導70%(指導案作成、指導の実践、ディスカッション、実践後提出された指導案)、提出されたノートの内容を30%、を目安に評価する。						

科目名	歌唱法			担当者	諸富満希子	
英文名	Singing					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・選択
【目的とねらい】 基礎となる正しい発声法を学ぶことによって、保育現場に立った時、疲労しにくい無理のない声で指導ができるようになることを目標とする。そして、子どもたちに音楽を通して楽しい表現活動を提供できるように、現場に直結した「歌う」「動く」などの力を養う。また、独唱・重唱・合唱などの様々な歌唱形態を体験し、授業内での発表を通して、人前で豊かに表現することを学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 声の出るしくみ 【 到達目標 】 声の出るしくみを理解し、声を大切にする必要性を学ぶ。			第9回 子どものうた④ 【 到達目標 】 夏が題材になった曲をマスターする。			
第2回 発声法の訓練（毎時間行）① 【 到達目標 】 基本的な発声練習に慣れる。			第10回 日本歌曲を歌う① 【 到達目標 】 きれいな日本語の歌い方を学ぶ。			
第3回 ソルフェージュの訓練（毎時間行） 【 到達目標 】 音符の長さ・休符の長さなどを正確に理解する。			第11回 日本歌曲を歌う② 【 到達目標 】 詩の意味を考えながら、心をこめて歌う。			
第4回 母音のトレーニング① 【 到達目標 】 a, oの母音を中心に口の開け方を学ぶ。			第12回 女声2部合唱① 【 到達目標 】 声の重なり合う美しさを感じる。			
第5回 母音のトレーニング② 【 到達目標 】 i, eの母音を中心に口の開け方を学ぶ。			第13回 女声2部合唱② 【 到達目標 】 他のパートの音をよく聴きながら歌う。			
第6回 子どものうた① 【 到達目標 】 春が題材になった曲をマスターする。			第14回 鑑賞① 【 到達目標 】 プロの歌うオペラ・アリアや歌曲を味わう。			
第7回 子どものうた② 【 到達目標 】 園生活でよく取り上げられるうたをマスターする。			第16回 鑑賞② 【 到達目標 】 ミュージカルなどの舞台作品を味わう。			
第8回 子どものうた③ 【 到達目標 】 園生活でよく取り上げられるうたをマスターする。						

次ページに続く

科目名	歌唱法			担当者	諸 富 満 希 子	
英文名	Singing					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・選択
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 発声法の訓練（毎時間行）② 【 到達目標 】 母音を中心とした発声の訓練を再開する。			第24回 子どものうた⑦ 【 到達目標 】 冬が題材になった曲をマスターする。			
第17回 子どものうた⑤ 【 到達目標 】 秋が題材になった曲をマスターする。			第25回 子どものうた⑧ 【 到達目標 】 卒園式などでよく取り上げられるうたをマスターする。			
第18回 子どものうた⑥ 【 到達目標 】 園生活でよく取り上げられるうたをマスターする。			第26回 女声3部合唱① 【 到達目標 】 各自のパートの音を正確に歌えるようにする。			
第19回 動きを伴ううた① 【 到達目標 】 手あそびや身体を使いながら歌ううたを実践しながら覚える。			第27回 女声3部合唱② 【 到達目標 】 他のパートの音も聴きながら、響き合いを感じる。			
第20回 動きを伴ううた② 【 到達目標 】 手あそびや身体を使いながら歌ううたを創作する。			第28回 発表会準備 【 到達目標 】 子どものうたを中心としたプログラムをグループごとに考える。			
第21回 わらべうたであそぶ 【 到達目標 】 古くから伝承されているわらべうたをあそびとともに覚える。			第29回 発表会リハーサル 【 到達目標 】 発表会に向けて、音楽的な演出を工夫する。			
第22回 イタリア歌曲を歌う① 【 到達目標 】 イタリア語の発音に挑戦し、明るい声の響きをめざす。			第30回 発表会 【 到達目標 】 発表会における自分の役割を確実に果たす。			
第23回 イタリア歌曲を歌う② 【 到達目標 】 イタリア語の発音に慣れ、歌曲を仕上げる。						
【授業時間外学習】 毎日発声練習をおこなうとともに、日常生活における声の使い方に注意を払う。学習したうたはすべて覚えること。						
【学習上の留意点】 発声・音楽的な基礎練習は毎回行う。2年次の「保育内容の研究（表現A）」で、幼稚園に行き園児といっしょに歌うので、1年次のうちにしっかり声を出し、子どものうたに慣れ親しむこと。一定の水準になるまで繰り返し学習を継続するため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。						
【教科書・参考書など】 「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社） その他適宜楽譜を配布する。						
【関連科目】 音楽表現Ⅰ、音楽表現Ⅱ、保育内容の研究（表現A）、ソルフェージュ（楽典）						
【成績評価方法】 コールユーブンゲン・コンコーネ・日本歌曲・イタリア歌曲・2部合唱などの実技演奏能力60%、 授業内課題・発表会への取り組み方40%で評価する。						

科目名	ソルフェージュ（楽典）			担当者	森 立 子	
英文名	Solfège (Musical Grammar)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・選択
【目的とねらい】 楽器の演奏、歌唱、創作等、音楽活動において欠かすことの出来ない楽典の知識を深め、読譜力を付けることを目的とする。また、聴音やリズム打ちの練習を通して、音感、リズム感を養う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 音楽と楽譜 【 到達目標 】 音楽と楽譜の関係を理解する。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			第9回 音階－1 【 到達目標 】 長音階を理解する。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			
第2回 五線と音部記号 【 到達目標 】 五線と3種の音部記号について理解する。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			第10回 音階－2 【 到達目標 】 短音階を理解する。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			
第3回 音名と階名 【 到達目標 】 独、日、英、伊の4種音名を覚える。 階名の意味を理解する。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			第11回 移調 【 到達目標 】 移調楽譜の作成と、移調奏が出来るようになる。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			
第4回 音符と休符 【 到達目標 】 音符と休符の意味と正しい書き方を覚える。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			第12回 転調 【 到達目標 】 転調の意味を理解する。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			
第5回 拍子 【 到達目標 】 拍子と拍の関係を理解し、正しく数えられるようになる。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			第13回 和音とコードネーム 【 到達目標 】 和音とコードネームを理解する。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			
第6回 リズム 【 到達目標 】 付点音符、連符を含めたリズムを正しく打てるようになる。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			第14回 音楽用語・記号 【 到達目標 】 頻出する用語・記号を覚える。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			
第7回 音程－1 【 到達目標 】 1、4、5、8度音程を理解する。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			第15回 復習 【 到達目標 】 総合問題を解く。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。			
第8回 音程－2 【 到達目標 】 2、3、6、7度音程を理解する。 【授業時間外学習】 授業時に課題する復習問題を解く。						
【学習上の留意点】 各回の授業は、それ以前の授業の内容を理解しているという前提の上で展開される。従って、復習をしっかりと行い、欠席はしないよう注意すること。						
【教科書・参考書など】 『これだけは知ってほしい楽典 はじめの一步』 カワイ出版						
【関連科目】 歌唱法、器楽Ⅰ、器楽Ⅱ、音楽表現Ⅰ、音楽表現Ⅱ						
【成績評価方法】 楽典問題の筆記テスト（聴音を含む）100%の割合で評価する。						

科目名	器楽 I			担当者	諸富満希子・森 立子 今角 夏織・辛島安妃子	
英文名	Instrumental Music I					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・選択
【目的とねらい】 ピアノ演奏技能の基礎を学びながら、高い感性を培うことを目標とする。 少人数のグループレッスンの形態でスタートし、経験度、到達度に応じた個人レッスンも交えて指導する。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 ピアノ演奏のための基本的事項について 【 到達目標 】 楽譜と鍵盤の関係、指番号などピアノ演奏の基本的事項を理解する。			第9回 バイエル80番 【 到達目標 】 軽快な3拍子に乗って弾く。			
第2回 パーナムピアノテクニク① 【 到達目標 】 レガート・スタッカート奏法をマスターする。			第10回 音階練習C dur 【 到達目標 】 C durの音階とカデンツの練習を通して、調性を理解する。			
第3回 パーナムピアノテクニク② 【 到達目標 】 和音・分散和音の奏法をマスターする。			第11回 音階練習a moll 【 到達目標 】 a mollの音階とカデンツの練習を通して平行調について学び、その調性を理解する。			
第4回 パーナムピアノテクニク③ 【 到達目標 】 フレージングを理解する。			第12回 バイエル81番 【 到達目標 】 イ長調に慣れる。弱起のリズムを理解して弾く。			
第5回 バイエル58番・61番 【 到達目標 】 楽曲の構造を理解して弾く。 右手のメロディーを強めに弾くとともに、左手の伴奏を柔らかく演奏する。(58番) 付点のリズムを正確に演奏する。(61番)			第13回 バイエル87番 【 到達目標 】 右手・左手がずれないように16分音符を正確に演奏し、教員と連弾する。			
第6回 バイエル66番・67番 【 到達目標 】 8分の6拍子を理解して弾く。(66番) 重音の上声部の音ができるだけつながるように、手首を柔らかく保ち弾く。(67番)			第14回 復習 【 到達目標 】 前期に学習した曲の復習をする。			
第7回 バイエル73番 【 到達目標 】 臨時記号に慣れる。			第16回 連弾の準備 【 到達目標 】 Diabelliの作品をとおして連弾曲について理解し、練習の仕方を学ぶ。			
第8回 バイエル78番 【 到達目標 】 3声部構造を理解して弾く。						

次ページに続く

科目名	器楽 I			担当者	諸富満希子・森 立子 今角 夏織・辛島安妃子	
英文名	Instrumental Music I					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門基礎・選択
【授業内容・到達目標など】 ※後期 15 回分						
第16回 連弾① 【 到達目標 】 連弾におけるパート1の役割を理解する。			第24回 バイエル97番 【 到達目標 】 平行3度をバランス良く弾く。			
第17回 連弾② 【 到達目標 】 連弾におけるパート2の役割を理解する。			第25回 バイエル99番 【 到達目標 】 変ロ長調に慣れる。			
第18回 連弾③ 【 到達目標 】 アンサンブルの練習をする。呼吸を合わせて演奏する。			第26回 バイエル100番 【 到達目標 】 3部形式とコーダを理解して弾く。			
第19回 連弾④ 【 到達目標 】 パートナー、パートをチェンジしてアンサンブルの練習をする。呼吸を合わせて演奏する。			第27回 発表会の準備① 【 到達目標 】 発表会の曲を教員と相談のうえ決定し、楽譜をしっかりと読む。			
第20回 バイエル88番 【 到達目標 】 付点のリズムをレガートに弾けるようにする。			第28回 発表会の準備② 【 到達目標 】 C dur・a mollの音階とカデンツを復習する。 発表会の曲を正確に演奏する。			
第21回 バイエル90番 【 到達目標 】 8分の6拍子を理解して弾く。バランスのとれた連打ができる。			第29回 発表会の準備③ 【 到達目標 】 曲想を感じ表現するとともに、技術の向上と確実な暗譜をめざす。			
第22回 バイエル93番 【 到達目標 】 一時的な平行調への転調を意識して弾く。			第30回 発表会 【 到達目標 】 発表会を開く。			
第23回 バイエル94番 【 到達目標 】 へ長調に慣れる。左手の伴奏形を正確に弾く。						
【授業時間外学習】 毎日の練習を欠かさずおこなう。また、教員が注意した部分を取り出して練習する。						
【学習上の留意点】 レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。 個人レベルに差があるため、シラバス通りには進まない場合が多い。 教員が認めた場合、ソナチネなどに進む場合もある。						
【教科書・参考書など】 「バーナムピアノテクニック」（全音楽譜出版）、「バイエル」（全音楽譜出版） 連弾のための楽譜は配布する。						
【関連科目】 歌唱法、ソルフエージュ（楽典）						
【成績評価方法】 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。						

科目名	器楽Ⅱ			担当者	諸富満希子・森 立子 今角 夏織・辛島安妃子	
英文名	Instrumental Music Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門基礎・選択
【目的とねらい】 器楽Ⅰ（1年次）で学んだピアノ演奏の基礎をふまえ、さらに演奏技術の向上をめざす。 レベルに応じた個人レッスンをおこなうが、各自が演奏技術だけでなく、豊かで自然な表現力を持って演奏することができることを目標とする。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 バイエル<small>の</small>復習① 【 到達目標 】 器楽Ⅰで学習したバイエルをもとに、基礎を再確認する。			第9回 ブルグミュラー14番 【 到達目標 】 3拍子を軽快に演奏する。情景を思い浮かべながら表現できるよう心がける。			
第2回 バイエル<small>の</small>復習② 【 到達目標 】 器楽Ⅰで学習したバイエルをもとに、テクニックを強化する。			第10回 ブルグミュラー15番 【 到達目標 】 左手のメロディーを生かしながら、緊迫感のある演奏をする。			
第3回 ブルグミュラー2番 【 到達目標 】 一定の速さの中で、16分音符が均等に弾けるようにする。			第11回 ブルグミュラー19番 【 到達目標 】 レガート奏法を学ぶとともに、ペダルの踏み方を再確認する。			
第4回 ブルグミュラー3番 【 到達目標 】 音楽的表現を試みるとともに、ペダルの踏み方を学ぶ。			第12回 ブルグミュラー21番 【 到達目標 】 左手と右手のスムーズな移動を学ぶ。音が濁らないようにペダルを上手に踏む。			
第5回 ブルグミュラー5番 【 到達目標 】 なめらかな連指を学ぶ。			第13回 音階復習C dur・a moll 【 到達目標 】 器楽Ⅰで学んだスケールとカデンツを復習する。			
第6回 ブルグミュラー8番 【 到達目標 】 音のムラがないように演奏する。			第14回 音階練習G dur・e moll① 【 到達目標 】 平行調について学ぶ。和声的・旋律的短音階の区別を理解する。			
第7回 ブルグミュラー10番 【 到達目標 】 ニ長調に慣れる。ゆっくりした速さの中で、音楽的に表現する。			第16回 音階練習F dur・d moll① 【 到達目標 】 平行調について学ぶ。和声的・旋律的短音階の区別を理解する。			
第8回 ブルグミュラー13番 【 到達目標 】 メロディーを保持して聞かせることを学ぶ。楽曲の構成を意識する。						

次ページに続く

科目名	器楽Ⅱ			担当者	諸富満希子・森 立子 今角 夏織・辛島安妃子	
英文名	Instrumental Music Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門基礎・選択
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 プルグミュラー25番 【 到達目標 】 情景を思い浮かべ、音楽的に演奏する。			第24回 ピアノ名曲集より選曲⑧ 【 到達目標 】 ロシアの作曲家の作品に触れる。			
第17回 ピアノ名曲集より選曲① 【 到達目標 】 古典派の作曲家たちのスタイルを理解しながら、形式美を学ぶ。			第25回 音階練習G dur・e moll② 【 到達目標 】 前期に学習したスケールとカデンツを復習する。			
第18回 ピアノ名曲集より選曲② 【 到達目標 】 古典派の作曲家たちのスタイルを理解しながら、形式美を学ぶ。			第26回 音階練習F dur・d moll② 【 到達目標 】 前期に学習したスケールとカデンツを復習する。			
第19回 ピアノ名曲集より選曲③ 【 到達目標 】 ロマン派の作曲家たちのスタイルを理解し、表現力の幅を広げる。			第27回 発表会の準備① 【 到達目標 】 発表会で弾く曲を選び、正確に楽譜を読む。			
第20回 ピアノ名曲集より選曲④ 【 到達目標 】 ロマン派の作曲家たちのスタイルを理解し、表現力の幅を広げる。			第28回 発表会の準備② 【 到達目標 】 曲想を感じ表現するとともに、技術の向上をめざす。			
第21回 ピアノ名曲集より選曲⑤ 【 到達目標 】 印象派の音の世界における光と影を感じながら演奏する。			第29回 発表会の準備③ 【 到達目標 】 各楽章における曲想の違いに配慮して、音楽を組み立てる。			
第22回 ピアノ名曲集より選曲⑥ 【 到達目標 】 印象派の音の世界における光と影を感じながら演奏する。			第30回 発表会 【 到達目標 】 人前で音楽的に演奏する。			
第23回 ピアノ名曲集より選曲⑦ 【 到達目標 】 ロシアの作曲家の作品に触れる。						
【授業時間外学習】 読譜を正確におこなったうえで、毎日の練習を欠かさずおこなう。また、教員が注意した部分を取り出して練習する。						
【学習上の留意点】 レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。 個人レベルに差があるため、シラバス通りには進まない場合が多い。						
【教科書・参考書など】 「プルグミュラー25の練習曲」（全音楽譜出版）、「ソナチネアルバム」（全音楽譜出版）、「学習者のためのピアノ名曲選」（ドレミ出版）						
【関連科目】 器楽Ⅰ、ソルフェージュ（楽典）						
【成績評価方法】 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。						

科目名	野外スポーツ実習Ⅰ（スキー）			担当者	森田陽子	
英文名	Practice of Outdoor Sports I (Skiing)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別	専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 スキー未経験者や初級者レベルを主な対象として、スキーの基本技術や理論、ルールやマナーを学習し、整地されたグレンデで安全に楽しく滑降する技術を習得することを目的とする。今後、習得した技術をさらに積み重ね、生涯スポーツの一つとして自然のなかで大いに楽しむことができる基礎作りとなることをねらいとしている。 授業形態は、事前事後指導と、4泊5日の宿泊集中授業で行うので、併せて集団生活についても学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 スキー用具の取り扱い方、基本的な動作、操作 【 到達目標 】 (1) スキー用具の取り扱い方法を理解する。 (2) スキー用具の装着方法を理解する。 (3) スキーを装着しての距離感覚を理解する。			第9回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1) 横ずれの少ないブルークボーゲンの操作方法を理解する。 (2) 内スキーの引きよせの方法を理解する。 (3) シュテムターンの初歩で緩斜面を滑る。			
第2回 方向変換、歩行、滑走 【 到達目標 】 (1) 踏み替えによる方向変換法を理解する。 (2) 平地歩行感覚を理解する。 (3) 平地滑走感覚を理解する。 (4) 正しい転び方、立ち方を理解する。			第10回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 内スキーの引きよせのタイミングを理解する。 (2) シュテムターンで緩斜面を滑る。 (3) 素早い内スキーの引きよせ (4) 一定のリズムを保ってパラレルターンの初歩で滑る。			
第3回 登行、直滑降、ブルーク、制動と停止 【 到達目標 】 (1) 直滑降時の基本姿勢（スタンス）を理解する。(2) 直滑降で滑る。(3) ブルーク時の基本姿勢を理解する。(4) ブルークで滑る。(5) 直滑降から制動ブルークの方法を理解し、制動をおこなう。(6) ブルークからさらにテールを押し開く動作を理解する。(7) 階段登行時のインエッジとアウトエッジの使用法を理解する。(8) 開脚登行時のインエッジの使用法を理解する。(9) 階段登行、開脚登行で緩斜面を登る。			第11回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 内スキーの引きよせのタイミングを理解する。 (2) シュテムターンで緩斜面を滑る。 (3) 素早い内スキーの引きよせ (4) 一定のリズムを保ってパラレルターンの初歩で滑る。			
第4回 登行、直滑降、ブルーク、制動と停止 【 到達目標 】 (1) 直滑降時の基本姿勢（スタンス）を理解する。(2) 直滑降で滑る。(3) ブルーク時の基本姿勢を理解する。(4) ブルークで滑る。(5) 直滑降から制動ブルークの方法を理解し、制動をおこなう。(6) ブルークからさらにテールを押し開く動作を理解する。(7) 階段登行時のインエッジとアウトエッジの使用法を理解する。(8) 開脚登行時のインエッジの使用法を理解する。(9) 階段登行、開脚登行で緩斜面を登る。			第12回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 中斜面をパラレルターンの初歩で滑る。 (2) 中斜面をトレーンでパラレルターンの初歩で滑る。			
第5回 ブルーク、ブルークボーゲン 【 到達目標 】 (1) 直滑降→ブルークの連続押し出しを理解する。 (2) 直滑降→ブルークの交互押し出しを理解する。 (3) ブルークの山まわりで加重配分を理解する。 (4) 左右スキーへの荷重移動で浅い連続回転を理解する。 (5) 浅い連続回転でブルークボーゲンの初歩で滑る。			第13回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1) 中斜面をパラレルターンの初歩で滑る。 (2) 中斜面をトレーンでパラレルターンの初歩で滑る。			
第6回 ブルークボーゲン 【 到達目標 】 (1) 滑らかな脚の曲げ伸ばしで滑る方法を理解する。 (2) 一定のリズムを保って中ターンで滑ることを理解する。 (3) ブルークボーゲンで緩斜面を滑る。 (4) 一定のリズムを保って中ターンで滑る。 (5) ショートターンのリズムを理解する。 (6) ショートターンで緩斜面を滑る。			第14回 総合滑走（スキー初級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1) 総合斜面を基礎技術や応用技術で自由に滑る。 (2) 総合斜面を基礎技術や応用技術でデモンストレーションする。			
第7回 ブルークボーゲン 【 到達目標 】 (1) 滑らかな脚の曲げ伸ばしで滑る方法を理解する。 (2) 一定のリズムを保って中ターンで滑ることを理解する。 (3) ブルークボーゲンで緩斜面を滑る。 (4) 一定のリズムを保って中ターンで滑る。 (5) ショートターンのリズムを理解する。 (6) ショートターンで緩斜面を滑る。			第15回 総合滑走（スキー初級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1) 総合斜面を基礎技術や応用技術で自由に滑る。 (2) 総合斜面を基礎技術や応用技術でデモンストレーションする。			
第8回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1) 横ずれの少ないブルークボーゲンの操作方法を理解する。 (2) 内スキーの引きよせの方法を理解する。 (3) シュテムターンの初歩で緩斜面を滑る。						
【授業時間外学習】 自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。						
【学習上の留意点】 事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習（新潟参加者¥60,000程度、北海道参加者¥85,000）に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、女子学生らしさを常に持って行動をすることを心がける。宿泊を伴うので、集団生活のあり方を十分理解し、他人に迷惑がかからないように心配りをする。 実習はグループ毎に活動するので、グループの指導者に従い積極的に参加するようにし、リーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。						
【関連科目】 野外教育論						
【成績評価方法】 レポート10%、スキー技術の習熟度80%、集団生活の適応度10%。						

科目名	野外スポーツ実習Ⅰ（スケート）			担当者	湯 田 淳	
英文名	Practice of Outdoor SportsⅠ（Skating）					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1		専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 スケートの未経験者及び初級レベルを対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、グループスケーティング等について学習及び実習を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス（事前ガイダンス（学内）1） 【 到達目標 】 実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。			第9回 応用技術（連続滑走、停止）（学外実習7） 【 到達目標 】 ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でブレーキング及び停止をできるようにする。			
第2回 スケートの概要（事前ガイダンス（学内）2） 【 到達目標 】 ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。			第10回 グループスケーティング（学外実習8） 【 到達目標 】 2～3人のグループで滑走できるようにする。			
第3回 リンクでの安全な行動法、基礎技術（前進滑走）（学外実習1） 【 到達目標 】 氷上への安全な入退場、安全な転倒法、転倒後の立ち上がり法を実践する。前方への歩行、滑走をできるようにする。			第11回 グループミーティング（発表準備）（学外実習9） 【 到達目標 】 編成したグループでの演技発表の内容を作成する。			
第4回 グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習2） 【 到達目標 】 実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。			第12回 応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習10） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続してできるようにする。フォークダンス（汽車）を音楽に合わせてできるようにする。			
第5回 講義（学外実習3） 【 到達目標 】 スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解説を行い、概略を理解する。			第13回 グループスケーティング、ミニホッケー（導入）（学外実習11） 【 到達目標 】 実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践する。			
第6回 基礎技術（前進滑走、後進滑走）（学外実習4） 【 到達目標 】 前進滑走および後方への歩行、滑走をできるようにする。			第14回 試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習12） 【 到達目標 】 実習班ごとの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケーティングを音楽に合わせて実践する。			
第7回 基礎技術（カーブ滑走）（学外実習5） 【 到達目標 】 前進滑走から半円上を惰力滑走できるようにする。			第16回 試験、グループによる演技発表（学外実習13） 【 到達目標 】 試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケーティングを発表する。			
第8回 基礎技術（ターン滑走）（学外実習6） 【 到達目標 】 前進滑走から後進滑走、後進滑走から前進滑走へ変換できるようにする。						
【授業時間外学習】 自身の滑走動作改善のための課題を確認し、改善のための方策を検討する。						
【学習上の留意点】 学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さらに他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。参考書としては「アイススケーティングの基礎」（大学スケート研究会編）を推薦する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 実技試験を40%、演技発表を40%、実習レポートを20%の割合として評価する。						

科目名	野外スポーツ実習Ⅱ（スキー）			担当者	森田陽子	
英文名	Practice of Outdoor Sports II (Skiing)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別	専門基礎・選択		専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 スキー初級者レベル以上を主な対象として、スキーの基本技術や応用技術、発展技術とそれらの理論、ルールやマナーを学習し、圧雪されたゲレンデや自然のままのゲレンデを安全に楽しく滑降する技術を習得することを目的とする。今後、スキーを様々な対象者に指導できる基礎作りとなることをねらいとしている。授業形態は、事前事後指導と、4泊5日の宿泊集中授業で行うので、併せて集団生活についても学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 直滑降、ブルーク、斜滑降、横滑りなどの基本的なポジション 【 到達目標 】 (1)直滑降、ブルーク時の基本姿勢を確認する。 (2)斜滑降、横滑りの基本姿勢やエッジングを確認する。 (3)基本のポジションで滑る。			第9回 パラレルターン（大まわり） 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）中急斜面を滑る。			
第2回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1)直滑降→ブルークの連続押し出しや交互押し出しで滑る。(2)ブルークでの山まわりを確認する。(3)ブルーク・ギランデで滑る。(4)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。(5)横ずれの少ないブルークボーゲンで滑る。(6)内スキーの引き寄せの早いタイミングのシュテムターンで滑る。(7)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。			第10回 パラレルターン（小まわり） 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（小まわり）中急斜面を滑る。			
第3回 ブルークボーゲン、シュテムターン 【 到達目標 】 (1)直滑降→ブルークの連続押し出しや交互押し出しで滑る。(2)ブルークでの山まわりを確認する。(3)ブルーク・ギランデで滑る。(4)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。(5)横ずれの少ないブルークボーゲンで滑る。(6)内スキーの引き寄せの早いタイミングのシュテムターンで滑る。(7)ショートリズムのブルークボーゲンで滑る。			第11回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (2)パラレルターン（小まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (3)パラレルターン（大まわり→小まわり）で中急斜面を滑る。 (4)パラレルターン（小まわり→大まわり）で中急斜面を滑る。			
第4回 シュテムターン 【 到達目標 】 (1)シュテム・ギランデで滑る。 (2)シュテムターンで中斜面を滑る。 (3)シュテムターンのトレーンで中斜面を滑る。 (4)シュテムターンで急斜面を滑る。			第12回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (2)パラレルターン（小まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (3)パラレルターン（大まわり→小まわり）で中急斜面を滑る。 (4)パラレルターン（小まわり→大まわり）で中急斜面を滑る。			
第5回 シュテムターン 【 到達目標 】 (1)シュテム・ギランデで滑る。 (2)シュテムターンで中斜面を滑る。 (3)シュテムターンのトレーンで中斜面を滑る。 (4)シュテムターンで急斜面を滑る。			第13回 パラレルターン 【 到達目標 】 (1)パラレルターン（大まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (2)パラレルターン（小まわり）で不整地の中急斜面を滑る。 (3)パラレルターン（大まわり→小まわり）で中急斜面を滑る。 (4)パラレルターン（小まわり→大まわり）で中急斜面を滑る。			
第6回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1)シュテムターンのトレーンで中急斜面を滑る。 (2)パラレ・ギランデで滑る。 (3)パラレルターンで中斜面を滑る。 (4)パラレルターンのトレーンで中斜面を滑る。			第14回 総合滑走（中・上級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1)総合斜面を応用技術や発展技術で自由に滑る。 (2)総合斜面を応用技術や発展技術でデモンストレーションする。			
第7回 シュテムターン、パラレルターン 【 到達目標 】 (1)シュテムターンのトレーンで中急斜面を滑る。 (2)パラレ・ギランデで滑る。 (3)パラレルターンで中斜面を滑る。 (4)パラレルターンのトレーンで中斜面を滑る。			第16回 総合滑走（中・上級者として習得した技術を確認する） 【 到達目標 】 (1)総合斜面を応用技術や発展技術で自由に滑る。 (2)総合斜面を応用技術や発展技術でデモンストレーションする。			
第8回 ストックワーク 【 到達目標 】 (1)ブルークの交互押し出しをしながらストックワークをする。 (2)直滑降でサイドステップしながらストックワークをする。 (3)シュテムターンをしながらストックワークをする。 (4)パラレルターンをしながらストックワークをする。						
【授業時間外学習】 自由時間を利用し、各回の技術を理解・習得し、滑れるようになる。						
【学習上の留意点】 事前・事後指導に参加し、2月に行うスキー実習（新潟参加者¥60,000程度、北海道¥85,000程度）に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、女子学生らしさを常に持って行動することを心がける。宿泊を伴うので、集団生活のあり方を十分理解し、他人に迷惑がかからないように心配りをする。実習はグループ毎に活動するので、グループの指導者に従い積極的に参加するようにし、リーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。						
【関連科目】 野外教育論						
【成績評価方法】 レポート10%、スキー技術の習熟度80%、集団生活の適応度10%。						

科目名	野外スポーツ実習Ⅱ（スケート）			担当者	湯 田 淳	
英文名	Practice of Outdoor Sports Ⅱ (Skating)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		専門基礎・選択			専門基礎・選択
【目的とねらい】 スケートの経験者を対象にして集中授業（3泊4日の学外実習）を実施する。スケートの概要（特性、歴史、用具、技術）、滑走の基礎技術、応用技術、専門技術（スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンス、シンクロナイズドスケート）等について学習及び実習を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス（事前ガイダンス（学内）1） 【 到達目標 】 実習の全体像（宿泊場所、実施場所・施設、日程、時程）を理解する。			第9回 アイスダンス（学外実習7） 【 到達目標 】 アイスダンス（ダッチワルツ）に必要なステップを実践する。			
第2回 スケートの概要（事前ガイダンス（学内）2） 【 到達目標 】 ビデオで、スケートの全体構造及びリンクでの安全な行動法を理解する。			第10回 シンクロナイズドスケート（学外実習8） 【 到達目標 】 シンクロナイズドスケートの要素を実践する。			
第3回 基礎技術（前進、後進、カーブ、ターン滑走）（学外実習1） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走を実践する。			第11回 グループミーティング（発表準備）（学外実習9） 【 到達目標 】 編成したグループでの演技発表の内容を作成する。			
第4回 グループミーティング（目標設定、集団行動）（学外実習2） 【 到達目標 】 実習での個々の目標を明確にする。集団行動についての理解を深める。			第12回 アイスダンス（学外実習10） 【 到達目標 】 アイスダンス（ダッチワルツ）を音楽にあわせて実践する。			
第5回 講義（学外実習3） 【 到達目標 】 スピードスケート、ホッケー、フィギュアスケート、アイスダンスについてビデオ鑑賞し、解説を行い、概略を理解する。			第13回 ミニホッケー（ゲーム）（学外実習11） 【 到達目標 】 ミニホッケーで班対抗のゲームを実践する。			
第6回 応用技術（連続滑走、停止）、グループスケート（学外実習4） 【 到達目標 】 ストロークを大きくし、長い距離を滑走できるようにする。イの字あるいはハの字でブレーキング及び停止をできるようにする。2～3人のグループで滑走できるようにする。			第14回 試験課題の滑走、グループによる演技発表の準備（学外実習12） 【 到達目標 】 実習班ごとの技術試験課題を実践する。編成したグループで演技構成したスケートを音楽に合わせて実践する。			
第7回 応用技術（組み合わせ滑走）、フォークダンス（学外実習5） 【 到達目標 】 前進、後進、カーブ、ターン滑走そして停止を組み合わせ、連続して滑走できるようにする。フォークダンス（汽車）を音楽にあわせてできるようにする。			第16回 試験、グループによる演技発表（学外実習13） 【 到達目標 】 試験課題を達成できるようにする。編成したグループによるグループスケートを発表する。			
第8回 グループスケート、ミニホッケー（導入）（学外実習6） 【 到達目標 】 実習班全員で音楽に合わせて滑走できるようにする。ミニホッケーに必要な基礎技術を実践する。						
【授業時間外学習】 グループスケートの発表内容について、他のグループメンバーの力量を考慮しながら検討する。						
【学習上の留意点】 学外で宿泊して集団生活をしながら行う本実習では、一定期間における食事・睡眠など心身の健康の維持・管理（コンディショニング）が不可欠である。さらに他の学生や一般客そして従業員の方々との交流の中では礼儀やマナーのある行動を必要とする。寒冷な中での実習なので着衣するものに注意が必要である。						
【教科書・参考書など】 教科書は使用しない。参考書としては「アイススケートの基礎」（大学スケート研究会編）を推薦する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 実技試験を40%、演技発表を40%、実習レポートを20%の割合として評価する。						

科目名	野外スポーツ実習（野外活動）			担当者	森田陽子	
英文名	Practice of Outdoor Sports (Outdoor Activity)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2				専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 野外スポーツの内容は非常に多岐にわたる。この授業は自然を活用しておこなうキャンプ（3泊4日）を実施する。キャンプでの体験学習を通して、キャンプに必要な基礎的スキルを習得することや、自然を利用した諸活動を体験することを目的としている。また、自然とヒトとの関わりなどを学ぶことで、自然について深く考えることができるようになることをねらいとしている。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 キャンプ授業の概要 【 到達目標 】 (1) 授業の目的や意義について理解する。 (2) 自然との関わりについて理解する。			第9回 登山 【 到達目標 】 (1) 登山の意義やルートを理解する。 (2) 登山係を中心にグループで計画をする。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			
第2回 グループ編成と役割 【 到達目標 】 (1) グループ活動の意義を理解する。 (2) グループ編成をする。 (3) 各役割の内容を理解する。 (4) 最適な役割を担う。			第10回 登山 【 到達目標 】 (1) 登山の意義やルートを理解する。 (2) 登山係を中心にグループで計画をする。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			
第3回 テントの設営・撤収法 【 到達目標 】 (1) テント設営場所の選び方を理解する。 (2) テントの設営作業手順を理解する。 (3) テントの撤収手順を理解する。 (4) グループでテント設営、撤収をする。 (5) グループでテント宿泊をする。			第11回 ハンドクラフト 【 到達目標 】 (1) キャンプでのクラフトの意義を理解する。 (2) 小枝を用いた作品の作り方を理解する。 (3) ひもを用いた作品の作り方を理解する。 (4) 小石を用いた作品の作り方を理解する。 (5) 各自で作品を制作する。			
第4回 野外炊事 【 到達目標 】 (1) 炊事用具の確認をする。(2) かまどの確認をする。(3) 調理法の確認をする。(4) 飯盒の使用法を理解する。(5) 薪の割方を理解する。(6) 火の付け方や薪のたし方を理解する。(7) 薪でご飯を炊き、おかずを作る。(8) ガスコンロの使い方を理解する。(9) ガスコンロでご飯を炊き、おかずを作る。			第12回 ハンドクラフト 【 到達目標 】 (1) キャンプでのクラフトの意義を理解する。 (2) 小枝を用いた作品の作り方を理解する。 (3) ひもを用いた作品の作り方を理解する。 (4) 小石を用いた作品の作り方を理解する。 (5) 各自で作品を制作する。			
第5回 野外炊事 【 到達目標 】 (1) 炊事用具の確認をする。(2) かまどの確認をする。(3) 調理法の確認をする。(4) 飯盒の使用法を理解する。(5) 薪の割方を理解する。(6) 火の付け方や薪のたし方を理解する。(7) 薪でご飯を炊き、おかずを作る。(8) ガスコンロの使い方を理解する。(9) ガスコンロでご飯を炊き、おかずを作る。			第13回 天文観察 【 到達目標 】 (1) 夏の星座を理解する。 (2) 天体望遠鏡で確認する。 (3) 各自で興味あることについて質問をする。			
第6回 ハイキング 【 到達目標 】 (1) ハイキングの意義や、参考コースを理解する。 (2) ハイキング係を中心にグループでコースを検討、決定する。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			第14回 キャンプファイヤー 【 到達目標 】 (1) キャンプファイヤーの意義を理解する。 (2) キャンプファイヤー係を中心に実施する。			
第7回 ハイキング 【 到達目標 】 (1) ハイキングの意義や、参考コースを理解する。 (2) ハイキング係を中心にグループでコースを検討、決定する。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。			第16回 地域交流 【 到達目標 】 (1) 郷土料理法を地元の方から指導を受ける。			
第8回 ハイキング 【 到達目標 】 (1) ハイキングの意義や、参考コースを理解する。 (2) ハイキング係を中心にグループでコースを検討、決定する。 (3) 計画書を提出しコースを歩く。						
【授業時間外学習】 各回の授業内容を理解し、実践につなげられるようにする。キャンプ実習のレポートを提出する。						
【学習上の留意点】 事前・事後指導に参加し、9月に行うキャンプ実習（¥30,000程度）に参加すること。大学外で授業を展開するので、服装、言葉使いはもちろんのこと、女子学生らしさを常に持って行動をすることを心がける。 キャンプ中はグループ毎に活動することが非常に多いので、積極的にグループに貢献するようにし、各自に役割があるのでリーダーシップを取ることを心がける。用具や用品は大切に取り扱い管理をきちんとすることを心がける。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。実習要項を配布する。						
【関連科目】 野外教育論						
【成績評価方法】 レポート40%、野外教育の理解とそれに伴う技術の習熟度30%、グループへの貢献度30%。						

科目名	生涯スポーツ演習（ゴルフ）			担当者	小林 敬 和	
英文名	Seminar in Lifelong Sports (Golf)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別			専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 本講義は、以下の3点（①～③）を目的として授業を行う。また、技術だけでなく、ゴルフを通して礼儀正しさや、エチケット・マナーを習得する。 ①ゴルフの基礎的なスイング・応用技術の習得 ②ゴルフの特性・ルールの理解 ③ゴルフの基礎的な知識やエチケット・マナーの学習						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 (1) 注意事項・授業の進め方・競技の概要について理解する。 (2) 班を編成し、メンバーと交流を深める。 【授業時間外学習】 ゴルフの運動特性や競技概要について調べる。			第9回 スイング指導④（ロングアイアン） 【 到達目標 】 (1) ロングアイアンの打ち方を身につける。 (2) 他のアイアンと打ち比べて違いを体験する。 【授業時間外学習】 スイングの幅をやや大きくしてハーフショットのイメージでスイングワークをする。			
第2回 アドレス・グリップの指導およびスイング・ドリルの指導① 【 到達目標 】 (1) アドレスの仕方、クラブの握り方を実習する。 (2) スイング・ドリルからスイング中の体重移動の仕方を学ぶ。 【授業時間外学習】 スティック状のものを使ってグリップ（握り方）を確認する。			第10回 アプローチショットの指導 【 到達目標 】 (1) カゴ入れゲームでアプローチショットの感覚をつかむ。 (2) フルショット時の自分の癖を知り、対応する。 【授業時間外学習】 スイングの幅を小さくしアプローチのイメージでスイングワークをする。			
第3回 アドレス・グリップの復習およびスイング・ドリルの指導② 【 到達目標 】 (1) アドレスの仕方、クラブの握り方を復習する。 (2) スイング・ドリルから軸を意識した動きを学ぶ。 【授業時間外学習】 適切なスタンスを確立するための姿勢づくりをイメージする。			第11回 パッティング技術の指導（パター） 【 到達目標 】 (1) パターの構え、ストロークを理解する。 【授業時間外学習】 パターのイメージをつくり小さく押し出す感覚でスイングワークをする。			
第4回 スイング・ドリルの指導③ 【 到達目標 】 (1) スイング・ドリルから腕の動きを学ぶ。 (2) 各スイング・ドリルでの注意点を意識した動きができる。 【授業時間外学習】 両手を合わせて左右にスイング動作（以下スイングワーク）を練習する。			第12回 応用技術の指導（パターゲームの楽しみ方） 【 到達目標 】 (1) 様々なシチュエーションでのパッティングを体験する。 【授業時間外学習】 パターのイメージをつくり小さく押し出す感覚でスイングワークをする。			
第5回 基本動作（各スイング・ドリルとスイングとの関係） 【 到達目標 】 (1) 各スイング・ドリルを意識しながら実際にボールを打つ。 【授業時間外学習】 スイングの幅を小さくしアプローチのイメージでスイングワークをする。			第13回 スイング・応用技術のまとめ① 【 到達目標 】 (1) ショート・ミドル・ロングアイアンの復習をする。 (2) フルショット時の自分の癖を知り、対応する。 【授業時間外学習】 スイングの幅をやや大きくしてハーフショットのイメージでスイングワークをする。			
第6回 スイング指導①（ミドルアイアン） 【 到達目標 】 (1) ミドルアイアンを使用してボールを打つ。 【授業時間外学習】 スイングの幅をやや大きくしてハーフショットのイメージでスイングワークをする。			第14回 スイング・応用技術のまとめ② 【 到達目標 】 (1) ボールコントロールを意識する。 【授業時間外学習】 いろいろなスタンスとスイング幅でスイングワークをする。			
第7回 スイング指導②（ミドルアイアンの復習） 【 到達目標 】 (1) ミドルアイアンの打ち方を身につける。 【授業時間外学習】 スイングの幅をやや大きくしてハーフショットのイメージでスイングワークをする。			第15回 スイング・ドリルおよび技術の完成度の確認 【 到達目標 】 (1) スイング・ドリルのテスト。 (2) 各クラブにおける球の弾道・飛距離を確認する。 【授業時間外学習】 いろいろなスタンスとスイング幅でスイングワークをする。			
第8回 スイング指導③（ショートアイアン） 【 到達目標 】 (1) ショートアイアンの打ち方を身につける。 (2) ミドルアイアンと打ち比べて違いを体験する。 【授業時間外学習】 スイングの幅をやや大きくしてハーフショットのイメージでスイングワークをする。						
【学習上の留意点】 ・安全第一（クラブを持っている人の半径2mは近寄らない、打席には必ずターゲットライン後方から入る等） ・服装はジャージ等運動にふさわしいもの。運動靴の着用（パンプス・サンダル等は減点の対象とする）。 ・長い髪の毛（肩につく長さ）はゴム等でしばる。 ・毎回、個人評価カード（レポート課題を含む）を記入し提出する。 ※最後の2回はゴルフ練習場を使用する実習を予定しており、その際には各自実習費を徴収する（1回あたり500円程度）。						
【教科書・参考書など】 特になし。必要に応じてプリントを配布する。						
【関連科目】 生涯スポーツ演習（テニス）						
【成績評価方法】 レポート課題の達成度（50%）、実技課題の最終的な達成度（50%）により評価する。						

科目名	生涯スポーツ演習（テニス）			担当者	小林 敬 和	
英文名	Seminar in Lifelong Sports (Tennis)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別			専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 テニスはフランスで遊びとして始まり、イギリスでルールが作られスポーツとして発展した。フランスやイギリスの貴族の人々に楽しまれていたのでルールとともにマナーが重んじられるスポーツである。生涯スポーツとして楽しむために、マナーやルール、基礎技術を習得することを目的とし、将来、年齢、性別に関わりなく誰でもゲームを楽しむことを伝えられるようになることがねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 歴史、用具と服装、マナー 【 到達目標 】 (1)テニスの始まり、日本での歴史について理解する。 (2)ラケット、テニスシューズについて理解する。 (3)授業参加時の服装やコートマナーを理解する。 【授業時間外学習】 テニスの歴史や競技特性について調べてみる。			第9回 シングルスゲーム（簡易：ハーフコート） 【 到達目標 】 (1)シングルスゲームをセルフジャッジでする。 (2)シングルスゲームをできるだけ多くおこなう。 【授業時間外学習】 シングルスゲームについて調べ実際のゲームイメージをつかむ。			
第2回 グリップ、スイング、グループ編成 【 到達目標 】 (1)ラケットの選び方を理解する。(2)グリップの種類とその違いを理解する。(3)ラケットスイングの軌道の種類と違いを理解する。(4)スイートスポットを理解する。(5)スイートスポットを意識してボールを扱うことができる。 【授業時間外学習】 スティック状の物を使ってグリップの確認をする。			第10回 ストローク、サービス、サービスリターン、ボレー 【 到達目標 】 (1)クロスでストロークをする。 (2)クロスコートでサービスをする。 (3)クロスコートでサービスリターンをする。(4)ボレーで返球する。 【授業時間外学習】 サービスやボレーのスイングワークを試してみる。			
第3回 フォアハンドストローク、ボレー 【 到達目標 】 (1)手で投げられたボールをフォアハンドボレーで返球する。(2)2人でボレー&ボレーを20回以上連続しておこなう。(3)手で投げられたボールをフォアハンドストロークで返球する。 (4)2人で10回以上ショートラリーを続ける。 【授業時間外学習】 手の平をラケットに例えてプレースメント（角度や高さ）をイメージしてみる。			第11回 ストローク、サービス、サービスリターン、ボレー 【 到達目標 】 (1)クロスでストロークをする。 (2)クロスコートでサービスをする。 (3)クロスコートでサービスリターンをする。(4)ボレーで返球する。 【授業時間外学習】 サービスやボレーのスイングワークを試してみる。			
第4回 フォアハンドストローク、ボレー 【 到達目標 】 (1)手で投げられたボールをフォアハンドボレーで返球する。(2)2人でボレー&ボレーを20回以上連続しておこなう。(3)手で投げられたボールをフォアハンドストロークで返球する。 (4)2人で10回以上ショートラリーを続ける。 【授業時間外学習】 腕全体を使ってスイング動作（以下スイングワーク）を試してみる。			第12回 ダブルスのルールと戦術説明、ダブルスのゲーム練習 【 到達目標 】 (1)ダブルスゲームのルールや戦術を理解する。 (2)ペアを決めてダブルスのゲーム練習をする。 【授業時間外学習】 ダブルスのゲームについて調べ実際のゲームイメージをつかむ。			
第5回 バックハンドストローク 【 到達目標 】 (1)フォアハンドストロークを復習する。(2)出されたボールをバックハンドストロークで返球する。(3)2人でバックハンドストロークでラリーを10回以上続ける。(4)フォアやバックハンドストロークでラリーを10回以上続ける。 【授業時間外学習】 腕全体を使ってスイングワークを試してみる。			第13回 ダブルスゲーム（簡易ゲーム） 【 到達目標 】 (1)ダブルスゲームの審判をする。 (2)ダブルスゲームをする。 (3)ダブルスゲームをセルフジャッジでする。 【授業時間外学習】 ダブルスのゲームや審判法について調べ実際の試合をイメージする。			
第6回 ストローク、サービス、サービスリターン（ストレート） 【 到達目標 】(1)フォアやバックハンドストロークでラリーを15回以上続ける。(2)サービスの方法を理解する。サービスのルールを理解する。(3)サービスコートに入るサービスを打つ。(4)サーバーとレシーバーの役割を理解する。(5)サービスをリターンする。(6)サービスをインかフォルトかをジャッジする。 【授業時間外学習】 腕全体を使ってスイングワークを試してみる。			第14回 ダブルスゲーム（簡易ゲーム） 【 到達目標 】 (1)ダブルスゲームの審判をする。 (2)ダブルスゲームをする。 (3)ダブルスゲームをセルフジャッジでする。 【授業時間外学習】 ダブルスのゲームや審判法について調べ実際の試合をイメージする。			
第7回 ストローク、サービス、サービスリターン（ストレート） 【 到達目標 】(1)フォアやバックハンドストロークでラリーを15回以上続ける。(2)サービスの方法を理解する。サービスのルールを理解する。(3)サービスコートに入るサービスを打つ。(4)サーバーとレシーバーの役割を理解する。(5)サービスをリターンする。(6)サービスをインかフォルトかをジャッジする。 【授業時間外学習】 腕全体を使ってスイングワークを試してみる。			第15回 ダブルスゲーム（審判をしながらゲームの進行の経験） 【 到達目標 】 (1)ルールや簡単な歴史についての理解度の確認。 【授業時間外学習】 実際のテニスプレーやゲームの構造について調べ理解する。			
第8回 シングルスゲーム（簡易：ハーフコート）、ルール説明 【 到達目標 】 (1)簡易ゲームのルールを理解する。 (2)シングルスゲームの審判をする。 (3)シングルスゲームをする。 【授業時間外学習】 シングルスゲームについて調べ実際のゲームイメージをつかむ。						
【学習上の留意点】 実技が中心となるため、靴や服装などはテニスにふさわしいものとし、出席するだけでは、決して技術の習得はできないので、毎回各自で目標を持って積極的に授業を受けること。ルールやマナーを理解し、ゲームがスムーズに進行できるように努める。毎回、個人評価カード（レポート課題を含む）を記入し提出する。						
【教科書・参考書など】 教科書は特に指定しない。参考書などは必要に応じて提示する。						
【関連科目】 生涯スポーツ演習（ゴルフ）						
【成績評価方法】 レポート課題の達成度（50%）、実技課題の最終的な達成度（50%）により評価する。						

科目名	生涯スポーツ演習 (バドミントン)			担当者	落合久夫	
英文名	Seminar in Lifelong Sports (Badminton)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1				専門基礎・選択	専門基礎・選択
【目的とねらい】 生涯スポーツとして親しみやすいバドミントンの特性や試合方法について理解する。 ゲームを行うのに必要な運動技能の向上を目指し、ゲームを楽しく実施できる能力を習得する。 授業を通して、体力の維持・増進に努める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション、グリップ、ラケット遊び 【 到達目標 】 (1)授業の進め方や注意事項について理解する。 (2)ラケットを持つ感覚(グリップ)に慣れる。 【授業時間外学習】 バドミントンとはどういうスポーツかを知る。			第9回 バドミントンに必要なトレーニング、フライトの復習 【 到達目標 】 (1)バドミントンにプラスになるトレーニングを考え、特に、後方への移動の重要性を学ぶ。 【授業時間外学習】 敏捷性を高める運動を調べる。			
第2回 サービス、ストローク (フォア・バック) 【 到達目標 】 (1)サービスの方法を理解する。 (2)フォアハンドストロークやバックハンドストロークを行う。 【授業時間外学習】 うちわ等を使いラケットの返し方を研究する。			第10回 試合方法を映像で学ぶ、ルールの理解 【 到達目標 】 (1)国際レベルの映像を見てイメージづくりや試合の方法を学び、ルールを理解する。 【授業時間外学習】 バドミントンのルールを調べ、手書きのレポートを提出する。			
第3回 バドミントン概説 (歴史等を学ぶ) 【 到達目標 】 (1)やさしい生涯スポーツと、競技性の高いバドミントンを知る。 (2)バドミントンの歴史を学び、現在のバドミントン事情を知る。 【授業時間外学習】 歴史を調べて、手書きのレポートを提出する。			第11回 ゲーム シングルス① 【 到達目標 】 (1)ゲームを体験し、審判ができるようになる。 【授業時間外学習】 シングルスのコートとルールを復習してくる。			
第4回 フライト(シャトルの飛翔)～ハイクリアー、ネットリブライ 【 到達目標 】 (1)ハイクリアー 高く遠くへ飛ばす。 (2)ネットリブライ (ヘアピン) 細やかなラケットワークを覚える。 【授業時間外学習】 プロ野球などを見て、ボールの投げ方を研究する。			第12回 ゲーム シングルス② 【 到達目標 】 (1)対戦相手を変えてゲームをする。 【授業時間外学習】 シングルスをした自己評価をし、『良かったところ』と『悪かったところ』を考える。			
第5回 フライト～スマッシュ、ネット前リターン (ロビング) 【 到達目標 】 (1)スマッシュ 高い打点からスピードや力強さを求める。 (2)ロビング ネット前からの後方へのリターン 【授業時間外学習】 キャッチボールなどをして、ものを投げる方法を研究する。			第13回 ゲーム ダブルス① 【 到達目標 】 (1)ゲームを体験し、シングルスとの違いを知る。 【授業時間外学習】 ダブルスのコートとルールを復習してくる。			
第6回 フライト～ドロップ 【 到達目標 】 (1)ドロップ ネット前に急激に落下するショットを目指す。 【授業時間外学習】 素振りなどを行い復習をする。			第14回 ゲーム ダブルス② 【 到達目標 】 (1)ダブルスの陣型 (トップ&バック・サイドバイサイド)を知る。 (2)対戦相手やペアを替えてゲームをする。 【授業時間外学習】 ペアと上手くできるにはどうするかを考える。			
第7回 フライト～ドライブ、スマッシュレシーブ 【 到達目標 】 (1)ドライブ フォア・バックともスピード感を求める。 (2)スマッシュレシーブ コート奥やネット前に返球する。 【授業時間外学習】 バドミントンのフットワークを調べる。			第15回 団体戦 【 到達目標 】 (1)ダブルス・シングルの団体戦を行う。(みんなでチームと方式を考える) (2)得点・審判を自ら行う。 【授業時間外学習】 チームの決め方、団体戦の方式と運営方法を考えてくる。			
第8回 フットワーク (トラベリング)、フライトの復習 【 到達目標 】 (1)コートの中をスムーズに移動できる方法を学ぶ。 (2)フライトの復習 (ハイクリアーやスマッシュなど) 【授業時間外学習】 フットワーク (動き方)を復習する。						
【学習上の留意点】 バドミントン実技にふさわしい服装で授業に出席すること。 普段から体調管理に気をつけ、万全な体調で授業に臨むこと。 対戦する相手に敬意を払いネットを挟み、誰とも気軽に打ち合うことができるように心がけること。						
【教科書・参考書など】 バドミントンについてのプリントを配布する。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 ゲーム実践の達成度50%、授業への積極的な取り組み度50%						

科目名	スポーツ実習Ⅱ			担当者	笹倉 清則・須甲 理生	
英文名	Sports Exercise Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
【目的とねらい】 <笹倉担当分>ボールを使った球技スポーツに限定し、打球系、送球系、そして蹴球系その他のものに取り組み、基本的な技術習得や動き方を習得する。また、球技における役割分担や協力することで集団としての社会性も身につける。 <亀井担当分>生涯スポーツとしても人気が高まっているフットサルの特性や競技方法を理解し、基礎的な技能を身につけるとともに、ゲームを楽しむことができる基礎的な戦術を身につける。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 ガイダンス 【 到達目標 】 本授業の目的や具体的な内容の理解と天候により教場の変更もあること、そしてこの授業の評価に関して理解する。				第9回 ハンドボールの基本的戦術 「ボールをとる」 【 到達目標 】 ハンドボールのゲームの第一局面「ボールをとる」の意味の理解と、それに必要な技術を習得する。		
第2回 ソフトボールの基本的な技術 投と捕 【 到達目標 】 ソフトボールの基本的な投げ方と安全な捕球の仕方を理解し、習得する。また、ポジションによる投の違いも理解する。				第10回 ハンドボールの基本的戦術 「ボールを進める」 【 到達目標 】 ハンドボールのゲームの第二局面「ボールを進める」の意味を理解し、進めるための技術としてパス、ドリブルを習得する。		
第3回 ソフトボールの基本的な技術 打撃 【 到達目標 】 基本的なバットの握り方から始め、バットスウィングの仕方を理解し習得する。そして実際にボールを使いバットの芯にあてることを習得する。				第11回 ハンドボールの基本的戦術 「シュートをねらう」 【 到達目標 】 ハンドボールのゲームの第三局面「シュートをねらう」の意味を理解する。これまで習得してきたボールをとる。		
第4回 ソフトボールの守備の連携 【 到達目標 】 ソフトボールに必要な内外野の守備位置の理解をし、あわせて実践のなかでそれぞれの役割を理解する。				第12回 ハンドボールの基本的戦術 「戻る」 【 到達目標 】 ハンドボールのゲームの第四局面「戻る」の意味の理解をする。ハンドボールの攻防の切替と全員守備全員攻撃の原則を理解する。		
第5回 ソフトボールの打撃と攻撃戦術 【 到達目標 】 ソフトボールの攻撃の中で打順の意味を理解し、それぞれの場面や打順による打撃の狙いを理解し、実践で対応できるようにする。				第13回 ゲーム形式練習 【 到達目標 】 これまでのゲームの基本的な四つの局面でゲームが構成されていることを理解した上で、ゲームの進行に必要なルールや審判法も理解する。		
第6回 ゲーム形式の実践① 【 到達目標 】 これまでの基礎練習と連携を理解した上で、実践的なゲーム形式で自分の習得レベルの確認をする。				第14回 リーズ戦① 【 到達目標 】 前回実施したゲームから、それぞれのチームでの役割分担やゲームの流れを考えた作戦タイムや、選手交代の方法も理解する。		
第7回 ゲーム形式の実践② 【 到達目標 】 前回のゲームでの修正点を意識しながらゲームを行う。				第16回 リーズ戦② 【 到達目標 】 前回同様のチーム毎のゲームで、前回からの反省や色々な戦術についても理解し、協力しながら実践する。		
第8回 ハンドボールの導入 【 到達目標 】 ハンドボールの基本的なゲームとそこでの技術の理解をする。						

次ページに続く

科目名	スポーツ実習Ⅱ			担当者	笹倉 清則・須甲 理生	
英文名	Sports Exercise Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門基礎・選択
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 ガイダンスと班分けおよびルールの理解 【 到達目標 】 (1)授業の流れを理解し、スポーツ経験を考慮したグループ分けを行う。 (2)フットサルの基本的なルールを理解する。			第24回 3対3のミニゲーム② 【 到達目標 】 (1)オールコートを使った3対3の状況で速攻を有効に使った攻撃ができる。			
第17回 ボールコントロール① 【 到達目標 】 (1)足の裏を使ったボール扱いができる。 (2)ストップやトラップができる。			第25回 3対3のミニゲーム③ 【 到達目標 】 (1)オールコートを使った3対3の状況で速攻を有効に使った攻撃ができる。			
第18回 ボールコントロール② 【 到達目標 】 (1)ドリブルによってボールを運ぶことができる。			第26回 リーグ戦① 【 到達目標 】 (1)チームごとに作戦を考え、優勝を目標にゲームを行う。 (2)チーム内の自分の役割を考え、全員が貢献できるチーム作りを行う。			
第19回 シュート 【 到達目標 】 (1)ドリブルからシュートができる。 (2)パスを受けてからシュートができる。			第27回 リーグ戦② 【 到達目標 】 (1)チームごとに作戦を考え、優勝を目標にゲームを行う。 (2)チーム内の自分の役割を考え、全員が貢献できるチーム作りを行う。			
第20回 パスワーク 【 到達目標 】 (1)2対1の状況でディフェンスにボールを奪われずにパスをつなぐことができる。 (2)3対2の状況でディフェンスにボールを奪われずにパスをつなぐことができる。			第28回 リーグ戦③ 【 到達目標 】 (1)チームごとに作戦を考え、優勝を目標にゲームを行う。 (2)チーム内の自分の役割を考え、全員が貢献できるチーム作りを行う。			
第21回 2対1 【 到達目標 】 (1)2対1の状況でシュートまで持っていくことができる。			第29回 リーグ戦④ 【 到達目標 】 (1)チームごとに作戦を考え、優勝を目標にゲームを行う。 (2)チーム内の自分の役割を考え、全員が貢献できるチーム作りを行う。			
第22回 3対2 【 到達目標 】 (1)3対2の状況でシュートまで持っていくことができる。			第30回 リーグ戦⑤ 【 到達目標 】 (1)チームごとに作戦を考え、優勝を目標にゲームを行う。 (2)チーム内の自分の役割を考え、全員が貢献できるチーム作りを行う。			
第23回 3対3のミニゲーム① 【 到達目標 】 (1)オールコートを使った3対3の状況で速攻を有効に使った攻撃ができる。						
【授業時間外学習】 ＜笹倉担当＞球技の中で、直接手で扱うハンドボールでボールの操作の仕方、投げ方を理解し習得する。あわせて幼児に指導する際の指導方法を身につけ実践する。また、用具を操作する種目で操作のポイントや指導方法の理解と実践をおこなう。＜須甲担当＞フットサルに関するルールや技術などを調べる。						
【学習上の留意点】 ＜笹倉担当＞実習が中心となるため、服装やアクセサリ等は身につけずに安全に配慮すること。また、外での授業の際には日差しや熱射病への対策を各自でも注意すること。用具を用いた球技としてのソフトボール、直接手で扱う球技としてのハンドボールの新しい技術を自らが習得するとともに、子どもたちにその運動を発生させるための感覚的なものを意識しながら学習に取り組んでほしい。＜須甲担当＞実習が中心となる上に、身体接触を伴う競技であるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特に、ピアス、ネックレス、指輪等のアクセサリ類は決して身につけない。						
【教科書・参考書など】 特になし。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 ＜笹倉＞技術や戦術的な達成度を70%、ルールの理解やゲームの進行について30%。＜須甲＞授業ごとの課題の達成度を30%、各技術の習得レベルを30%、ゲームの実践能力を20%、テストの結果を20%の割合として評価する。最終的に笹倉担当、須甲担当を総合して評価する。						

科目名	ダンス・メソッド			担当者	松山善弘	
英文名	Dance Method					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2		スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
【目的とねらい】 音楽と融合したナチュラルで快い情緒的な動きやリズムカルな動きなど、ダンスムーブメントの基礎的な技能を習得し、ダンスの表現特性について理解するとともに、自己の表現力も高め、豊かな身心の育成をはかる。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 授業の進行についてのオリエンテーション 【 到達目標 】 授業の進行について理解する。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第9回 表現練習1 【 到達目標 】 身体運動を通じた表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第2回 リラクゼーションの習得1 【 到達目標 】 リラクゼーションの仕方をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第10回 表現練習2 【 到達目標 】 身体運動を通じた表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第3回 リラクゼーションの習得2 【 到達目標 】 リラクゼーションの仕方をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第11回 表現練習3 【 到達目標 】 身体運動を通じた表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第4回 リラクゼーションの習得3 【 到達目標 】 リラクゼーションの仕方をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第12回 課題による身体表現1 【 到達目標 】 課題を通して、各種身体表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第5回 身体練習とリズム練習1 【 到達目標 】 いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第13回 課題による身体表現2 【 到達目標 】 課題を通して、各種身体表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第6回 身体練習とリズム練習2 【 到達目標 】 いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第14回 課題による身体表現3 【 到達目標 】 課題を通して、各種身体表現をマスターする。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			
第7回 身体練習とリズム練習3 【 到達目標 】 いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。			第15回 課題発表と達成度の確認 【 到達目標 】 全体の確認をする事によって、ダンスに必要な要素を理解する。 【授業時間外学習】 全体の復習とまとめをする事によって、ダンスについて更に理解を深める。			
第8回 身体練習とリズム練習4 【 到達目標 】 いろいろなリズムによって身体を動かせるようになる。 【授業時間外学習】 授業中に行った事について復習をし、理解を深める。						
【学習上の留意点】 とにかく、自分が楽しんでダンスに接する事が出来るように、積極的に取り組んで下さい。						
【教科書・参考書など】 特にありません。						
【関連科目】						
【成績評価方法】 時間毎のレポート60%、実技試験20%、授業内での活動の成果20%の割合で総合的に評価する。						

科目名	保育原理Ⅱ			担当者	百瀬 ユカリ	
英文名	Principle of Child Care Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門・必修
【目的とねらい】 保育原理Ⅰの学びをさらに深め、実際の保育現場での取組・実践をイメージしながら保育内容・保育方法・保育環境等について総合的に学ぶ。特に、養護と教育が一体的に行われる保育の意義や保育環境の重要性について具体的に学んでいく。また、諸外国の保育の内容や実践例及び根底にある理念や考え方について学び、日本の保育等と比較しながら考察する。さらに、保育の質及び専門性の向上のための取組について理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育原理Ⅰの振り返りと保育原理Ⅱの目的及び概要 【 到達目標 】 「保育」の基本を理解し、保育原理を学ぶ目標とその概要を理解する。 【授業時間外学習】 保育原理Ⅰの小レポートやテキストを見直す。			第9回 保育者に求められる子育て家庭支援1 【 到達目標 】 どのような子育て支援が求められているのかを理解する。 【授業時間外学習】 これまでの少子化対策の取り組みについて資料に目を通す。			
第2回 保育の理念と概念 【 到達目標 】 児童福祉法と児童の最善の利益について理解する。 【授業時間外学習】 児童福祉法及び保育所保育指針に目を通す。			第10回 保育者に求められる子育て家庭支援2 【 到達目標 】 保育者による子育て家庭支援の実践について理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針の「保護者に対する支援」を読む。			
第3回 保育の目的と目標 【 到達目標 】 保育の目的と目標を理解し、子どもの生活や発達過程を踏まえた保育の目標について考察する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針及び認定こども園教育・保育要領を読む。			第11回 育ちや遊びの連続性を考える 【 到達目標 】 保幼小の連携について理解し、課題について考察する。 【授業時間外学習】 幼児期後半の子どもの育ちについての事例(テキスト)を読む。			
第4回 保育の内容―養護と教育― 【 到達目標 】 「保育における養護と教育」について、その「ねらい及び内容」を理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針及び認定こども園教育・保育要領を読む。			第12回 諸外国の保育の現状と課題1 【 到達目標 】 他国(ヨーロッパ(北欧)の保育)の保育制度や実状を知る。 【授業時間外学習】 ヨーロッパ(北欧)の保育に関する資料を集めて読む。			
第5回 保育の計画について 【 到達目標 】 保育の計画(保育課程と指導計画)について理解する。 【授業時間外学習】 テキストに例示してある各保育現場の保育の計画を読む。			第13回 諸外国の保育の現状と課題2 【 到達目標 】 他国(中国、アメリカ)の保育制度や実状を知る。 【授業時間外学習】 中国、アメリカの保育に関する資料を集めて読む。			
第6回 保育の質の向上 【 到達目標 】 保育の自己評価について及び保育の質の向上について理解する。 【授業時間外学習】 各保育現場の保育記録について調べて読む。			第14回 保育の今後の課題を考える 【 到達目標 】 日本の保育の現状と課題についてテーマを絞り、考察する。 【授業時間外学習】 日本の保育の現状から、自身が深めたいテーマについて資料を集めて読む。			
第7回 多様化する保育ニーズ1 【 到達目標 】 多様化する保育の形態と地域子ども・子育て支援事業について理解する。 【授業時間外学習】 地域子ども・子育て支援事業の概要に目を通す。			第15回 まとめ ―保育の現状と課題― 【 到達目標 】 保育の現状と課題についてグループ討論をする(日本の保育の現状から理想とする姿を描き、意見をまとめる)。 【授業時間外学習】 様々な国の保育を参考に、日本の保育の現状から理想とする姿を模索し、意見をまとめる。			
第8回 多様化する保育ニーズ2 【 到達目標 】 特別なニーズのある子どもへの保育について理解する。 【授業時間外学習】 特別なニーズのある子どもについて調べ、事例を読む。						
【学習上の留意点】 教科書を用いて授業を進めるが、授業内容を毎時間配布する小レポートに記入し、提出すること。保育原理は保育に関する他の科目の基盤となる科目であり、自ら他の科目との関連や共通性を見出し、保育の全体像を描く努力をしてほしい。						
【教科書・参考書など】 教科書：『新・保育原理[第3版]―すばらしき保育の世界へ―』三宅茂夫編(株式会社みらい) 参考書：『保育原理』天野珠路他著(基本保育シリーズ・中央法規)、『保育白書』、『子ども・子育て白書』など						
【関連科目】 保育原理Ⅰ、保育者論、教育原論、保育内容の研究						
【成績評価方法】 平常点(授業への参加度、授業内の小レポートを含む)及び課題提出により50%、理解度確認のための試験結果を50%として総合的に評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	保育者論			担当者	百瀬 ユカリ	
英文名	Theory of Nursery Teacher					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門・必修
【目的とねらい】 保育士、幼稚園教諭の制度的位置づけを理解するとともに、保育者の役割と倫理についての認識を深め、子どもの前に立つ者としての自覚と責任を促していく。また、保育の仕事は、保育者間で連携を図りながら協働していくことが必要である。さらに今日では、子育て支援を担う役割が保育者に求められており、園外の専門職や地域の関係機関との連携を推し進めていくことが大切である。こうしたことを踏まえ、乳幼児の保育と保護者支援に取り組む保育の専門性について理解を深めていく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育者の現在 (いま) 【 到達目標 】 (1)保育者を志す者としての自覚と責任を持つ。 (2)保育者の仕事と置かれている状況等について理解する。 【授業時間外学習】 「保育者になりたい」自分を振り返る。			第9回 保育園・幼稚園の一日 【 到達目標 】 (1)保育園の一日について理解する。 (2)幼稚園の一日について理解する。 【授業時間外学習】 写真や資料を通して園生活を知る。			
第2回 保育者の制度的位置づけ 【 到達目標 】 (1)保育の法的根拠を理解する。 (2)保育者の仕事と資格・要件等について理解する。 【授業時間外学習】 児童福祉法、学校教育法、認定こども園法の該当箇所を読む。			第10回 園での協働 【 到達目標 】 (1)保育における職員間の連携について理解する。 (2)保育における情報提供と協働について理解する。 【授業時間外学習】 保護者への保育の情報提供の方法について考えて書き記す。			
第3回 保育士と幼稚園教諭 【 到達目標 】 (1)保育士の制度的位置づけや職務内容について理解する。 (2)幼稚園教諭の制度的位置づけや職務内容について理解する。 【授業時間外学習】 保育者の職務内容を書き記す。			第11回 専門機関との連携 【 到達目標 】 (1)療育機関との連携について理解する。 (2)教育機関との連携について理解する。 【授業時間外学習】 保育現場と小学校との連携について考えて書き記す。			
第4回 保育者の役割と責務 【 到達目標 】 (1)保育者の役割について理解する。 (2)保育者の責務について理解する。 【授業時間外学習】 テキストを読む。			第12回 保護者支援を担う保育者 【 到達目標 】 (1)保護者支援の必要性について理解する。 (2)保護者支援の方法と内容について理解する。 【授業時間外学習】 保育現場における保護者支援に関する取組を調べる。			
第5回 保育者の倫理 【 到達目標 】 (1)保育者の倫理について考察する。 (2)守秘義務や社会的責任について理解する。 【授業時間外学習】 テキストを読む。			第13回 地域社会との連携 【 到達目標 】 (1)保育所等の社会的役割について理解する。 (2)地域の関係機関等との連携について理解する。 【授業時間外学習】 保育現場における地域交流の場面を写真などで見る。			
第6回 保育者の専門性① 【 到達目標 】 (1)保育者の資質・能力について理解する。 (2)保育者に求められる知識・技術について理解する。 【授業時間外学習】 テキストを読む。			第14回 保育者の専門的成長 【 到達目標 】 (1)専門性の発達について理解する。 (2)他職種との連携について理解する。 【授業時間外学習】 保育の専門性について考えるところを書き記す。			
第7回 保育者の専門性② 【 到達目標 】 (1)子どもの保育に関する専門性について理解する。 (2)保護者支援に関する専門性について理解する。 【授業時間外学習】 テキストを読む。			第15回 生涯発達とキャリア形成 【 到達目標 】 (1)保育者としてのキャリアアップについて考察する。 (2)保育者のライフサイクルについて理解する。 【授業時間外学習】 保育者として成長していくために必要なことを考える。			
第8回 保育者の一日 【 到達目標 】 (1)保育者の一日について理解する。 (2)保育者の援助について理解する。 【授業時間外学習】 保育士のタイムスケジュール表を作成する。						
【学習上の留意点】 保育者を志す者としての自覚と責任をもち、保育者の専門性とは何かを常に問いながら意欲的に学んでほしい。						
【教科書・参考書など】 『子どもと共に育ちあう エピソード保育者論』井上孝之・山崎敦子編（株式会社みらい） 『新人保育者物語・さくら』村上かつら作・百瀬ユカリ監修（小学館）、『保育者論』天野珠路監修（基本保育シリーズ・中央法規） 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領／幼稚園教育要領／保育所保育指針』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）						
【関連科目】						
【成績評価方法】 レポート等提出物60%、理解度確認のための試験結果を40%として総合的に評価する。試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	子どもとあそび			担当者	桐川 敦子・中道 直子	
英文名	Children's play					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
【目的とねらい】 子どものあそびに対する理解を深め、その意義を学ぶ。子どものあそびに対する保育者の援助、指導について学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 あそびの意義 【 到達目標 】 子どもにとってあそびとは何かを考え、その重要性を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第9回 子どもがあそぶ環境 【 到達目標 】 近年の子どもを取り巻く環境の変化やあそびの実態を学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第2回 身体的あそびと発達 【 到達目標 】 リズムあそび、運動あそび、取っ組み合いあそびにおける発達とその意義を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第10回 子どものあそびと保育者の役割 【 到達目標 】 保育者として子どものあそびにどのようにかかわっていくべきか理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第9回 ごっこあそびと発達 【 到達目標 】 ごっこあそびにおける発達とその意義を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第11回 伝承あそびなどの実践 【 到達目標 】 伝承あそびなどを理解し、体験する。 ションし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第4回 構成あそびと発達 【 到達目標 】 積み木やブロックなど物を構成するあそびの発達とその意義を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第12回 季節のあそび 【 到達目標 】 四季折々のあそびについて理解し、体験する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第5回 ルールのあるあそびと発達 【 到達目標 】 鬼ごっこ、ドッチボールなどルールのあるあそびの発達とその意義を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第13回 手作りのおもちゃ 【 到達目標 】 手作りのものを使うあそびについて理解し、製作に取り組む。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			
第6回 乳幼児期のあそびにおける親の役割 【 到達目標 】 乳幼児のあそびを親がどのようにサポートしているのか、また親のサポートの効果や意義について考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第14回 親子のあそび 【 到達目標 】 子育て支援の現場における親子のあそびの実態について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第7回 あそびとメディア 【 到達目標 】 あそびに対するテレビやゲームなどの影響について説明できるようになる。 【授業時間外学習】 文献を読み、レポートを作成する。			第15回 保育者のあそびごころ 【 到達目標 】 ワークショップを通し、あそびの楽しさを体験する。あそびごころについて考える。 【授業時間外学習】 教材研究とレポートを作成する。			
第8回 あそびを中心とした保育 【 到達目標 】 幼稚園、保育園における子どものあそびについて学ぶ。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。						
【学習上の留意点】 積極的にかつ自主的に学習すること。						
【教科書・参考書など】 「保育園・幼稚園のわくわく運動遊び」 桐川敦子監修（成美堂出版） その他、適宜、参考資料を配布する。						
【関連科目】 子ども観察演習、運動あそび、保育指導法演習						
【成績評価方法】 授業中の発表50% レポート50%						

科目名	障害児保育			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Childcare for Children with Disabilities					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
【目的とねらい】 単に障害の種類・程度による子どもの理解と対応にとどまらず、一人ひとりの特別な保育ニーズを把握し、子どもの自立と社会参加を可能にする支援を行うために必要な基礎的知識と技術を習得することを目的とする。 障害児保育を支える理念や歴史の変遷、様々な障害についての理解、子どもの理解や援助の方法、環境構成、保育計画の作成、個別支援や他の子どものかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。家族への支援、関係機関との連携、保健・医療・福祉・教育等における障害児保育の現状と課題について理解する。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 障害児保育を支える理念 【 到達目標 】 (1)障害の概念について理解する。 (2)「国際生活機能分類」による障害の捉え方を説明できる。 (3)障害児保育の理念について理解する。 【授業時間外学習】 授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第9回 障害の理解と支援（4）発達障害（ADHD—注意欠陥多動性障害） 【 到達目標 】 (1)注意欠陥多動性障害について理解する。 (2)注意欠陥多動性障害の子どもへの支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第2回 特別な保育ニーズをもつ子どもへの支援 【 到達目標 】 (1)個別の保育ニーズ把握と、自立・社会参加のための支援について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第10回 障害の理解と支援（5）発達障害（LD—学習障害） 【 到達目標 】 (1)学習障害について理解する。 (2)学習障害の子どもへの支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第3回 保育の場での支援 【 到達目標 】 (1)保育の場でのかかわりを通して理解を深めることの重要性を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第11回 障害の理解と支援（6）発達障害（自閉症スペクトラム障害） 【 到達目標 】 (1)自閉症スペクトラム障害について理解する。 (2)自閉症スペクトラム障害の子どもへの支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第4回 障害児保育の歴史の変遷 【 到達目標 】 (1)障害をもつ乳幼児の療育や保育の成立過程について理解する。 (2)戦前、戦後、現在の障害児保育について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第12回 障害のある子どもの運動あそび（1） 【 到達目標 】 (1)子どもの発達を支援する運動あそびの理論と実際を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。			
第5回 障害児保育の仕組み 【 到達目標 】 (1)障害児保育の場と機関、形態、担当者、制度について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第13回 障害のある子どもの運動あそび（2） 【 到達目標 】 (1)運動・感覚を育てる運動あそびの理論と実際を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。			
第6回 障害の理解と支援（1）肢体不自由 【 到達目標 】 (1)肢体不自由について理解する。 (2)肢体不自由児への支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第14回 障害のある子どもの運動あそび（3） 【 到達目標 】 (1)言語・社会性（情緒）を育てる運動あそびの理論と実際を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。			
第7回 障害の理解と支援（2）視覚障害・聴覚障害 【 到達目標 】 (1)視覚障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 (2)聴覚障害について理解し、支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第15回 障害のある子どもの運動あそび（4） 【 到達目標 】 (1)支援課題に結び付けた環境設定（遊具等）の方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。			
第8回 障害の理解と支援（3）知的障害 【 到達目標 】 (1)知的障害について理解する。 (2)知的障害児への支援のあり方を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。						

科目名	障害児保育			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Childcare for Children with Disabilities					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 障害児保育の実際（1）記録および評価 【 到達目標 】 (1)行動観察、成育歴、検査等による発達の記録と評価について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第24回 家族への理解と支援（3）親支援・きょうだいへの支援 【 到達目標 】 (1)ライフステージに応じた親やきょうだいへの支援について理解する。 【授業時間外学習】 障害のある子どもを育てる家族の手記を読み、レポートを作成する。			
第17回 障害児保育の実際（2）保育課程に基づく指導計画の作成 【 到達目標 】 (1)保育所保育指針の趣旨に基づく個別指導計画の作成について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第25回 関係機関との連携（1）専門機関における支援 【 到達目標 】 (1)児童発達支援センターでの発達支援、家族支援、地域支援を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第18回 障害児保育の実際（3）個々の発達を促す生活や遊びの環境 【 到達目標 】 (1)個々の発達を促す生活や遊びの環境・体制の整備方法を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第26回 関係機関との連携（2）専門機関との連携、個別支援計画の作成 【 到達目標 】 (1)保育機関と療育・医療機関等との連携について理解する。 (2)個別支援計画の作成について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第19回 障害児保育の実際（4）子ども同士のかかわりと育ち合い 【 到達目標 】 (1)子ども同士のかかわりと育ち合いの重要性、支援方法を理解する。 (2)集団のなかでの育ちと課題について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第27回 関係機関との連携（3）小学校等との連携 【 到達目標 】 (1)保育機関と地域の小学校、教育委員会との連携について理解する。 (2)保育所児童保育要録の生かし方について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第20回 障害児保育の実際（5）職員間の協働 【 到達目標 】 (1)クラス内の人的配置、保育所・幼稚園内の連携体制を理解する。 (2)情報の共有と守秘義務について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第28回 障害のある子どもの保育の現状と課題（1）保健・医療 【 到達目標 】 (1)保健・医療をめぐる障害児保育の現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第21回 障害児保育の実際（6）保育者の専門性 【 到達目標 】 (1)特別な保育ニーズをもつ子どもへの保育者の専門性を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第29回 障害のある子どもの保育の現状と課題（2）福祉・教育 【 到達目標 】 (1)福祉・教育をめぐる障害児保育の現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第22回 家族への理解と支援（1）子育て支援 【 到達目標 】 (1)障害のある子どもを育てる家族への子育て支援について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第30回 障害のある子どもの保育の現状と課題（3）地域 【 到達目標 】 (1)地域における支援の連携を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第23回 家族への理解と支援（2）ホームプログラム 【 到達目標 】 (1)家庭で実施するホームプログラムの意義、目的、方法を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。						
【学習上の留意点】 障害のある子どもを保育するときも、一人ひとりの育ちを支援していくという保育の本質は変わらない。実際に児童発達支援や特別支援学校の児童とかかわる機会をもちながら学習することで、理論と実際を結び付け、適切な支援を行うための基礎的知識と実践的な技術を身につけていく。 家族や関係機関、地域社会の人々との連携の進め方など、子どもの育ちの支援について幅広い視点を学習し、自らが主体的に保育にかかわることを想定しながら取り組んでほしい。						
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等使用。授業時に指示する。						
【関連科目】 児童家庭福祉、相談援助						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のための試験結果を60%として評価する。 前期末と後期末に試験を行う。						

科目名	児童家庭福祉			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Child and Family Welfare					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・必修
【目的とねらい】 児童家庭福祉分野の専門職である保育士として必要な児童や家庭の福祉にかかわる基礎的事項を学ぶことを目的とする。 現代社会における児童家庭福祉の意義、歴史の変遷、児童家庭福祉と保育の関連性、児童の人権について理解する。児童家庭福祉の法制度や実施体系を学び、現状と課題、動向と展望を考察する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 児童家庭福祉の意義・理念 【 到達目標 】 (1) 現代社会における児童家庭福祉の意義・理念を理解する。 (2) 児童家庭福祉の一分野としての保育について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第9回 母子保健と児童の健全育成 【 到達目標 】 (1) 母子保健施策の現状と課題を理解する。 (2) 児童健全育成施策の現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第2回 児童家庭福祉の歴史の変遷 【 到達目標 】 (1) 日本の児童家庭福祉の歴史の変遷について理解する。 (2) 欧米の児童家庭福祉の歴史の変遷について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第10回 障がいのある子どもとその家族への支援 【 到達目標 】 (1) 障がいのある子どもと家族について現状と課題を理解する。 (2) 障がいのある子どもと家族を支援する制度について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第3回 現代の養育環境 【 到達目標 】 (1) 子どもの育ち、子育てをめぐる社会の変容を理解する。 (2) 現代社会の児童家庭をめぐる問題を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第11回 少年非行等への対応 【 到達目標 】 (1) 非行と情緒障がいについて理解し、現状と課題を理解する。 (2) 非行児童とその家族を支援する制度について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第4回 子どもの権利 【 到達目標 】 (1) 児童の人権とその擁護について説明できる。 (2) 子どもを養育する権利と義務について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第12回 児童虐待への取り組み 【 到達目標 】 (1) 児童虐待の定義、現状と課題について説明できる。 (2) 子どもを虐待から保護する仕組みについて説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第5回 児童家庭福祉の法体系 【 到達目標 】 (1) 児童福祉法をはじめとする児童福祉六法について説明できる。 (2) その他の児童家庭福祉関連法の概要を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第13回 現代の課題（1）ドメスティックバイオレンス 【 到達目標 】 (1) ドメスティックバイオレンスの現状と課題を理解する。 (2) ドメスティックバイオレンスへの対応について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第6回 児童家庭福祉の実施体制、行財政、専門職 【 到達目標 】 (1) 児童家庭福祉行政の実施機関、児童福祉施設を説明できる。 (2) 児童家庭福祉の財政、専門職について説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第14回 現代の課題（2）生殖補助医療 【 到達目標 】 (1) 生殖補助医療の現状と課題を理解する。 (2) 生殖補助医療で誕生した子どもの福祉をめぐる課題を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第7回 少子化と子育て支援サービス 【 到達目標 】 (1) 少子化と子育て支援・次世代育成支援施策の動向を理解する。 (2) 子育て支援サービスの概要を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第15回 諸外国の動向 【 到達目標 】 (1) 諸外国の児童家庭福祉の動向を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第8回 保育 【 到達目標 】 (1) 保育制度と保育施策の現状と課題について説明できる。 (2) 多様な保育ニーズに対応するサービスについて説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。						
【学習上の留意点】 現代社会に実際に起こっている子どもの育ち、子育てをめぐる問題を、新聞やTVのニュース報道より適宜取り上げる。日頃から、社会の動きを敏感にキャッチし、多様な視点から思考できる力を養っておくことが大切である。						
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【関連科目】 社会福祉、相談援助、社会的養護、障害児保育						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のための試験結果を60%として評価する。 試験は、授業内での中間試験と、試験期間中に期末試験を行う。						

科目名	幼児体育			担当者	森田陽子	
英文名	Physical Education for Preschool Children					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1	／選択の区別				専門・必修
【目的とねらい】 幼児期になぜ運動あそびが必要なのか、幼児期の運動プログラム、運動あそび指導の実践例などについて、実技とともに大きな単元ごとに講義を行う。この授業で保育実践に必要な教材・教具・遊具の特性について理解し、実際の保育において適切な援助や補助、環境構成ができるようになることを目的とする。 実際に幼稚園児・保育園児とかかわりながらさらにその理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション・コミュニケーションゲームなど 【 到達目標 】 (1)授業の予定を知り、授業を受けるためのルールを理解する。 (2)オリエンテーションゲームで、五感の大切さを知る。 【授業時間外学習】 この授業における各自の目標、コミュニケーションゲームでの学び、指導ポイント等をレポートする。			第9回 固定遊具を使ってのあそび①鉄棒を使って 【 到達目標 】 (1)固定遊具に関する知識を得る。 (2)鉄棒の基本動作と逆上がりの段階的な指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 鉄棒を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。			
第2回 小さな遊具を使ってのあそび①ボールを使って 【 到達目標 】 (1)ボールの特性を考えたり、大きさや感触の違いを感じる。 (2)身近にあるものを使ってあそぶ。 【授業時間外学習】 ボールを使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。			第10回 固定遊具を使ってのあそび②鉄棒を使って 【 到達目標 】 (1)基本動作を実践する。 (2)逆上がりを実践する、補助の仕方を習得する。 【授業時間外学習】 鉄棒を使った遊びでの学び、指導ポイント、補助のポイント等をレポートする。			
第3回 小さな遊具を使ってのあそび②縄を使って 【 到達目標 】 (1)縄の特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2)一人・二人・大人数で、どんな跳び方ができるか挑戦する。 【授業時間外学習】 縄を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。			第11回 大きな遊具を使ってのあそび①跳び箱を使って 【 到達目標 】 (1)跳び箱運動に必要な感覚を養うあそびを体験する。(跳び箱を使用しない) 【授業時間外学習】 跳び箱を跳ぶことにつなげる遊び、跳び箱の指導ポイント等をレポートする。			
第4回 小さな遊具を使ってのあそび③フープを使って 【 到達目標 】 (1)フープの特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2)回す、転がす、投げる、受ける、くぐるなどに挑戦する。 【授業時間外学習】 フープを使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。			第12回 大きな遊具を使ってのあそび②跳び箱を使って 【 到達目標 】 (1)またぎ越し、踏み越し、とび上がり降りを楽しむ。(低い跳び箱を使って) 【授業時間外学習】 跳び箱を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。			
第5回 小さな遊具を使ってのあそび④棒を使って 【 到達目標 】 (1)棒の特性を考えたり、素材の違いを知る。 (2)バランスをとったり、リズムに合わせてあそぶ。 【授業時間外学習】 棒を使った遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。			第13回 大きな遊具を使ってのあそび③跳び箱を使って 【 到達目標 】 (1)いろいろな馬跳びを楽しむ。 (2)開脚跳び越しを楽しむ。(好きな跳び箱を使って) 【授業時間外学習】 跳び箱を使った遊びでの学び、開脚跳びの指導ポイント等をレポートする。			
第6回 大きな遊具を使ってのあそび①マットを使って 【 到達目標 】 (1)マットの特性を知る。 (2)前転のバリエーションを体験する。 【授業時間外学習】 マットを使った遊びでの学び、前転の指導ポイント等をレポートする。			第14回 表現あそび…布やパラバルーンを使って 【 到達目標 】 (1)いろいろな大きさの布を使って表現遊びを楽しむ。 (2)パラバルーンの基本技術を体験する。 【授業時間外学習】 布やパラバルーンを使った表現遊びでの学び、指導ポイント等をレポートする。			
第7回 大きな遊具を使ってのあそび②マットを使って 【 到達目標 】 (1)側転のバリエーションを体験する。 (2)補助の仕方を習得する。 【授業時間外学習】 マットを使った遊びでの学び、側転の指導ポイント等をレポートする。			第15回 調整力を高めるあそび…いろいろな遊具を使って 【 到達目標 】 (1)バランス感覚を養うあそびを楽しむ。 【授業時間外学習】 いろいろな遊具を使った遊びでの学び、指導ポイント、この授業のまとめ等をレポートする。			
第8回 大きな遊具を使ってのあそび③マットを使って 【 到達目標 】 (1)マットを使ったあそびを体験する。 【授業時間外学習】 マットを使った遊びでの学び、マットの指導ポイント等をレポートする。						
【学習上の留意点】 指導者として子どもの前に立つ場面を想定して身支度を整えて授業に臨むこと。 各単元の到達目標を達成できるよう努力するとともに、授業内容を振り返りレポートにまとめる。						
【教科書・参考書など】 「保育者のための幼児の運動遊び指導」 幼児体育研究会編 (不昧堂)、「保育と幼児期の運動あそび」 岩崎洋子 (萌文書林) 「0から5歳児の運動あそび指導百科」 前橋 明 (ひかりのくに) 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省						
【関連科目】 子どもの運動発達、子どもと運動(総合演習)、運動あそび						
【成績評価方法】 単元ごとの実技テスト80%、レポートおよび授業内の提出物の内容20%。						

科目名	幼児リトミック			担当者	森田陽子	
英文名	Rhythmic Dance for Children					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門・必修
【目的とねらい】 リトミックは、リズムという素材を生かし、音楽に反応して動くことにより、感じる心、想像力や創造力を養うものである。また、心で感じたものを、からだを使って自分なりに表現することで心とからだの協調・調和を作り出そうとするものである。授業では、天野式リトミックを基本に現在の保育の現場にあったリトミックを模索することで、保育者自身に必要な基礎的能力を養う。また、保育現場でのリトミックの取り入れ方を実践的に学び、応用する力をつける。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 オリエンテーション：リトミックについて リトミックの特性について認識する。			第9回 音楽反応② 【 到達目標 】 手足のコントロール、その他の音楽反応を理解する。			
第2回 基礎リズム① 【 到達目標 】 リズムとは何かを理解する。			第10回 体育遊び① 【 到達目標 】 幼児テクニックを理解する。			
第3回 基礎リズム② 【 到達目標 】 身体や教具を用いて、基礎リズムを表現することができる。			第11回 体育遊び② 【 到達目標 】 幼児体操を理解する。			
第4回 リズムパターン① 【 到達目標 】 記憶したリズムパターンを身体表現することができる。			第12回 年齢別カリキュラム① 【 到達目標 】 1歳児と2歳児のカリキュラムについて理解する。			
第5回 リズムパターン② 【 到達目標 】 リズムパターンを作成し、教具で表現できる。			第13回 年齢別カリキュラム② 【 到達目標 】 3歳児のカリキュラムについて理解する。			
第6回 拍子① 【 到達目標 】 拍子の種類、各拍の役割について理解する。			第14回 年齢別カリキュラム③ 【 到達目標 】 4歳児のカリキュラムについて理解する。			
第7回 拍子② 【 到達目標 】 各拍子に合わせた動作を表現することができる。			第16回 年齢別カリキュラム④ 【 到達目標 】 5歳児のカリキュラムについて理解する。			
第8回 音楽反応① 【 到達目標 】 和音遊び、拍子練習、音符の表現を理解する。						

次ページに続く

科目名	幼児リトミック			担当者	森田陽子	
英文名	Rhythmic Dance for Children					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門・必修
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 リトミックの歴史 【 到達目標 】 リトミックの歴史について認識する。			第24回 リトミックを活かした指導実践⑥ 【 到達目標 】 リトミックを活かした指導の実際を知る。			
第17回 即興について① 【 到達目標 】 リズム、ポーズ、動きなどを通して即興的に身体表現する。 小グループで実践する。			第25回 リトミックを活かした指導実践⑦ 【 到達目標 】 リトミックを活かした指導を実践する。			
第18回 即興について② 【 到達目標 】 リズム、ポーズ、動きなどを通して即興的に身体表現する。 全体で実践する。			第26回 リトミックを活かした指導実践⑧ 【 到達目標 】 リトミックを活かした指導を実践する。			
第19回 リトミックを活かした指導実践① 【 到達目標 】 リトミックを活かした指導を実践する。			第27回 リトミックを活かした指導実践⑨ 【 到達目標 】 リトミックを活かした指導を実践する。			
第20回 リトミックを活かした指導実践② 【 到達目標 】 リトミックを活かした指導を実践する。			第28回 リトミックを活かした指導実践⑩ 【 到達目標 】 リトミックを活かした指導を実践する。			
第21回 リトミックを活かした指導実践③ 【 到達目標 】 リトミックを活かした指導を実践する。			第29回 日本におけるリトミック教育について 【 到達目標 】 現在の日本のリトミック教育について認識する。			
第22回 リトミックを活かした指導実践④ 【 到達目標 】 リトミックを活かした指導を実践する。			第30回 リトミックとは一本授業の振り返りー 【 到達目標 】 前期、後期の活動の振り返りをする。			
第23回 リトミックを活かした指導実践⑤ 【 到達目標 】 リトミックを活かした指導を実践する。						
【授業時間外学習】 各回の学びの中で基礎的能力を身に付けられるよう反復練習する。さらには保育現場でのリトミックの取り入れ方として各回の学びをノートにまとめる。						
【学習上の留意点】 本授業は毎回実技なので、動きやすい服装、素足で行う。授業で経験した活動、幼児のための指導については必ずノートを取り、気付いたことなど書きとめておくようにすること。						
【教科書・参考書など】 天野式「幼児リトミック」第1集 永倉栄子編（チャイルド本社） 天野式「幼児リトミック」第2集 永倉栄子編（チャイルド本社）						
【関連科目】 身体表現、器楽Ⅰ、器楽Ⅱ、音楽表現Ⅰ、音楽表現Ⅱ						
【成績評価方法】 授業の習熟度、授業での課題及び提出物の評価50%、単元ごとの実技試験50%						

科目名	教育原論			担当者	青木純一	
英文名	Theory of Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門・選択
【目的とねらい】 「教育とは何か」というテーマについて考えることは、教職を志す上で不可欠の作業である。また今日の日本は深刻な教育問題を抱えており、こうした問題の解決を考えるためには幅広い教育的素養が求められる。本科目においては、以上の課題について、基本的な知識を身につけるとともに、いくつかの側面から考察を加え、教育に関する洞察を深めることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 教育とは何か 【到達目標】 本授業で学習する内容の概要を理解し、学習への意欲を高める。			第9回 諸外国の保育制度 【到達目標】 アメリカ、中国、オランダなど諸外国の保育制度の特徴を理解する。			
【授業時間外学習】 幼児における教育の役割とはなにか、その基本的な意味を学ぶ。			【授業時間外学習】 諸外国の幼児教育の実態を知るとともに、その特徴を学ぶ。			
第2回 幼児教育を築いた人々(1) ルソンの思想 【到達目標】 ルソンの思想を中心に近代の教育思想を理解する。			第10回 教育課程・保育課程 【到達目標】 教育課程や保育課程の全体的、基本的な事項について理解する。			
【授業時間外学習】 ルソー『エミール』を読む中で、近代教育の特徴を学ぶ。			【授業時間外学習】 幼児教育の教育計画の理念、作成方法、留意点などを学ぶ。			
第3回 幼児教育を築いた人々(2) ペスタロッチ、フレーベルの思想 【到達目標】 ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育を中心にその思想を理解する。			第11回 子どもの発達の特徴と遊び 【到達目標】 子どもの発達にとって遊びが重要な役割を果たしていることを理解する。			
【授業時間外学習】 ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリの幼児教育の特徴を学ぶ。			【授業時間外学習】 子どもが発達する上で遊びが重要であることを学ぶ。			
第4回 我が国の幼児教育と保育の歴史(1) 戦前の幼児教育・保育 【到達目標】 戦前・戦中日本の幼児教育の発展過程を、人物を中心に理解する。			第12回 特別支援教育とは 【到達目標】 日本の障害児教育の歴史を理解する。			
【授業時間外学習】 日本で幼児教育が生まれる背景やその内容を学ぶ。			【授業時間外学習】 障害児の特性と特別支援教育の理念について学ぶ。			
第5回 我が国の幼児教育と保育の歴史(2) 戦後の幼児教育・保育 【到達目標】 戦後日本の幼児教育の発展過程を、人物を中心に理解する。			第13回 障害児に対する支援 【到達目標】 特殊教育から特別支援教育に変わって障害児への支援の仕方が変化したことを理解する。			
【授業時間外学習】 戦後日本において、幼稚園や保育園における学習内容を学ぶ。			【授業時間外学習】 障害の特性に応じた指導方法について学ぶ。			
第6回 子どもの発達と教育 【到達目標】 ピアジェの発達論を中心にその意義を理解する。			第14回 生涯学習社会における幼児教育と保育 【到達目標】 生涯学習社会における幼児教育や保育のもつ意味について理解する。			
【授業時間外学習】 ピアジェの発達論を通して人の環境に対する認識方法を学ぶ。			【授業時間外学習】 生涯教育社会において幼児教育を知ることの意味について学ぶ。			
第7回 教育と児童福祉における目的と目標 【到達目標】 教育基本法やその他の法規から、幼稚園・保育所の目的や役割を理解する。			第15回 幼児教育とはなにか 【到達目標】 幼児教育とはなにか、学生一人一人が自分の基本的な考え方をまとめる。			
【授業時間外学習】 幼児教育に関する基本的な法令を学ぶ。			【授業時間外学習】 幼児にとって教育の意味とはなにか、その基本を学ぶ。			
第8回 日本の幼児教育・保育の制度 【到達目標】 日本の幼児教育・保育制度について、その目的や課題を理解する。						
【授業時間外学習】 幼稚園と保育園の二元体制が生まれた背景と、幼保一元化にむけた動きを学ぶ。						
【学習上の留意点】 講義に加え、グループワークやディスカッション、授業内でのレポートの作成などを課す予定である。学生諸君には、積極的に授業に参加することを求める。						
【教科書・参考書など】 教科書を使用するので、各自、用意をすること。 【教科書名】 古橋和夫編著『子どもの教育の原理』萌文書林						
【関連科目】 保育・教育課程論						
【成績評価方法】 授業内小レポート(30%)、試験(70%)から総合的に評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	保育・教育課程論			担当者	青木純一	
英文名	Theory of Curriculum for Early Childhood Care and Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門・選択
【目的とねらい】 保育園、幼稚園における保育や教育の目標達成をめざし、どのように保育・教育を進めていくのか。その内容を明らかにするために編成されるのが保育課程・教育課程である。そういった意味で保育所や幼稚園の根幹をなすものである。本科目では保育・教育課程の編成、指導計画の実際、評価と改善の過程を理解することがねらいである。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育・教育課程と保育士の仕事 【 到達目標 】 保育者の一日を通して使われる記録から、保育者の仕事を理解する。 【授業時間外学習】 保育園や幼稚園における「記録」の種類やその意味を学ぶ。			第9回 援助計画の種類と書き方②-3～5歳児を対象に 【 到達目標 】 3～5歳児を対象に、援助計画の作成方法を理解する。 【授業時間外学習】 3歳～5歳児の指導計画を作成する際の留意点を学ぶ。			
第2回 保育者にとっての保育・教育課程 【 到達目標 】 保育者にとって保育・教育課程はなぜ必要なのかを理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園や保育園において保育・教育計画がなぜ必要なのか、その理由を学ぶ。			第10回 環境設定の方法 【 到達目標 】 幼児の主体性を引き出す環境はどのように構成されるべきか、その方法を理解する。 【授業時間外学習】 幼児の主体性を引き出すための保育環境とはどうあるべきか学ぶ。			
第3回 保育・教育課程とは何か 【 到達目標 】 保育・教育課程とは何か、その目的と計画の手順を理解する。 【授業時間外学習】 実際に保育計画を作成する際の手順や留意点について学ぶ。			第11回 保育・教育実践計画 【 到達目標 】 「設定保育」の意味を知り、縦割り保育や延長保育など、様々な保育方法の意味や課題を理解する。 【授業時間外学習】 「設定保育」の意味を知り、様々な保育制度や保育方法について学ぶ。			
第4回 子どもの遊びの理解 【 到達目標 】 保育・教育課程の編成を理解する一歩として、まず子どもの遊びを理解する方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 幼稚園や保育園における幼児の遊びの意味を学ぶ。			第12回 実践に応じた保育・教育課程の工夫 【 到達目標 】 地域・家庭との連携など、新たな課題に応じた保育・教育課程の作成方法を理解する。 【授業時間外学習】 最近の幼児教育における諸課題について学ぶ。			
第5回 子どもの発達と個性 【 到達目標 】 子どもの発達を理解し、併せて発達に応じた教育とはどうあるべきかを理解する。 【授業時間外学習】 幼児の発達の特性についてこれまでの発達論が示した内容を学ぶ。			第13回 実践の向上を図る記録のあり方 【 到達目標 】 保育・教育課程作成のための記録の必要性を知り、様々な記録方法があることを理解する。 【授業時間外学習】 保育・教育課程を作成する際の「記録」の活用の仕方について学ぶ。			
第6回 幼稚園教育要領とはなにか 【 到達目標 】 幼稚園教育要領とはなにか、その内容と歴史を理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園教育要領とはなにか、その歴史的背景や時代ごとの特徴を学ぶ。			第14回 保育実践の向上とこれからの保育・教育課程 【 到達目標 】 保育実践における個性、多様性、偶発性の意味を理解し、これからの保育・教育課程に必要な課題を理解する。 【授業時間外学習】 保育実践の個性、多様性、偶発性といった特徴を事例を通して学ぶ。			
第7回 保育所保育指針とはなにか 【 到達目標 】 保育所保育指針とはなにか、その内容と歴史を理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針とはなにか、その歴史的背景や時代ごとの特徴を学ぶ。			第15回 保育の専門性の向上をめざして 【 到達目標 】 この講義で重要だと思われる事項を再度確認し、保育・教育課程論の全体像を理解する。 【授業時間外学習】 保育・教育課程論の全体像を理解し、かつ重要事項をあらためて振り返る。			
第8回 援助計画の種類と書き方①-0～2歳児を対象に 【 到達目標 】 0～2歳児を対象に、援助計画の作成方法を理解する。 【授業時間外学習】 0～2歳児を対象とする指導計画を作成する際の留意点について学ぶ。						
【学習上の留意点】 実際に保育・教育課程を作成する活動を通して諸理論や課題についての理解を深めること。						
【教科書・参考書など】 教科書を使用するので、各自、用意すること。 【教科書名】北野幸子編著『乳幼児の教育保育課程論』建帛社 その他、「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省						
【関連科目】 教育社会学						
【成績評価方法】 授業内の小レポート（30%）、試験（70%）から総合的に評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	乳児保育			担当者	沢田真喜子	
英文名	Infant Care					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 乳児保育の理念と歴史的変遷及び社会的役割等について学び、保育現場における実践方法や保育内容を具体的に学んでいく。特に、3歳未満児の心身の発達過程について理解を深め、各年齢・月齢の発達の特徴や環境とのかかわりを理解する。また、健康、安全及び保健衛生面についての配慮や胎児期からの保護者支援の重要性について具体的な事例を通して学び、地域との交流、関係機関との連携の重要性など、現代における保護者支援と乳児保育の役割について理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 乳児保育の意義 【 到達目標 】 乳児保育のとらえ方、子ども子育て支援制度における乳児保育、社会的養護としての乳児院について理解し、乳児保育の意義について考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストp8～10を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。			第9回 乳児期の特性と乳児保育③ 【 到達目標 】 0～3歳児（低年齢児）の発達の特徴と発達過程、自我の芽生えと人格形成について理解し、低年齢児の自己主張の具体例をもとに関わり方や保護者支援について考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストp42～48を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。			
第2回 現代における保護者支援と乳児保育 【 到達目標 】 社会から求められる乳児保育、保護者の就労状況について整理し、乳児保育の理念と役割について理解する。産前産後休暇、育児休暇の取得と働き方・育て方について、保護者の立場に立ち、考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストp11～14を読み、「プラスワン」と「重要語句」についてまとめる。			第10回 新生児期の育ちと保育 【 到達目標 】 胎児期と母体の健康、新生児期の特徴と母親を中心とした家族への支援について、理解する。 【授業時間外学習】 母子手帳をもとに、妊娠から産後1か月の母親の変化についてまとめる。			
第3回 乳児保育の理念と概念 【 到達目標 】 乳児保育の理念と目標について、保育所保育指針や児童の権利に関する条約等から、子どもの最善の利益と家庭との連携、養護と教育の一体性について理解する。 【授業時間外学習】 テキストp16～18を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。			第11回 2～3か月児の育ちと保育 【 到達目標 】 新生児期以降の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 テキストp50～53を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。			
第4回 児童福祉法と乳児保育 【 到達目標 】 児童福祉法と乳児保育について、法の理念や児童福祉施設の設備及び運営に関する基準について、演習課題に取り組み理解する。幼保連携型認定こども園については、その特徴や設置の背景についても理解する。 【授業時間外学習】 テキストp18～21を読み、「プラスワン」と「重要語句」についてまとめる。			第12回 4～6か月児の育ちと保育 【 到達目標 】 4～6か月児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 テキストp54～55を読み、「重要語句」についてまとめる。			
第5回 乳児保育の歴史 【 到達目標 】 児童福祉法制定以前の保育施設における乳児保育、児童福祉法制定と乳児保育、乳児保育特別対策と一般化の流れについて、理解する。 【授業時間外学習】 テキストp22～24を読み、「今日のポイント」をまとめ、不明な語句等は調べる。			第13回 7か月～9か月児の育ちと保育 【 到達目標 】 7～9か月児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。			
第6回 海外における乳児保育 【 到達目標 】 スウェーデン、イギリス、アメリカ、ニュージーランド、フランスにおける保育について、演習課題に取り組み理解する。 【授業時間外学習】 テキストp24～28を読み、「重要語句」についてまとめる。			第14回 10か月～1歳未満児の育ちと保育 【 到達目標 】 10か月～1歳児の発育・発達の特徴と育児不安、保育の留意点について理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布した資料を読み、不明な点について調べる。			
第7回 乳児期の特性と乳児保育① 【 到達目標 】 乳児期の発達特性と周囲からの影響について理解し、乳児の生きていく力を育む保育や保護者支援について考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストp30～34を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。			第15回 1歳未満児の発達を促す保育内容 【 到達目標 】 1歳未満児の発育・発達の特徴から、睡眠、栄養摂取、排泄、衣服や着替えの保育内容を踏まえ、安全を確保した遊びを考えディスカッションを通して、留意点や工夫点について理解を深める。 【授業時間外学習】 授業内容を振り返り、演習課題に取り組み発表に向けた準備を行う。			
第8回 乳児期の特性と乳児保育② 【 到達目標 】 乳幼児の心の発達の歴史、ボウルビイ理論、愛着理論と乳児保育の特性について、理解する。 【授業時間外学習】 テキストp36～40を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。						

次ページに続く

科目名	乳児保育			担当者	沢田真喜子	
英文名	Infant Care					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の區別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門・選択
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 1歳3か月～1歳6か月未満児の子どもの育ちと保育内容①			第24回 乳児保育が行われる様々な場と保育事業			
<p>【到達目標】</p> <p>1歳3か月～1歳6か月未満児の発育・発達の特徴から、睡眠、食事、排泄、トイレトレーニング、着替え、安全、遊びについて理解し、ディスカッションを通して、具体的な保育内容について考える。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp80～85を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			<p>【到達目標】</p> <p>子ども・子育て支援新制度における保育内容の位置づけ、地域型保育事業の概要、小規模保育事業、居宅訪問型保育事業、事業所内保育事業について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp152～157を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			
第17回 1歳6か月～2歳未満児の子どもの育ちと保育内容②			第25回 保育課程に基づく指導計画の作成			
<p>【到達目標】</p> <p>1歳6か月～2歳未満児の発育・発達の特徴から、睡眠、食事、排泄、トイレトレーニング、着替え、安全、遊びについて理解し、ディスカッションを通して、具体的な保育内容について考える。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp86～90を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			<p>【到達目標】</p> <p>乳児保育における指導計画の特徴、デイリープログラム、短期・長期指導計画との関係性について理解し、観察や記録のポイントと自己評価の重要性について考える。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp160～165を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			
第18回 2歳児の子どもの育ちと保育内容			第26回 個々の発達を促す生活と遊びの環境①			
<p>【到達目標】</p> <p>2歳～2歳6か月、2歳6か月～3歳未満児の発育・発達の特徴から、睡眠、食事、排泄、着替え、安全、遊びについて理解し、ディスカッションを通して、具体的な保育内容について考える。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp90～101を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			<p>【到達目標】</p> <p>発達を促す環境について考え、保育所で具体的に使用されているものや環境としての人、子どもが思わず関わりたくなるような事柄や雰囲気について演習課題に取り組み理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp176～180を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			
第19回 保育所における乳児保育①			第27回 個々の発達を促す生活と遊びの環境②			
<p>【到達目標】</p> <p>乳児保育をめぐる現状と保育所の役割、保育所における地域の子育て支援事業、物的環境、人的環境を理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp105～110を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			<p>【到達目標】</p> <p>子どもの発育・発達の特徴を踏まえた遊びの方法、遊びの導入や持続について理解しグループ学習や資料等をもとに演習課題に取り組み多角的な視点から分析する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp182～187を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			
第20回 保育所における乳児保育②			第28回 保護者とのパートナーシップ			
<p>【到達目標】</p> <p>保育所の生活、0、1、2歳児における保育の配慮事項について理解した上で、演習課題に取り組み、保育所で行われているプログラムから保育内容について考える。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp116～122を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			<p>【到達目標】</p> <p>保護者がおかれている環境、乳児保育における保護者支援について、事例をもとに理解し、保護者としての役割を考える。連絡帳、個人面談・保育相談、保育参加・参観便り等の活用と発達の遅れと向き合う保護者との連携について理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp195～206を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			
第21回 認定こども園における乳児保育			第29回 嘱託医・保健医療機関との連携			
<p>【到達目標】</p> <p>認定こども園の法的位置づけ、幼保連携型認定こども園の生活とデイリープログラムについて、理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp124～128を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			<p>【到達目標】</p> <p>健康診断、予防接種の実施と連携、特別な配慮が必要な子どもへの支援について、異種間との連携や職員間との連携を踏まえ理解する。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp188～192、p212～215を読み、「重要語句」についてまとめる。</p>			
第22回 乳児院における乳児保育			第30回 乳児保育の現状と課題			
<p>【到達目標】</p> <p>近年の乳児院の状況と運営、乳児院における養育の基本と内容について理解し、乳児院における生活や養育の原則、早期の家庭復帰支援について考える。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp130～144を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>			<p>【到達目標】</p> <p>乳児保育実践の観点、保育者就労と保育の場といった観点、人間形成の観点から、これまでの授業内容を踏まえ、現状を整理し課題と解決に向けた方策を考える。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp218～223を読み、テーマに沿った資料を調べまとめる。</p>			
第23回 家庭的保育等における乳児保育						
<p>【到達目標】</p> <p>家庭的保育事業の法規定と保育の特徴について理解し、家庭的保育室の実際について調べた資料をもとに、家庭的保育者の資質向上について考える。</p> <p>【授業時間外学習】</p> <p>テキストp146～150を読み、「今日のポイント」と「重要語句」についてまとめる。</p>						
【学習上の留意点】						
<p>教科書の「乳児保育演習ブック」を用いて進めていくが、ノートを作成し授業のポイントや資料等を整理して欲しい。乳児保育は、3歳以上児の保育の基盤となるものであり、社会的ニーズが高く、保護者支援を含めた取り組みが期待されていることを自覚し、総合的に学ぶことが重要になる。また、様々な機会に、主体的に積極的に乳児や1・2歳児に接する機会をつくって欲しい。</p>						
【教科書・参考書など】						
<p>教科書：「乳児保育演習ブック」（ミネルヴァ書房）</p> <p>参考書：「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）／「幼保連携型認定こども園解説書」（フレーベル館）</p> <p>「乳児の発達と保育」園と家庭を結ぶ「げんき」編集部（エイデル研究所）</p>						
【関連科目】						
保育原理、子どもの保健Ⅰ・Ⅱ、子どもの食と栄養、保育者論						
【成績評価方法】						
授業への取り組み（10％）、課題レポート（20％）、プレゼンテーション（20％）、小テスト（50％）の加重平均にて総合的に評価する。						

科目名	保育・教育心理学演習			担当者	中道直子	
英文名	Seminar in Developmental and Educational Psychology					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 本授業は、「保育・教育心理学」で学んだ内容をふまえたうえで、子どもの学びの仕組みやそれを支える要因についての理解をさらに深めることを目的とする。特に、ヒトという種の世界においては知識を世代間伝達するための効率的なシステムが在り、またヒトの子どもはこのシステムの中で積極的かつ有能に学ぶ存在であること、また子どもを取り巻く環境の中に子どもの学びを助けるための様々な情報が埋め込まれていることを学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 人はいかに学ぶか 【 到達目標 】 (1) 受け手の学習観と有能な学び手の学習観の違いについて説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第9回 遺伝と環境 【 到達目標 】 (1) エピジェネティクスを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第2回 ヒトにおける自然な教育学 【 到達目標 】 (1) ヒトという種に特有な教育の仕組みについて理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第10回 初期経験の影響 【 到達目標 】 (1) ルーマニアの孤児研究から、初期経験が人の発達に与える影響について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第3回 現実的必要や知的好奇心から学ぶ 【 到達目標 】 (1) 現実的必要感を伴うとき、ヒトがいかに能動的に学習するのかを説明できる。 (2) ヒトにおける知的好奇心と、それに基づく学習の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第11回 子どものレジリエンス 【 到達目標 】 (1) 文化や環境が違っても同じように発達する自然な力もまた、子どもには備わっていることを説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第4回 ことばや数を学ぶ種としてのヒト 【 到達目標 】 (1) ヒトが有能な学び手であることの証拠としての、ことばや数の学習について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第12回 ほめと子どもの能力 【 到達目標 】 (1) 子どもをほめたり、自尊心を高めることが、逆効果になる場合もあることを理解する。 (2) 子どもの能力を伸ばすほめ方を説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第5回 他者から学ぶ：概念の構築 【 到達目標 】 (1) 子どもが環境との相互作用の中で、どのように概念を構築しているかを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第13回 IQは変わらないという幻想 【 到達目標 】 (1) IQは生まれつきの能力ではないことを理解する。 (2) 脳の使い方が優劣を決める可能性について説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第6回 親の養育と子どもの学習 【 到達目標 】 (1) 親の養育方略が、子どもの学びにどのような影響を与えるのかについて説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第14回 夫婦関係と子どもの発達 【 到達目標 】 (1) 夫婦関係が子どもの発達に与える影響について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第7回 文化の中の隠れた教育 【 到達目標 】 (1) 文化の中の隠れた教育によって、ヒトの学習の一部が容易かつ効果的に行われることについて説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第15回 父親の役割 【 到達目標 】 (1) ヒトの父親の特徴や、父親と母親の役割が異なるのか否かについて説明できる。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第8回 日常生活の中で学ぶ知識の限界 【 到達目標 】 (1) 日常生活で獲得される知識の限界と、それが何に由来するのかを理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。						
【学習上の留意点】 講義ではパワーポイントを使用する。教科書に掲載されていない講義内容については、適宜資料を配布する。また、事後学習として、各回の講義で扱った内容の復習を受講者の義務とする。						
【教科書・参考書など】 「人はいかに学ぶか―日常的認知の世界」 稲垣佳世子・波多野直余夫（著） 中公新書						
【関連科目】 保育・教育心理学						
【成績評価方法】 授業時の提出物の内容を30%、試験の結果を70%として評価する。						

科目名	社会的養護			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Child Care and Protection					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 社会的養護を必要とする児童（要養護児童）に対する社会的養護をめぐる諸課題を学習し、要養護児童やその家族への専門的支援を行うための基礎的知識を習得することを目的とする。 現代社会における社会的養護の意義、歴史の変遷、社会的養護と児童福祉の関連性、児童の権利擁護について理解する。社会的養護の法制度や実施体系、施設養護および他の社会的養護の実際を学び、現状と課題を考察する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 現代社会における社会的養護の意義 【到達目標】 (1)現代の子ども、家庭、社会の状況、家庭の機能を理解する。 (2)子どもの養育問題の現状と社会的養護の必要性を理解する。 【授業時間外学習】 授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第9回 施設養護の基本原則とソーシャルワーク 【到達目標】 (1)社会的養護の理念に基づく施設養護の基本原則を理解する。 (2)ソーシャルワーク理論に基づく施設養護の基本原則を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第2回 児童権利擁護と社会的養護 【到達目標】 (1)社会的養護における児童の権利と人権について理解する。 (2)社会的養護における児童の権利擁護について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第10回 施設養護の実際（1）日常生活支援・自立支援 【到達目標】 (1)施設での生活環境整備と日常的なかかわりについて理解する。 (2)自立支援、リビングケア、アフターケアについて理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第3回 社会的養護の歴史の変遷 【到達目標】 (1)社会的養護の歴史の変遷について理解する。 (2)社会的養護にかかわる先駆者の取り組みについて理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第11回 施設養護の実際（2）被虐待児への支援 【到達目標】 (1)被虐待児の情緒と行動について理解する。 (2)被虐待児への支援について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第4回 社会的養護の制度と法体系 【到達目標】 (1)要保護児童、家庭的養護、施設養護について説明できる。 (2)社会的養護の制度と法体系の概要を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第12回 施設養護の実際（3）喪失体験へのケア 【到達目標】 (1)喪失を体験した児童の情緒と行動について理解する。 (2)グループケア、ピアサポート等、喪失体験へのケアを理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第5回 社会的養護の仕組みと実施体系 【到達目標】 (1)社会的養護にかかわる仕組みと実施体系の概要を理解する。 (2)社会的養護にかかわる児童相談所の機能と役割を理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第13回 社会的養護の専門職、倫理の確立 【到達目標】 (1)児童福祉施設職員の資質、専門性について理解する。 (2)専門職の倫理の確立、倫理綱領について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第6回 施設養護 【到達目標】 (1)児童福祉施設の種類、目的、対象児童、職員等を説明できる。 (2)施設養護の現状と課題を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第14回 社会的養護の現状と課題（1）施設等における権利擁護 【到達目標】 (1)施設等の運営管理について理解する。 (2)被措置児童等の虐待防止について理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第7回 家庭的養護（1） 【到達目標】 (1)里親制度、養子制度について説明できる。 (2)家庭的養護の現状と課題を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			第15回 社会的養護の現状と課題（2）社会的養護と地域福祉 【到達目標】 (1)地域における要保護児童支援ネットワークについて理解する。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。			
第8回 家庭的養護（2） 【到達目標】 (1)里親制度、養子制度について説明できる。 (2)家庭的養護の現状と課題を説明できる。 【授業時間外学習】 事前に教科書に目を通し、授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。						
【学習上の留意点】 ここでの学びは、施設実習の前に習得しておくべき基礎的事項である。入所型児童福祉施設の状況については具体的にイメージしにくいという問題がある。ビデオ教材や事例を多く提示して多面的な理解を促していくが、実習以外でもボランティア活動等を通じて体験的に理解していくことが望まれる。						
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【関連科目】 社会的養護内容、児童家庭福祉						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題40%、理解度確認のための試験結果を60%として評価する。 試験は、授業内での中間試験と、試験期間中に期末試験を行う。						

科目名	社会的養護内容			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Practice in Care and Protection of Children					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 社会的養護を必要とする児童（要養護児童）に対する社会的養護をめぐる諸課題を演習形態で学び、要養護児童やその家族への専門的支援を行うための実践力の基礎を習得することを目的とする。 社会的養護における児童の権利擁護、保育士等の倫理を理解し、施設養護及び他の社会的養護の実践について学ぶ。個別支援計画の作成、日常生活支援、治療的支援、自立支援等、社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について、具体的に理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 社会的養護における児童の権利擁護 【 到達目標 】 (1)社会的養護における児童の権利と人権について理解する。 (2)社会的養護における児童の権利擁護について理解する。 【授業時間外学習】 厚生労働省のホームページで社会的養護の現状と課題を調べてまとめる。			第9回 事例分析（4）学校・地域との協力 【 到達目標 】 (1)子どもと学校や地域等との関係形成について具体的に理解する。 (2)保育士としての専門的支援のあり方を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実習と関連付けながら考察する。			
第2回 社会的養護における保育士等の倫理および責務 【 到達目標 】 (1)保育士の倫理の確立、倫理綱領について理解する。 (2)社会的養護における保育士の責務を理解する。 【授業時間外学習】 厚生労働省のホームページで社会的養護の現状と課題を調べてまとめる。			第10回 事例分析（5）家族や里親とのかかわり 【 到達目標 】 (1)子どもと家族や里親との関係形成について具体的に理解する。 (2)保育士としての専門的支援のあり方を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実習と関連付けながら考察する。			
第3回 施設養護の特性および実際 【 到達目標 】 (1)施設入所から退所までの過程を理解する。 (2)施設の生活スタイル、日課について理解する。 【授業時間外学習】 厚生労働省のホームページで社会的養護の現状と課題を調べてまとめる。			第11回 事例分析（6）子どもへの不適切なかわりの防止 【 到達目標 】 (1)施設内虐待等の子どもへの不適切なかわりについて理解する。 (2)保育士としての専門的支援のあり方を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実習と関連付けながら考察する。			
第4回 里親制度の特性および実際 【 到達目標 】 (1)里親の申し込みから子どもの委託・解除までの過程を理解する。 (2)里親家庭での生活、実親、地域、施設とのかかわりを理解する。 【授業時間外学習】 厚生労働省のホームページで社会的養護の現状と課題を調べてまとめる。			第12回 記録および自己評価 【 到達目標 】 (1)記録の目的、種類、書き方、活用法を理解する。 (2)実践活動の振り返りと自己評価について理解する。 【授業時間外学習】 実践に役立てられるように習熟する。			
第5回 個別支援計画の作成 【 到達目標 】 (1)子どものニーズアセスメント、自立について理解する。 (2)個別支援計画の作成方法を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			第13回 社会的養護にかかわる専門的技術 【 到達目標 】 (1)保育士の専門性にかかわる方法・技術とその応用を理解する。 (2)ソーシャルワークにかかわる方法・技術とその応用を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			
第6回 事例分析（1）日常生活支援・自立支援 【 到達目標 】 (1)施設での生活環境整備と日常的なかわりを具体的に理解する。 (2)自立支援、リビングケア、アフターケアを具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実習と関連付けながら考察する。			第14回 今後の課題と展望（1） 【 到達目標 】 (1)施設の小規模化、地域とのかかわりについて理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			
第7回 事例分析（2）被虐待児への支援 【 到達目標 】 (1)被虐待児の情緒と行動について具体的に理解する。 (2)保育士としての専門的支援のあり方を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実習と関連付けながら考察する。			第15回 今後の課題と展望（2） 【 到達目標 】 (1)社会的養護の課題を理解し、今後の展望を考察する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			
第8回 事例分析（3）喪失体験へのケア 【 到達目標 】 (1)喪失を体験した児童の情緒と行動について具体的に理解する。 (2)保育士としての専門的支援のあり方を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、実習と関連付けながら考察する。						
【学習上の留意点】 社会的養護をめぐる問題は、入所型児童福祉施設に限らず、保育所や教育機関等、すべての子どもの現場に共通の課題となっている。厳しい環境に置かれた児童の社会的養護を日常生活面で担う保育士の福祉専門職としての役割を十分認識して、学びを深めてほしい。 事例分析では、毎回異なるメンバーのグループで検討および合意形成を行い、各グループの結果発表という形式で授業を進める。施設実習と関連付けながら、実践への基礎づくりに取り組む。						
【教科書・参考書など】 教科書：「実習生の日誌事例から考察する 社会的養護内容」雨宮由紀枝・下尾直子編著（大学図書出版） 資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【関連科目】 社会的養護、児童家庭福祉						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題30%、課題レポート30%、理解度確認のための試験結果を40%として評価する。 レポート課題の発表、および学期末試験を行う。						

科目名	保育内容の研究（健康）			担当者	森田陽子	
英文名	Child Care Studies (Child Health)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことについて学習する。この領域のねらいである「明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。」「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。」「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。」を具体的に学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 近年の子どもの状況 【 到達目標 】 (1)近年の子どもの育ちに見る変化と実態を理解する。 (2)幼児期とはどのような時期なのかを理解する。 【授業時間外学習】 近年の子どもの状況についての学びをレポートする。			第9回 健康な生活のリズムを身に付け、楽しんで食事をする 【 到達目標 】 (1)現代っ子の生活リズムを理解する。 (2)「早寝早起き朝ごはん」の取り組みを理解する。 【授業時間外学習】 健康な生活のリズムを身に付け、楽しんで食事をするについての学びをレポートする。			
第2回 保育所保育指針・幼稚園教育要領「健康」の意味 【 到達目標 】 (1)要領および指針の意義と改訂の趣旨を理解する。 (2)領域「健康」の位置づけと意味を理解する。 【授業時間外学習】 保育所保育指針・幼稚園教育要領「健康」の意味についての学びをレポートする。			第10回 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、排泄などの生活に必要な活動を自分でする 【 到達目標 】 (1)基本的な生活習慣の概要を理解する。 (2)基本的な生活習慣の形成を理解する。 【授業時間外学習】 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、排泄などの生活に必要な活動を自分ですることについての学びをレポートする。			
第3回 保育士等や友達と触れ合い、安定感を持って生活する 【 到達目標 】 (1)情緒の発達と他社とのかわりを理解する。 (2)安定感のある生活と育ちを理解する。 【授業時間外学習】 保育士等や友達と触れ合い、安定感を持って生活することについての学びをレポートする。			第11回 幼稚園や保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動する 【 到達目標 】 (1)子どもにとって幼稚園・保育園はどういう場かを理解する。 (2)空間や遊具の配置を理解する。 【授業時間外学習】 幼稚園や保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動することについての学びをレポートする。			
第4回 いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす (1) 【 到達目標 】 (1)身体諸機能の発達を理解する。 (2)動作や運動能力の発達を理解する。 【授業時間外学習】 いろいろな遊びの中で、十分に体を動かすことについての学びをレポートする。			第12回 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う 【 到達目標 】 (1)子どもの健康と保育者の視点を理解する。 (2)病気を予防するために必要な活動を理解する。 【授業時間外学習】 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行うことについての学びをレポートする。			
第5回 いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす (2) 【 到達目標 】 (1)子どもはあそびでどのような経験をしているのかを理解する。 (2)運動遊びは心身の発達にどのように影響するのかを理解する。 【授業時間外学習】 いろいろな遊びの中で、十分に体を動かすことについての学びをレポートする。			第13回 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動する (1) 【 到達目標 】 (1)子どもの生活とケガや事故について理解する。 (2)安全生活の習慣や態度の形成についてを理解する。 【授業時間外学習】 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動することについての学びをレポートする。			
第6回 いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす (3) 【 到達目標 】 (1)様々な遊びを知る。 (2)伝承遊びを知る。 【授業時間外学習】 いろいろな遊びの中で、十分に体を動かすことについての学びをレポートする。			第14回 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動する (2) 【 到達目標 】 (1)水遊びにおける安全に関する指導と対策を理解する。 (2)散歩や遠足における安全に関する指導と対策を理解する。 (3)交通安全の習慣や態度の形成を理解する。 【授業時間外学習】 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動することについての学びをレポートする。			
第7回 進んで戸外で遊ぶ・自然であそぶ 【 到達目標 】 (1)戸外遊び・自然遊びの意義を理解する。 (2)具体的な遊びを知る。 【授業時間外学習】 進んで戸外で遊ぶ・自然であそぶことについての学びをレポートする。			第15回 家庭との連携－保護者理解と支援 【 到達目標 】 (1)子育てをめぐる今日の状況を理解する。 (2)子育て支援について理解する。 【授業時間外学習】 家庭との連携、保護者理解と支援についての学びをレポートする。			
第8回 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む 【 到達目標 】 (1)どうして幼時期に「様々な活動」が必要かを理解する。 (2)どのように「様々な活動」を援助するのかを理解する。 【授業時間外学習】 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組むことについての学びをレポートする。						
【学習上の留意点】 「健康」の指導ができるよう、自らの心と体の健康管理はもちろん、基本的な生活習慣を身につけて授業に臨むこと。テキストや配布した資料を、将来活用しやすいようにファイルすること。						
【教科書・参考書など】 「幼稚園教諭・保育士をめざす 保育内容「健康」」井筒紫乃編（圭文社）をテキストとして使用する。 「幼稚園教育要領解説」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省、「保育所保育指針」厚生労働省も参考書として使用する。						
【関連科目】 保育内容の研究（人間関係）、保育内容の研究（言葉）、保育内容の研究（表現）、保育内容の研究（環境）						
【成績評価方法】 授業内レポート50%、課題レポート作成50%。						

科目名	保育内容の研究（環境）				担当者	鈴木信夫	
英文名	Child Care Studies (Environment)						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択	
【目的とねらい】 幼児は日常生活の中で自然を直接肌で感じ、さまざまな事象に興味や関心をもちながら成長していく。この授業では、領域「環境」の目的と意義を理解し、幼児になじみの深い動植物の飼育栽培の基本や、自然観察の方法を学ぶ。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション 【 到達目標 】 授業の概要とねらいを理解する。 【授業時間外学習】 事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。				第9回 小動物の飼育・ウサギ 【 到達目標 】 動物の飼育例としてウサギを取り上げる。ウサギの飼育の基本とウサギの生物学的な特徴を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでカイウサギについて調べ、授業の理解を深めること。			
第2回 領域「環境」 【 到達目標 】 幼稚園教育要領および保育所保育指針における、「環境」の意義と目的を理解する。 【授業時間外学習】 事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。				第10回 水槽で飼う生き物(1) 【 到達目標 】 メダカや金魚など、水槽で飼育する生き物の飼育の基本を理解する。 【授業時間外学習】 ペットショップに行って、水槽の種類や観賞魚を実際に観察すること。			
第3回 春の自然 【 到達目標 】 春の野原に一齐に咲き出す、草花たちの繁殖戦略を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで、「スプリングエフェメラル」について調べる。				第11回 水槽で飼う生き物(2) 【 到達目標 】 オタマジャクシやザリガニ等の生き物の基本を理解する。また、幼稚園等で動物を飼育することの意義を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどでアメリカザリガニの飼育について調べ、授業の理解を深めること。			
第4回 夏の自然 【 到達目標 】 夏の行事、七夕祭りに関連して、星座や星の一生について理解を深める。 【授業時間外学習】 インターネットなどで夏の星座について調べ、授業の理解を深めること。				第12回 植物の栽培と観察(1) 【 到達目標 】 花壇作りの基本を理解する。 【授業時間外学習】 身の回りにおける花壇が、どのような種類の花壇で、どんな花が植えてあるか観察すること。			
第5回 秋の自然(1) 【 到達目標 】 紅葉のメカニズムを理解する。また、ドングリを取り巻く生き物達について、理解を深める。 【授業時間外学習】 インターネットなどでドングリのなる木について調べ、授業の理解を深めること。				第13回 植物の栽培と観察(2) 【 到達目標 】 トマトやキュウリなどの野菜栽培の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 ホームセンターに行って、野菜の苗を実際に見て、その特徴を理解すること。			
第6回 秋の自然(2) 【 到達目標 】 近くの公園に行って、ドングリのなる木を実際に観察し、雑木林の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットなどで雑木林について調べ、授業の理解を深めること。				第14回 園外活動(1) 【 到達目標 】 園外活動の意義を理解するとともに、園外活動の一例として、動物園を取り上げ、飼育されている代表的な動物の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 インターネットで東京にある代表的な動物園を調べ、その特徴を理解すること。			
第7回 おもちゃ作り 【 到達目標 】 ドングリや木の実、落ち葉など、自然の素材を利用しておもちゃを作成し、発表する(課題)。 【授業時間外学習】 自然の素材を使っておもちゃを作成し、発表できるよう準備をすること。				第15回 園外活動(2) 【 到達目標 】 潮干狩りに関連して、潮の満ち引きが起きるメカニズムを理解する。また、潮間帯に生息する生き物についての理解を深める。 【授業時間外学習】 インターネットなどで潮の満ち引きを調べ、今月の大潮の日を知ること。			
第8回 冬の自然 【 到達目標 】 冬の典型的な気圧配置を理解する。また、冬に日本海側に大雪が降るメカニズムを理解する。 【授業時間外学習】 インターネットで、キーワード「過冷却」と「雪の結晶ができるまで」を検索し、動画を見ること。							
【学習上の留意点】 講義では、毎回の授業内容の詳細を説明するので、しっかりノートをとること。口頭説明後に、関連するビデオを見ることにより、内容の理解を深める。ビデオ再生中に教員がおこなう補足説明にも注意を払うこと。課題として、「おもちゃ」を作成するので、指定された期日までに必ず準備すること。							
【教科書・参考書など】 「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省							
【関連科目】 生活科							
【成績評価方法】 課題を20%、テストを80%として評価する。							

科目名	保育内容の研究（言葉）			担当者	松崎史周	
英文名	Child Care Studies (Language)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門・選択
【目的とねらい】 子どもの言葉の獲得・発達の道筋を理解し、子どもの言葉の育ちを支える保育者の援助のあり方について理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス／保育者の言葉① 【到達目標】 授業の概要や進め方を理解し、学習の心構えを形成する。 子どもの言語獲得のメカニズムと言語の機能について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第9回 子どもの言葉を育てる保育者の支援④ 【到達目標】 相手に伝わる言葉で表現する力、生活に必要な言葉の力を育む保育について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			
第2回 乳児期の言葉 【到達目標】 乳児期の子どもの言葉の発達について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第10回 絵本・紙芝居を用いた保育① 【到達目標】 絵本・紙芝居を活用した保育の効用とその実際について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			
第3回 幼児期前半の言葉 【到達目標】 幼児期前半の子どもの言葉の発達について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第11回 絵本・紙芝居を用いた保育② 【到達目標】 絵本を活用した保育を計画し、グループ内で発表・検討する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			
第4回 子どもの言葉を育てる保育者の支援① 【到達目標】 乳児期から幼児期前半までの言葉の発達を踏まえて、子どもの言葉を育てる支援について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第12回 言葉に親しむ保育教材 【到達目標】 言葉の面白さを感じられる保育教材について知り、実際に作成する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			
第5回 幼児期後半の言葉 【到達目標】 幼児期後半の子どもの言葉の発達について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第13回 実習生の言葉遣い① 【到達目標】 電話の対応なども含めて実習生に求められる言葉・話し方について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			
第6回 子どもの言葉を育てる保育者の支援② 【到達目標】 幼児期後半の言葉の発達を踏まえて、子どもの言葉を育てる支援について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第14回 実習生の言葉遣い② 【到達目標】 手紙を中心に実習生に求められる文章表現について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			
第7回 領域「言葉」のねらいと内容 【到達目標】 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領「言葉」のねらいと内容について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			第15回 保育者としての言葉の専門性 【到達目標】 保育者に望まれる言葉の専門性について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。			
第8回 子どもの言葉を育てる保育者の支援③ 【到達目標】 子どもを育てる言葉かけ、自分なりの言葉で表現する力を育む保育について理解する。 【授業時間外学習】 配付資料を読み、授業内容を確認する。絵本ノートの記入を行う。						
【学習上の留意点】 毎時間の最後には授業での学びをまとめる振り返りシートを書いてもらう。各時間の学習テーマを意識しながら授業内容を理解し、振り返りをまとめられるようにすること。なお、事例の考察やグループ討論も取り入れていく。積極的に取り組み、自分の考えを持ち、伝えられるようにしていくこと。						
【教科書・参考書など】 『幼稚園教育要領』文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省・厚生労働省						
【関連科目】 言語表現、保育内容の研究（総合）、ことばの研究						
【成績評価方法】 授業の課題・振り返り40%、試験60%として総合的に評価する。						

科目名	保育内容の研究（人間関係）				担当者	角田和也	
英文名	Child Care Studies (Social Relation of Nursery School and Kindergarten Teacher)						
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択	
【目的とねらい】 幼稚園教育要領および保育所保育指針に示されている、領域「人間関係」について学ぶ。発達過程に即した子どもの人間関係の変化を様々な視点から概観するとともに、子どもの状況に応じた援助の仕方について検討する。また、保育者同士および保護者や地域とのかかわりについても理解を深める。							
【授業内容・到達目標など】							
第1回 オリエンテーション／保育内容の研究（人間関係）について ／ヒトと他者とのかかわり合いは、いつ頃から始まるのか① 【到達目標】 (1)この授業で学習する内容が、領域「人間関係」に基づくものであることを理解する。 (2)「他者とのかかわり合いはいつ頃から始まるのか」について、自分の考えを説明できる。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。				第9回 保育者と子どものかかわり⑥ 4歳児とのかかわり② ／保育者と子どものかかわり⑦ 5歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1)4歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)5歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第2回 ヒトと他者とのかかわり合いは、いつ頃から始まるのか② ／子どもを取り巻く人間関係① 【到達目標】 (1)「他者とのかかわり合いはいつ頃から始まるのか」理解する。(2)就園前後で変化する子どもたちの人間関係の様相を理解し、この中の保育者の役割を考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。				第10回 保育者と子どものかかわり⑦ 5歳児とのかかわり② ／子ども同士のかかわりをどう援助していくのか① 【到達目標】 (1)5歳児との望ましいかかわり方について理解する。(2)保育場面における子ども同士のかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第3回 子どもを取り巻く人間関係②／保育者と子どものかかわり① 総論① 【到達目標】 (1)前回授業で解説した「子どもたちの人間関係の様相」の中での保育者の役割を理解する。 (2)各年齢に共通するかかわり方の基本的事項について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。				第11回 子ども同士のかかわりをどう援助していくのか②／保育者同士のかかわり① 【到達目標】 (1)保育場面における子ども同士のかかわりへの望ましい援助のあり方について理解する。 (2)保育者同士のかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第4回 保育者と子どものかかわり① 総論② ／保育者と子どものかかわり② 0歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1)各年齢に共通するかかわり方の基本的事項について理解する。 (2)0歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。				第12回 保育者同士のかかわり②／保育者と保護者のかかわり① 【到達目標】 (1)保育者同士のかかわりについて、望ましいかかわり方を理解する。 (2)保護者とのかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第5回 保育者と子どものかかわり② 0歳児とのかかわり② ／保育者と子どものかかわり③ 1歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1)0歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)1歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。				第13回 保育者と保護者のかかわり②／保育者と地域のかかわり① 【到達目標】 (1)保護者とのかかわりについて、望ましいかかわり方を理解する。 (2)地域とのかかわりの実際を理解し、望ましいかかわり方について考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第6回 保育者と子どものかかわり③ 1歳児とのかかわり② ／保育者と子どものかかわり④ 2歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1)1歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)2歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。				第14回 保育者と地域のかかわり② 【到達目標】 (1)地域とのかかわりについて、望ましいかかわり方を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第7回 保育者と子どものかかわり④ 2歳児とのかかわり② ／保育者と子どものかかわり⑤ 3歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1)2歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)3歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。				第15回 保育者に求められる人間関係とは 【到達目標】 (1)これまでの授業内容を理解した上で、保育現場での実践に即した課題に対して具体的な対応方法を自ら考えることができる。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第8回 保育者と子どものかかわり⑥ 4歳児とのかかわり ／保育者と子どものかかわり⑥ 4歳児とのかかわり① 【到達目標】 (1)3歳児との望ましいかかわり方について理解する。 (2)4歳児とのかかわりの実際を知り、望ましいかかわり方について授業内容を基に考察する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。							
【学習上の留意点】 ①原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）							
【教科書・参考書など】 ・市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布するプリント教材を使用します。 ≪参考書≫①「演習保育内容人間関係」田代和美他編著（建帛社）②「事例で学ぶ保育内容2〈領域〉人間関係」無藤隆監修（萌文書林） ③「子どもの心の育ちと人間関係」寺見陽子編著（保育出版社） ・「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省							
【関連科目】							
【成績評価方法】 ・提出物の評価……50% 期末試験の評価……50% ・試験は試験期間中に別途実施します。							

科目名	保育内容の研究（表現A）			担当者	諸 富 満 希 子	
英 文 名	Child Care Studies (Expression A)					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞蹈学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 表現領域の一分野である音楽の楽しさを、子どもたちに伝えることのできる指導者の育成を目標とする。 1年次の「歌唱法」で取り扱ってきた教材を、実際に子どもたちと歌ったり、楽器で演奏したり、音楽に合わせて踊ったりしながら、現場における有効な指導法を学ぶ。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 音楽的能力の発達 【 到達目標 】 3・4・5歳における音楽的能力の差異を理解する。 【授業時間外学習】 「発育発達論」や「保育・教育心理学」など、1年次に学習してきたことを復習する。			第9回 年中児の指導（歌と動きを中心に） 【 到達目標 】 前回の経験を生かし、より充実した子どもとの関わりをもつ。 【授業時間外学習】 年中児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。			
第2回 指導の進め方・教材研究（対象：年長児） 【 到達目標 】 1年次で学んだ教材を再度確認し、音楽的理解を深める。 年長児に適した教材を選択し、その指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 「歌唱法」の時間に学習したうたを復習する。			第10回 グループ③による体験授業 【 到達目標 】 前2回の経験を生かし、年中児に対して音楽指導を行う。 【授業時間外学習】 グループ③を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。			
第3回 年長児の指導（歌と動きを中心に） 【 到達目標 】 年長児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。 【授業時間外学習】 年長児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。			第11回 グループ④による体験授業 【 到達目標 】 前3回の経験を生かし、より充実した表現活動を実践する。 【授業時間外学習】 グループ④を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。			
第4回 年長児の指導（歌と動きを中心に） 【 到達目標 】 前回の経験を生かし、より充実した子どもとの関わりをもつ。 【授業時間外学習】 年長児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。			第12回 指導の進め方・教材研究（対象：年少児） 【 到達目標 】 年少児に適した教材を選択し、その指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 「歌唱法」の時間に学習したうたの中から、年少児にふさわしいと思われるうたを復習する。			
第5回 グループ①による体験授業 【 到達目標 】 前2回の経験を生かし、年長児に対して音楽指導を行う。 【授業時間外学習】 グループ①を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。			第13回 年少児の指導（あそび歌を中心に） 【 到達目標 】 年少児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。 【授業時間外学習】 年少児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。			
第6回 グループ②による体験授業 【 到達目標 】 前3回の経験を生かし、より充実した表現活動を実践する。 【授業時間外学習】 グループ②を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。			第14回 グループ⑤による体験授業 【 到達目標 】 対象の年齢を考慮した適切な指導を実践する。 【授業時間外学習】 グループ⑤を助けることができるように、指導内容について事前に理解を深める。			
第7回 指導の進め方・教材研究（対象：年中児） 【 到達目標 】 年中児に適した教材を選択し、その指導法を学ぶ。 【授業時間外学習】 「歌唱法」の時間に学習したうたの中から、年中児にふさわしいと思われるうたを復習する。			第15回 お楽しみ会を開こう 【 到達目標 】 グループごとに、子どもたちが喜ぶ音楽的活動を考える。 【授業時間外学習】 「内容が年齢に応じているか」「ことば掛けは適切か」などの観点をもち、活動を工夫する。			
第8回 年中児の指導（歌と動きを中心に） 【 到達目標 】 年中児と1対1で向き合い、共に音楽を楽しむ。 【授業時間外学習】 年中児が日頃どのようなものに興味を持っているかを考え、子どもとの共通話題をさがす。						
【学習上の留意点】 教材や指導方法など万全の準備を怠らない努力が必要であるが、それとともに実際の子どもの様子を観察し臨機応変に対応していく柔軟性が求められる。そのため、日頃から、ボランティアなどで子どもと接する機会があることが好ましい。園側の都合により、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。						
【教科書・参考書など】 「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社）および1年次「歌唱法」の授業時に配ったプリント。 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省 その他、適宜楽譜を配布する。						
【関連科目】 歌唱法、音楽表現Ⅰ、音楽表現Ⅱ						
【成績評価方法】 「指導の記録」およびレポート50%、グループ発表ならびに毎授業時における子どもとのコミュニケーション能力50%で評価する。						

科目名	保育内容の研究（表現B）			担当者	望月久也	
英文名	Child Care Studies (Expression B)					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門・選択
【目的とねらい】 幼児期における表現活動の意義と特質、および発達段階について造形表現を中心に学び、その基本的教材について素材、技法、ねらいや指導上の留意点、評価法等を実践的に理解する。また環境構成や他の表現活動も視野に入れ、総合的な造形の可能性を考える。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 表現について（造形を中心に） 【到達目標】 子どもの表現活動を広く理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第9回 立体素材と技法1 【到達目標】 子ども向け粘土の特質を実践的に理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第2回 幼児の平面表現1 【到達目標】 表現の特質と発達段階を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第10回 立体素材と技法2 【到達目標】 粘土による表現の可能性を実践的に理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第3回 幼児の平面表現2 【到達目標】 発達段階に合わせた指導上のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第11回 立体素材と技法3 【到達目標】 粘土以外の立体表現を実践的に理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第4回 画材と技法1 【到達目標】 子どもの画材の特質を実践的に理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第12回 技法遊び 【到達目標】 基本的な技法遊びを、実践的に理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第5回 画材と技法2 【到達目標】 子どもの画材の展開を実践的に理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第13回 総合的表現1 【到達目標】 いくつかの表現技法を合わせて用いる方法を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第6回 画材と技法3 【到達目標】 非描画的な使い方を実践的に理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第14回 総合的表現2 【到達目標】 表現技法を合わせる効果と、そのための環境構成を実践的に理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第7回 幼児の立体表現1 【到達目標】 表現の特質と発達段階を知る。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			第15回 講評 【到達目標】 これまでの作品を全員で鑑賞し、教育における環境構成や評価について理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。			
第8回 幼児の立体表現2 【到達目標】 発達段階に合わせた指導上のポイントを理解する。 【授業時間外学習】 広く造形作品に触れる。制作進度の遅れを補う。						
【学習上の留意点】 実習が中心になるので自立的に活動し、造形作業のしやすい服装を心掛けること。基本的な用具（水彩絵具や文房具等）は各自で用意する。						
【教科書・参考書など】 「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省 参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
【関連科目】 造形表現Ⅰ、造形表現Ⅱ						
【成績評価方法】 課題作品（結果）を50%、制作過程を50%で総合的に評価する。						

科目名	保育内容の研究（総合）			担当者	百瀬 ユカリ	
英文名	Child Care Studies (Seminar)					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 保育内容として、教育の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）があり、各領域ごとの科目が設定されている。本科目ではそれらの領域及び養護に関する保育の内容が、関連性をもって総合的に展開されることを具体的な保育実践につなげて理解することを目的とする。特に、多様な要素を含む子どもの遊びの内容や、その展開を助けるための環境構成に関する知識・技術について写真や映像を通して、具体的に学んでいく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育の内容について 【 到達目標 】 (1)保育内容とは何かを理解する。 (2)保育内容の今日的課題について考察する。 【授業時間外学習】 保育内容について知っていることを書き記す。			第9回 保育環境の構成 【 到達目標 】 (1)保育室の環境構成について理解する。 (2)園庭の環境構成について理解する。 【授業時間外学習】 保育環境に関する教科書の該当箇所を読む。			
第2回 養護に関する保育の内容 【 到達目標 】 (1)養護に関する保育内容について理解する。 (2)養護に関する保育実践について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 「養護」と名のつくものを書き記す。			第10回 保育環境の構成と再構成 【 到達目標 】 (1)環境構成の重要性やその意図について理解する。 (2)環境の再構成について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 環境構成の重要性に関する教科書の該当箇所を読む。			
第3回 教育に関する保育の内容 【 到達目標 】 (1)教育に関する保育内容について理解する。 (2)教育に関する保育実践について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 「教育」と名のつくものを書き記す。			第11回 遊びの導入と展開① 【 到達目標 】 (1)遊びの導入の方法について理解する。 (2)遊びの展開の方法について理解する。 【授業時間外学習】 導入－展開に関する教科書の該当箇所を読む。			
第4回 養護と教育の一体性 【 到達目標 】 (1)養護と教育の一体性について理解する。 (2)養護と教育の一体性に関する保育実践について理解する。 【授業時間外学習】 養護と教育の一体的展開に関する保育実践例（教科書）を読む。			第12回 遊びの導入と展開② 【 到達目標 】 (1)遊びの導入と展開を具体的に理解する。 (2)遊びの導入と展開を考察する。 【授業時間外学習】 映像や写真から遊びの導入と展開を予測したり考えたりする。			
第5回 子どもの発達過程と保育内容① 【 到達目標 】 (1)3歳未満児の発達過程について理解する。 (2)3歳未満児の発達に応じた保育内容について理解する。 【授業時間外学習】 3歳未満児の時の自分または家族や知り合いの写真を見て、その心持を考えて書く。			第13回 遊びと保育内容① 【 到達目標 】 (1)遊びをみる視点と保育者の援助について理解する。 (2)「物とのかかわり」「人とのかかわり」について理解する。 【授業時間外学習】 遊びをみる視点に関する教科書の該当箇所を読む。			
第6回 子どもの発達過程と保育内容② 【 到達目標 】 (1)3歳以上児の発達過程について理解する。 (2)3歳以上児の発達に応じた保育内容について理解する。 【授業時間外学習】 3歳～5歳児の時の自分または家族や知り合いの写真を見て、その心持を考えて書く。			第14回 遊びと保育内容② 【 到達目標 】 (1)5領域からみた総合的指導について理解する。 (2)遊びの援助の実際を理解する。 【授業時間外学習】 ”○○ごっこ”を5領域の観点から分析してみる。			
第7回 保育の計画① 【 到達目標 】 (1)保育課程と指導計画について理解する。 (2)指導計画の内容について理解する。 【授業時間外学習】 保育課程及び指導計画に関する教科書の該当箇所を読む。			第15回 保育内容の更なる充実をめざして 【 到達目標 】 (1)接続期（年長～小1）のカリキュラムについて理解する。 (2)小学校の学習内容を理解する。 【授業時間外学習】 小学校の学習指導要領やアプローチカリキュラムを読む。			
第8回 保育の計画② 【 到達目標 】 (1)指導計画に基づく保育実践を理解する。 (2)指導計画を具体的に作成する。 【授業時間外学習】 保育現場の指導計画を読む。						
【学習上の留意点】 保育内容を総合的に理解するために、様々な科目と関連づけて学ばなければならない。5領域に関する「保育内容の研究」の授業はもとより、保育原理、保育指導法などの学習とつながらながら保育実践の基盤をつくってほしい。今後の保育実習や実践に活かすべく、しっかりとノートを取り、具体的な保育場面を想定しながら学びを深めてほしい。						
【教科書・参考書など】 教科書：『新・保育内容総論[第2版]』太田悦生編 百瀬ユカリ他著（株式会社みらい） 参考書：『保育が織りなす豊かな世界』天野珠路著（ひかりのくに） 『幼稚園教育要領解説書』、『保育所保育指針解説書』、『認定こども園教育・保育要領解説書』（フレーベル館）						
【関連科目】 保育内容の研究（健康）、保育内容の研究（人間関係）、保育内容の研究（環境）、保育内容の研究（言葉）、保育内容の研究（表現A） 保育内容の研究（表現B）、子どもとあそび、保育指導法						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題60%、理解度確認のための授業内テスト結果を40%として総合的に評価する。						

科目名	保育指導法			担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Methods of Guidance for Child Care					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 保育現場においては、「環境を通して」保育することや「遊びや生活を通して」子どもの育ちを促すことが求められる。こうした乳幼児を対象とする保育の方法、内容について理解を深め、その指導法について学ぶことを本科目の目的とする。特に、子どもの意欲や自主性を尊重し、その主体的な活動を保障するための保育の指導法について保育現場の写真や映像を通して具体的に学んでいく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育における指導 【 到達目標 】 (1)保育における保育者の役割について理解する。 (2)子どもの育ちを支える保育環境の重要性について理解する。 【授業時間外学習】 保育と指導の違いまたは共通点について考えて記す。			第9回 健康の領域にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1)園庭の環境やその遊びについて考察する。 (2)運動遊びの指導法について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 運動遊びのリストを作成する。			
第2回 環境を通して行う保育 【 到達目標 】 (1)保育における人的環境と物的環境について理解する。 (2)保育の環境構成について理解する。 【授業時間外学習】 環境構成と指導の関係について考えて記す。			第10回 人間関係の領域にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1)役割遊び、ごっこ遊びについて理解する。 (2)けんかの場面への対応・指導法について理解する。 【授業時間外学習】 ごっこ遊びのリスト（必要な遊具や用具等も含めて）を作成する。			
第3回 子どもの発達過程に応じた保育 【 到達目標 】 (1)乳幼児期の発達過程と適切な対応について理解を深める。 (2)個別支援が必要な子どもの援助・指導について理解する。 【授業時間外学習】 発達の課題や支援の方法について調べて記す。			第11回 環境の領域にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1)自然との関わりや自然を活かした保育について考察する。 (2)文字や記号など認識力に関する指導法について理解する。 【授業時間外学習】 自然に関わる遊びや活動のリストを作成する。			
第4回 保育における個と集団の指導 【 到達目標 】 (1)個の成長に寄り合い援助・指導することを学ぶ。 (2)集団としての成長の過程に寄り合い指導することを学ぶ。 【授業時間外学習】 幼児期の集団活動や集団遊びを考えて書く。			第12回 言葉の領域にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1)話す、聴く、言葉の感覚を養うための指導法を考察する。 (2)絵本やお話を活用した指導法について理解する。 【授業時間外学習】 絵本のリストを作成する。			
第5回 生活にかかわる援助・指導の方法① 【 到達目標 】 (1)生活習慣の習得に関する指導の方法を理解する。 (2)生活技術の習得に関する指導の方法を理解する。 【授業時間外学習】 必要な生活習慣について考えて書く。			第13回 表現の領域にかかわる援助・指導の方法 【 到達目標 】 (1)絵画・造形に関する指導法について理解する。 (2)音楽・身体表現に関する指導法について理解する。 【授業時間外学習】 絵画造形に関する素材や道具等のリストを作成する。			
第6回 生活にかかわる援助・指導の方法② 【 到達目標 】 (1)食育に関する指導の方法を理解する。 (2)社会生活に関する指導の方法を理解する。 【授業時間外学習】 保育現場における食育について調べて書き記す。			第14回 保育の総合性 【 到達目標 】 (1)遊びの連続性、総合性を踏まえた指導法について理解する。 (2)養護と教育の一体性を踏まえた指導法について学ぶ。 【授業時間外学習】 保育における指導とは何かを再考する。			
第7回 遊びにかかわる援助・指導の方法① 【 到達目標 】 (1)遊びの意義や果たす役割について理解する。 (2)遊具の種類や果たす役割について理解する。 【授業時間外学習】 遊具のリストを作成する。			第15回 保育実践に向けて 【 到達目標 】 (1)指導計画の作成と保育の展開について理解する。 (2)指導計画の理解と指導の多様性について理解する。 【授業時間外学習】 指導計画を作成し、何通りかの実践を考える。			
第8回 遊びにかかわる援助・指導の方法② 【 到達目標 】 (1)遊びの導入・内容について理解する。 (2)遊びの発展・展開について理解する。 【授業時間外学習】 遊びのリストを作成する。						
【学習上の留意点】 具体的な保育場面を想定した多岐にわたる保育の方法、指導の内容を主体的に学んでいく。これまでの体験、子どもとのかかわり、そして、授業や教科書、資料などから得たことをもとに、保育実践の礎を築いてほしい。この授業のノートは今後の実習や実践の場面で必ず活かされるので、しっかりノートを取り確認し自分のものにしてほしい。						
【教科書・参考書など】 『実習に役立つ保育技術』百瀬ユカリ著（創成社） 『幼稚園教育要領』文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省厚生労働省 その他、資料プリントを配布する。						
【関連科目】 保育内容の研究（健康）、保育内容の研究（人間関係）、保育内容の研究（環境）、保育内容の研究（言葉）、保育内容の研究（表現A） 保育内容の研究（表現B）、子どもとあそび						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題60%、理解度確認のための授業内テスト結果を40%として総合的に評価する。						

科目名	保育指導法演習			担当者	桐川 敦子	
英文名	Seminar in Method of Child Care					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 幼稚園の保育は基本的に次のような考え方によって行われる。「幼児の主体的な生活を中心に展開される。」「環境を通して行う。」「幼児一人ひとりの特徴や発達に応じて行う。」「あそびを通して総合的な指導によって行われる。」 子どもが主体的につくるあそびに保育者はどのようにかかわっていったらよいか。どのように援助し、働きかけていくべきか。保育の中で指導とは何か。子どもと共にある保育者の姿勢とは。これらを、具体的な実践の場を設定し、学んでいく。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 本授業におけるオリエンテーション 【 到達目標 】 「おみせやさんごっこ」を展開するなかで、附属幼稚園の子どもたちとかかわるこの授業の在り方を理解する。 【授業時間外学習】 配布資料の確認をする。			第9回 保育活動の実践2 【 到達目標 】 4歳児、5歳児とかかわりながら、子どもの理解を深め、かかわり方を学ぶ。 【授業時間外学習】 実践の反省をまとめ、記録する。			
第2回 保育と指導 【 到達目標 】 保育の形態について学び、自分たちが行おうとする保育活動の位置づけを明らかにする。グループごとに保育活動のねらいとテーマを考える。 【授業時間外学習】 保育の形態についての復習をする。			第10回 保育活動の実践3 【 到達目標 】 4歳児とかかわりながら、子どもの理解を深め、かかわり方を学ぶ。 【授業時間外学習】 実践の反省をまとめ、記録する。			
第3回 保育活動の指導計画作成 【 到達目標 】 グループごとに保育活動の指導計画を立て、発表する。子ども達への働きかけ、かかわり方等十分に検討する。子どもと共にある保育者としてどのようにあるべきか検討する。 【授業時間外学習】 指導計画の立案をする。			第11回 保育活動の実践4 【 到達目標 】 3歳児とかかわりながら、子どもの理解を深め、かかわり方を学ぶ。 シヨんし、次週への課題を得る。 【授業時間外学習】 実践の反省をまとめ、記録する。			
第4回 教材研究 【 到達目標 】 教材などについて検討し、グループごとに発表する。安全面、子どもの年齢、発展性など様々な角度から検討する。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			第12回 保育活動の実践5 【 到達目標 】 3歳児とかかわりながら、子どもの理解を深め、かかわり方を学ぶ。 【授業時間外学習】 実践の反省をまとめ、記録する。			
第5回 保育活動の準備1 【 到達目標 】 準備は各年齢の子どもの気持ち、姿を予測しながら行う。途中、中間報告会を設ける。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			第13回 実践の振り返り1 【 到達目標 】 実践で学んだことを、様々な思想、学問と照らし合わせる。理論と実践を融合させながら考察し、保育について理解を深める。 【授業時間外学習】 全ての実践を考察し、まとめる。			
第6回 保育活動の準備2 【 到達目標 】 準備は各年齢の子どもの気持ち、姿を予測しながら行う。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			第14回 実践の振り返り2 【 到達目標 】 反省点などをまとめ、資料を整理する。学習した事柄を記録として残す。 【授業時間外学習】 全ての実践を考察し、まとめる。			
第7回 環境構成 【 到達目標 】 子どもたちにとって良い環境構成とは何かを考える。安全面など様々な角度から検討する。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			第15回 実践の振り返り3 【 到達目標 】 活動中の映像を見ながら総合的に振り返り、保育と指導、あそびと援助について理解を深める。 【授業時間外学習】 全ての実践を考察し、まとめる。			
第8回 保育活動の実践1 【 到達目標 】 保育活動を行う。(5歳児) 5歳児とかかわりながら、子どもの理解を深め、かかわり方を学ぶ。 【授業時間外学習】 実践の反省をまとめ、記録する。						
【学習上の留意点】 附属幼稚園の子どもたちとかかわる授業なので、保育者を目指す学生の真剣な取り組みを期待する。						
【教科書・参考書など】 「幼稚園教育要領」文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省						
【関連科目】 保育指導法						
【成績評価方法】 授業中の発表50% レポート50%						

科目名	子どもの保健Ⅰ			担当者	沢田真喜子	
英文名	Child Health Ⅰ					
単位数	4	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門・選択
【目的とねらい】 保育者として子どもに関わる上で必要とされる子どもの身体の生理や発育発達過程、子どもに多い病気や事故の実態、子どもを取り巻く健康問題、小児保健政策や母子保健政策などを学び、集団保育の場で行う子どもの健康管理と安全管理に必要な知識を身につけることを目的とする。子どもの心身の健康を守り、個々の実状に合わせた的確な対応や望ましい援助を行い、子どもが自らの健康について関心をもち適切な行動に導く保育士・幼稚園教諭となるための資質・能力を身につけることを目指す。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 ガイダンス 子どもの保健とは 【到達目標】 子どもの保健とはどのようなことを学ぶ授業なのかを理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p7-8）を読み、最近の子どもの健康問題を調べる。			第9回 子どもの発育・発達⑦ 精神機能の発達 【到達目標】 知能の発達、言語発達、精神発達の評価法について理解し、保護者への対応と専門職との連携方法について事例をもとに整理する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p51-58）を読み、精神機能の発達に関する育児不安を調べる。			
第2回 子どもの健康と保健の意義 【到達目標】 健康の概念、子どもの健康指標、健やか親子21（第2次）をもとに、子どもの保健にかかわる社会の政策や保健活動とその課題について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p8-14）を読み、子どもに関する人口動態の推移を調べる。			第10回 子どもの健康⑧ 小児の主な病気 【到達目標】 小児の病気の特徴と保育の現場でよくある疾患の特徴について理解し、保育者としてのケアと保護者対応のあり方について、資料をもとに考えをまとめる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p59-63）を読み、予防接種に関連した保護者の不安を調べる。			
第3回 子どもの発育・発達① 発育期の区分や、発育発達の経過と速度 【到達目標】 受精と胎内発育、発育期の区分を理解する。発育、発達の経過と速度について、資料をもとに特徴を整理し、身体計測について考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p15-17）を読み、発育発達の特徴について調べる。			第11回 子どもの健康⑨ 感染症の成立と小児感染症 【到達目標】 感染症成立の3要素を理解した上で、小児感染症の潜伏期間、感染経路、登校・登園基準と予防接種について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p65-69）を読み、感染症の発生动向について調べる。			
第4回 子どもの発育・発達② 新生児期-乳幼児期の身体発育 【到達目標】 成熟新生児の身体特徴、乳児期の身体発育、幼児期の身体発育を理解した上で、思春期以降の発育発達を知り、身体発育の評価の重要性について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p18-30）を読み、肥満度、カウプ指数の計算式を調べる。			第12回 子どもの健康⑩ 先天異常、アレルギー疾患、免疫疾患 【到達目標】 先天異常、アレルギー疾患、免疫疾患について理解し、子どもや保護者への対応と支援について、資料をもとに課題を見つけ、課題解決に向けた対策について考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p70-76）を読み、関連疾患の親の会等の活動について調べる。			
第5回 子どもの発育・発達③ 生理機能の発達 【到達目標】 年齢に応じた生理的特徴として、呼吸・循環・免疫機能を構成する組織・器官と働き及び発育について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p31-36）を読み、構造と機能の特徴をまとめる。			第13回 子どもの精神保健① 子どもの心の健康とその課題 【到達目標】 子どもの生活環境と精神保健との関係、子どもの心の健康とその課題について、発達段階に応じた特徴を理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p87-90）を読み、家族形態の変容と育児支援施策について調べる。			
第6回 子どもの発育・発達④ 消化・尿排泄・水分代謝機能 【到達目標】 年齢に応じた生理的特徴として、消化・尿排泄・水分代謝機能を構成する組織・器官と働き及び発育について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p36-41）を読み、構造と機能の特徴をまとめる。			第14回 子どもの精神保健② 児童虐待とその対応 【到達目標】 児童虐待の防止に関する法律やその他関連する法令等と児童虐待の実態について理解し、その背景にある課題と保護者支援について考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p101-102）を読み、児童虐待に関する事例から特徴をまとめる。			
第7回 子どもの発育・発達⑤ 体温調節・内分泌機能 【到達目標】 年齢に応じた生理的特徴として、体温調節・内分泌機能を構成する組織・器官と働き及び発育について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p41-44）を読み、構造と機能の特徴をまとめる。			第15回 子どもの精神保健③ 発達障害とその対応 【到達目標】 発達障害等の特徴や発達障害者支援法成立の背景や現状と課題について理解し、子どもへの対応と保護者支援について考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p103-104）を読み、家族支援のあり方について調べる。			
第8回 子どもの発育・発達⑥ 睡眠・覚醒リズム、感覚・神経機能 【到達目標】 年齢に応じた生理的特徴として、睡眠・覚醒リズム、感覚・神経機能を構成する組織・器官と働き及び発育について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p44-50）を読み、子どもの運動機能の特徴をまとめる。						

次ページに続く

科目名	子どもの保健Ⅰ			担当者	沢田真喜子	
英文名	Child Health Ⅰ					
単位数	4	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	1					専門・選択
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 保育環境と衛生管理 【 到達目標 】 保育の現場における保健的環境と衛生管理について理解し、屋内外施設の衛生管理、日常の清潔保持と消毒、保健活動の実際について事例をもとに考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p107-114）を読み、保育現場の環境整備について調べる。			第24回 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応① 【 到達目標 】 熱性けいれん、てんかん、アレルギー疾患の病態と保育中における留意点及び保護者への支援について理解する。保育における保健管理について、ディスカッションを通して現状と課題について整理することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p80-83）を読み、保育上の課題を考える。			
第17回 保育環境と安全管理 【 到達目標 】 保育の現場における事故の特徴と事故防止、安全対策について理解し、危機管理体制の整備について課題をもとに考える。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p117-122）を読み、保育現場の事故について調べる。			第25回 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応② 【 到達目標 】 心疾患、腎疾患、内分泌疾患の病態と保育中における留意点及び主治医を中心とした保育における保健管理のあり方と保護者支援について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p83-84）を読み、保育上の課題を考える。			
第18回 健康及び安全に関する連携体制 【 到達目標 】 職員間の連携と組織的取り組みや多職種との協同について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p131-133）を読み、地域の専門機関について調べる。			第26回 乳児の病気と障害のある子どもへの適切な対応 【 到達目標 】 乳児期の特徴と適切な対応、先天性異常や障害のある子どもの特徴と適切な対応について理解し、事例をもとに保護者のニーズと子どもの発育を支える保育のあり方について考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p84-86）を読み、不明な部分について調べる。			
第19回 保健活動の計画と評価 【 到達目標 】 保育における保健活動と保健計画の活用方法、記録の要点や評価方法について理解し、保健活動の記録と自己評価について、適切な表現方法を用いて記載することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p7-11）を読み、保育所における自己評価ガイドラインを調べる。			第27回 事故防止および健康管理・安全管理への組織的取組 【 到達目標 】 施設長の役割、組織的取組、関連専門機関との連携、保護者との連携について理解し、保育施設現場で起こる事故の現状について整理することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p87-89）を読み、子どもの事故について調べる。			
第20回 子どもの保健に関する個別・集団対応 【 到達目標 】 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康・安全及び衛生管理について、その特性と実施方法について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p11-14）を読み、保育所における自己評価ガイドラインを調べる。			第28回 けがや急な病気への対応の基本 【 到達目標 】 保育現場における事故防止及び安全対策について理解し、保育中に生じたけがや急な病気の発生時の適切な対応方法の流れを実践することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p89-90）を読み、救急搬送事例について調べる。			
第21回 子どもの健康増進と保育の環境 【 到達目標 】 生活リズムの形成における睡眠の意義、食習慣、排泄の習慣、生活習慣、衣服・靴と健康等の子どもの生活習慣と心身の健康との関連を理解し、保育の役割について考えることができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p35-50）を読み、子どもの生活習慣における課題を調べる。			第29回 子どもの救急処置 【 到達目標 】 子どもの救急処置の特徴、一次救命処置の実施方法、気道異物の除去方法について理解し、観察のポイントと根拠について説明することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p90-99）を読み、不明な部分について調べる。			
第22回 感染症の予防と対策 【 到達目標 】 感染症成立の要素、感染症による症状と想定される状況下での対応・予防法について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p71-76）を読み、感染症流行に関する記事を調べる。			第30回 災害への備えと危機管理 【 到達目標 】 保育施設における危機管理、非常災害等への取組みの実際、防災計画と避難訓練、災害時からの子どもの心のケアについて理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p125-131）を読み、保育施設のための防災ハンドブックを調べる。			
第23回 予防接種と感染症 【 到達目標 】 日本で行われている予防接種とその推奨スケジュール、ワクチンの種類や公費負担制度について理解する。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p76-78）を読み、母子手帳の予防接種履歴を調べる。						
【学習上の留意点】 教科書を中心に授業を進めるが、必要に応じてレジュメや資料等を提供するため、あわせて理解を深めるようにして欲しい。 授業中に理解できなかったことや疑問に思ったこと等はフィードバックし、学習者全体の理解が深まるよう主体的・積極的ににかかわって欲しい。 子どもの健康や病気、事件や事故に関する書籍やニュース等、日頃からチェックする習慣を身につけて授業に臨んで欲しい。						
【教科書・参考書など】 教科書：「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」（ななみ書房） 参考書については、授業時に適宜紹介する。						
【関連科目】 子どもの保健Ⅱ、乳児保育、保育内容の研究（健康）、救急処置法						
【成績評価方法】 出席・授業態度（10％）、課題レポート（20％）、小テスト（20％）、試験（50％）の加重平均にて総合的に評価する。 試験は試験期間中に別途実施する。						

科目名	子どもの保健Ⅱ			担当者	沢田真喜子	
英文名	Child Health Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2					専門・選択
【目的とねらい】						
<p>「子どもの保健Ⅰ」で学んだ知識を基に、保育者として子どもの健康を保持増進するために必要な技術や子どもに多い疾病への対応、事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組と対策、救急処置及び救急蘇生法、災害への備えと危機管理について具体的に学ぶ。子どもの発育発達の特徴について実習を通して理解を深め、子どもの心身の健康について評価し、集団保育において保育者が行うべき健康・安全管理とともに、子どもたちが自ら率先して健康的な生活を送ることができるようになるための支援や保護者支援についても実践的に学ぶことをねらいとする。</p>						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 ガイダンス 子どもの発育・発達の観察と評価① 【 到達目標 】 子どもの保健Ⅱの授業内容と実習を行うための準備や注意点について理解する。体重や身長などの発育を理解し、身体計測とその評価方法について説明できる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p12-24）を読み、不明な部分を調べ整理する。			第9回 子どもの発達援助と保健活動（調乳と授乳の方法、離乳、幼児食） 【 到達目標 】 冷凍母乳の取扱いと調乳時の衛生管理、離乳の与え方、幼児食のすすめ方について理解し、冷凍母乳の取扱いと調乳方法について、適切な方法で実施することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p58-64）を読み、人工栄養や哺乳瓶・乳首について調べる。			
第2回 子どもの健康診断 【 到達目標 】 健康診断の項目と子どもの健康診断における特徴と方法について理解し、医師の介助や健康診断結果の記録及び管理方法について説明することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p13-14、46-48）を読み、不明な部分を調べ整理する。			第10回 子どもの救急処置と救急蘇生法 【 到達目標 】 心肺蘇生法、AEDの使用法について、適切な方法で実施することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p90-97）を読み、一次救命処置の手順について復習する。			
第3回 子どもの発育・発達の観察と評価② 【 到達目標 】 乳幼児の身体計測の方法と配慮事項及び健康診断方法について理解し、適切に実施できる。 【授業時間外学習】 第1・2回で理解した内容を踏まえ、実施方法と配慮事項を整理しまとめる。			第11回 子どもに起きやすい事故の応急手当（ショック、止血法、頭部外傷） 【 到達目標 】 ショック徴候と応急手当、出血と止血法、創傷の危険性と応急手当の方法、頭部外傷・頭部打撲の可能性を考慮した対応方法について、留意点を説明し適切に実施することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p100-103）を読み、アナフィラキシーショックを復習する。			
第4回 子どもの健康観察と健康管理① 【 到達目標 】 乳幼児の体温、脈拍、呼吸の特徴と測定方法、全身観察の方法と留意点について理解し説明できる。児童虐待のリスク要因と観察の要点について理解し、日常の健康観察による早期発見の重要性と早期対応について説明できる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p25-29）を読み、児童虐待について調べる。			第12回 子どもに起きやすい事故の応急手当（熱傷、熱中症、異物混入、骨折） 【 到達目標 】 熱傷、熱中症、異物誤嚥・混入、骨折等の観察と記録の要点について理解し、熱傷、熱中症、異物誤嚥を行きさないための安全管理対策と保護者等への受け渡しまでのケアを適切に実施することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p103-111）を読み、観察の要点をまとめる。			
第5回 子どもの健康観察と健康管理② 【 到達目標 】 乳幼児の体温測定、脈拍測定、呼吸測定、全身観察について適切な方法で実施することができる。 【授業時間外学習】 第4回で理解した内容を踏まえ、バイタルサイン等の測定方法を整理しまとめる。			第13回 子どもに起こりやすい症状とケア（発熱、頭痛、咳、発疹） 【 到達目標 】 発熱、頭痛、咳、発疹等の観察と記録の要点について理解し、感染が疑われる場合の隔離の判断および保護者受け渡しまでの対応方法について実践することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p112-114、117-118、121-124）を読み、観察の要点をまとめる。			
第6回 子どもの発達援助と保健活動（抱き方・背負い方、寝かせ方） 【 到達目標 】 保健活動と発達の課題、抱き方・背負い方、子どもの寝かせ方について理解し、子どもの発育・発達に適した方法を説明することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p52-54）を読み、SIDSへの対策について調べる。			第14回 子どもに起こりやすい症状とケア（嘔吐、下痢、腹痛、便秘） 【 到達目標 】 嘔吐、下痢、腹痛、便秘等の観察と記録の要点について理解し、感染性胃腸炎が疑われる場合の吐物処理や2次感染防止のための対応方法を実践することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p114-117、119-120）を読み、吐物処理の方法を調べる。			
第7回 子どもの発達援助と保健活動（衣服の着脱、排泄の世話） 【 到達目標 】 子どもの排泄習慣と支援、トイレトレーニング、おねしょや夜尿について、衣服や靴と子どもの健康、衣服による事故と防止について理解し、子どもの発育・発達に適した方法を説明することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p55-58）を読み、おむつの種類と特徴について調べる。			第15回 防災計画と危機管理 【 到達目標 】 地域の特性に応じた防災計画について理解し、各種の災害を想定した個別の避難訓練について事例をもとに理解し、危機管理対策としての非常用物品及び情報伝達方法について説明することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p125-130）を読み、災害時の避難物品について調べる。			
第8回 子どもの発達援助と保健活動（沐浴、清潔ケア、あやし方・遊び方） 【 到達目標 】 身体の清潔方法としての沐浴、部分浴、スキンケア、手洗い指導の方法について実習を通して理解し、発達に応じた実施方法について説明することができる。 【授業時間外学習】 テキストの該当箇所（p64-69、44-48）を読み、子どもの日焼けと予防方法を調べる。						
【学習上の留意点】						
<p>実習は限られた時間内で行われるため、教科書や配付資料を事前によく読んで準備をし、授業時は主体的かつ積極的に取り組み、使用備品は丁寧に扱うよう留意して欲しい。</p> <p>既習科目による学習内容を踏まえた実践的な内容となるため、不明な部分は復習したり自主的に調べたりして授業に取り組んで欲しい。また、授業時間外に実技の練習等を行うことで子どもの健康と安全を守る専門職としての技能を高めて欲しい。</p>						
【教科書・参考書など】						
<p>教科書：「子どもの保健Ⅱ」「子どもの保健Ⅰ」（ななみ書房）</p> <p>参考書については、授業時に適宜紹介する。</p>						
【関連科目】						
子どもの保健Ⅰ、乳児保育、救急処置法						
【成績評価方法】						
出席・授業態度（20％）、課題レポート（40％）、実技試験（40％）の加重平均にて総合的に評価する。						

科目名	子どもの食と栄養			担当者	山田直子	
英文名	Child Nutrition and Diet					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 現代日本の食環境は大きく変化し、尚且つ様々な情報が氾濫している。このような現状の中、子どもの頃から生涯の健康を考えた食育の重要性が高まっている。本授業では、子どもの望ましい食生活や保育施設で食の援助を行う際の注意点などを考える。そして、実習を通して子どもの食と栄養の援助が適切に行えるようになるとともに、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 ガイダンス 「食」の重要性 【 到達目標 】 授業および調理実習を行う際の注意点について理解する。 【授業時間外学習】 自分自身の幼少の頃から現在の食生活について振り返る。			第9回 妊娠期の栄養・食生活② 【 到達目標 】 妊娠期の栄養・食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。妊娠期の食生活の改善方法を考える。			
第2回 栄養の基礎知識① 【 到達目標 】 栄養素や代謝のしくみについて理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第2章の該当箇所を読み、予習する。			第10回 新生児期の栄養・食生活 【 到達目標 】 新生児期の栄養・食生活について理解する。 次回の実習手順を理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。新生児期に起こりうる問題点を考える。			
第3回 栄養の基礎知識② 【 到達目標 】 食事摂取基準等について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第2章の該当箇所を読み、予習する。			第11回 実習①：哺乳瓶の衛生管理と調乳 【 到達目標 】 哺乳瓶の消毒、調乳の方法等の正しい哺乳法を理解する。 【授業時間外学習】 配布するプリントを読み、実習内容を予習する。			
第4回 栄養の基礎知識③ 【 到達目標 】 食事バランスガイド等について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第2章の該当箇所を読み、予習する。			第12回 離乳期の栄養・食生活① 【 到達目標 】 離乳期の栄養・食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の概要箇所を読み、予習する。離乳期の子どものからだの発達について調べる。			
第5回 栄養の基礎知識④ 【 到達目標 】 現代日本の食環境を理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第2章の該当箇所を読み、予習する。			第13回 離乳期の栄養・食生活② 【 到達目標 】 離乳期の栄養・食生活について理解する。 次回の実習手順を理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の概要箇所を読み、予習する。離乳食のすすめ方を理解する。			
第6回 子どもをとり巻く食環境 【 到達目標 】 子どもの食に関する現状について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第1章を読み、予習する。現代の子どもの食生活の問題点を挙げる。			第14回 実習②：離乳食の調理実習 【 到達目標 】 離乳食を調理し、発達段階に合わせた食材や調理方法を理解する。 【授業時間外学習】 配布するプリントを読み、実習内容を予習する。			
第7回 子どもの発育・発達と食生活 【 到達目標 】 子どもの発育発達と食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第3章を読み、予習する。			第15回 離乳期の栄養・食生活③ 【 到達目標 】 離乳期の栄養・食生活について理解する。 前期までの内容を理解しているかを確認する。 【授業時間外学習】 テキストの第4章の概要箇所を読み、予習する。			
第8回 妊娠期の栄養・食生活① 【 到達目標 】 妊娠期の栄養・食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。妊娠期の食生活の問題点を挙げる。						

次ページに続く

科目名	子どもの食と栄養			担当者	山田直子	
英文名	Child Nutrition and Diet					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 幼児期の栄養・食生活① 【 到達目標 】 幼児期の栄養・食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。			第24回 食育の基本と内容② 【 到達目標 】 食育実践の内容と計画について理解する。 次回の実習手順を理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第5章の該当箇所を読み、予習する。行事食について調べる。			
第17回 幼児期の栄養・食生活② 【 到達目標 】 幼児期の栄養・食生活について理解する。 次回の実習手順を理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、幼児期の食の重要性について理解する。			第25回 実習④：行事食の調理実習 【 到達目標 】 行事食を調理し、理解を深める。 【授業時間外学習】 配布するプリントを読み、実習内容を予習する。			
第18回 実習③：幼児期の食事の調理実習 【 到達目標 】 幼児期のメニューを調理し、この時期の食事について理解する。 【授業時間外学習】 配布するプリントを読み、実習内容を予習する。			第26回 食育の基本と内容③ 【 到達目標 】 食育実践の内容と計画について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第5章の該当箇所を読み、予習する。食育の実践例を調べる。			
第19回 幼児期の栄養・食生活③ 【 到達目標 】 幼児期の栄養・食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。			第27回 食育の基本と内容④ 【 到達目標 】 食育の実践方法を考える。 【授業時間外学習】 授業で学んだこと等を踏まえて、具体的な食育実践の目的と方法を考える。			
第20回 学童期・思春期の栄養・食生活 【 到達目標 】 学童期・思春期の栄養・食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。学童期・思春期のからだの発達について調べる。			第28回 家庭および児童福祉施設における栄養・食生活 【 到達目標 】 家庭および児童福祉施設における栄養・食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第6章を読み、予習する。			
第21回 生涯発達（成人期、老年期）と食生活① 【 到達目標 】 生涯発達（成人期、老年期）の栄養・食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。成人期・老年期のからだの変化について調べる。			第29回 特別な配慮を要する子どもの栄養・食生活① 【 到達目標 】 体調不良や疾病時の栄養的対応を理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第7章を読み、予習する。子どもに多い疾病を調べる。			
第22回 生涯発達（成人期、老年期）と食生活② 【 到達目標 】 生涯発達（成人期、老年期）の栄養・食生活について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第4章の該当箇所を読み、予習する。成人期・老年期のからだの変化について調べる。			第30回 特別な配慮を要する子どもの栄養・食生活② 【 到達目標 】 障がいのある子どもへの栄養的対応を理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第7章を読み、予習する。			
第23回 食育の基本と内容① 【 到達目標 】 「食育」について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト第5章の該当箇所を読み、予習する。自身の今までの“食育”の経験を振り返る。						
【学習上の留意点】 調理実習は限られた時間内で行われるため、教科書や配布資料をよく読み、指示に従って積極的に参加すること。調理実習室の備品は丁寧に扱うこと。 授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことなどは納得いくまで質問すること。子どもの栄養に関する本、雑誌、気になる話題があれば日頃からチェックする習慣を身につけること。授業中の飲食・携帯・私語は厳禁とする。						
【教科書・参考書など】 「子どもの食と栄養（改訂2版）」水野清子、南里清一郎他 編著 （診断と治療社） （参考図書は授業中に適宜紹介する）						
【関連科目】 栄養学入門						
【成績評価方法】 原則として、後期試験の結果（50%）、実習内容の達成度（20%）、レポート（30%）を用いて評価する。						

科目名	相談援助			担当者	雨宮由紀枝	
英文名	Child and Family Socialwork					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 子どもや家族、市民に寄り添いながら福祉に取り組む専門職である保育士として、相談援助の知識や技術の獲得は必須である。多様な生活状況にある子どもや保護者を支援するために必要な相談援助の基礎的知識や技術を学ぶことを目的とする。 保育実践にとって必要な相談援助の概要を理解し、方法と技術について演習形態で学ぶ。保育におけるソーシャルワークの応用と相談援助の具体的展開について理解し、事例分析を通して対象への理解を深める。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 相談援助の理論 【到達目標】 (1) エコロジカルな視点、ストレングス視点の考え方を理解する。 (2) エンパワメントの考え方を理解する。 (3) ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの理論の概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			第9回 相談援助の具体的展開（1）計画・記録・評価 【到達目標】(1) 支援計画の立て方について理解する。 (2) 相談援助の記録の意味、様式、留意点等について理解する。 (3) エコマップの書き方を習得し、使用法を理解する。 (4) 相談援助の評価視点と評価の活用について理解する。 【授業時間外学習】 実践に役立てられるように習熟する。			
第2回 相談援助の意義 【到達目標】 (1) 社会福祉の一分野としての相談援助の意義を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			第10回 相談援助の具体的展開（2）関係機関との協働 【到達目標】 (1) 市町村、児童相談所、小学校等の関係機関との協働を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			
第3回 相談援助の機能 【到達目標】 (1) 個人への対応、近隣社会との関係調整、家族内部の関係調整、家族と社会資源の仲立等、相談援助の機能を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			第11回 相談援助の具体的展開（3）多様な専門職との連携（講話） 【到達目標】 (1) 保健師、医師、栄養士、心理職等の専門職との連携のあり方について、現職の方の講話を通して理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			
第4回 相談援助とソーシャルワーク 【到達目標】 (1) ソーシャルワークの一分野としての相談援助について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			第12回 相談援助の具体的展開（4）社会資源の活用・調整・開発 【到達目標】 (1) 制度、サービス、補助金、場、物等の多様な社会資源を知る。 (2) 社会資源の活用法、利用調整、新たな開発について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			
第5回 保育とソーシャルワーク 【到達目標】 (1) 保育士がソーシャルワークの考え方や方法を活用して行う相談援助について理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			第13回 事例分析（1）虐待の予防と対応 【到達目標】 (1) 虐待予防につながる保育相談のあり方を具体的に理解する。 (2) 相談援助を通じた虐待への対応について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			
第6回 相談援助の方法と技術（1）相談援助の対象 【到達目標】 (1) 個人、家族、グループ、地域等、援助の対象を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			第14回 事例分析（2）障がいのある子どもとその保護者への支援 【到達目標】 (1) 保育所や児童養護施設等において、障がいのある（疑われる）子どもとその保護者への相談援助のあり方を具体的に理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			
第7回 相談援助の方法と技術（2）相談援助の過程 【到達目標】 (1) 援助の過程について説明できる。 インテーク、アセスメント、プランニング、インターベンション、エバリュエーション (2) グループ、地域を対象とした援助の過程を説明できる。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			第15回 事例分析（3）ロールプレイ、フィールドワーク等 【到達目標】 (1) ロールプレイ、フィールドワーク等により事例分析を行い、相談援助の実際を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。			
第8回 相談援助の方法と技術（3）相談援助の技術・アプローチ 【到達目標】 (1) バイステックの7原則について説明できる。 (2) 相談援助の技術やアプローチ手法の概要を理解する。 【授業時間外学習】 授業を振り返り、ポイントをまとめる。						
【学習上の留意点】 保育現場で活用できる実践力を身につけるため、ロールプレイやフィールドワークを適宜取り入れ、体験的な学びを重視する。						
【教科書・参考書など】 教科書、資料プリント、ビデオ教材等を使用。授業時に指示する。						
【関連科目】 社会福祉、児童家庭福祉、障害児保育						
【成績評価方法】 各回の授業時での課題50%、理解度確認のための試験結果を50%として評価する。 中間試験および期末試験を実施する。						

科目名	保育相談支援			担当者	角 田 和 也	
英 文 名	Preschool Consultation Support of Childcare					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 保育を実際に行う際、子どもたちとのかかわりと同様に保護者への支援・援助もその重要性が増してきている。そこで本授業では、保護者支援を中心とした保育相談支援の意義や基本的事項、および実際について事例等を用いながら学習する。また、児童福祉施設における保育相談支援の実際についても学習する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 オリエンテーション／保育相談支援とは 【 到達目標 】 (1)保育相談支援とは何かを理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第9回 保育相談支援の基本III 【 到達目標 】 (1)特別な配慮を必要とする保護者のおかれている状況や支援の実際について理解する。 (2)授業内容を踏まえた課題について考察し、さらに理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第2回 保育相談支援の意義I 【 到達目標 】 (1)保育相談支援に関わる保育の特性と保育士の専門性を整理する。 (2)「保護者に対する支援の基本」についての考察を通じて理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第10回 保育相談支援の基本IV 【 到達目標 】 (1)信頼関係を基本とした受容のかかわり等、援助者としての基本的姿勢と倫理について理解する。 (2)授業内容を踏まえた課題について考察し、さらに理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第3回 保育相談支援の意義II 【 到達目標 】 (1)子育て中の保護者の実際について理解を深める。 (2)前回考察した材料等をもとに集団で検討を重ね、さらに「保護者に対する支援の基本」についての理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第11回 保育相談支援の実際I 【 到達目標 】 (1)保護者からのクレーム対応の基本を理解する。 (2)保護者からのクレーム対応について事例を踏まえて検討する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第4回 保育相談支援の意義III 【 到達目標 】 (1)「保護者に対する支援の基本」について整理し、さらに理解を深める。 (2)保育の特性と保育士の専門性を活かした支援のあり方を理解する。 (3)事例を通じて実際に支援方法を考察し、さらに理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第12回 保育相談支援の実際II 【 到達目標 】 (1)前回に引き続き、保護者からのクレーム対応について検討し、対応方法の理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第5回 保育相談支援の意義IV 【 到達目標 】 (1)前回の授業を踏まえた「保育士の専門性を活かした支援方法」の検討を通じ、実際の支援方法を実践的に理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第13回 保育相談支援の実際III 【 到達目標 】 (1)前回に引き続き、保護者からのクレームへの対応方法の理解を深める。 (2)特別な対応を要する家庭への支援方法について検討する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第6回 保育相談支援の意義V 【 到達目標 】 (1)保育場面での相談をソーシャルワークに繋げる方法を理解する。 (2)事例を通じて、実際に対応方法をし、さらに理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第14回 保育相談支援の実際IV 【 到達目標 】 (1)前回の授業を踏まえて、特別な対応を要する家庭への支援方法について理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第7回 保育相談支援の意義VI／保育相談支援の基本I 【 到達目標 】 (1)前回の事例の解説を通じて、対応法について理解を深める。 (2)保護者のおかれている状況と子どもについての悩みについて理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			第15回 児童福祉施設における保育相談支援 【 到達目標 】 (1)各種児童福祉施設における保育相談支援の概要を理解する。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。			
第8回 保育相談支援の基本II 【 到達目標 】 (1)前回の授業を踏まえて、保護者の声からさらに保護者のおかれている状況の理解を深める。 【授業時間外学習】 課題レポートの作成。						
【学習上の留意点】 ①原則として、PCおよびプロジェクターを使用します。プロジェクターが見やすい場所に座るようにしてください。 ②授業内容の理解を深めることを目的とした課題レポートの作成を、授業時間外学習で課します。この作成したレポートは後日提出してもらい、評価に反映させていただきます（下欄「成績評価方法」の「提出物の評価」に該当します）。						
【教科書・参考書など】 ・市販の教科書は使用せず、毎回授業時に配布するプリント教材を使用します。 《参考書》 ①「保育相談支援」福丸由佳他編著（北大路書房） ②「保育実践事例集」現代保育実践研究会編（第一法規） ③「保育相談支援」大嶋恭二・金子恵美編著（建帛社）						
【関連科目】 発達・教育相談、相談援助、カウンセリング論						
【成績評価方法】 ・提出物の評価……50％ 期末試験の評価……50％ ・試験は試験期間中に別途実施します。						

科目名	音楽表現 I			担当者	諸富満希子・森 立子 今角 夏織・辛島安妃子	
英文名	Music for Children I					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	2	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 子どもの発達に応じたあそびうた・生活のうた・季節のうたなどを、保育の現場でピアノを弾きながら歌って指導できるよう、歌唱法およびピアノ演奏法を学習する。「ソルフェージュ（楽典）」「歌唱法」「器楽 I」など1年次に習得した音楽の知識をより実践的かつ統合的に学ぶ。少人数に分かれ、グルーブレッスンをおこなう。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 弾き歌いの基本的注意事項 【 到達目標 】 「子どものうたに合わせて伴奏する」という目標を理解する。 【授業時間外学習】 1年生で使用した「パーナム・ピアノテクニク」を使い、指を動かす練習をする。			第9回 季節のうたの弾き歌い② 【 到達目標 】 秋・冬のうたを取り上げ、きれいに歌いながら弾く。 【授業時間外学習】 「歌唱法」で習った秋・冬のうたを復習する。（「どんぐりころころ」「お正月」など）			
第2回 へ長調のうたの弾き歌い 【 到達目標 】 平易な曲で、歌いながら弾くことに慣れる。 【授業時間外学習】 1年生で使用した「パーナム・ピアノテクニク」を使い、指を動かす練習をする。			第10回 歌唱と伴奏のバランスの理解① 【 到達目標 】 うたに合った伴奏の音量や表現を理解する。 【授業時間外学習】 うたとピアノを別々に十分練習する。			
第3回 和音で伴奏する4拍子曲 【 到達目標 】 簡単な和音進行を理解し、マーチを弾く。 【授業時間外学習】 「バイエル」の中から任意に選んだ曲を復習する。			第11回 歌唱と伴奏のバランスの理解② 【 到達目標 】 うたに合った伴奏の音量、またペダルの使用について理解する。 【授業時間外学習】 適宜ペダルを踏みながらピアノを弾く練習をする。			
第4回 園生活のうたの弾き歌い① 【 到達目標 】 「おはようのうた」「おべんとう」を正確に弾く。 【授業時間外学習】 「おはようのうた」「おべんとう」のうたを覚える。			第12回 へ長調・ニ長調の曲の弾き歌い 【 到達目標 】 調号の#やbに注意しながら弾く。 【授業時間外学習】 「ソルフェージュ（楽典）」で習った調性について復習する。			
第5回 園生活のうたの弾き歌い② 【 到達目標 】 「おかえりのうた」を正確に弾く。 【授業時間外学習】 「おかえりのうた」を覚える。			第13回 良く歌われている子どものうたの弾き歌い① 【 到達目標 】 子どもの好きなうたを余裕を持って演奏する。 【授業時間外学習】 「きのこ」「さんぽ」など、子どもの好きなうたを1曲選び、うたを覚える。			
第6回 マーチ・ランニング・スキップのリズム① 【 到達目標 】 ひとつの楽曲を速度やリズムを変えて弾く。 【授業時間外学習】 「歩く」「走る」「スキップする」というそれぞれのリズムを手でたたき、身体で覚える。			第14回 良く歌われている子どものうたの弾き歌い② 【 到達目標 】 子どもの好きなうたを余裕を持って演奏する。 【授業時間外学習】 「きのこ」「さんぽ」など、子どもの好きなうたを1曲選び、うたを覚える。			
第7回 マーチ・ランニング・スキップのリズム② 【 到達目標 】 リズムを変えたり、調を移調したりして弾く。 【授業時間外学習】 「ソルフェージュ（楽典）」で学習した移調のやり方を復習する。			第15回 発表会 【 到達目標 】 うたと伴奏のバランスを考えながら、人前で演奏する。 【授業時間外学習】 うたとピアノを別々に十分練習する。			
第8回 季節のうたの弾き歌い① 【 到達目標 】 春・夏のうたを取り上げ、きれいに歌いながら弾く。 【授業時間外学習】 「歌唱法」で習った春・夏のうたを復習する。（「先生とおともだち」「うみ」など）						
【学習上の留意点】 レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。ピアノだけに力を注ぐのではなく、うたの部分をきれいに歌うことが肝心である。個人レベルに差があるため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。						
【教科書・参考書など】 「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社） 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省 その他適宜楽譜を配布する。						
【関連科目】 歌唱法、器楽 I、ソルフェージュ（楽典）						
【成績評価方法】 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。						

科目名	音楽表現Ⅱ			担当者	諸富満希子・辛島安妃子	
英文名	Music for Children Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4					専門・選択
【目的とねらい】 「音楽表現Ⅰ」をふまえ、園生活で使われるうたの弾き歌いの技術を高め、さらに演奏表現の向上をはかる。 簡単な子どものうたによる初見演奏および簡単な作曲や移調も試みる。実習園で弾く曲については完璧な仕上がりを目指し、徹底した指導を行う。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 弾き歌いの基本的注意事項 【 到達目標 】 「子どものうたに合わせた伴奏」という目標を理解する。 【授業時間外学習】 1年生で使用した「バーナム・ピアノテクニック」を使い、指を動かす練習をする。			第9回 簡単な移調① 【 到達目標 】 「ソルフェージュ（楽典）」の授業で学習した移調の仕方を復習し、理解する。 【授業時間外学習】 簡単な曲の移調を練習する。			
第2回 歌唱と伴奏のバランスの理解 【 到達目標 】 うたを妨げない伴奏の音量や表現を工夫することができる。 【授業時間外学習】 1年生で使用した「バーナム・ピアノテクニック」を使い、指を動かす練習をする。			第10回 簡単な移調② 【 到達目標 】 子どもの声域に合わせた移調に挑戦する。 【授業時間外学習】 2度上の調・2度下の調に移調練習をおこなう。			
第3回 子どものうたにおけるペダルの使い方 【 到達目標 】 ペダルを多用することなく、レガートに弾くことができる。 【授業時間外学習】 「バイエル」の中から任意に選んだ曲を復習する。			第11回 コードネームによる簡易伴奏① 【 到達目標 】 C・G・Fなどの基本コードネームを理解する。 【授業時間外学習】 楽譜に書いてあるコードネームを読んでみる。			
第4回 子どものうたの復習 【 到達目標 】 「歌唱法」の授業で学習したうたをすべて歌うことができる。（合同授業） 【授業時間外学習】 発声練習を毎日おこなう。			第12回 コードネームによる簡易伴奏② 【 到達目標 】 コードネームをみて伴奏をつけることに挑戦する。 【授業時間外学習】 楽譜に書いてあるコードネームを読んでみる。			
第5回 園生活で良く歌われている子どものうたの弾き歌い① 【 到達目標 】 子どもの好きなうたを音楽的に演奏することができる。 【授業時間外学習】 発声練習を毎日おこなう。			第13回 8～16小節の曲の初見演奏および伴奏づけ 【 到達目標 】 メロディーをみて適切なコードを判断する力を養う。 【授業時間外学習】 楽譜に書いてあるコードネームを読んでみる。			
第6回 園生活で良く歌われている子どものうたの弾き歌い② 【 到達目標 】 子どもの好きなうたを音楽的に演奏することができる。 【授業時間外学習】 「歌唱法」の時間に学習したうたを復習する。			第14回 8～16小節の曲の作曲および伴奏づけ 【 到達目標 】 簡単なメロディーを作曲してみる。 【授業時間外学習】 頭に浮かんだメロディーを五線譜に書いてみる。			
第7回 園生活で良く歌われている子どものうたの弾き歌い③ 【 到達目標 】 実習で弾く曲を正確に弾く。 【授業時間外学習】 うたを覚える。うたとピアノを別々に練習する。			第15回 発表会 【 到達目標 】 うたと伴奏のバランスを考えながら、人前で演奏する。 【授業時間外学習】 うたとピアノを別々に十分練習する。			
第8回 園生活で良く歌われている子どものうたの弾き歌い④ 【 到達目標 】 実習で弾く曲を音楽的に完成させる。 【授業時間外学習】 うたを覚える。うたとピアノを別々に練習する。						
【学習上の留意点】 レッスン時に練習するだけでは進歩しないので、毎日ピアノに触り練習することを課する。ピアノやうただけに力を注ぐのではなく、子どもたちの表情などを 感じながら指導できる保育者になってほしい。 個人レベルに差があるため、必ずしもシラバス通りには進まない場合もある。						
【教科書・参考書など】 「子どものうた140選」（ドレミ楽譜出版社）、実習園でいただいた曲、その他適宜楽譜を配布する。						
【関連科目】 音楽表現Ⅰ、歌唱法、ソルフェージュ（楽典）						
【成績評価方法】 実技演奏能力80%、授業における課題達成度・練習量20%で評価する。						

科目名	教育社会学			担当者	青木純一	
英文名	Sociology of Education					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 子どもに関する社会的かつ具体的問題について、とくに学校教育に関連させて考える。その上で様々な教育問題は学校だけで解決できるものではなく、ひろく家庭、地域、社会との連携が必要であることを理解することが本科目の目的である。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 子どもと虐待①—最近の傾向と対策 【到達目標】 今日における児童虐待の実態と対策の現状を理解する。 【授業時間外学習】 児童虐待の種類や最近の実態や特徴について学ぶ。			第9回 いじめと自死①—いじめ問題の登場とその特徴 【到達目標】 いじめが学校問題として登場した背景とその特徴について理解する。 【授業時間外学習】 いじめの歴史について、とくにいじめが学校問題となった経緯や背景を学ぶ。			
第2回 子どもと虐待②—教師と体罰 【到達目標】 学校における体罰の現状を統計的に理解し、さらに具体的事例に即して改善策を探る。 【授業時間外学習】 幼稚園教諭や保育士、あるいは教員の体罰について学ぶ。			第10回 いじめと自死②—いじめ対策の具体例から考える 【到達目標】 いじめ対策の一例として長野県の取り組みを中心にその具体策を探る。 【授業時間外学習】 いじめによる自死を契機としたいじめ対策の具体例を学ぶ。			
第3回 学級崩壊と荒れ①—小学校高学年を中心に 【到達目標】 小学校高学年における学級崩壊の様子を映像などを通して知り、具体的な事例などを参考にしながらその問題点を理解できる。 【授業時間外学習】 小学校高学年の崩壊や荒れの特徴を学ぶ。			第11回 いじめと自死③—自殺者の遺書から考える 【到達目標】 自殺者の遺書を資料に使いながら、いじめの悲惨な実態を理解する。 【授業時間外学習】 いじめの悲惨な実態を、自殺者の遺書から学ぶ。			
第4回 学級崩壊と荒れ②—中学校を中心に 【到達目標】 中学校における荒れの様子を映像などを通して知り、対策の現状と課題を理解する。 【授業時間外学習】 中学校における荒れの実態とその特徴を学ぶ。			第12回 貧困と教育①—機会の平等か、結果の平等か 【到達目標】 子どもの貧困が大きな社会問題となるなかで、機会の平等と結果の平等が、それぞれ子どもに与える影響を理解する。 【授業時間外学習】 子どもの貧困がなぜ問題なのかを学ぶ。			
第5回 学級崩壊と荒れ③—幼稚園・小学校低学年を中心に 【到達目標】 幼稚園・小学校低学年における学級崩壊の様子を映像などを通して知り、とくに幼稚園と小学校間の連携の在り方を探る。 【授業時間外学習】 小学校低学年の学級崩壊の実態とその特徴を学ぶ。			第13回 貧困と教育②—統計にみる貧困の顕在化 【到達目標】 子どもの貧困について、日本や世界の実態を統計的に理解する。 【授業時間外学習】 貧困に関する日本や世界の実態を統計から学ぶ。			
第6回 不登校のカリキュラム①—登校拒否の歴史 【到達目標】 登校拒否から不登校に至る歴史とその特徴について理解する。 【授業時間外学習】 不登校の歴史的経過や最近の実態について学ぶ。			第14回 健康と教育①—健康教育の歴史を考える 【到達目標】 日本の子どもの健康対策として、林間学校や夏季聚落の歴史を知る。 【授業時間外学習】 日本における子どもの健康実態と対策の歴史を学ぶ。			
第7回 不登校のカリキュラム②—不登校の事例とその対策 【到達目標】 不登校対策について、通級指導教室やチャレンジスクールの取り組みについて理解する。 【授業時間外学習】 学校における不登校対策について学ぶ。			第15回 健康と教育②—統計から子どもの健康を考える 【到達目標】 統計資料などを使って、様々な角度から、子どもの健康の実態を理解する。 【授業時間外学習】 健康に関する世界の子どもの実態とその対策の歴史を学ぶ。			
第8回 不登校のカリキュラム③—フリースクールという居場所 【到達目標】 不登校児の居場所であるフリースクールについて、その理念やカリキュラムの実態を理解する。 【授業時間外学習】 学校外における不登校対策について学ぶ。						
【学習上の留意点】 最近の教育問題について新聞、雑誌などに目を通しておくことが大切である。						
【教科書・参考書など】 参考書は随時紹介する。						
【関連科目】 教職論						
【成績評価方法】 授業内小レポート（30%）、グループ発表（20%）、試験（50%）から総合的に評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。						

科目名	教育方法学			担当者	望月久也	
英文名	Methodology of Education					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4					専門・選択
【目的とねらい】 教育を一定の目標達成の技術過程とする観点から、その在り方や構造に関する考え方を知り、教育について広く捉えていく。さらに現代の教育理論の概要と教育方法の展開を理解し、教育者としての素養と実践へとつながる原則を身につける。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 教育・教育方法とは 【 到達目標 】 教育・教育方法についての本質的考え方を理解する。 【授業時間外学習】 「教育原論」等で学習した内容を復習する。			第9回 カリキュラム論1 【 到達目標 】 カリキュラム編成の意義を理解する。 【授業時間外学習】 「保育・教育課程論」の復習を行う。			
第2回 教育の構造 【 到達目標 】 教育の構成要素を知り、その関係性を理解する。 【授業時間外学習】 自らの経験から教育の構造についての具体例を想定する。			第10回 カリキュラム論2 【 到達目標 】 カリキュラムの歴史を学び、理解する。 【授業時間外学習】 「保育・教育課程論」の復習を行う。			
第3回 教育方法の変遷1 【 到達目標 】 古代から近代以前までの教育方法の流れを理解する。 【授業時間外学習】 地理歴史、公民の一部内容を復習する。			第11回 カリキュラム論3 【 到達目標 】 現代のカリキュラムについて、代表的な考え方を知る。 【授業時間外学習】 「保育・教育課程論」の復習を行う。			
第4回 教育方法の変遷2 【 到達目標 】 近代から始まる教育方法の変化を理解する。 【授業時間外学習】 「教育原論」の復習を行う。			第12回 環境構成1 【 到達目標 】 子どもの環境と教育の不可分な関係性を理解する。 【授業時間外学習】 各種実習の復習を行う。			
第5回 教育方法の変遷3 【 到達目標 】 20世紀以降の教育方法の流れを理解する。 【授業時間外学習】 「教育原論」の復習を行う。			第13回 環境構成2 【 到達目標 】 環境を通しての教育計画について理解する。 【授業時間外学習】 各種実習の復習を行う。			
第6回 教育工学 【 到達目標 】 考え方とその実際を理解する。 【授業時間外学習】 教育工学機器について調べる。			第14回 環境構成3 【 到達目標 】 様々な環境構成を自ら考える。 【授業時間外学習】 各種実習の復習を行う。			
第7回 学校について 【 到達目標 】 教育の場としての学校について広く知る。 【授業時間外学習】 自らの経験から学校教育の具体例を想定する。			第15回 考察・発表 【 到達目標 】 授業全体を通じて、まとめた各自の考えを発表する。 【授業時間外学習】 ノート、資料等を整理し、発表の準備をする。			
第8回 学習指導 【 到達目標 】 実習に向けて、その目的と方法を理解する。 【授業時間外学習】 事前実習を行う。						
【学習上の留意点】 適宜小レポートを行うので、講義内容について教育実践を念頭に自分なりの考えをまとめる習慣をつけておく。						
【教科書・参考書など】 特に指定しない。参考文献は適宜紹介し、資料プリントを配布する。						
【関連科目】 教育原論、保育・教育課程論、教育実習（教育実践研究を含む）						
【成績評価方法】 小レポートの合計を50%、考察・発表を50%として評価する。						

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）			担当者	青木 純一・桐川 敦子	
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4					専門・選択
【目的とねらい】						
この科目は、教職課程及び保育士養成課程の総仕上げとなる科目である。これまでの教職課程の学修や教育実習及び保育実習の経験を振り返り、自己の成長と課題について認識するとともに、学生による発表やグループ討論により、学生一人ひとりが自己の課題解決のための学修を積極的に進めていく。さらに、今日の教育と学校についての理解を深め、それを担う教職の意義や保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について理解を深めるとともに、自らの保育者（幼稚園教諭・保育士）となるための発達課題を明らかにする。また、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるよう演習を構成する。 授業全体としては、保育者としての指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 教職課程学修の振り返りと自己の課題確認			第9回 教職の意義と教員の役割、子どもに対する責任（討論・発表）			
【到達目標】 授業開始までの夏季休業期間中に、幼稚園教育実習及び保育実習を振り返り、それをもとに討論する。課題レポートを提出する。			【到達目標】 学生によるグループ討論と発表を行う。こうした取組みを通して学生は保育者としての自己の課題を明確化し卒業までの自己目標を確認する。			
【授業時間外学習】 実習の振り返りに関するレポートを作成する。			【授業時間外学習】 講義内容に関するレポートを作成する。			
第2回 子どもの理解を深めるためのビデオカンファレンス			第10回 学級経営、学校経営についての理解（講義）			
【到達目標】 子どもへのかかわり方について考える力を養う。また、経験とともにその変化があるのかを考える。			【到達目標】 学級の経営や園経営の実際を理解する。			
【授業時間外学習】 授業内容に関するレポートを作成する。			【授業時間外学習】 発表内容に関するレポートを作成する。			
第3回 保育者の服務と研修、保育者としてのライフサイクルと成長の課題（講話）			第11回 小学校との連携について（講話）			
【到達目標】 現職保育者を招き、講話を聞くことにより、保育者の服務と研修、保育者としてのライフスタイルの実情について学ぶ。			【到達目標】 現職保育者を招き、現場の実情について講話を聞く。こうした取組みを通して幼小の連携の実態やスタートカリキュラムの内容を理解する。			
【授業時間外学習】 講話内容に関するレポートを作成する。			【授業時間外学習】 講話内容に関するレポートを作成する。			
第4回 保育者に求められる教科の指導力を高めるためのロールプレイ			第12回 保育者として求められる社会性・対人関係能力			
【到達目標】 教育・保育に関わる基本的知識及び実技能力等の補完指導を受ける。			【到達目標】 これまでの授業を通して得た知見をもとに討論する。こうした取組みを通して保育者にとって親や保護者とのコミュニケーションが大切なことを理解する。			
【授業時間外学習】 授業内容に関するレポートを作成する。			【授業時間外学習】 討論内容に関するレポートを作成する。			
第5回 行事について考える			第13回 自己課題解決に向けての取り組みの成果発表と学生間の相互評価1			
【到達目標】 附属幼稚園等の運動会を見学し、各園の保育の方針と行事の在り方について討論する。			【到達目標】 自己課題を認識し、解決するためのプロセスを発表する。こうした取組みを通して自分の課題をより相対化する。			
【授業時間外学習】 幼稚園、保育所における行事の見学とレポートを作成する。			【授業時間外学習】 発表内容に関するレポートを作成する。			
第6回 保護者との連携についての理解（講話）			第14回 自己課題解決に向けての取り組みの成果発表と学生間の相互評価2			
【到達目標】 現職保育者を招き、講話を聞くことにより、保護者との連携の現状を知り、連携のために必要とされていることについて学ぶ。			【到達目標】 自己課題を認識し、解決するためのプロセスを発表する。こうした取組みを通して自分の課題をより相対化する。			
【授業時間外学習】 講話内容に関するレポートを作成する。			【授業時間外学習】 討議内容に関するレポートを作成する。			
第7回 前半の授業のまとめ			第15回 魅力ある保育者を目指してレポート作成と意見交換ー			
【到達目標】 前半の授業を通して得た知見をもとに、自己の課題を整理する。自己課題解決に向けての取り組みについて計画し、開始する。			【到達目標】 保育者としての資質能力の確認：実技・知識・教職の適性。			
【授業時間外学習】 前半の授業のまとめに関するレポートを作成する。			【授業時間外学習】 本科目のまとめに関するレポートを作成する。			
第8回 教職の意義と教員の役割、子どもに対する責任（講義）						
【到達目標】 今日の教育について理解を深め教職の意義、教員の役割について考える。						
【授業時間外学習】 講義内容に関するレポートを作成する。						
【学習上の留意点】						
夏季休業期間中に、6月に行った幼稚園教育実習及び3年次に行った保育実習を振り返り、各自の実習中の課題等についてレポートを提出すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。授業前半は、実習で体験した保育活動に近い具体的な内容であり、各人の課題を振り返り、さらに新たな課題を見つけ出したり、課題解決のための計画を立てやすいように進める。授業後半は、より深く保育、教職について深めながら、各人の課題解決への取り組みをサポートしていく。1回～7回は桐川が、8～15回は青木が担当する。						
【教科書・参考書など】						
テキスト：「教職実践演習テキスト」（学内作成予定） 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省、「保育所保育指針」厚生労働省 参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実習」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習・保育実習時に作成する指導案、「実習ノート」等						
【関連科目】						
教育実習（教育実践研究を含む）、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ						
【成績評価方法】						
各種レポートの提出（50％）、授業時の発表、発言内容（50％）						

科目名	教育実習（教育実践研究を含む）			担当者	桐川 敦子	
英文名	Teaching Practice					
単位数	5	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4					専門・選択
【目的とねらい】 「教育実習」は大学での「事前事後の指導（教育実践研究を含む）」（1単位）と幼稚園での4週間の「実習園実習」（4単位）からなる。 幼稚園における実際の保育にかかわり、幼稚園教育（教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等）の理解を深め、保育者としての資質を高めることを目的とする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 幼稚園実習について 【 到達目標 】 授業の進め方について理解する。 幼稚園教育要領、幼稚園生活の流れなどを学ぶ。 附属幼稚園での実習の仕方、記録の書き方を学ぶ。			第9回 保育実践の留意点 【 到達目標 】 作成した指導案を展開することにより、保育に取り組む姿勢などを学ぶ。 指導案については個人指導を受ける。			
第2回 子どもの理解 【 到達目標 】 様々な角度から子どもを理解する方法を学ぶ。 保育者は子どもとどのように向き合っていくべきか考える。			第10回 実習に向けての心構え 【 到達目標 】 実習中、実習前後の心構えについて理解する。 服装、持ち物、健康管理など、実習中の詳細について確認する。 《4週間の教育実習を行う》			
第3回 附属幼稚園での見学、参加実習1 【 到達目標 】 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。			第11回 実習の振り返りと自己評価 【 到達目標 】 実習を振り返り、自己評価を行う。			
第4回 附属幼稚園での見学、参加実習2 【 到達目標 】 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。			第12回 実習報告会1 【 到達目標 】 実習で学んだことを報告し合い、互いに共有する。 実習で得たものを今後どのように活かしていくかを考える。			
第5回 附属幼稚園での見学、参加実習3 【 到達目標 】 附属幼稚園で見学、参加実習を行い、子どもの理解を深める。 実習記録の取り方を学ぶ。記録の取り方については個人指導を受ける。			第13回 実習報告会2 【 到達目標 】 実習で学んだことを報告し合い、互いに共有する。 実習で得たものを今後どのように活かしていくかを考える。			
第6回 教材研究 【 到達目標 】 絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアターの教材研究を行い、オリジナルのものを作成する。 造形あそび、リズムあそびなど様々なあそびの研究も行う。			第14回 保育者を目指すにあたって 【 到達目標 】 保育者を目指すにあたって、今、何をすべきか検討する。			
第7回 指導計画立案 【 到達目標 】 幼稚園教育課程を学び、指導案を作成する。 指導案作成の際の注意事項などを学ぶ。 教育要領に基づく教育課程の理解を深める。			第16回 実習ノートの分析 【 到達目標 】 返却された実習ノートを読み返しながら自己の課題について認識する。			
第8回 保育実技についての検討 【 到達目標 】 絵本、紙芝居などを子どもの前で読んだり、パネルシアターやエプロンシアター、ペープサートを演じる際の配慮すべき点を学ぶ。 子どもとの心の交流や子どもの想像力について考える。						
【授業時間外学習】 実習記録をまとめる。教材研究を行う。実習後に礼状を作成し、送付する。						
【学習上の留意点】 保育者を目指す学生として、真剣に取り組むこと。レポートや課題も多く出されるが、きちんと体調管理をし、計画的に取り組むこと。						
【教科書・参考書など】 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省厚生労働省 その他適宜、参考資料を配布する。						
【関連科目】 幼稚園免許に関わる教職科目						
【成績評価方法】 事前事後の授業でのレポート・課題の評価（50%） 実習園からの評価（50%）						

科目名	保育実習指導 I			担当者	桐川 敦子・百瀬ユカリ	
英文名	Childcare Training Instruction I					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 保育園(所)及び児童福祉施設における実習の意義、目的、内容、方法(観察、実践、記録、評価)を理解するとともに、自らの実習の課題を明らかにする。子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務を理解する。実習後の事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。						
【授業内容・到達目標など】 ※前期15回分						
第1回 保育実習の意義と目的 【到達目標】 保育実習の概要を理解し、保育実習の目的や意義について総合的に理解する。 【授業時間外学習】 テキストを読む。			第9回 保育における記録について 【到達目標】 保育における記録の意味について理解を深める。 【授業時間外学習】 レポートを作成する。			
第2回 保育園(所)の役割と機能 【到達目標】 保育園(所)の目的、保育内容、関連する法律などを理解する。 【授業時間外学習】 テキストを読む。			第10回 実習記録の記入の仕方について 【到達目標】 実習記録の記入の仕方を修得する。 【授業時間外学習】 レポートを作成する。			
第3回 居住型児童福祉施設の役割と機能 【到達目標】 居住型児童福祉施設の種類の各施設の目的、養護内容、関連する法律などを理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。			第11回 教材研究① 【到達目標】 保育園(所)実習に向けて絵本や紙芝居について理解を深める。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			
第4回 通所型児童福祉施設の役割と機能 【到達目標】 通所型児童福祉施設の種類の各施設の目的、養護内容、関連する法律などを理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。			第12回 教材研究② 【到達目標】 保育園(所)実習に向けて教材研究を行う。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			
第5回 保育士の職務内容と職業理解 【到達目標】 保育士の役割と職務内容について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。			第13回 教材研究③ 【到達目標】 保育園(所)実習に向けて教材研究を行う。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			
第6回 保育士の職業倫理と社会的責任 【到達目標】 子どもの人権の尊重、守秘義務、プライバシーの保護など、保育士の職業倫理と社会的責任について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。			第14回 オリエンテーションの意義について 【到達目標】 オリエンテーションの意義について考え、準備を行う。 【授業時間外学習】 実習ノートに必要事項を記入する。			
第7回 子ども理解と保育実践① 【到達目標】 子どもの発達過程や個々の状況に応じた保育実践について理解する。(0～2歳児) 【授業時間外学習】 テキストを読む。			第15回 保育園(所)実習に向けての目標、課題の確認 【到達目標】 保育園(所)実習に向けての目標を明らかにし、課題などを確認する。 【授業時間外学習】 実習ノートに必要事項を記入する。			
第8回 子ども理解と保育実践② 【到達目標】 子どもの発達過程や個々の状況に応じた保育実践について理解する。(3～5歳児) 【授業時間外学習】 テキストを読む。						

次ページに続く

科目名	保育実習指導 I			担当者	桐川 敦子・百瀬ユカリ	
英文名	Childcare Training Instruction I					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【授業内容・到達目標など】 ※後期15回分						
第16回 保育園(所)実習の振り返りと自己評価① 【 到達目標 】 保育園(所)実習の振り返りを通して子どもや保育についての理解を深める。 【授業時間外学習】 レポート作成と実習後に保育所への礼状を作成し、送付する。			第24回 施設実習における観察と記録① 【 到達目標 】 施設実習における観察の視点を明らかにし、記録の取り方を学ぶ。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。			
第17回 保育園(所)実習の振り返りと自己評価② 【 到達目標 】 保育園(所)実習の振り返りを通して、保育所の保護者支援や地域子育て支援について理解を深める。 【授業時間外学習】 レポートを作成する。			第25回 施設実習における観察と記録② 【 到達目標 】 子ども理解を深めるための観察や記録とともに、施設の業務内容を把握するための観察や記録について具体的に学ぶ。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。実習ノートに必要事項を記入する。			
第18回 保育園(所)実習の振り返りと自己評価③ 【 到達目標 】 保育園(所)実習の振り返りを通して、保育実践の自己評価について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。			第26回 実習日誌の記載 【 到達目標 】 実習日誌の意義や記入の仕方、配慮事項等について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。実習ノートに必要事項を記入する。			
第19回 個別の支援計画と指導計画 【 到達目標 】 個別の支援計画や指導計画について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。			第27回 個別の支援計画の記載 【 到達目標 】 個別の支援計画の意義や記入の仕方、配慮事項等について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。実習ノートに必要事項を記入する。			
第20回 施設の生活と入所児の状況 【 到達目標 】 施設の生活や一日の流れについて理解するとともに入所児の状況を理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。			第28回 施設実習の振り返りと自己評価① 【 到達目標 】 施設実習の振り返りを行い、計画や記録に基づき自己評価を行う。 【授業時間外学習】 自己評価表を記入する。施設への礼状を作成し送付する。			
第21回 施設における保育士の業務内容 【 到達目標 】 施設における保育士の業務内容や役割について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。			第29回 施設実習の振り返りと自己評価② 【 到達目標 】 施設実習の振り返りと自己評価に基づき、実習の意義や課題について認識を深める。 【授業時間外学習】 自己評価表の記入とレポートを作成する。			
第22回 子どもの最善の利益を踏まえた支援の実践 【 到達目標 】 子どもの最善の利益を踏まえた支援の実践や子どもへの関わりについて理解を深める。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。			第30回 保育園(所)実習・施設実習に基づく課題の明確化 【 到達目標 】 保育園(所)実習・施設実習を通して自らの学びや課題を明らかにし、保育実習Ⅱに向けて目標を立てる。 【授業時間外学習】 レポートを作成する。			
第23回 施設実習における計画と記録 【 到達目標 】 施設実習における計画と記録について理解する。 【授業時間外学習】 テキスト、配布資料を読む。						
【学習上の留意点】 質の高い保育者になるという自覚を持って出席すること。						
【教科書・参考書など】 「教育、保育、施設実習テキスト 第3版」二階堂邦子編著（建帛社） 「よくわかる保育所実習[第5版]」百瀬ユカリ著（創成社） 「より深く理解できる施設実習―施設種別の計画と記録の書き方」藤京子他著（萌文書林）						
【関連科目】 保育実習Ⅰ						
【成績評価方法】 保育計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合成績を出す。						

科目名	保育実習指導Ⅱ			担当者	桐川 敦子	
英文名	Childcare Training Instruction Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 保育実習指導Ⅰや既習の教科の内容との関連性を踏まえ、観察、記録、事例研究、実践を通して自己課題を明確にし、保育士の専門性と職業倫理について理解する。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 観察実習の振り返り 【 到達目標 】 保育実習Ⅰで理解したことを踏まえ、実習の意義、目的などについて再確認する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第9回 模擬保育① 【 到達目標 】 立案した指導案を展開する。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			
第2回 子ども理解を深める① 【 到達目標 】 0～2歳児の発達について理解を深める。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第10回 模擬保育② 【 到達目標 】 立案した指導案を展開する。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			
第3回 子ども理解を深める② 【 到達目標 】 3～5歳児の発達について理解を深める。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第11回 表現技術の実践 【 到達目標 】 保育技術、表現について考える。 【授業時間外学習】 教材研究を行う。			
第4回 保育者に求められる資質、専門性 【 到達目標 】 子どもを取り巻く環境の変化により求められる保育者の力量について考察する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第12回 計画案の実践後の自己評価と改善 【 到達目標 】 作成した指導案について、子どもの発達に即したものであったか、子どもたちの最善の利益を考慮した保育計画であったかを自己評価をする。 【授業時間外学習】 レポートを作成する。			
第5回 子どもの発達の特徴とかかわりの理解① 【 到達目標 】 0～2歳児の特徴とかかわり方を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第13回 保育士の業務と職業倫理の理解 【 到達目標 】 専門家としての保育士の業務と職業倫理について理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			
第6回 子どもの発達の特徴とかかわりの理解② 【 到達目標 】 3～5歳児の特徴とかかわり方を理解する。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第14回 実習の心構えについて 【 到達目標 】 実習の心構えについて理解する。 【授業時間外学習】 実習ノートに必要事項を記入する。			
第7回 指導計画について 【 到達目標 】 指導計画の意義について考える。 【授業時間外学習】 事後学習として、講義で扱った内容の復習をする。			第15回 自己課題の明確化 【 到達目標 】 実習にむけての目標や自己課題を明確にする。 【授業時間外学習】 レポート作成と実習後の保育所への礼状を作成し、送付する。			
第8回 指導案立案 【 到達目標 】 指導案の立案について学び、作成する。 【授業時間外学習】 指導案作成を行う。						
【学習上の留意点】 保育実習Ⅰで学んだ理論と実践を基に保育実習Ⅱに臨めるように、保育実習Ⅰでの記録や資料等を整理しておくこと。						
【教科書・参考書など】 「教育、保育、施設実習テキスト 第3版」二階堂邦子編著（建帛社） 「よくわかる保育所実習[第5版]」百瀬ユカリ著（創成社）						
【関連科目】 保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ						
【成績評価方法】 保育計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合成績を出す。						

科目名	保育実習指導Ⅲ			担当者	百瀬 ユカリ	
英文名	Childcare Training Instruction Ⅲ					
単位数	1	科目区分・必修	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4	／選択の区別				専門・選択
【目的とねらい】 保育実習Ⅰで学んだ理論と実践をもとに、さらに保育所以外の児童福祉施設で行う実習を有意義なものとするための事前指導を行う。また、事後指導では実習の総括と自己評価を行い、施設における保育士としての課題や認識を明確にする。						
【授業内容・到達目標など】						
第1回 保育実習Ⅰを振り返る① 【 到達目標 】 保育実習Ⅰを振り返り、保育者を目指すものとしての自己課題を再確認する。 【授業時間外学習】 保育実習Ⅰの実習ノートや評価などを見直す。			第9回 個別の支援計画の理解 【 到達目標 】 個別の支援計画について理解し、対象児にあわせて立案する。 【授業時間外学習】 施設における個別の支援計画に目を通し、その意図等を理解する。			
第2回 保育実習Ⅰを振り返る② 【 到達目標 】 保育実習Ⅰを振り返り、保育者を目指すものとしての自己課題を再確認する。 【授業時間外学習】 実習の課題を明らかにして書き記す。			第10回 支援の計画・実践・評価 【 到達目標 】 個別の支援計画に基づく実践を評価し、改善点等について省察する。 【授業時間外学習】 作成した個別の支援計画を再考する。			
第3回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解 【 到達目標 】 それぞれの実習希望先に応じて、事例検討を行い、施設の役割や機能について理解を深める。 【授業時間外学習】 施設や児童養護に関する事例を読む。			第11回 子どもをとりまく環境を踏まえた地域社会との連携 【 到達目標 】 子どもをとりまく環境や生活状況等を理解し、地域社会との連携や支援体制について学ぶ。 【授業時間外学習】 新聞記事や雑誌などを通して子どもを取り巻く環境を考察する。			
第4回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解 【 到達目標 】 それぞれの実習希望先に応じて、事例検討を行い、施設の役割や機能について理解を深める。 【授業時間外学習】 施設や児童養護に関する事例から必要な支援や関わりを考えて書く。			第12回 職員間の連携や役割分担の理解 【 到達目標 】 保育士等の職員間の連携や役割分担について学ぶ。 【授業時間外学習】 施設の職員の職種とその役割をまとめる。			
第5回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解 【 到達目標 】 それぞれの実習希望先に応じて、事例検討を行い、施設の役割や機能について理解を深める。 【授業時間外学習】 参考文献を読むなどして、施設への理解を深める。			第13回 専門職としての倫理と子どもの最善の利益の理解 【 到達目標 】 子どもの人権の尊重、プライバシーの保護と守秘義務等の職業倫理について具体的に理解する。 【授業時間外学習】 子どもの権利条約や人権擁護にかかわる法律等を読む。			
第6回 児童福祉施設の種類の、役割、機能の具体的理解 【 到達目標 】 それぞれの実習希望先に応じて、事例検討を行い、施設の役割や機能について理解を深める。 【授業時間外学習】 参考文献を読むなどして、子どもの心理や行動を理解しようとする。			第14回 実習の振り返りと自己評価 【 到達目標 】 実習を振り返り、子どもへの支援や養護のかかわり等について省察する。 【授業時間外学習】 自己評価の観点を踏まえて実習を自己評価する。			
第7回 施設を利用する子どもの理解 【 到達目標 】 子どもの観察と記録および援助のかかわりについて具体的に学ぶ。 【授業時間外学習】 教科書を読み、観察の観点や記録の重要性を知る。			第15回 実習に基づく自己課題の明確化 【 到達目標 】 自己評価をもとに新たな課題や学習目標を明確にする。 【授業時間外学習】 施設からの実習評価と自己評価を照らし合わせながら自己課題を見出す。			
第8回 一人一人の子どもの状態に応じた援助やかかわりの理解 【 到達目標 】 入所の事由や子どもの状態に応じたかかわりや援助の実践について学ぶ。 【授業時間外学習】 参考文献を読む等して、援助の実践を知る。						
【学習上の留意点】 児童福祉や社会的養護の学びを踏まえ、施設に入所する子どもへの理解や施設の役割についての理解を深め、支援の内容や方法を具体的に学んでほしい。また、実習先となる施設と異なる種類の施設についても様々な機会を利用して理解できるよう努めることが望ましい。						
【教科書・参考書など】 教科書：『より深く理解できる施設実習－施設種別の計画と記録の書き方』藤京子他著（萌文書林） 『教育、保育、施設実習テキスト 第2版』二階堂邦子編著（建帛社） 参考書：『施設で育った子どもたちの語り』（明石書店）、『この子を受け止めて、育むために 育てる・育ち合ういとなみ』（全国児童養護施設協議会）						
【関連科目】 保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱ、社会的養護、児童家庭福祉						
【成績評価方法】 個別の支援計画50%、授業の課題に対するレポート50%により総合的に評価する。						

科目名	保育実習 I			担当者	桐川 敦子・百瀬ユカリ	
英文名	Practice of Child Care I					
単位数	4	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門・選択
【目的とねらい】						
<p>保育園(所)の日常保育に参加し、0歳～6歳児の発育発達を実習を通して理解し、養護と教育がいかに具体化されるかを学ぶと共に、保育園(所)の機能と保育士の職務を学ぶ。</p> <p>保育園(所)以外の居住型及び通所型児童福祉施設の養護と機能を実習を通して具体的に学習し、施設を利用する対象児とその養護内容の理解、現状の問題点を考察する。様々な職種の専門教職員との中で働く保育士の職務内容を理解すると共に、具体的な支援方法を学ぶ。</p>						
【授業内容】						
【保育園(所)】						
9月上旬を標準的期間として12日間の保育園(所)実習を行う。終了後は実習報告会を行う。						
【居住型及び通所型児童福祉施設】						
11月を標準的期間として12日間の児童福祉施設の実習を行う。終了後は、実習報告会を行う。						
【到達目標】						
【保育園(所)】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の一日の流れを理解し、保育園(所)の生活に参加する。 2. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。 3. 保育計画・指導計画を理解する。 4. 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する。 5. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 6. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。 7. 安全・疾病予防への配慮の実際を理解する。 						
【施設】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等の生活に参加し、施設の実際(養護の一日の流れ)を理解する。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。 3. 援助計画・内容の実際を理解する。 4. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。 5. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 6. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。 7. 安全・疾病予防への配慮の実際を理解する。 						
【授業時間外学習】						
実習記録をまとめる。						
【学習上の留意点】						
「最善の利益は子どもたちに」をモットーに、生きる力を発揮し子どもたちと共に保育を楽しむ実習をする。						
【教科書・参考書など】						
「教育・保育・施設テキスト 第3版」二階堂邦子編著(建帛社) 「よくわかる保育所実習[第5版]」百瀬ユカリ著(創成社)						
【関連科目】						
保育実習指導 I						
【成績評価方法】						
レポート30%、実習ノート30%、園からの評価40%によって総合的に評価する。						

科目名	保育実習Ⅱ			担当者	桐川 敦子	
英文名	Practice of Child Care Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	3					専門・選択
【目的とねらい】 保育園(所)の日常保育に参加し、0歳～6歳児の発育発達を実習を通して理解し、養護と教育がいかに具体化されるかを学ぶと共に、保育所の機能と保育士の職務を学ぶ。						
【授業内容】 2月中旬を標準的期間として12日間の保育所実習を行う。終了後は実習報告会を行う。						
【到達目標】 1. 保育全般に参加し、保育技術を習得する。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。 3. 指導計画を作成し、実際に実践する。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 5. 地域社会に対する理解を深め、地域との連携について理解する。 6. 保育士としての職業倫理を理解する。 7. 保育士として求められる資質等について、自己の課題を確認する。						
【授業時間外学習】 実習記録をまとめる。						
【学習上の留意点】 「最善の利益は子どもたちに」をモットーに、生きる力を発揮し子どもたちと共に保育を楽しむ実習をする。						
【教科書・参考書など】 「教育・保育・施設テキスト 第3版」二階堂邦子編著（建帛社） 「よくわかる保育所実習[第5版]」百瀬ユカリ著（創成社）						
【関連科目】 保育実習指導Ⅱ						
【成績評価方法】 レポート30%、実習ノート30%、園からの評価40%によって総合的に評価する。保育実習指導Ⅱの授業を受講し、準備を行うこと。						

科目名	保育実習Ⅲ			担当者	百瀬ユカリ	
英文名	Practice of Child Care Ⅲ					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻
履修年次	4					専門・選択
【目的とねらい】 保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、施設の役割や機能について実習を通して理解を深める。また、保育士の職業倫理について具体的に理解し、入所児童の人権やプライバシーに配慮しながら子どもへの理解を深める。さらに、施設の現状や課題に着目しながら、様々な専門職と連携を図り子どもと保護者を支援する保育士の役割や、具体的な支援の内容について学び、保育士としての自己課題を明確にする。						
【授業内容】 1 1月を標準的期間として、1 2日間の児童福祉施設での実習を行う。終了後は、実習報告会を行う。						
【到達目標】 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能について、実習を通して理解を深める。 2. 施設における支援の実際を理解する。 ①受容し、共感する態度 ②個人差や生活環境に伴うニーズの把握と子ども理解 ③個別支援計画の作成と実践 ④子どもの家庭への支援と対応 ⑤多様な専門職との連携 ⑥地域との連携 3. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己課題を明確化する。						
【授業時間外学習】 子ども一人一人の理解を深めるために、社会的養護や児童養護に関わる書物や資料を読む。また、新聞や雑誌などで現代の家庭や社会が抱える問題・課題に関する記事を読み、考察する。						
【学習上の留意点】 現代社会における児童福祉や社会的養護の重要性について理解を深めながら、施設の在り方や子どもの最善の利益を踏まえた支援の実際について意欲的に学んでほしい。施設実習の経験は保育や福祉の根幹にかかわる重要な学びとなり、貴重な経験になることを踏まえ、課題意識をもって実習に臨んでほしい。						
【教科書・参考書など】 教科書：『教育・保育・施設テキスト 第3版』二階堂邦子編著（建帛社） 参考書：『児童福祉施設における子どもの育ちと貧困』（明石書店）、『虐待を受けた子どもへの自立支援』（中央法規出版）、『児童養護施設近未来像Ⅱ～子どもを未来とするために』（全国児童養護施設協議会）						
【関連科目】 保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅲ、社会的養護、児童家庭福祉						
【成績評価方法】 レポート30%、実習ノート30%、施設からの評価40%によって総合的に評価する。						

科目名	卒業研究				担当者		
英文名	Graduation Thesis						
単位数	6	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学専攻	舞踊学専攻	健康スポーツ学専攻	幼児発達学専攻	
履修年次	3～4					専門・選択	
【目的とねらい】 幼児発達学専攻において展開されるカリキュラムの中から、一つの専門の領域や分野（研究室）を選択し、各自の興味や関心にふさわしいテーマについて卒業論文として完成させる。3年次からの2年間にわたる活動をとおして幼児発達の理解をさらに深めるとともに、専門的な能力を高める。さらに、具体的な研究手法の実践、自分の考えや研究結果をまとめ、プレゼンテーション（発表）を行う。							
【授業内容】 1. 基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解 2. 研究テーマと基本的な研究計画の設定 3. 研究活動の展開 4. 結果の考察とまとめ 5. 論文の作成、研究成果の発表							
【到達目標】 1. 基本的な研究課題・内容、研究方法、研究手順の理解 専門的に学ぶ分野の先行研究の概要や、問題の所在を十分に理解する。 2. 研究テーマと基本的な研究計画の設定 対象分野の研究の動向や、研究方法及び手法の特色を理解し、各自のテーマと方法を構想する。 3. 研究活動の展開 各自のテーマと研究計画を明確にして、具体的に展開する。 4. 結果の考察とまとめ 論文のまとめを構想しながら、さらに研究を進め、考察を深める。 5. 論文の作成、研究成果の発表 構成を練り、論理的にまとまりよく、的確に伝えることができる。							
【授業時間外学習】 各担当教員の指示による。							
【学習上の留意点】 各担当教員の指示による。							
【教科書・参考書など】 状況に応じて参考図書・資料等を紹介する。							
【関連科目】 対象分野の「教養科目」「専門基礎教育科目」「専門教育科目」							
【成績評価方法】 2年間の論文作成に至る過程での状況と、論文の内容を総合的に評価する。							